

奈良市のまちづくりに関する市民アンケート  
報告書

平成 26 年 12 月

奈 良 市

## 《 目 次 》

### I. はじめに

1. 調査の目的 .....	1
2. 調査の概要 .....	1

### II. 集計結果の概要

1. 回答者の属性 .....	3
2. 奈良市の印象などについて.....	8
3. 市政やまちづくりへの参画について.....	17
4. 施策について .....	38
5. 行財政改革について .....	128
6. リニア中央新幹線の新駅誘致について.....	134
7. ふるさと納税について .....	137
8. 奈良市のまちづくりについて.....	139

#### ◆報告書における記載上の注意事項

各集計の構成比は百分率で表し、四捨五入して小数点以下1位で表示しているため、合計が100%にならない場合がある。

図表中及び文章中、選択肢などを一部省略して表記している場合がある。

# I. はじめに

## 1. 調査の目的

「奈良市第4次総合計画 前期基本計画」の計画期間が2015年度（平成27年度）に終了するため、2016年度（平成28年度）からの「奈良市第4次総合計画後期基本計画」の策定に当たり、市民の意見を聞き、後期基本計画のあり方を考えるための資料とすることを目的とする。

## 2. 調査の概要

### (1) 調査対象

奈良市に居住する18歳以上の市民3,000人。

### (2) 調査時期

平成26年8月18日（月）～平成26年9月22日（月）。

### (3) 調査方法

調査対象を無作為に抽出し、郵送により調査票を配布・回収。

### (4) 回収率等

発送数	3,000 票
回収数	1,079 票
有効回収数	1,076 票
有効回収率	35.9%

### (5) 標本誤差

信頼度95%とした場合、今回の市民アンケート調査における標本誤差は、以下のとおりとなる。

標本誤差が最も大きくなる回答比率50%のケースでも、標本誤差は±2.98%であり、3%以内に収まっている。

#### ◆ 標本誤差の算出式（95%の信頼度の場合）

$$\sigma = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

$\sigma$ : 標本誤差

$N$ : 母集団の数（18歳以上の市民：約309,000人）

$n$ : 有効回収数（1,076票）

$p$ : 回答比率

図表 I-1 今回のアンケート調査における回答比率別の標本誤差

	回答比率 $p$				
	10% (90%)	20% (80%)	30% (70%)	40% (60%)	50%
標本誤差 $\sigma$	±1.79%	±2.39%	±2.73%	±2.92%	±2.98%

(補足)

上記は、標本（有効回収調査票）の集計結果において、ある質問の選択肢が選択された回答比率が仮に50%であった場合、母集団（18歳以上の全市民）において、当該質問の選択肢が選択される比率は、統計学的に95%の確率で、50%±2.98%（47.02%～52.98%）と考えられることを意味している。

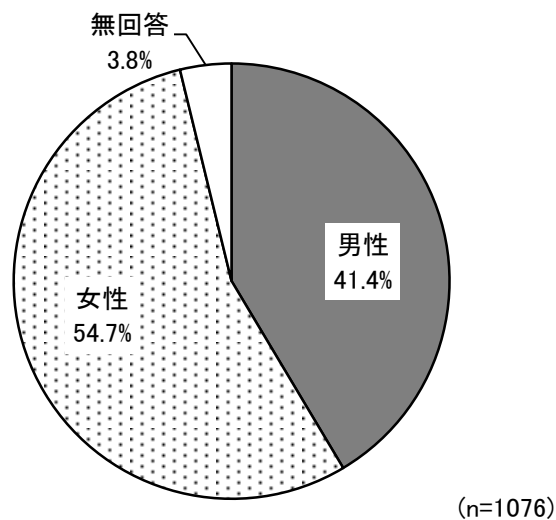
## II. 集計結果の概要

### 1. 回答者の属性

#### (1) 性別

回答者の約40%が男性、約55%が女性となっており、女性の回答者の方がやや多い。

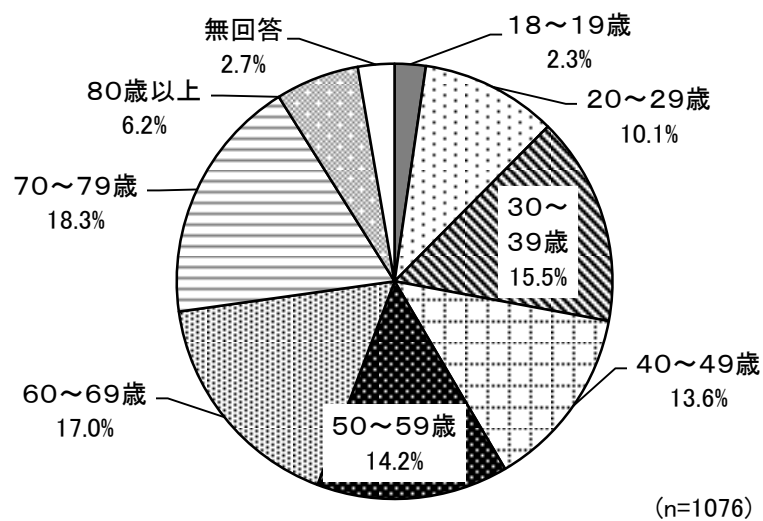
図表 II-1 性別



#### (2) 年齢

回答者の年齢構成は70～79歳が18.3%と最も多く、60～69歳（17.0%）、30～39歳（15.5%）がこれに続いて多くなっている。

図表 II-2 年齢



図表 II-3 居住ゾーン別年齢構成

(上段:人数、下段:%)

	調査数	18 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 ～ 79 歳	80 歳 以上	無 回 答
西北部	595 100.0	17 2.9	51 8.6	98 16.5	82 13.8	85 14.3	100 16.8	116 19.5	41 6.9	5 0.8
中部	57 100.0	0 0.0	8 14.0	10 17.5	9 15.8	5 8.8	12 21.1	11 19.3	1 1.8	1 1.8
中央市街地	272 100.0	5 1.8	38 14.0	47 17.3	42 15.4	40 14.7	46 16.9	39 14.3	14 5.1	1 0.4
南部	73 100.0	2 2.7	7 9.6	7 9.6	8 11.0	12 16.4	12 16.4	20 27.4	5 6.8	0 0.0
東部	44 100.0	1 2.3	4 9.1	4 9.1	4 9.1	9 20.5	10 22.7	8 18.2	4 9.1	0 0.0
居住ゾーン不明	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0

(3) 居住する小学校区

回答者の小学校区別の内訳は、以下に示すとおりである。小学校区の不明、無回答があるものの、一部の小学校区では回答者がいない状況となっている。

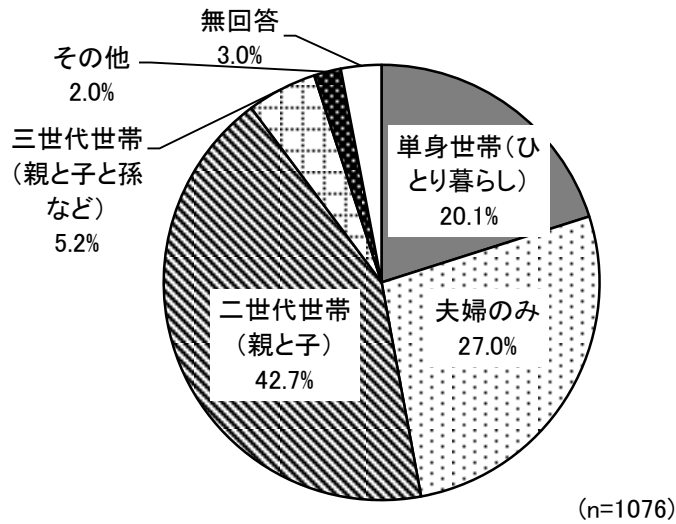
図表 II-4 居住する小学校区

小学校区	回答数	構成比	小学校区	回答数	構成比
大宮	57	5.3%	佐保川	17	1.6%
富雄北	48	4.5%	神功	17	1.6%
六条	47	4.4%	右京	17	1.6%
伏見	43	4.0%	東市	17	1.6%
富雄南	43	4.0%	左京	16	1.5%
あやめ池	40	3.7%	鼓阪北	15	1.4%
登美ヶ丘	40	3.7%	大安寺	15	1.4%
西大寺北	39	3.6%	平城西	15	1.4%
佐保	37	3.4%	興東	13	1.2%
都跡	37	3.4%	吐山	9	0.8%
飛鳥	36	3.3%	済美南	8	0.7%
青和	34	3.2%	佐保台	7	0.7%
三碓	33	3.1%	都祁	7	0.7%
大安寺西	32	3.0%	月ヶ瀬	6	0.6%
済美	30	2.8%	並松	5	0.5%
富雄第三	29	2.7%	帯解	4	0.4%
明治	27	2.5%	鼓阪	3	0.3%
辰市	25	2.3%	田原	2	0.2%
東登美ヶ丘	24	2.2%	柳生	2	0.2%
伏見南	23	2.1%	精華	0	0.0%
椿井	22	2.0%	六郷	0	0.0%
鶴舞	22	2.0%	小計	1,041	96.7%
二名	22	2.0%	不明	2	0.2%
平城	20	1.9%	無回答	33	3.1%
鳥見	18	1.7%	合計	1,076	100.0%
朱雀	18	1.7%			

#### (4) 家族構成

回答者の家族構成は「二世代世帯(親と子)」が42.7%と最も多く、「夫婦のみ」(27.0%)がこれに続いて多い。「単身世帯(ひとり暮らし)」も全体の2割を占めている。

図表 II-5 家族構成



図表 II-6 居住ゾーン別家族構成

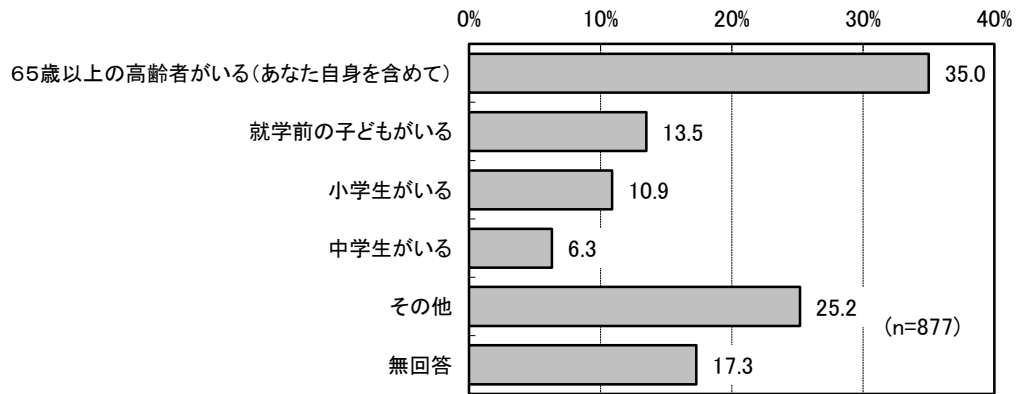
(上段:人数、下段:%)

居住ゾーン	調査数	単身世帯 (ひとり暮らし)	夫婦のみ	二世代世帯 (親と子)	三世代世帯 (親と子と孫など)	その他	無回答
西北部	595	108	171	278	27	8	3
	100.0	18.2	28.7	46.7	4.5	1.3	0.5
中部	57	9	14	25	8	0	1
	100.0	15.8	24.6	43.9	14.0	0.0	1.8
中央市街地	272	65	74	111	12	8	2
	100.0	23.9	27.2	40.8	4.4	2.9	0.7
南部	73	23	19	23	2	3	3
	100.0	31.5	26.0	31.5	2.7	4.1	4.1
東部	44	4	11	19	7	2	1
	100.0	9.1	25.0	43.2	15.9	4.5	2.3
居住ゾーン不明	2	2	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## (5) 同居家族

回答者（単身世帯を除く）が同居する家族は、「65歳以上の高齢者（本人を含む）」が35.0%と最も多い。

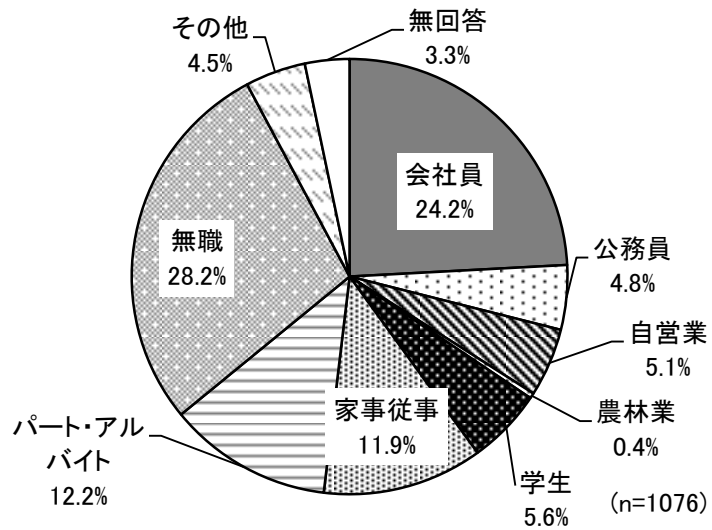
図表 II-7 同居家族（複数回答）



## (6) 職業

回答者の職業は、「無職」が28.2%と最も多く、「会社員」(24.2%)がこれに次いで多い。

図表 II-8 職業

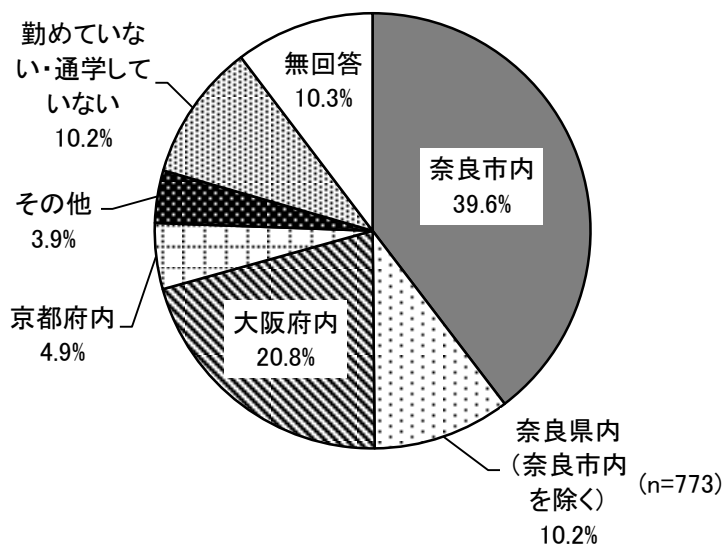




### (7) 職場・通学先

回答者（無職を除く）の職場・通学先は、「奈良市内」が 39.6%と最も多いが、その半数に相当する約 2 割の回答者が「大阪府内」に通勤・通学している。

図表 II-9 職場・通学先

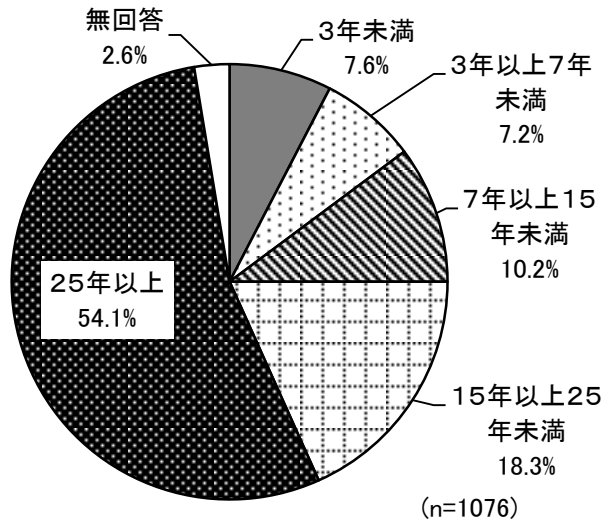


## 2. 奈良市の印象などについて

### (1) 居住年数 [問1-1]

奈良市（合併前の月ヶ瀬、都祁村を含む）での居住年数は、「25年以上」が過半数を占めている。これに次いで多いのは、「15年以上25年未満」（18.3%）である。

図表 II-10 居住年数



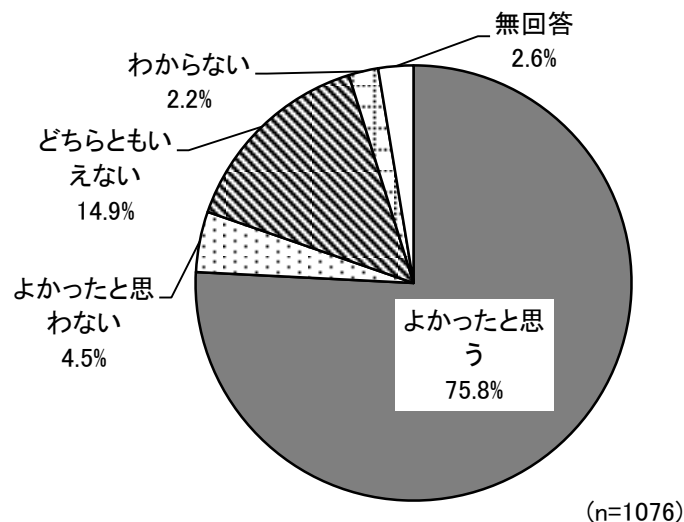
### (2) 奈良市に住んで「よかった」と思うか [問1-2]

奈良市に住んで「よかった」と思うかを尋ねたところ、「よかったと思う」とする回答が75.8%あった。

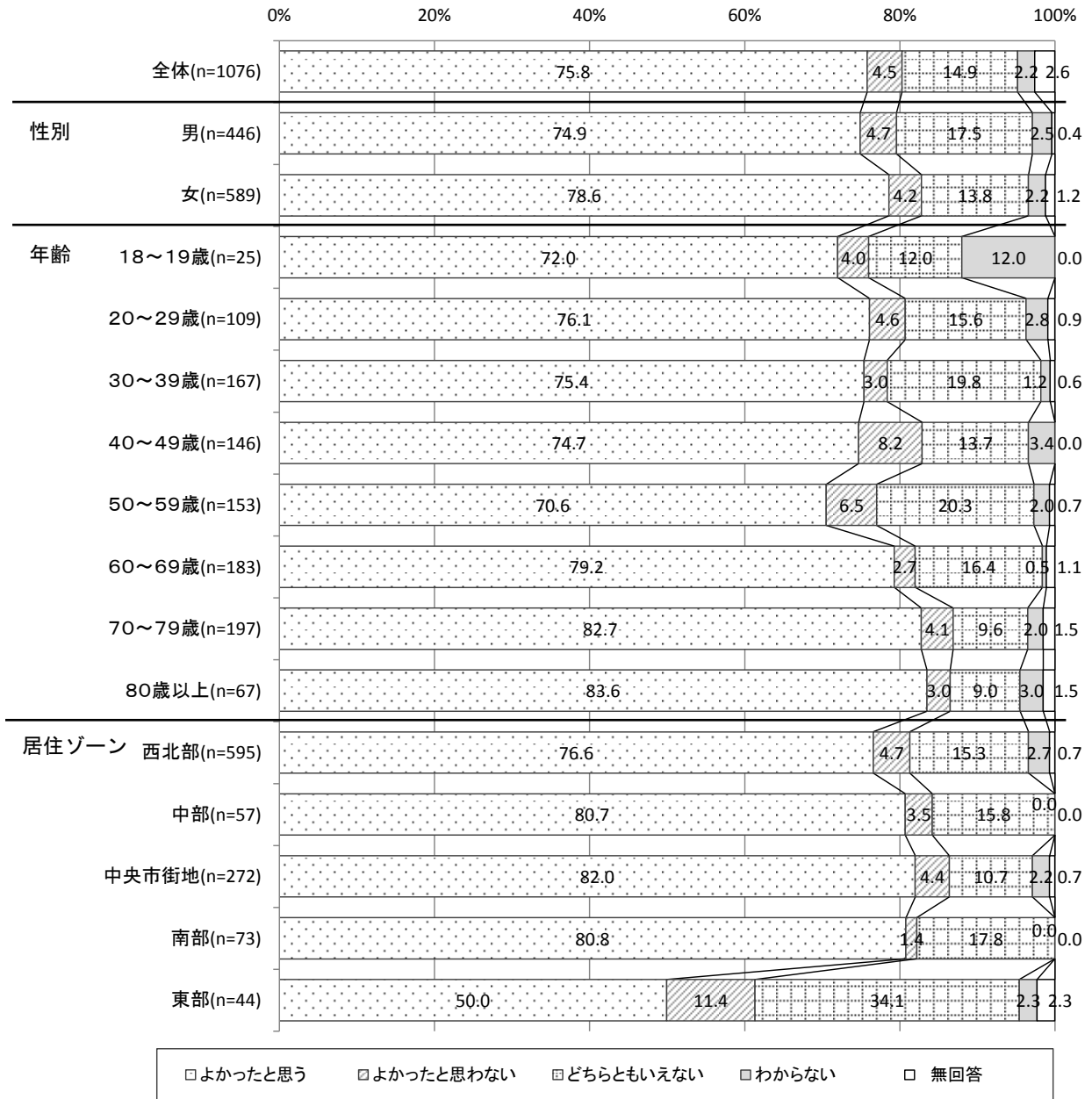
基本構想の「まちづくりの指標」では、「奈良市に住んでよかったと思う」市民が80%以上となることを目標としているが、この目標にはまだ届かないものの、2009年の市民アンケート調査（以下、前回調査）の71%よりもやや回答比率は上昇している。

年齢別にみると、「よかったと思う」とする回答が70歳代以上で80%を超えている一方で、18～19歳と50歳代では約70%とやや少なくなっている。居住ゾーン別にみると、東部で「よかったと思う」とする回答が50.0%であり、他地域よりも大幅に少ない。

図表 II-11 奈良市に住んで「よかった」と思うか



図表 II-12 奈良市に住んで「よかった」と思うか(クロス集計)

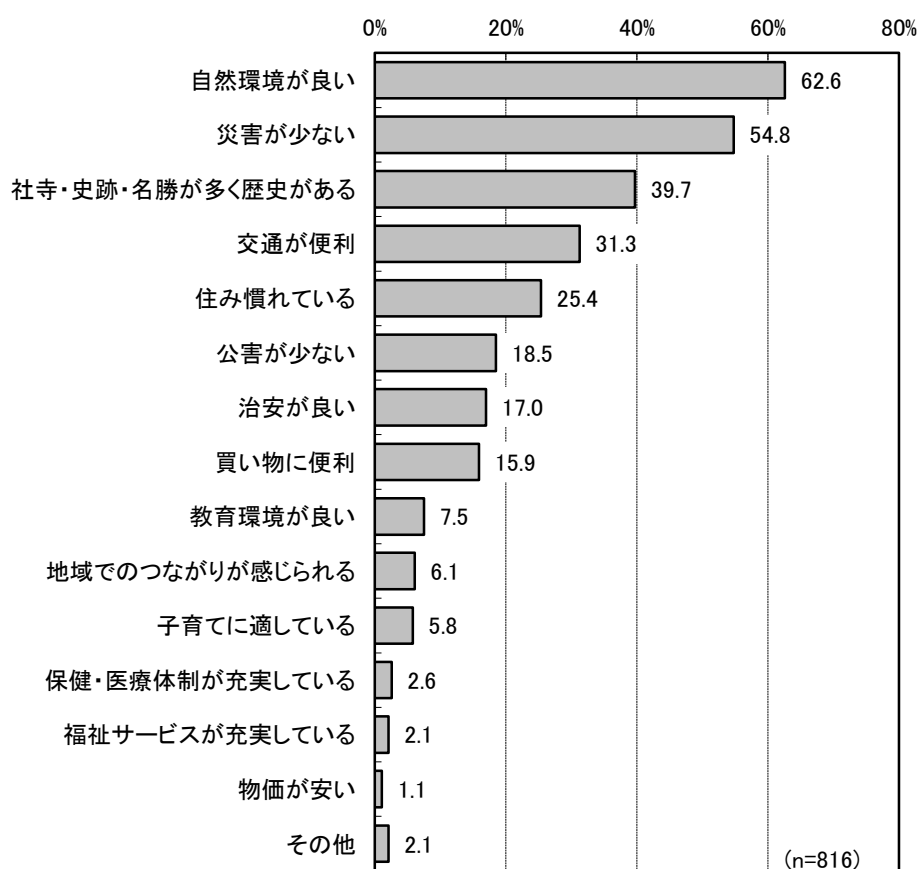


### (3) 奈良市に住んで「よかった」と思う理由[問1-3]

奈良市に住んで「よかった」と思う理由は、「自然環境が良い」が62.6%で最も多く、「災害が少ない」(54.8%)がこれに次いで多い。また、他市にはない奈良市の特性である「社寺・史跡・名勝が多く歴史がある」という点についても、約4割の回答者がこれを住んでよかった理由に挙げている。

年齢別にみると、「自然環境が良い」とする回答は、20歳代以上で年齢が上がるにつれて多くなっている。また、「災害が少ない」とする回答は、60歳代と70歳代で他の年齢階級よりも多くなっている。

図表 II-13 奈良市に住んで「よかった」と思う理由(複数回答)



図表 II-14 奈良市に住んで「よかった」と思う理由(複数回答・クロス集計)

(上段：人数、下段：%)

		調査数	自然環境が良い	公害が少ない	災害が少ない	交通が便利	買い物に便利	物価が安い	治安が良い	教育環境が良い	子育てに適している	福祉サービスが充実している	保健・医療体制が充実している	地域でのつながりが感じられる	住み慣れている	史跡・名勝が多く歴史がある	その他
全体		816 100.0	511 62.6	151 18.5	447 54.8	255 31.3	130 15.9	9 1.1	139 17.0	61 7.5	47 5.8	17 2.1	21 2.6	50 6.1	207 25.4	324 39.7	17 2.1
性別	男性	334 100.0	223 66.8	59 17.7	184 55.1	115 34.4	39 11.7	4 1.2	43 12.9	19 5.7	11 3.3	7 2.1	8 2.4	21 6.3	83 24.9	123 36.8	8 2.4
	女性	463 100.0	275 59.4	85 18.4	253 54.6	136 29.4	91 19.7	5 1.1	93 20.1	41 8.9	36 7.8	10 2.2	13 2.8	29 6.3	119 25.7	193 41.7	9 1.9
年齢	18～19歳	18 100.0	9 50.0	2 11.1	5 27.8	6 33.3	2 11.1	0 0.0	4 22.2	1 5.6	0 0.0	1 5.6	0 0.0	3 16.7	8 44.4	8 44.4	0 0.0
	20～29歳	83 100.0	36 43.4	6 7.2	32 38.6	36 43.4	17 20.5	1 1.2	20 24.1	7 8.4	5 6.0	1 1.2	0 0.0	6 6.0	35 42.2	33 39.8	3 3.6
	30～39歳	126 100.0	67 53.2	12 9.5	59 46.8	49 38.9	26 20.6	1 0.8	31 24.6	7 5.6	13 10.3	1 0.8	0 0.0	3 2.4	37 29.4	42 33.3	4 3.2
	40～49歳	109 100.0	61 56.0	20 18.3	57 52.3	28 25.7	19 17.4	1 0.9	24 22.0	12 11.0	10 9.2	3 2.8	1 0.9	5 4.6	28 25.7	43 39.4	6 5.5
	50～59歳	108 100.0	67 62.0	18 16.7	61 56.5	28 25.9	13 12.0	3 2.8	18 16.7	15 13.9	10 9.3	3 2.8	2 1.9	10 9.3	25 23.1	39 36.1	3 2.8
	60～69歳	145 100.0	100 69.0	34 23.4	95 65.5	47 32.4	30 20.7	2 1.4	19 13.1	11 7.6	5 3.4	3 2.1	8 5.5	6 4.1	28 19.3	70 48.3	0 0.0
	70～79歳	163 100.0	119 73.0	40 24.5	106 65.0	49 30.1	19 11.7	1 0.6	15 9.2	6 3.7	4 2.5	4 2.5	6 3.7	11 6.7	35 21.5	63 38.7	1 0.6
	80歳以上	56 100.0	47 83.9	15 26.8	27 48.2	11 19.6	4 7.1	0 0.0	7 12.5	2 3.6	0 0.0	1 1.8	4 7.1	6 10.7	11 19.6	22 39.3	0 0.0
居住ゾーン	西北部	456 100.0	294 64.5	89 19.5	237 52.0	149 32.7	72 15.8	4 0.9	86 18.9	48 10.5	35 7.7	9 2.0	10 2.2	24 5.3	101 22.1	156 34.2	5 1.1
	中部	46 100.0	24 52.2	7 15.2	32 69.6	10 21.7	6 13.0	0 0.0	7 15.2	3 6.5	2 2.2	0 0.0	0 0.0	4 8.7	13 28.3	20 43.5	2 4.3
	中央市街地	223 100.0	137 61.4	31 13.9	129 57.8	79 35.4	41 18.4	3 1.3	34 15.2	9 4.0	9 4.0	4 1.8	6 2.7	8 3.6	62 27.8	112 50.2	9 4.0
	南部	59 100.0	31 52.5	10 16.9	31 52.5	14 23.7	8 13.6	2 3.4	9 15.3	0 0.0	1 1.7	3 5.1	2 3.4	6 10.2	23 39.0	29 49.2	1 1.7
	東部	22 100.0	19 86.4	8 36.4	12 54.5	0 0.0	4 4.5	0 0.0	3 13.6	0 0.0	1 4.5	0 0.0	3 13.6	7 31.8	8 36.4	5 22.7	0 0.0

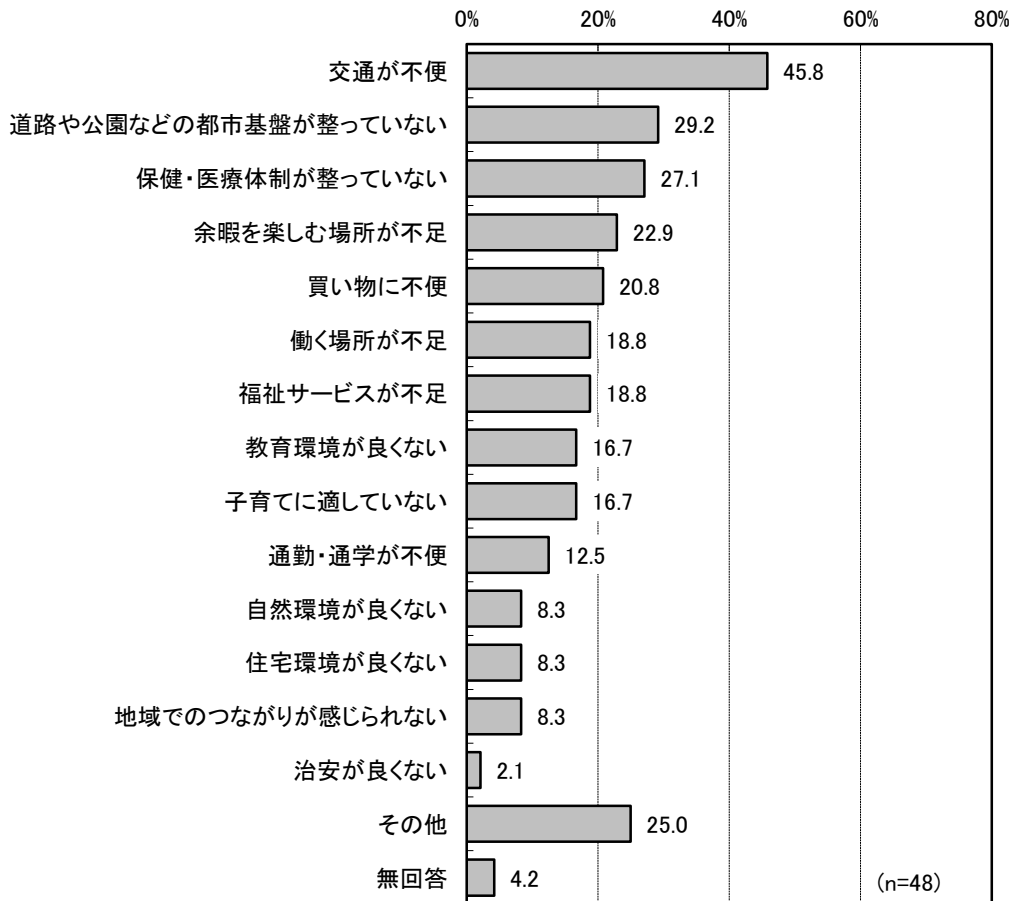
(注) 全体を10ポイント以上上回るものに黒い網掛け(白抜き文字)、10ポイント以上下回るものにグレーの網掛けをしている。

#### (4) 奈良市に住んで「よかった」と思わない理由[問1-4]

奈良市に住んで「よかった」と思わない理由は、「交通が不便」が45.8%と最も多い。その他に、20%以上の回答があった項目は、「道路や公園などの都市基盤が整っていない」(29.2%)、「保健・医療体制が整っていない」(27.1%)、「余暇を楽しむ場所が不足」(22.9%)、「買い物に不便」(20.8%)である。

(※回答者数の全体が48人であるため、クロス集計結果は省略。)

図表 II-15 奈良市に住んで「よかった」と思わない理由(複数回答)



### (5) 奈良市への愛着[問1-5]

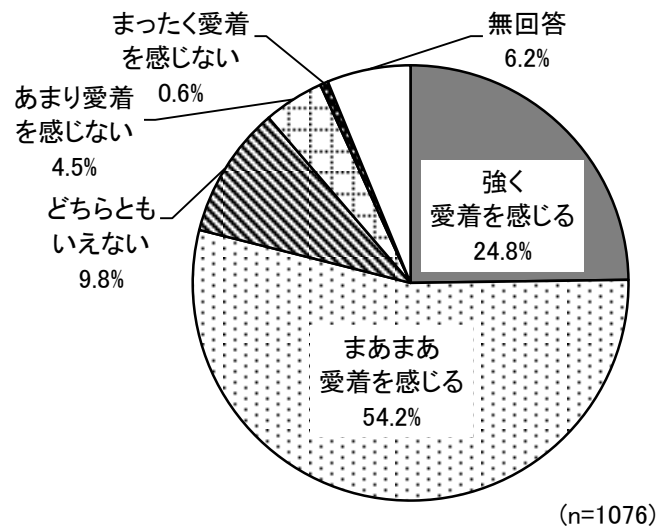
奈良市に愛着を感じているかを尋ねたところ、「強く愛着を感じる」が24.8%、「まあまあ愛着を感じる」が54.2%で、合計すると79.0%の回答者が「愛着を感じる」と回答している。

基本構想の「まちづくりの指標」では、「奈良市に愛着を感じている」市民が80%以上となることを目標としているが、今回の調査では前回調査の74%から回答比率はやや上昇している。

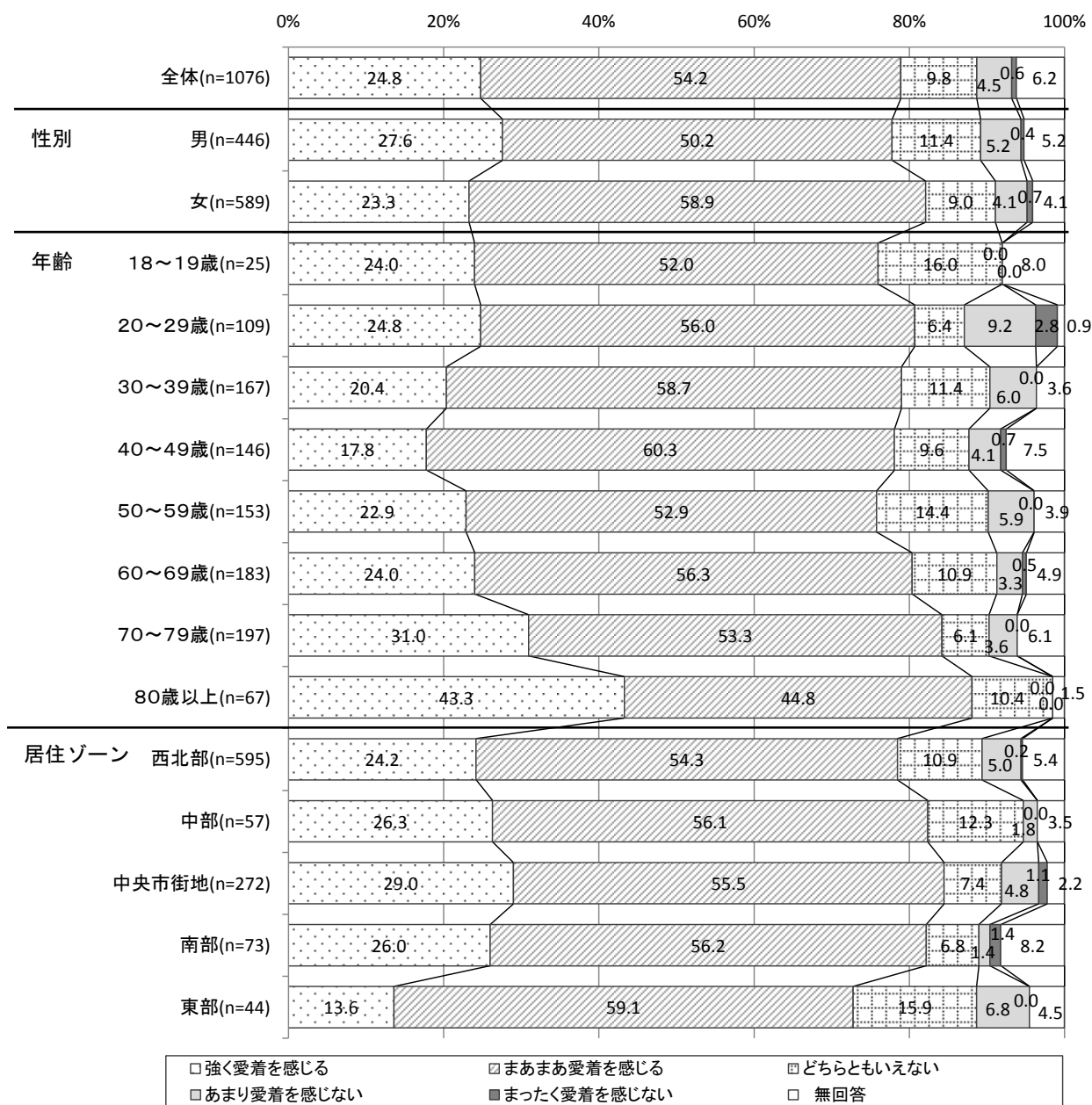
年齢別では、20歳代と60歳代以上で「愛着を感じる」とする回答が80%を超えており、50歳代以上では、年齢階級が上がるにつれて、「愛着を感じる」とする回答が多くなっている。

居住ゾーン別にみると、東部を除く地域では「愛着を感じる」とする回答が80%前後であるのに対し、東部では72.7%にとどまっている。

図表 II-16 奈良市への愛着



図表 II-17 奈良市への愛着(クロス集計)





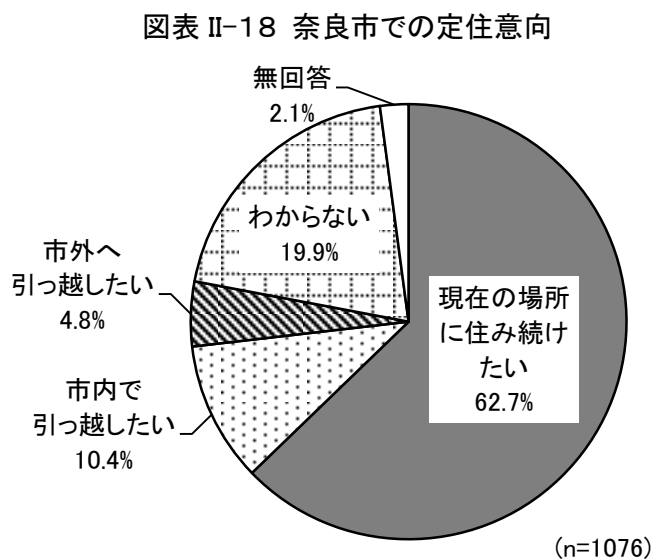
## (6) 奈良市での定住意向[問1-6]

奈良市での定住意向を尋ねたところ、「現在の場所に住み続けたい」が62.7%、「市内で引っ越したい」が10.4%で、合計すると73.1%の回答者が「奈良市に住み続けたい」と回答している。

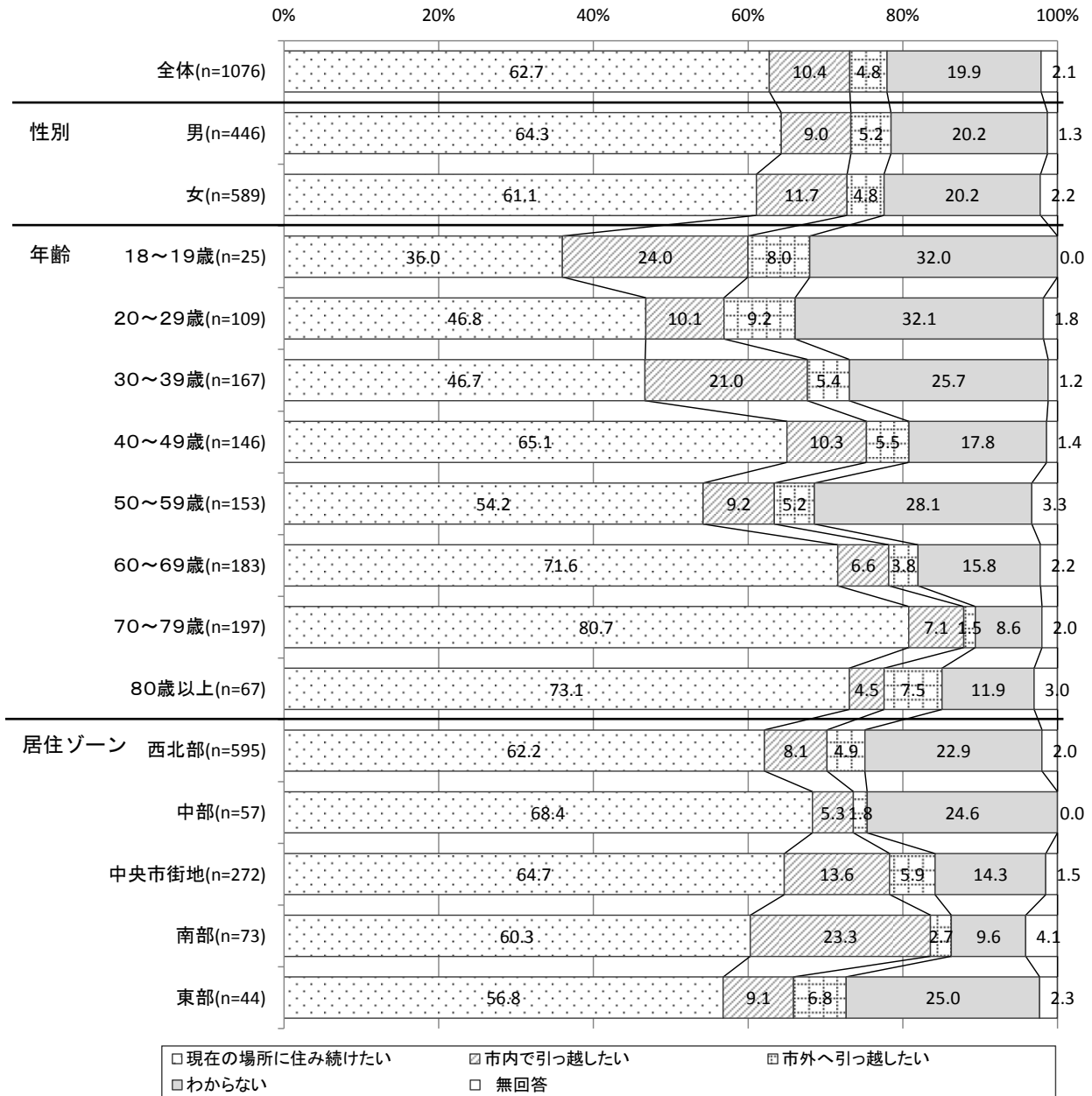
基本構想の「まちづくりの指標」では、「奈良市に住み続けたい」と思う市民が80%以上となることを目標としているが、この目標にはまだ届かないものの、前回調査の69%から回答比率はやや上昇している。

年齢別にみると、「奈良市に住み続けたい」とする回答が、18～19歳で60.0%、20歳代で56.9%であり、他の年齢階級よりもやや少なくなっている。

居住ゾーン別にみると、東部では「現在の場所に住み続けたい」とする回答が56.8%で他地域よりもやや少なく、南部では「市内で引っ越したい」とする回答が23.3%で他地域よりもやや多い。



図表 II-19 奈良市での定住意向(クロス集計)



### 3. 市政やまちづくりへの参画について

#### (1) 市政への関心 [問2-1]

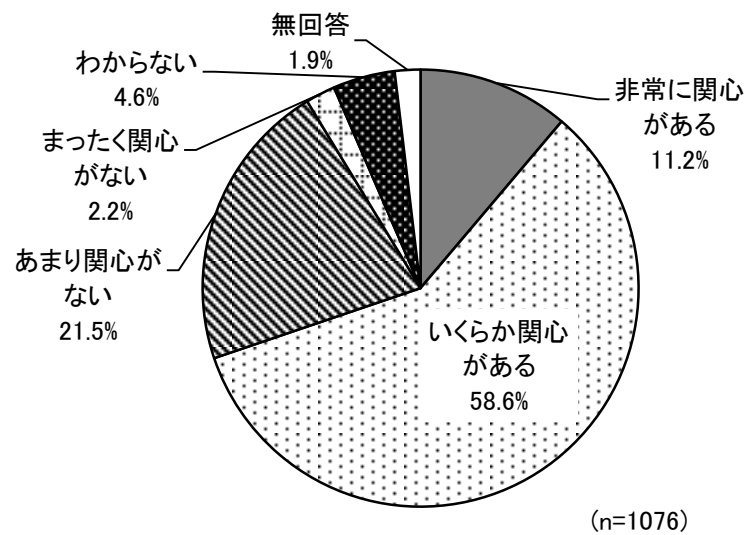
市政への関心を尋ねたところ、「非常に関心がある」が11.2%、「いづらか関心がある」が58.6%で、合計すると69.8%の回答者が「市政に関心がある」と回答している。

基本構想の「まちづくりの指標」では、「市政に関心がある」市民が75%以上となることを目標としているが、今回の調査結果は前回調査（68%）と同様の水準の回答比率にとどまっている。

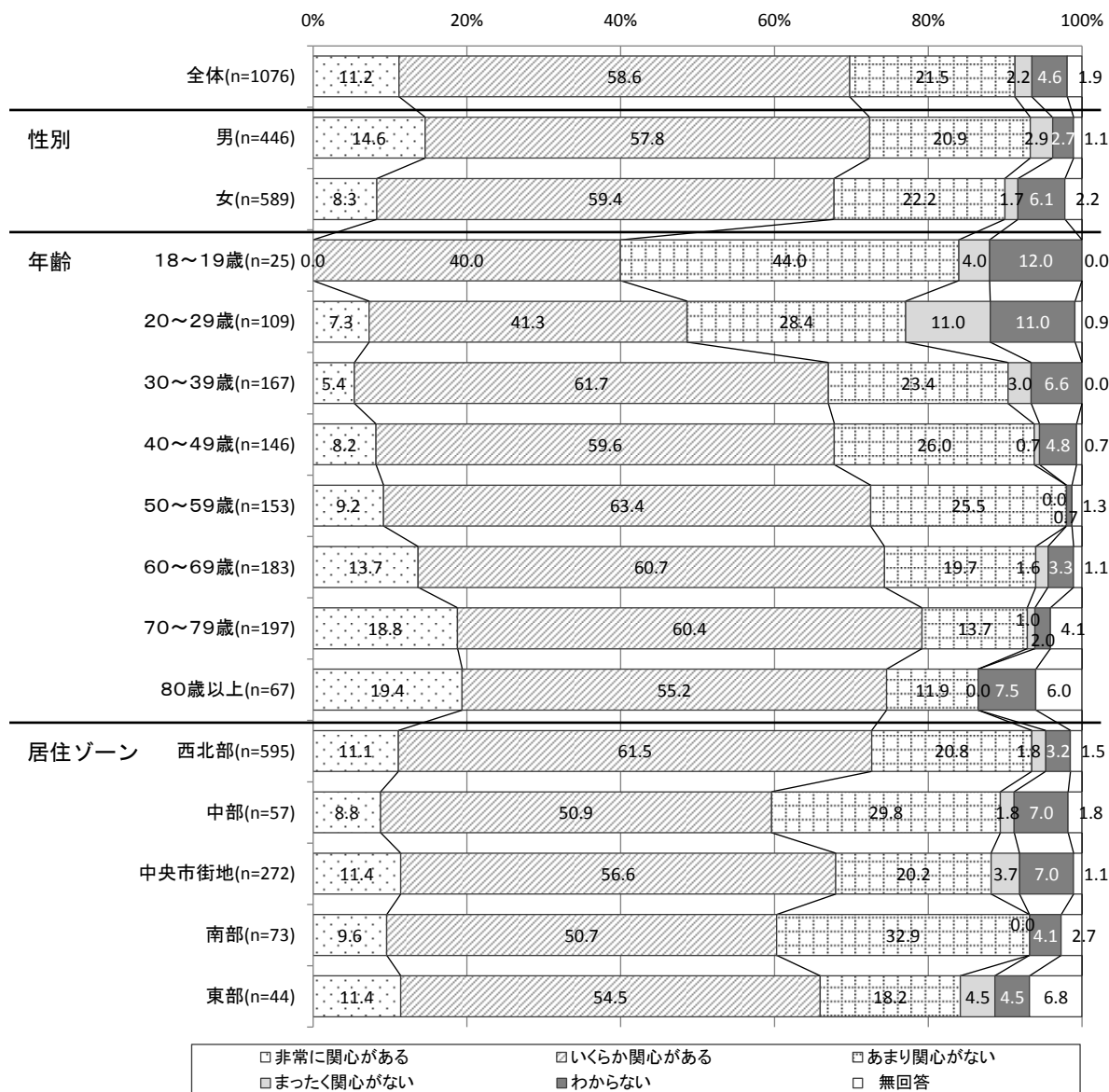
年齢階級別にみると、「非常に関心がある」または「いづらか関心がある」といった回答は、18～19歳から70歳代まで年齢階級が高くなるほど多くなる傾向を示している。

居住ゾーン別では、西北部、中央市街地で「関心がある」とする回答がやや多くなっている。

図表 II-20 市政への関心



図表 II-21 市政への関心(クロス集計)

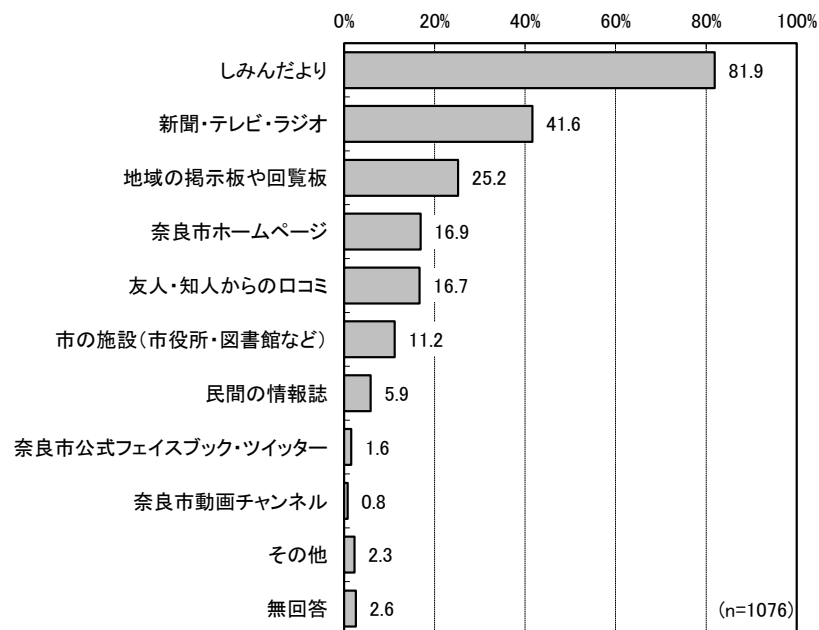


## (2) 市政に関する情報の入手方法 [問2-2]

市政に関する情報は、「しみんだより」から入手しているとする回答が81.9%と非常に多い。また、「奈良市ホームページ」は16.9%の回答があるが、「奈良市公式フェイスブック・ツイッター」の回答は1.6%と少ない。

年齢階級別にみると、30歳代以上の年齢階級では「しみんだより」の回答が80%を超えているが、20歳代では54.1%、18～19歳では40%にとどまっている。また、30歳代、40歳代では「奈良市ホームページ」の回答が30%前後と多く、70歳代では「新聞・テレビ・ラジオ」の回答が多いといった特徴がみられる。

図表 II-22 市政に関する情報の入手方法(複数回答)



図表 II-23 市政に関する情報の入手方法(複数回答)(クロス集計)

(上段：人数、下段：%)

	調査数	しみんだより	奈良市ホームページ	ク・ツイッター	奈良市公式フェイスブック	奈良市動画チャンネル	地域の掲示板や回覧板	市役所・図書館 など)	新聞・テレビ・ラジオ	民間の情報誌	友人・知人からの口コミ	その他	無回答
全体	1076	881	182	17	9	271	121	448	64	180	25	28	
	100.0	81.9	16.9	1.6	0.8	25.2	11.2	41.6	5.9	16.7	2.3	2.6	
性別	男性	446	351	74	5	4	99	41	199	27	60	17	10
		100.0	78.7	16.6	1.1	0.9	22.2	9.2	44.6	6.1	13.5	3.8	2.2
女性	589	500	106	11	5	166	77	230	36	113	8	16	
		100.0	84.9	18.0	1.9	0.8	28.2	13.1	39.0	6.1	19.2	1.4	2.7
年齢	18～19歳	25	10	5	3	0	2	2	10	0	3	0	2
		100.0	40.0	20.0	12.0	0.0	8.0	8.0	40.0	0.0	12.0	0.0	8.0
	20～29歳	109	59	21	3	0	20	10	37	9	27	6	11
		100.0	54.1	19.3	2.8	0.0	18.3	9.2	33.9	8.3	24.8	5.5	10.1
	30～39歳	167	134	56	5	2	27	17	39	13	24	3	2
		100.0	80.2	33.5	3.0	1.2	16.2	10.2	23.4	7.8	14.4	1.8	1.2
	40～49歳	146	126	40	6	1	35	17	57	10	29	1	1
		100.0	86.3	27.4	4.1	0.7	24.0	11.6	39.0	6.8	19.9	0.7	0.7
50～59歳	153	132	18	0	1	46	16	64	6	21	4	4	
	100.0	86.3	11.8	0.0	0.7	30.1	10.5	41.8	3.9	13.7	2.6	2.6	
60～69歳	183	156	21	0	2	58	26	90	14	24	6	0	
	100.0	85.2	11.5	0.0	1.1	31.7	14.2	49.2	7.7	13.1	3.3	0.0	
70～79歳	197	184	12	0	3	64	27	106	9	37	4	2	
	100.0	93.4	6.1	0.0	1.5	32.5	13.7	53.8	4.6	18.8	2.0	1.0	
80歳以上	67	58	6	0	0	15	3	31	1	9	1	4	
	100.0	86.6	9.0	0.0	0.0	22.4	4.5	46.3	1.5	13.4	1.5	6.0	
居住ゾーン	西北部	595	496	111	8	8	151	62	259	27	88	10	15
		100.0	83.4	18.7	1.3	1.3	25.4	10.4	43.5	4.5	14.8	1.7	2.5
	中部	57	46	12	0	0	20	6	23	5	9	3	0
		100.0	80.7	21.1	0.0	0.0	35.1	10.5	40.4	8.8	15.8	5.3	0.0
	中央市街地	272	219	47	8	1	66	40	101	25	47	11	7
	100.0	80.5	17.3	2.9	0.4	24.3	14.7	37.1	9.2	17.3	4.0	2.6	
南部	73	59	6	1	0	17	7	34	3	16	0	1	
	100.0	80.8	8.2	1.4	0.0	23.3	9.6	46.6	4.1	21.9	0.0	1.4	
東部	44	36	3	0	0	14	2	16	3	13	1	2	
	100.0	81.8	6.8	0.0	0.0	31.8	4.5	36.4	6.8	29.5	2.3	4.5	

(注)全体を10ポイント以上上回るものに黒い網掛け(白抜き文字)、10ポイント以上下回るものにグレーの網掛けをしている。

### (3) 市政への参画機会の認知度と参加・協力意向 [問2-3]

#### ① まちかどトークなど奈良市の施策の説明会や意見交換会への参加

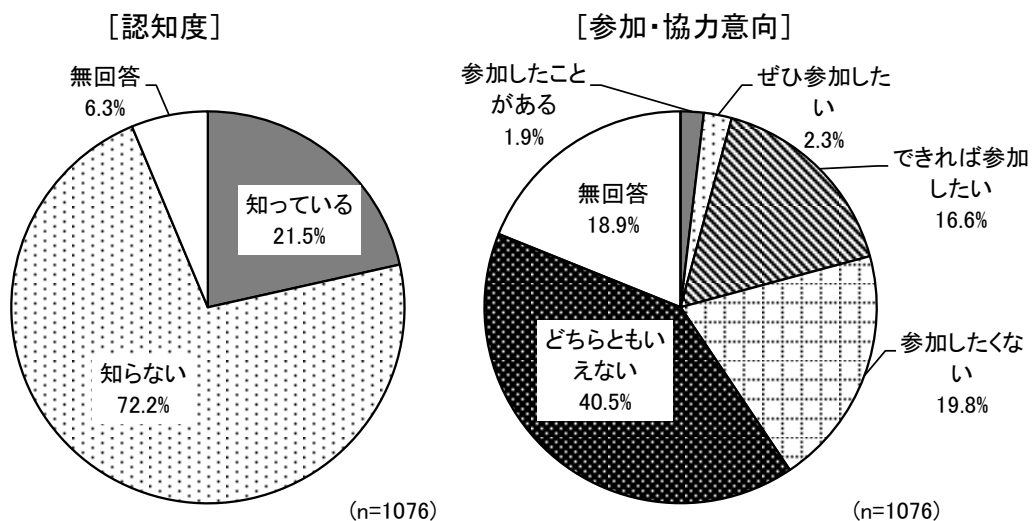
まちかどトークなどの奈良市の施策説明会や意見交換会への参加について、「知っている」とする回答は21.5%にとどまっている。

年齢階級別にみると、「知っている」とする回答は、18～19歳から70歳代まで概ね年齢階級が高くなるほど多くなる傾向を示している。また、居住ゾーン別では、東部で「知っている」とする回答がやや多くなっている。

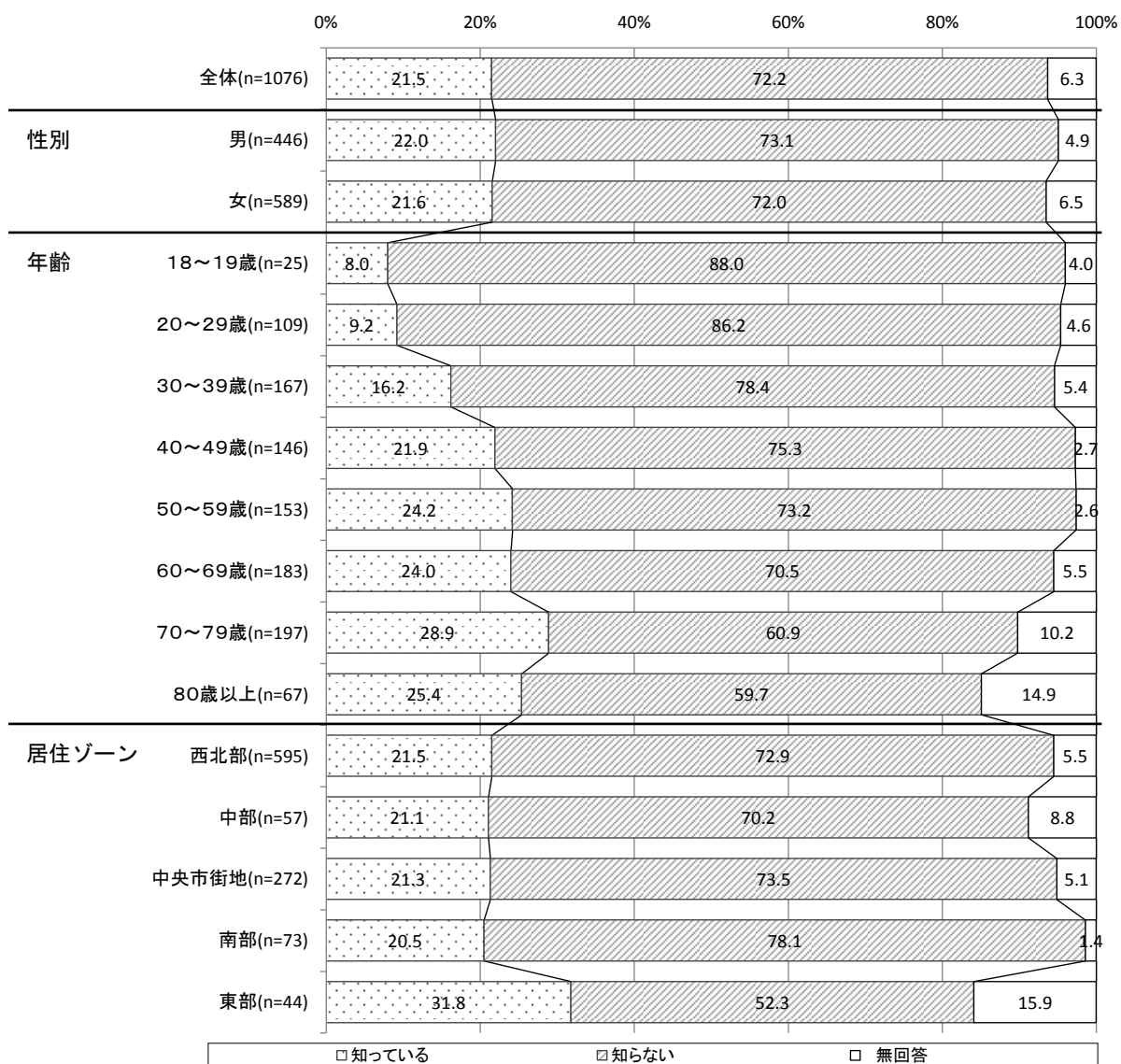
次に、今後の参加・協力意向については、「参加したことがある」(1.9%)、「ぜひ参加したい」(2.3%)、「できれば参加したい」(16.6%)を合わせた参加に前向きな回答は20.8%であり、「参加したくない」(19.8%)とほぼ同程度にとどまっている。

年齢階級別にみると、参加に前向きな回答は50歳代、70歳代以上でやや多くなっている。

図表 II-24 まちかどトーク等を通じた参画の認知度と参加・協力意向

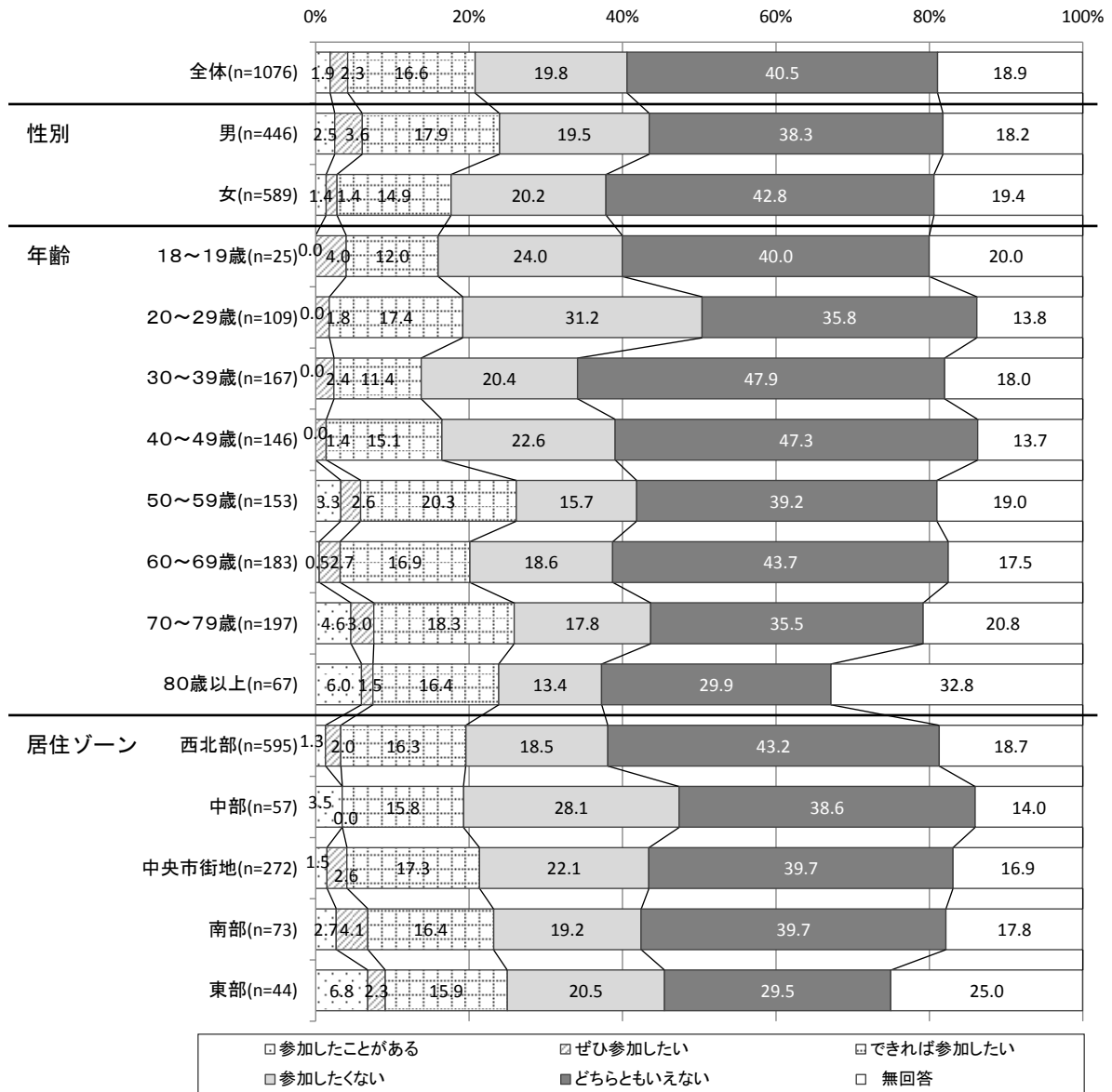


図表 II-25 まちかどトーク等を通じた参画の認知度(クロス集計)





図表 II-26 まちかどトーク等を通じた参画の参加・協力意向(クロス集計)



## ② 市民公募委員としての審議会や検討委員会への参加

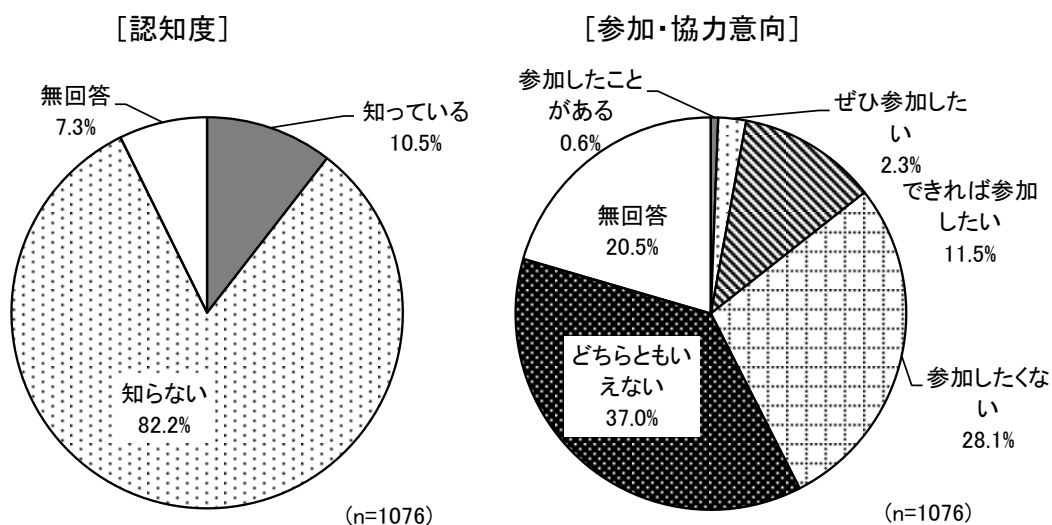
市民公募委員としての審議会や検討委員会への参加について、「知っている」とする回答は10.5%にとどまっている。

年齢階級別にみると、30歳代以下の年齢階級で「知っている」とする回答が特に少ないことが分かる。

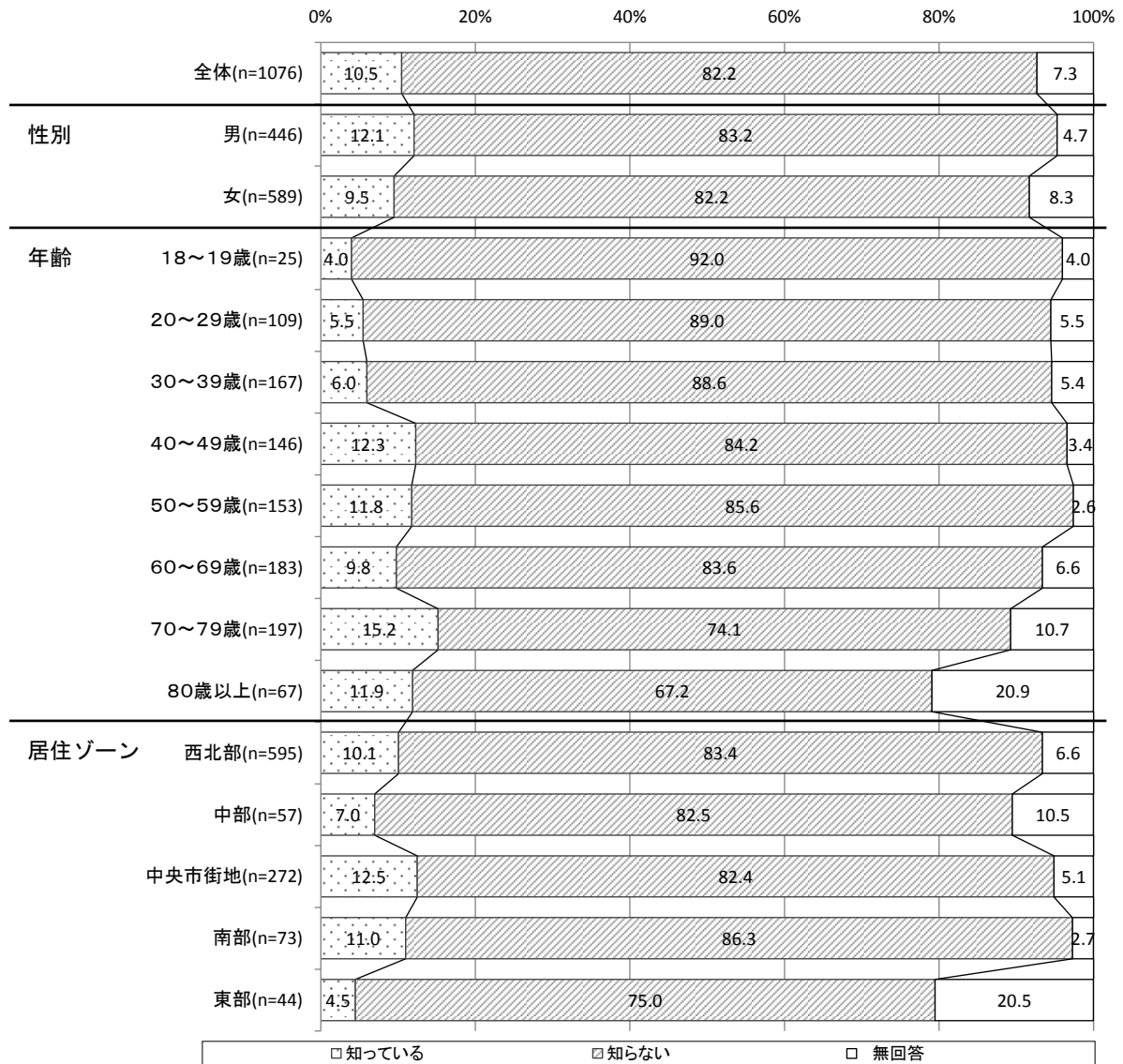
次に、今後の参加・協力意向については、「参加したことがある」(0.6%)、「ぜひ参加したい」(2.3%)、「できれば参加したい」(11.5%)を合わせた参加に前向きな回答は14.4%であり、「参加したくない」(28.1%)を大きく下回っている。

年齢階級別にみると、参加に前向きな回答は80歳以上でやや多くなっている。

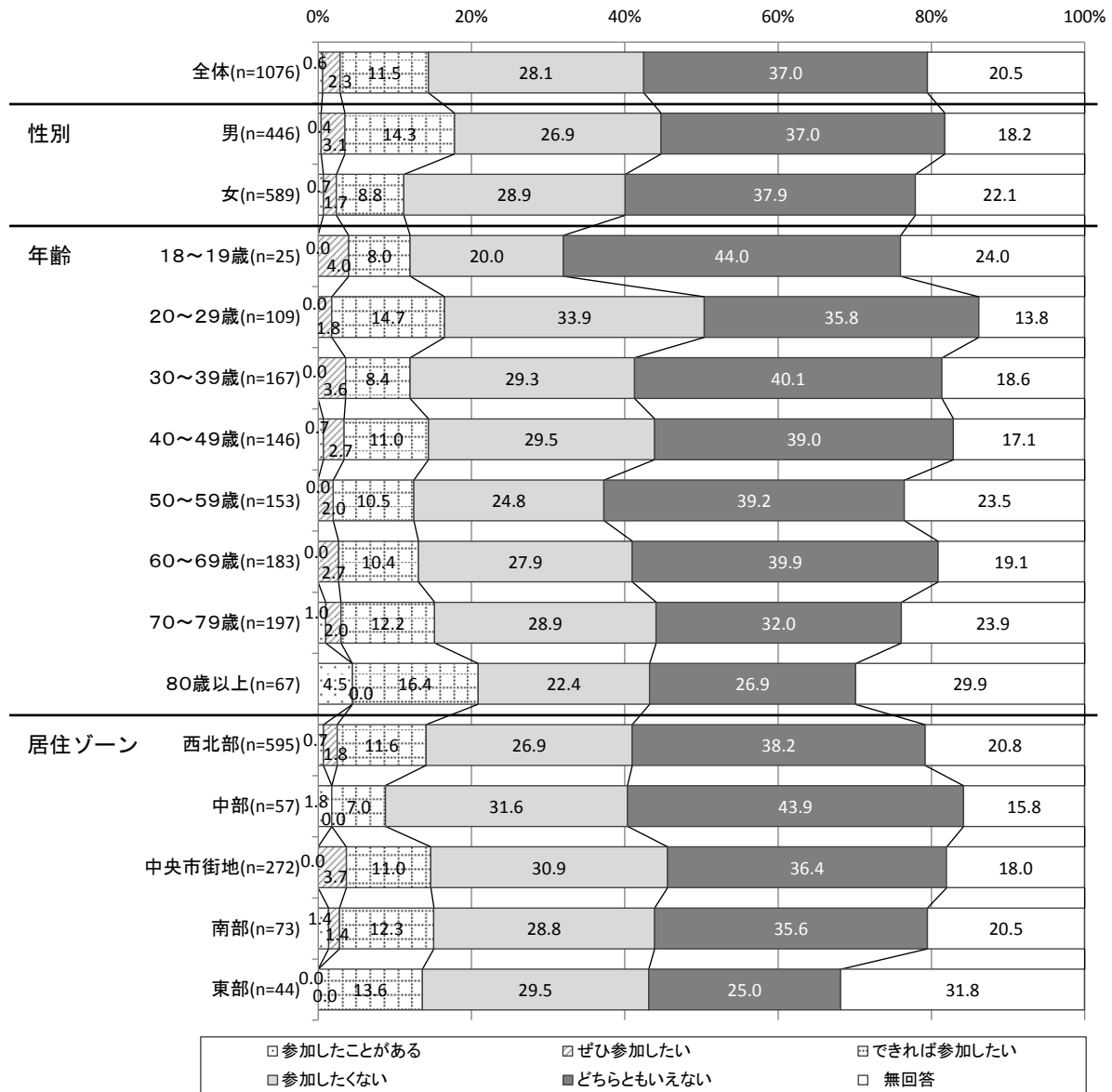
図表 II-27 市民公募委員としての参画の認知度と参加・協力意向



図表 II-28 市民公募委員としての参画の認知度(クロス集計)



図表 II-29 市民公募委員としての参画の参加・協力意向(クロス集計)



### ③ パブリックコメントなどの意見募集への意見提出

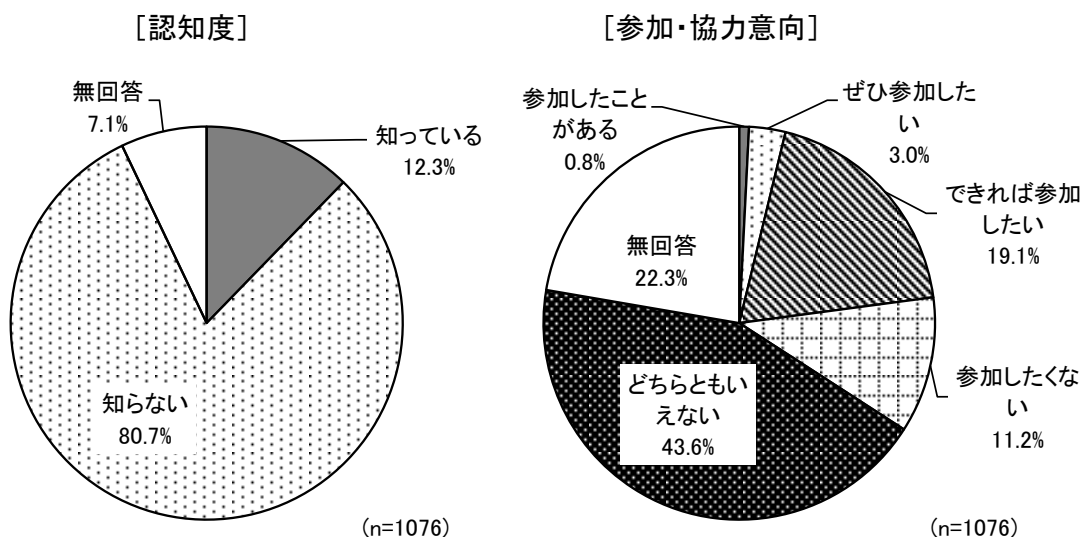
パブリックコメントなどの意見募集への意見提出について、「知っている」とする回答は12.3%にとどまっている。

年齢階級別にみると、「知っている」とする回答は、18～19歳から40歳代までは年齢階級が高くなるほど多くなり、50歳代から80歳以上にかけては反対に年齢階級が高くなるほど少なくなる傾向を示している。

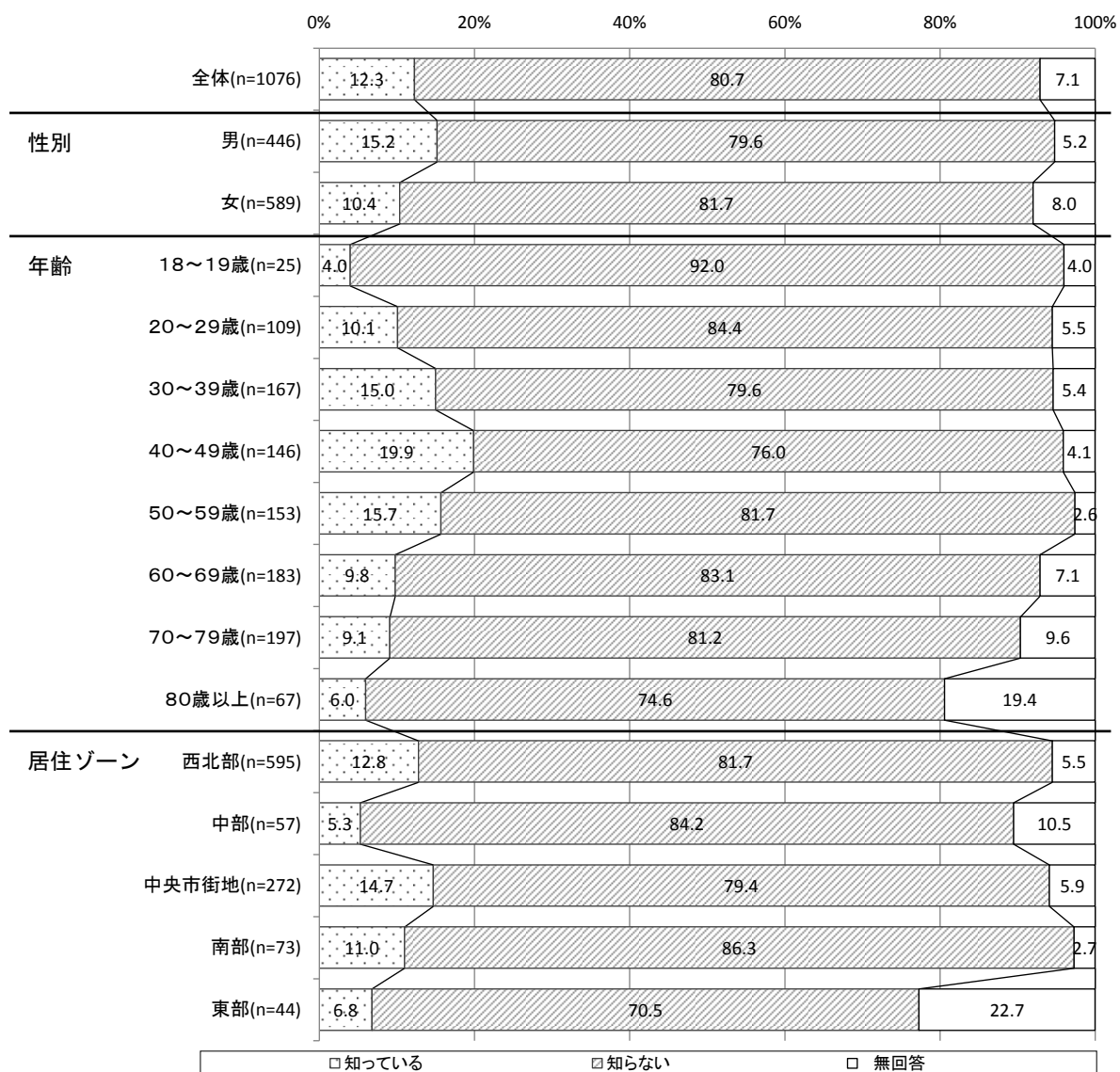
次に、今後の参加・協力意向については、「参加したことがある」(0.8%)、「ぜひ参加したい」(3.0%)、「できれば参加したい」(19.1%)を合わせた参加に前向きな回答は22.9%にとどまっている。

年齢階級別では、40歳代以下の年齢階級で参加に前向きな回答がやや多くなっている。

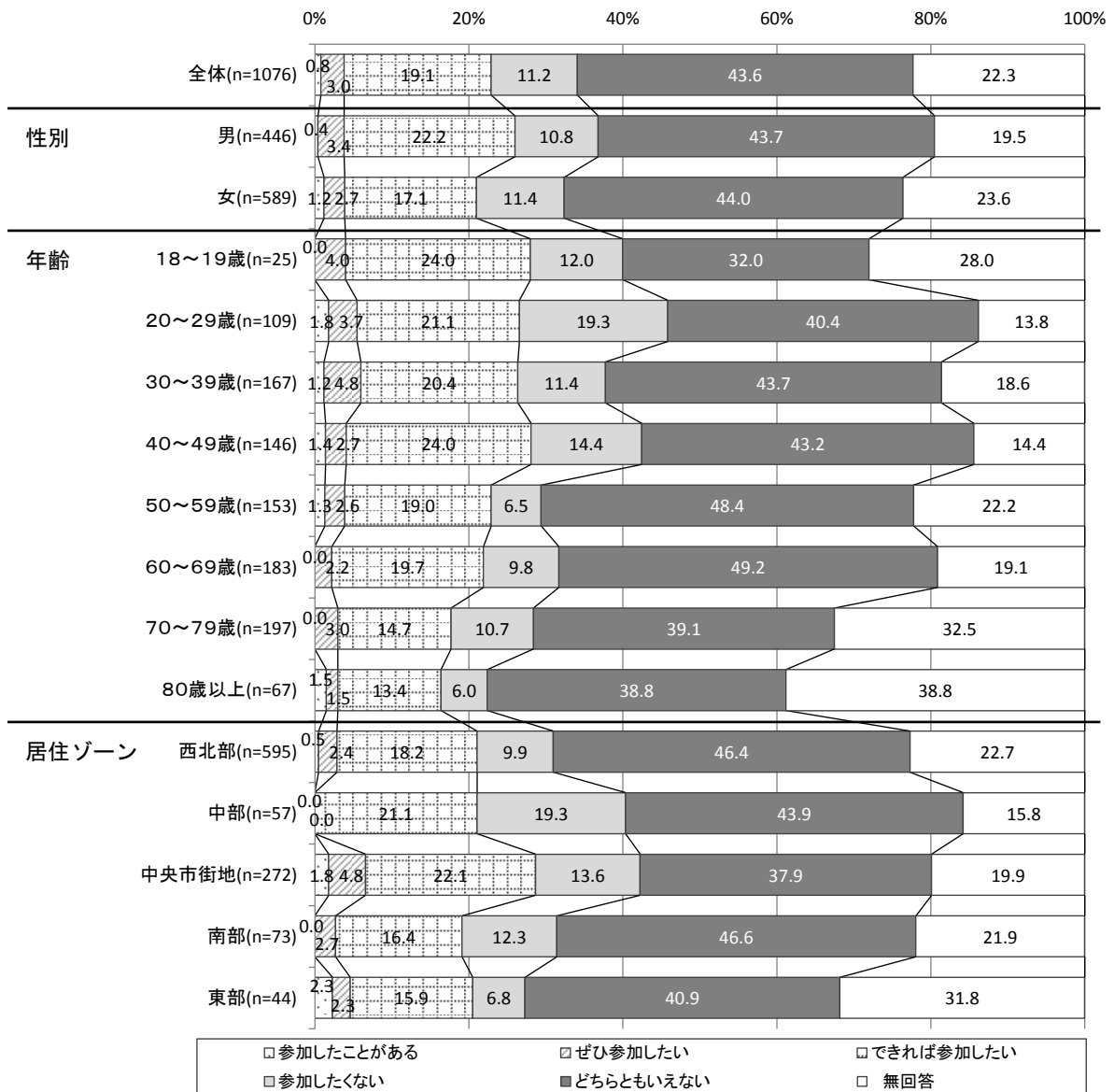
図表 II-30 パブリックコメント等を通じた参画の認知度と参加・協力意向



図表 II-31 パブリックコメント等を通じた参画の認知度(クロス集計)



図表 II-32 パブリックコメント等を通じた参画の参加・協力意向(クロス集計)



#### (4) 奈良市の市民協働に関する取組に対する満足度 [問2-4]

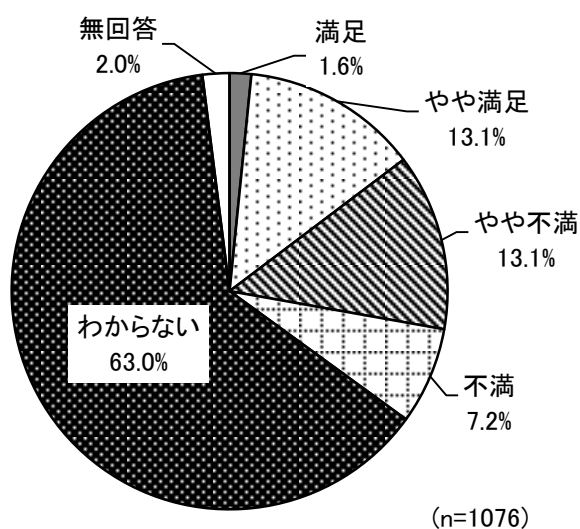
奈良市の「市民と協働する市政の推進」に関する取組への満足度は、「満足」が1.6%、「やや満足」が13.1%で、合計すると14.7%の回答者が満足を感じている。

基本構想の「まちづくりの指標」では、「市民と協働する市政の推進」の市民満足度が50%以上となることを目標としているが、今回の調査結果は前回調査（18%）をやや下回る水準となっている。

年齢階級別にみると、「満足」または「やや満足」といった回答は、70歳代以上でやや多くなっている。ただし、30歳代以下の年齢階級では、「わからない」とする回答が70%を超えており、市の取組そのものが認知されていない可能性が高い。

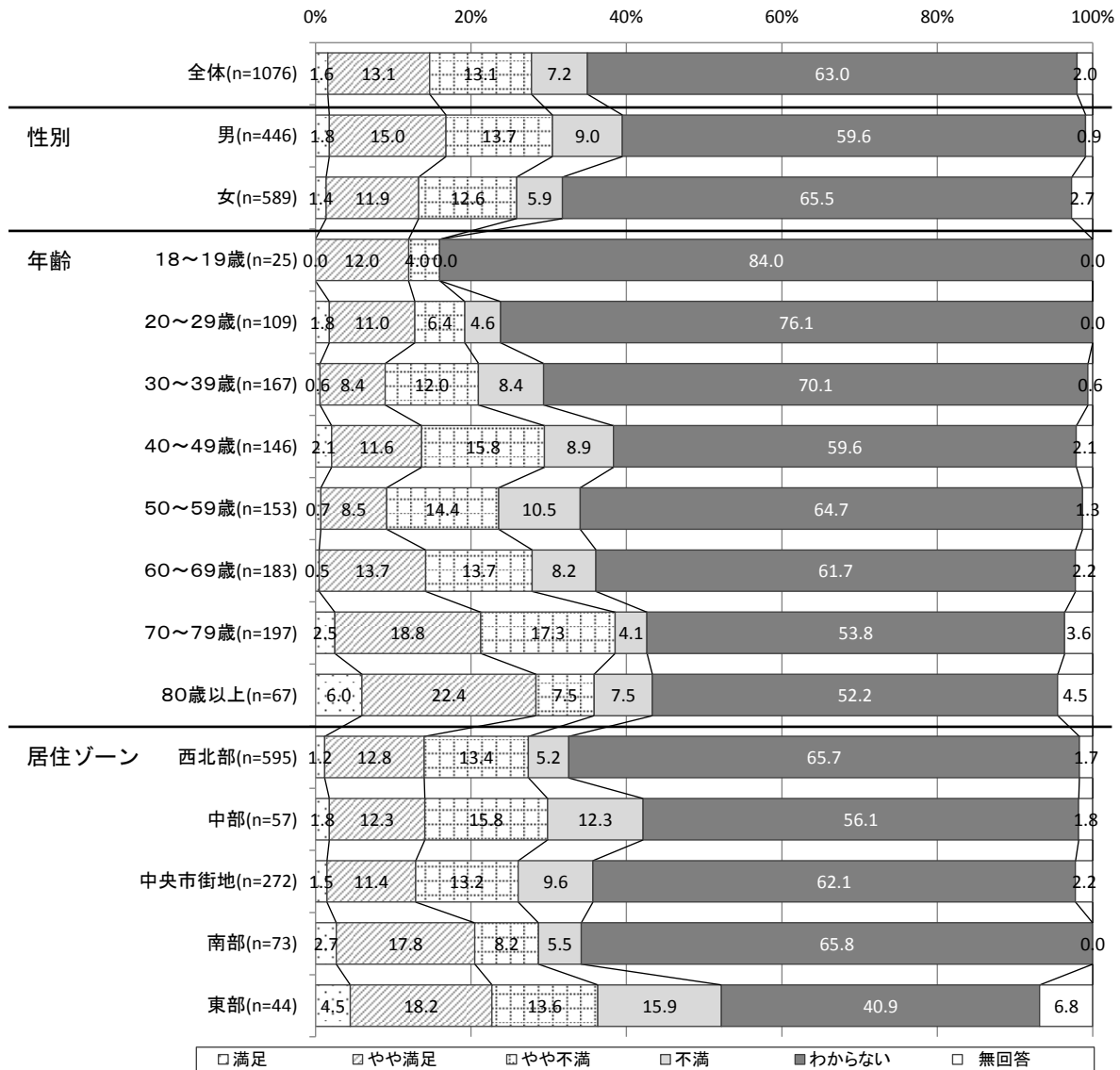
居住ゾーン別では、南部、東部で「満足」または「やや満足」の回答がやや多くなっている。

図表 II-33 奈良市の市民協働に関する取組に対する満足度





図表 II-34 奈良市の市民協働に関する取組に対する満足度(クロス集計)

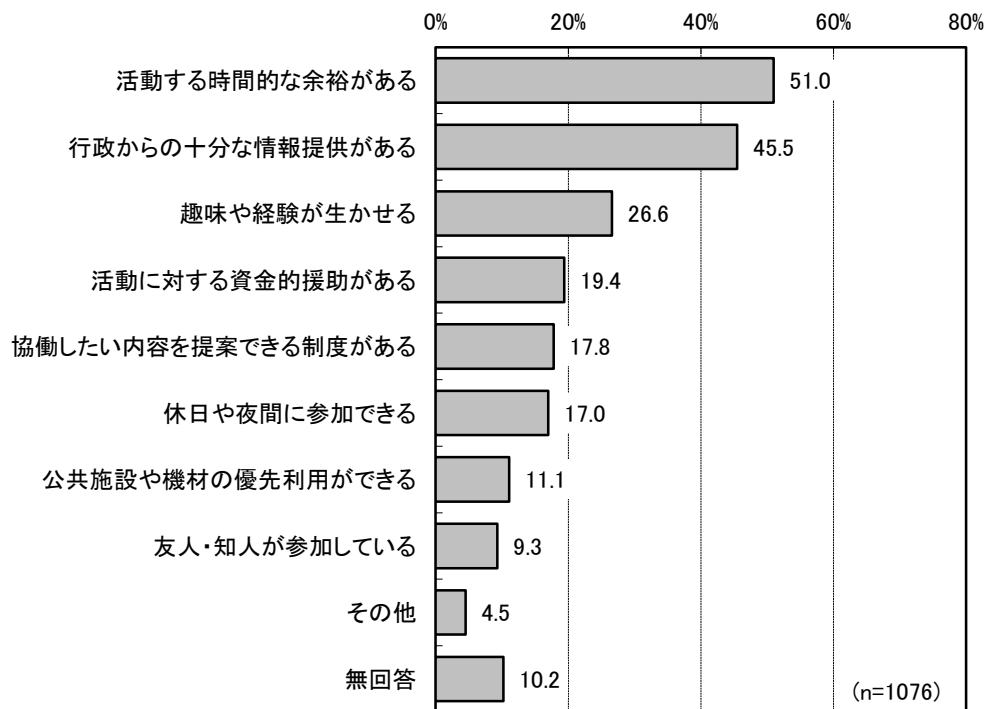


(5) 市政への参画・市民と行政の協働を広げるための条件 [問 2 - 5]

市政への参画、市民と行政との協働をさらに広げていくための条件を尋ねたところ、「活動する時間的な余裕がある」が 51.0%と最も多くなっているが、「行政からの十分な情報提供がある」ことを求める回答も 45.5%と多い。

年齢階級別にみると、20 歳代から 40 歳代では「活動する時間的な余裕がある」の回答が 60%以上と多くなっている。また、40 歳代では「活動に対する資金的援助がある」ことを求める回答も 30%以上と比較的多い。

図表 II-35 奈良市の市民協働を広げるための条件(複数回答)



図表 II-36 奈良市の市民協働を広げるための条件(複数回答)(クロス集計)

(上段：人数、下段：%)

		調査数	活動する時間的な余裕がある	趣味や経験が生かせる	友人・知人が参加している	活動に対する資金的援助がある	公共施設や機材の優先利用ができる	協働したい内容を提案できる制度がある	休日や夜間に参加できる	行政からの十分な情報提供がある	その他	無回答
全体		1076 100.0	549 51.0	286 26.6	100 9.3	209 19.4	119 11.1	192 17.8	183 17.0	490 45.5	48 4.5	110 10.2
性別	男性	446 100.0	219 49.1	123 27.6	36 8.1	91 20.4	54 12.1	90 20.2	92 20.6	200 44.8	23 5.2	37 8.3
	女性	589 100.0	317 53.8	149 25.3	61 10.4	114 19.4	63 10.7	95 16.1	85 14.4	273 46.3	23 3.9	65 11.0
年齢	18～19歳	25 100.0	10 40.0	10 40.0	6 24.0	3 12.0	0 0.0	3 12.0	5 20.0	9 36.0	0 0.0	1 4.0
	20～29歳	109 100.0	66 60.6	26 23.9	22 20.2	25 22.9	13 11.9	21 19.3	27 24.8	55 50.5	6 5.5	1 0.9
	30～39歳	167 100.0	105 62.9	40 24.0	15 9.0	46 27.5	16 9.6	32 19.2	33 19.8	79 47.3	9 5.4	7 4.2
	40～49歳	146 100.0	102 69.9	35 24.0	9 6.2	44 30.1	17 11.6	27 18.5	35 24.0	64 43.8	4 2.7	2 1.4
	50～59歳	153 100.0	87 56.9	37 24.2	9 5.9	35 22.9	17 11.1	38 24.8	32 20.9	82 53.6	5 3.3	9 5.9
	60～69歳	183 100.0	75 41.0	58 31.7	9 4.9	25 13.7	28 15.3	26 14.2	24 13.1	84 45.9	7 3.8	23 12.6
	70～79歳	197 100.0	75 38.1	51 25.9	21 10.7	19 9.6	22 11.2	28 14.2	13 6.6	76 38.6	11 5.6	44 22.3
	80歳以上	67 100.0	18 26.9	16 23.9	6 9.0	6 9.0	3 4.5	12 17.9	7 10.4	26 38.8	5 7.5	21 31.3
居住ゾーン	西北部	595 100.0	308 51.8	145 24.4	48 8.1	113 19.0	72 12.1	112 18.8	100 16.8	281 47.2	24 4.0	60 10.1
	中部	57 100.0	26 45.6	13 22.8	7 12.3	18 31.6	6 10.5	6 10.5	10 17.5	29 50.9	1 1.8	9 15.8
	中央市街地	272 100.0	149 54.8	80 29.4	28 10.3	52 19.1	30 11.0	43 15.8	51 18.8	121 44.5	18 6.6	17 6.3
	南部	73 100.0	36 49.3	24 32.9	10 13.7	12 16.4	4 5.5	15 20.5	7 9.6	28 38.4	2 2.7	9 12.3
	東部	44 100.0	16 36.4	13 29.5	2 4.5	11 25.0	6 13.6	10 22.7	7 15.9	14 31.8	2 4.5	9 20.5

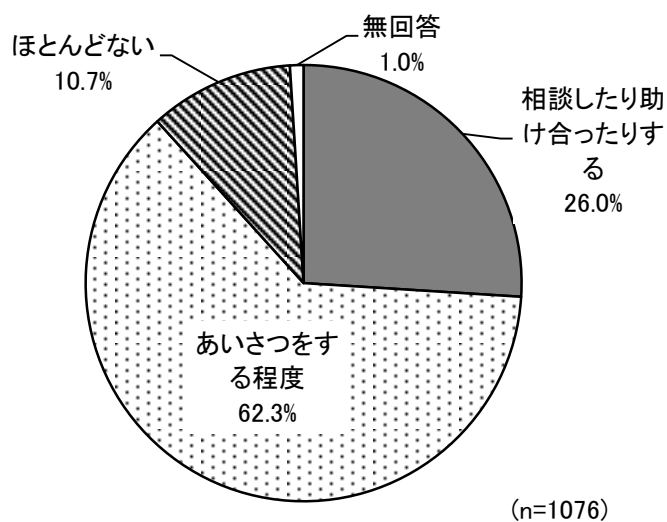
(注) 全体を10ポイント以上上回るものに黒い網掛け(白抜き文字)、10ポイント以上下回るものにグレーの網掛けをしている。

## (6) 地域の人との交流の状況 [問2-6]

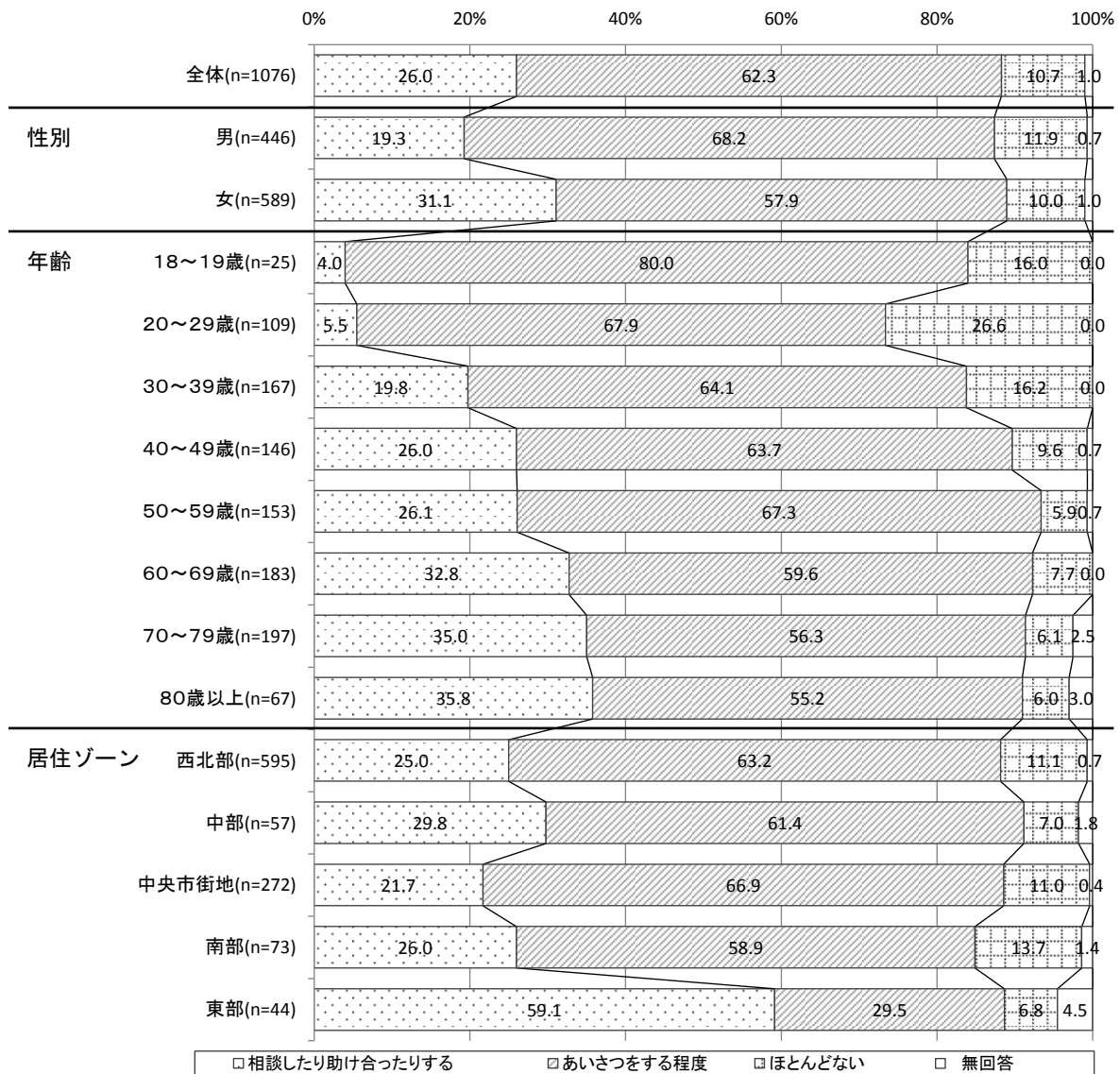
日頃の地域の人との交流の状況は、「あいさつをする程度」の回答が 62.3%と最も多いが、4分の1に相当する 26.0%の回答者が「相談したり助け合ったりする」としている。

年齢階級別にみると、「相談したり助け合ったりする」の回答は 20 歳代以下では 4～5%程度であるが、30 歳代では約 20%となり、その後は年齢階級が高くなるにつれて回答数が増える傾向を示している。

図表 II-37 地域の人との交流の状況



図表 II-38 地域の人との交流の状況(クロス集計)

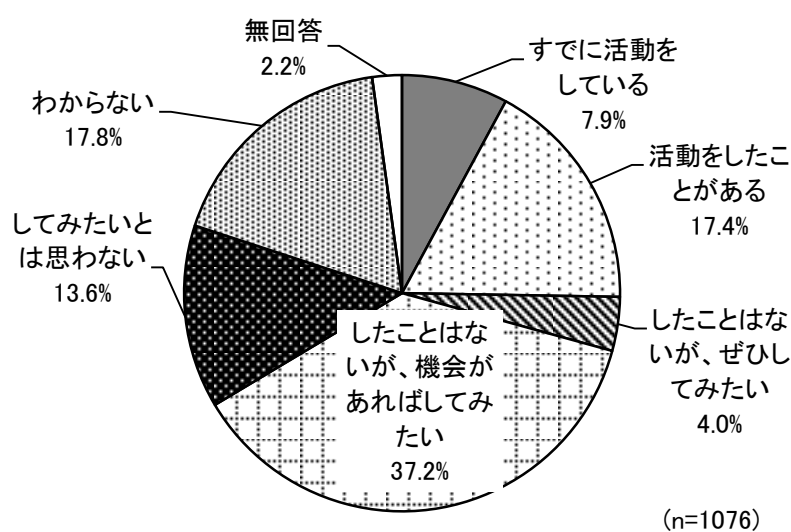


### (7) ボランティア・NPO活動への取組状況 [問2-7]

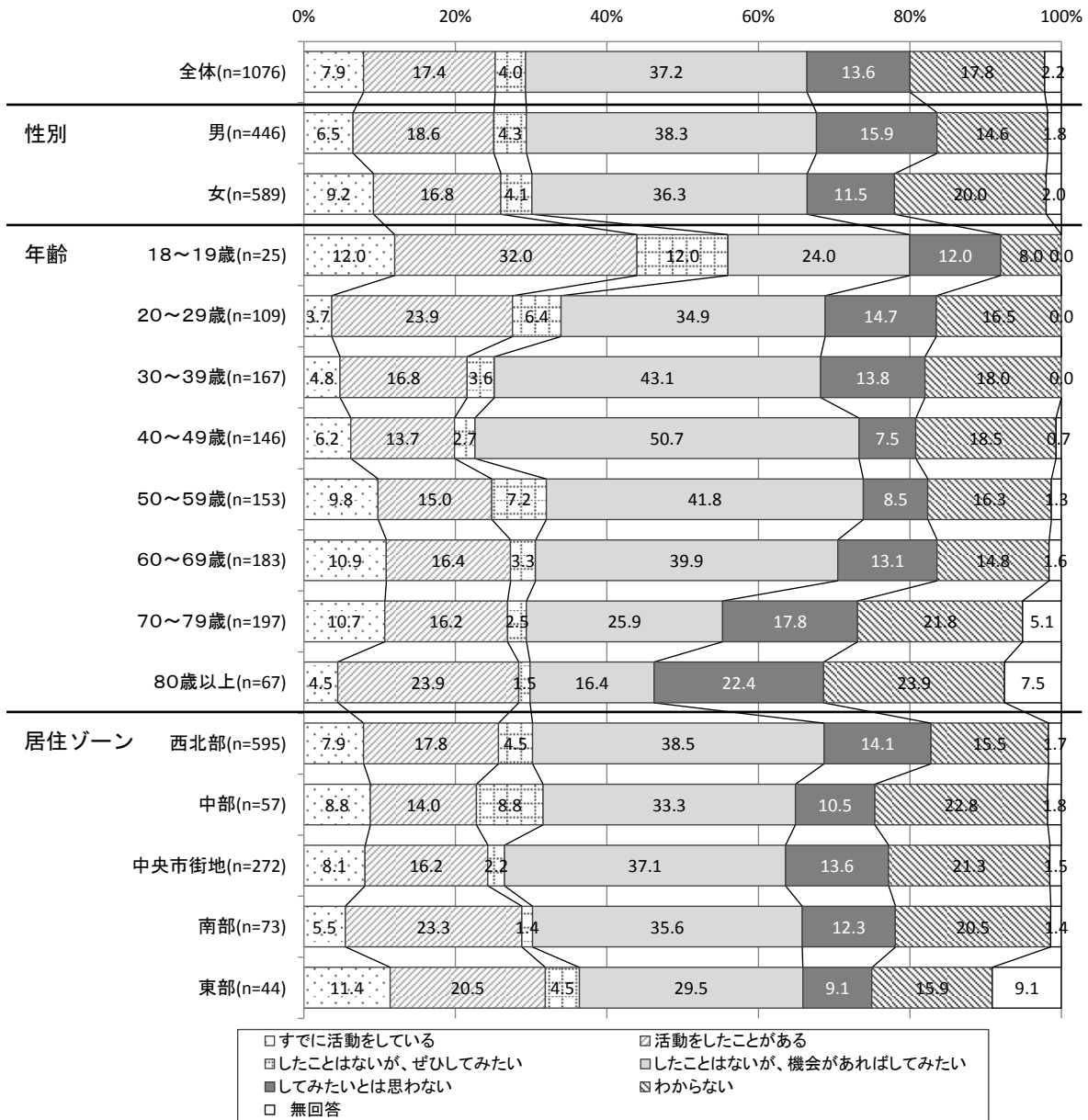
ボランティア・NPO活動の取組状況は、「したことはないが、機会があればしてみたい」の回答が37.2%と最も多いが、「すでに活動をしている」(7.9%) または「活動をしたことがある」(17.4%) と回答したボランティア・NPO活動の経験者も約25%いることが分かる。

年齢階級別にみると、先の地域の人との交流の状況とは対照的に、「すでに活動をしている」「活動をしたことがある」「したことはないが、ぜひしてみたい」といった活動に対する前向きな回答は18～19歳で最も多く、これら3つの回答の合計は50%を超えている。

図表 II-39 ボランティア・NPO活動への取組状況



図表 II-40 ボランティア・NPO活動への取組状況(クロス集計)



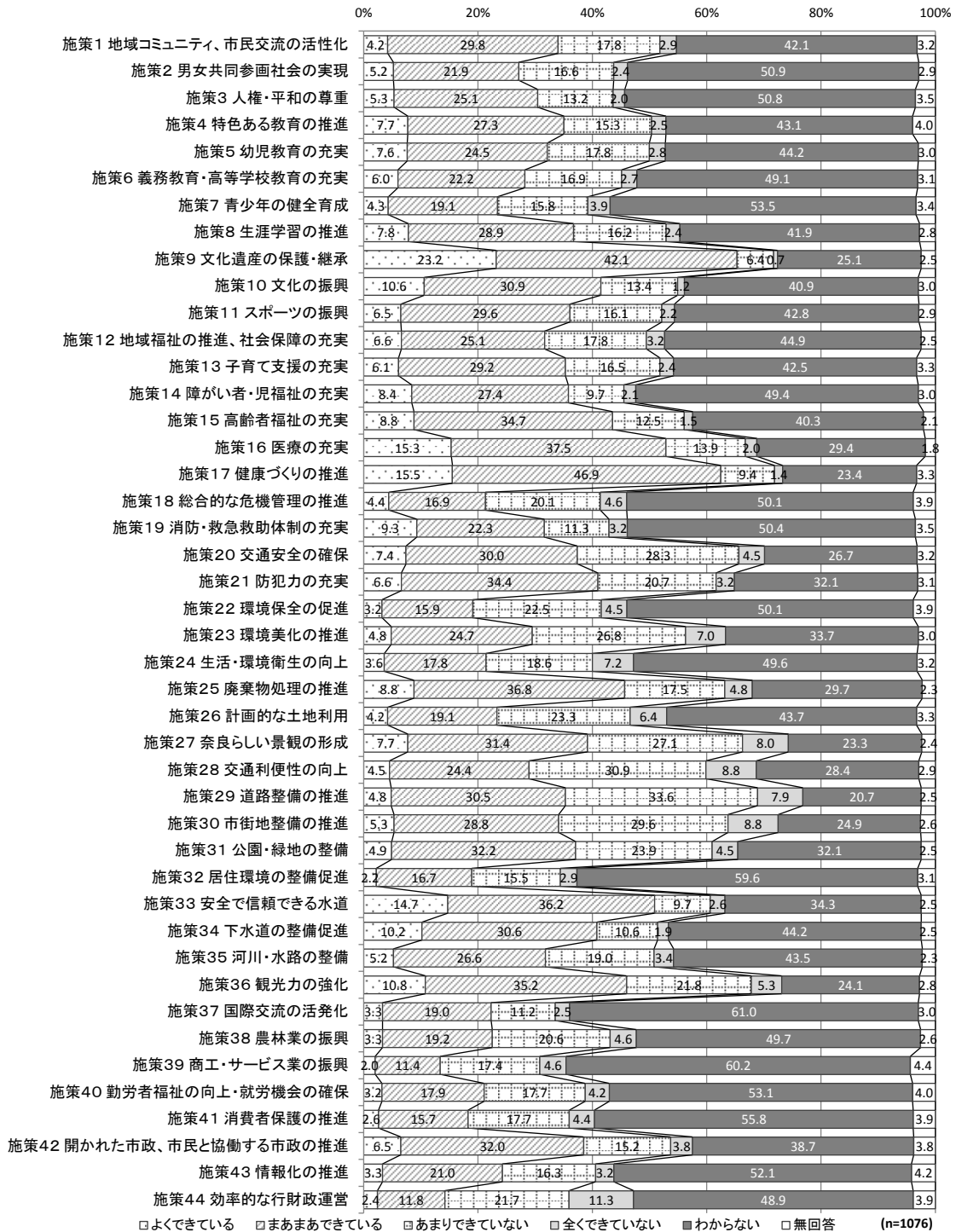
## 4. 施策について

### (1) 市の取組についての評価 [問3~9]

施策別に市の取組についての評価を尋ねた結果は以下のとおりである。

「よくできている」「まあまあよくできている」とする評価が比較的多かったのは、「施策9 文化遺産の保護・継承」「施策17 健康づくりの推進」「施策16 医療の充実」「施策33 安全で信頼できる水道」である。

図表 II-41 市の取組についての評価

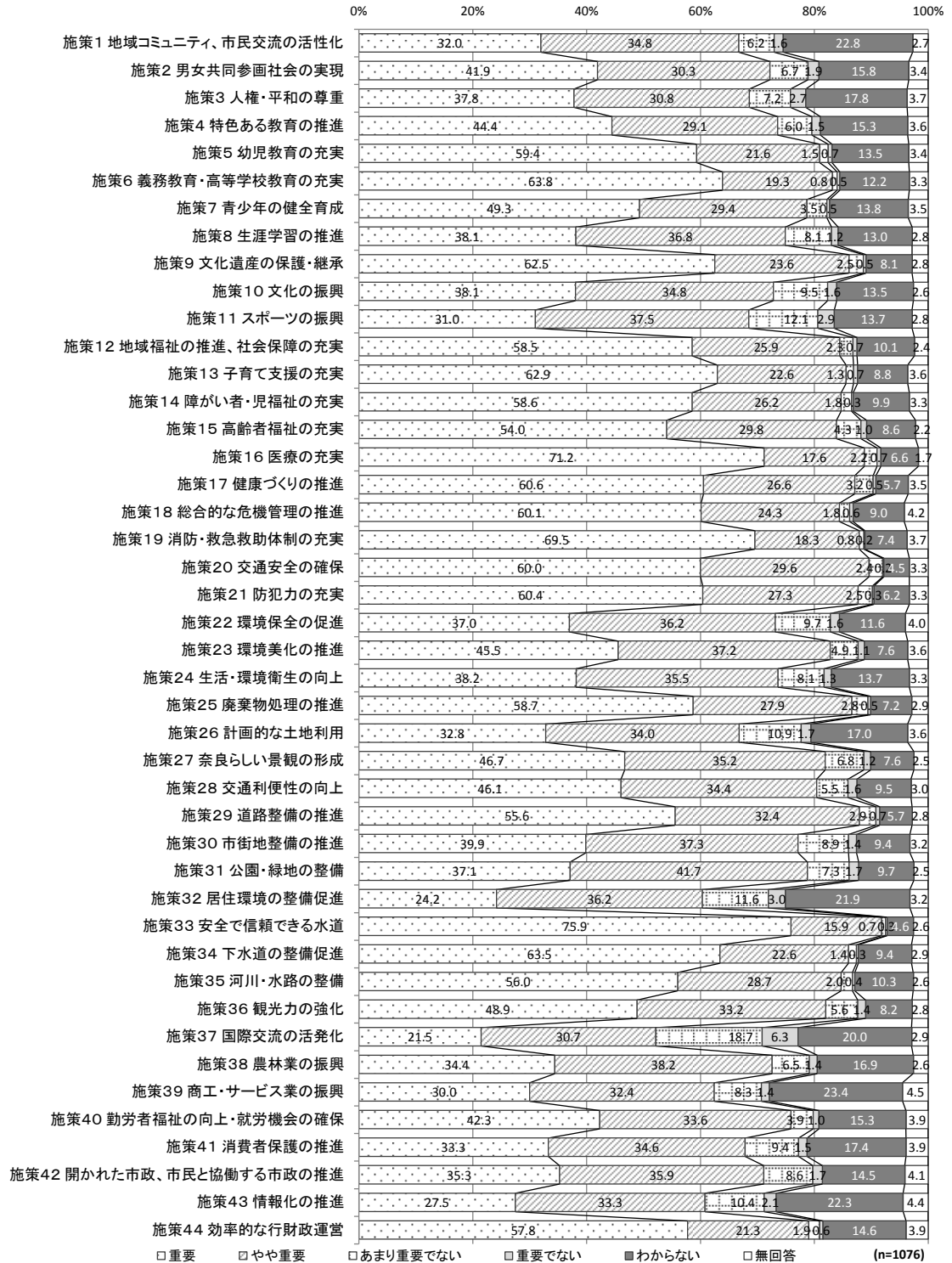




(2) 市の取組についての重要度 [問3~9]

施策別の重要度については、「重要」とする回答の多い施策が多数みられるが、中でも「施策33 安全で信頼できる水道」「施策16 医療の充実」では、「重要」とする回答の比率が7割を超えている。

図表 II-42 市の取組についての重要度



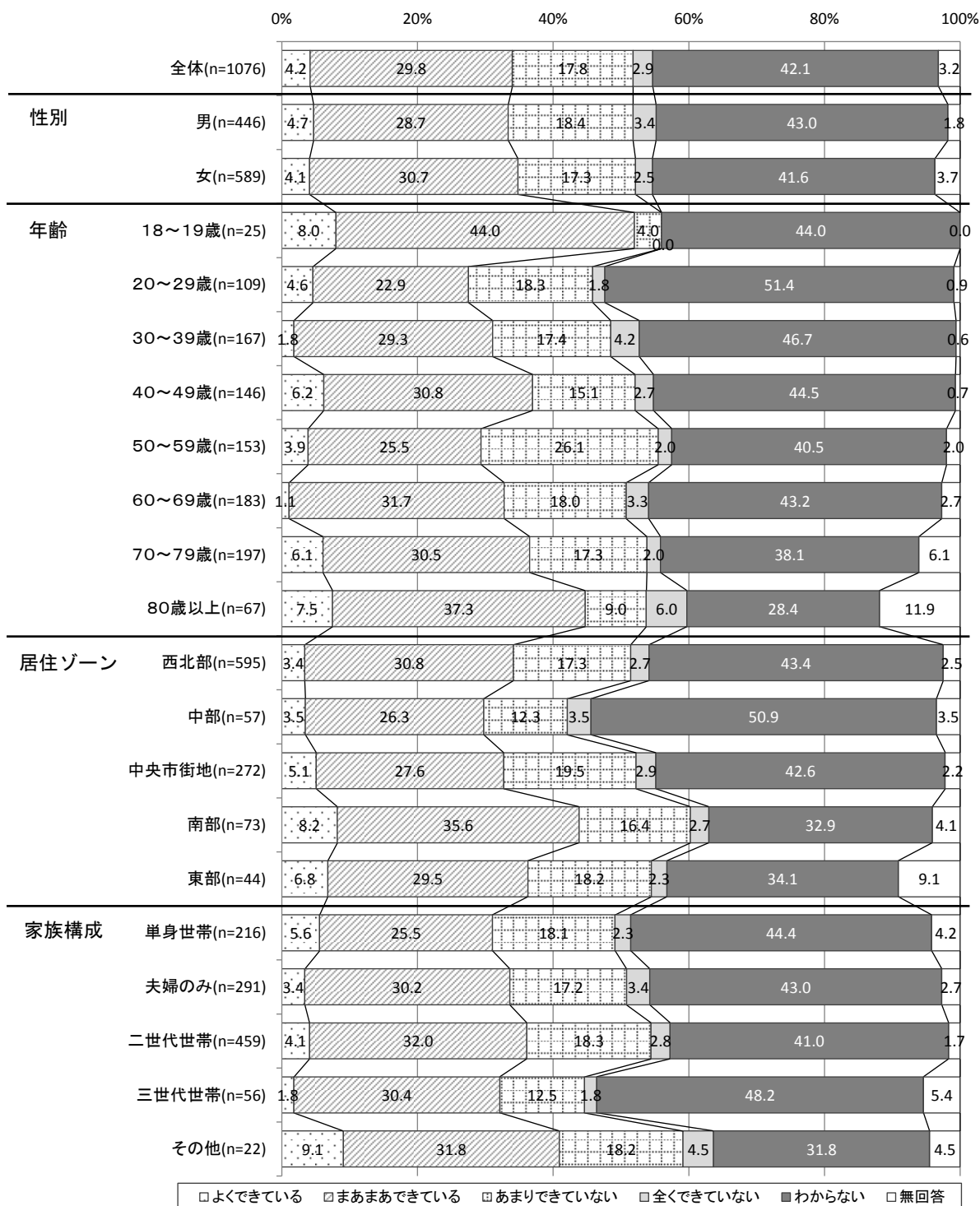
(3) 評価・重要度についての施策別のクロス集計 [問3~9]

■施策1 地域コミュニティ、市民交流の活性化

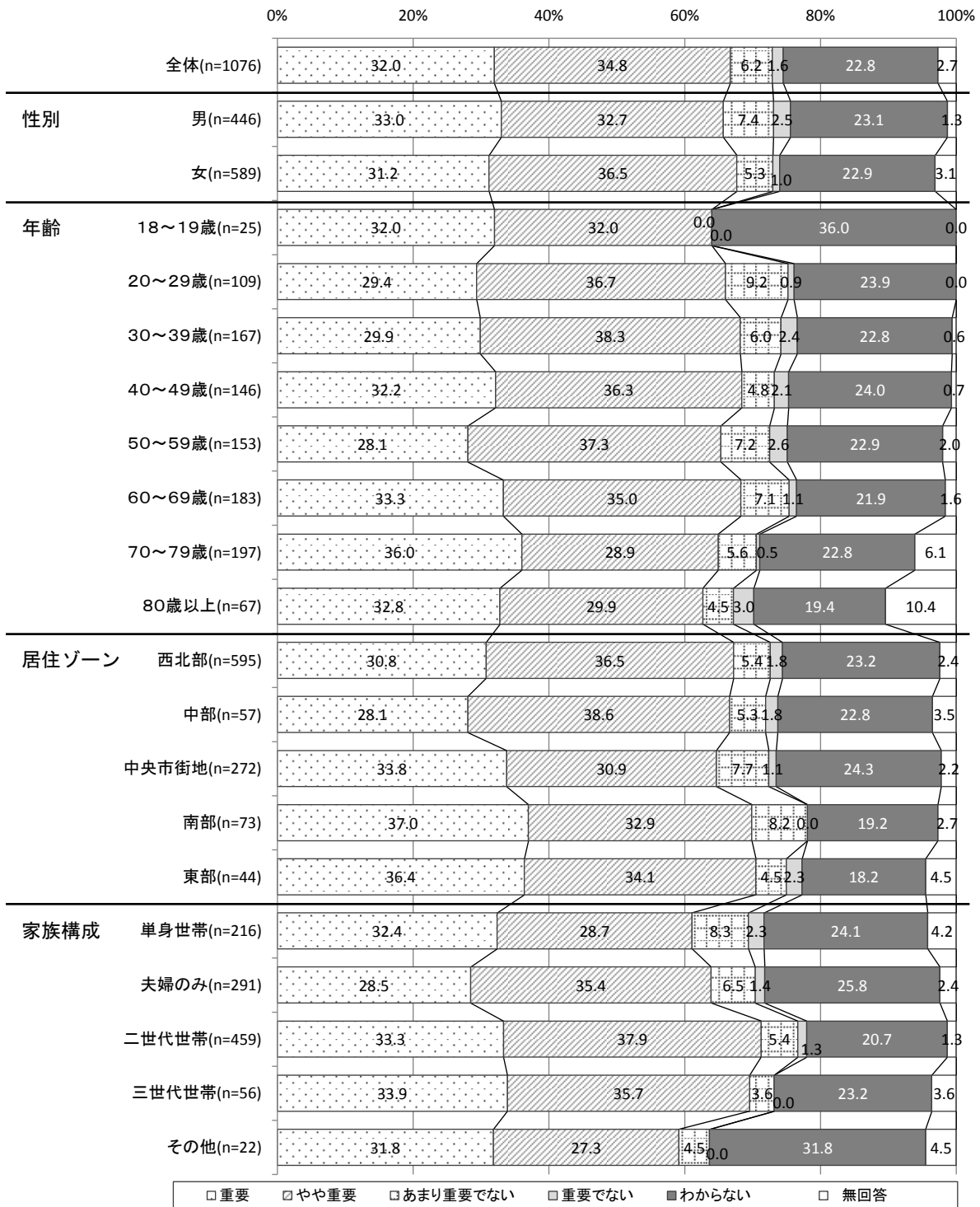
施策の評価では、「できている」（「よくできている」「まあまあできている」の計）とする回答は全体で34.0%である。年齢別では、18～19歳で「できている」とする回答が50%を超え、50歳代以上で年齢が高いほど「できている」の回答が多くなる傾向がある。

重要度については、年齢別に大きな差はなく、全ての年齢階級で「重要」とする回答が60%を超えている。

図表 II-43 「施策1 地域コミュニティ、市民交流の活性化」についての評価



図表 II-44 「施策1 地域コミュニティ、市民交流の活性化」についての重要度

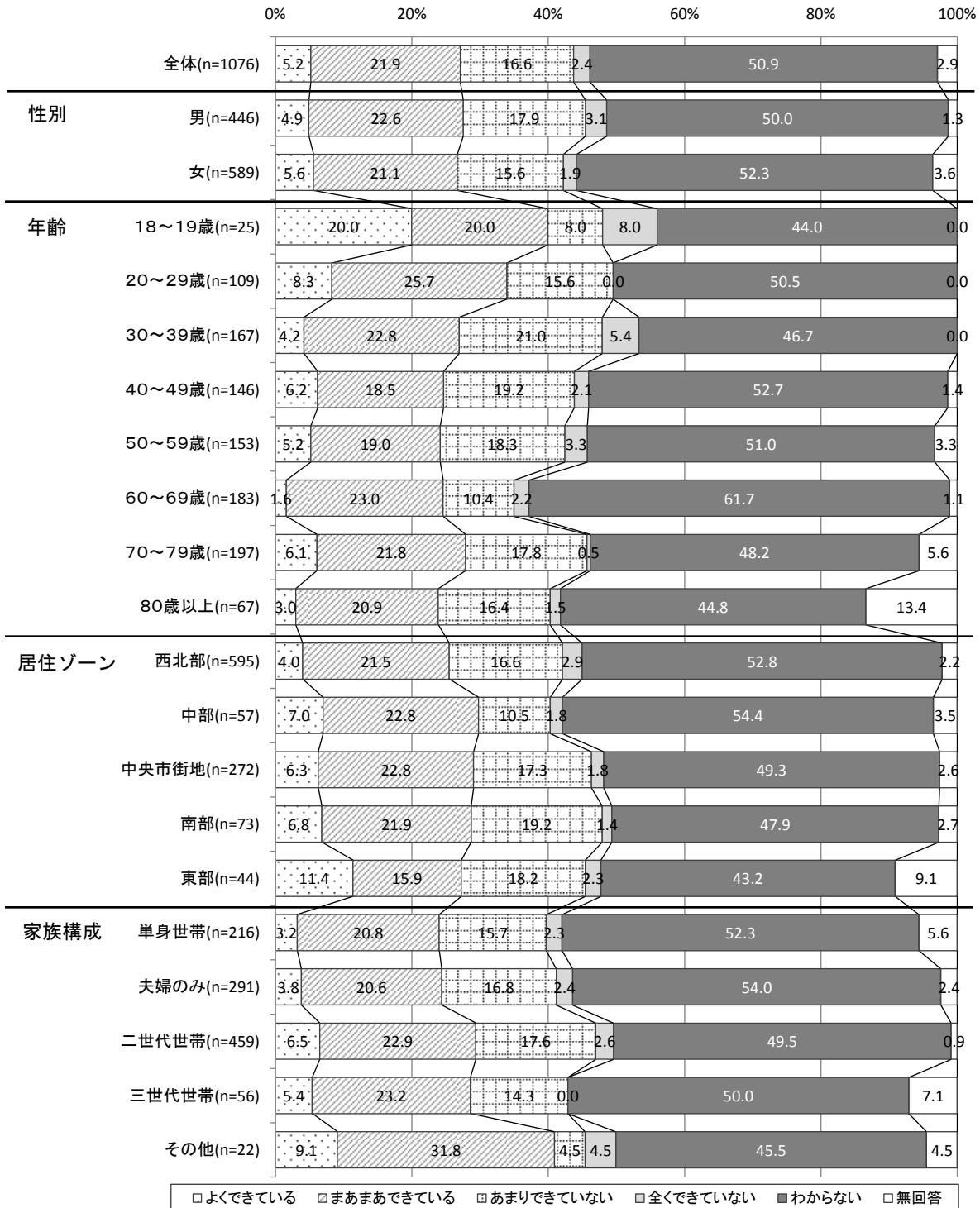


## ■施策2 男女共同参画社会の実現

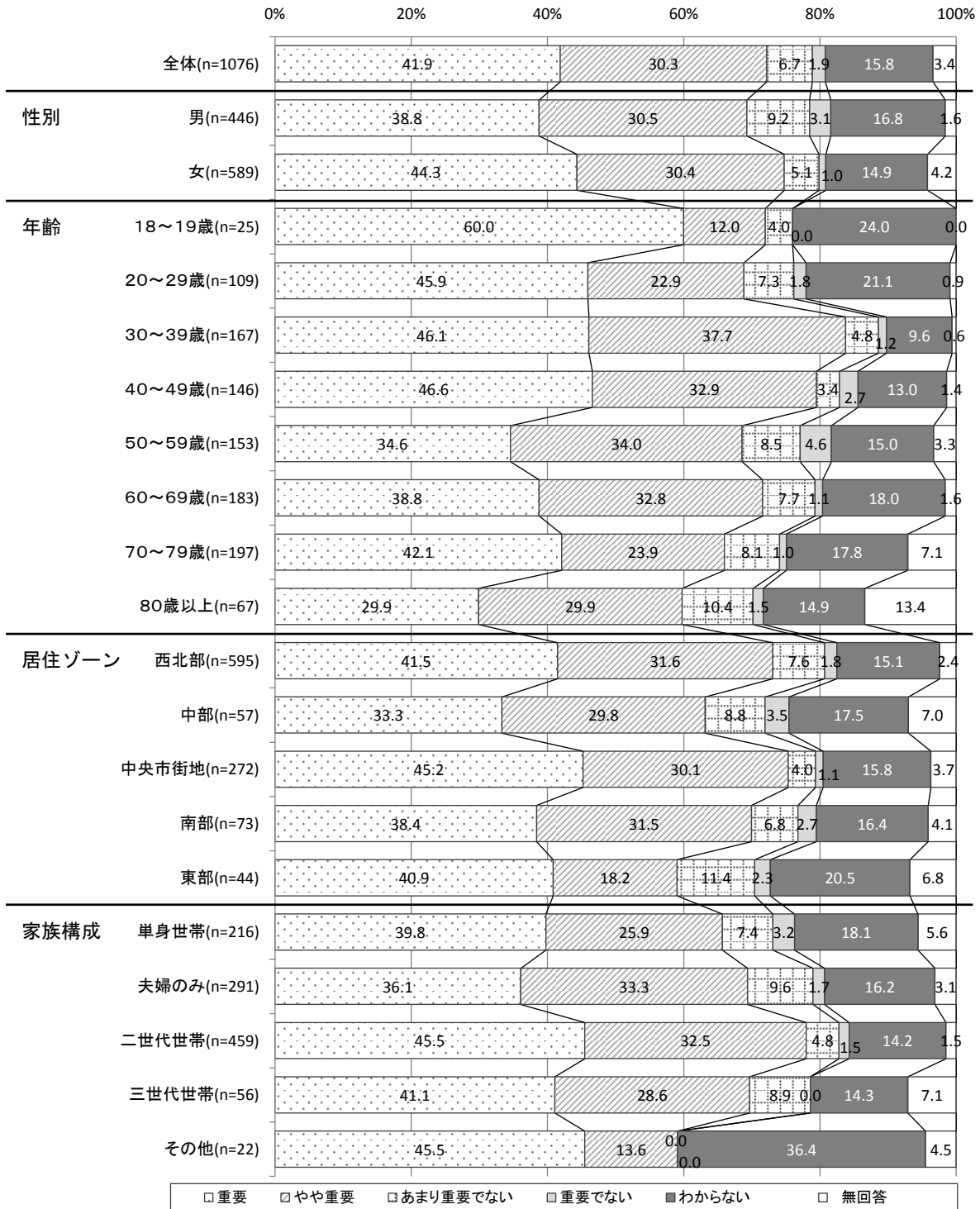
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で27.1%である。年齢別では18～19歳から50歳代にかけて、年齢が高くなるほど「できている」とする回答が少なくなっている。

重要度については、30歳代で「重要」とする回答が80%以上と最も多く、それ以上の年齢階級では概ね年齢が高くなるほど「重要」とする回答が減る傾向がみられる。

図表 II-45 「施策2 男女共同参画社会の実現」についての評価



図表 II-46 「施策2 男女共同参画社会の実現」についての重要度

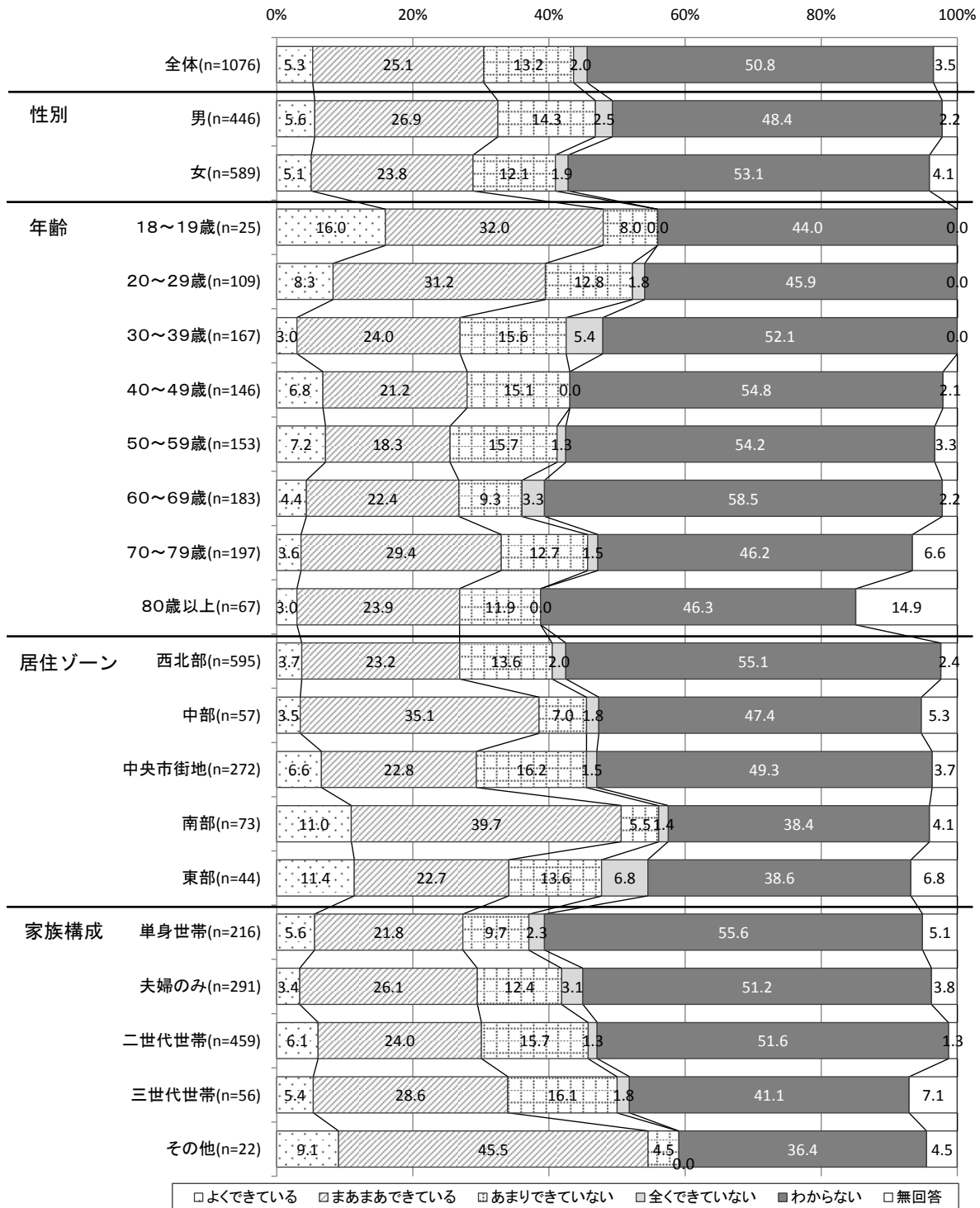


### ■施策3 人権・平和の尊重

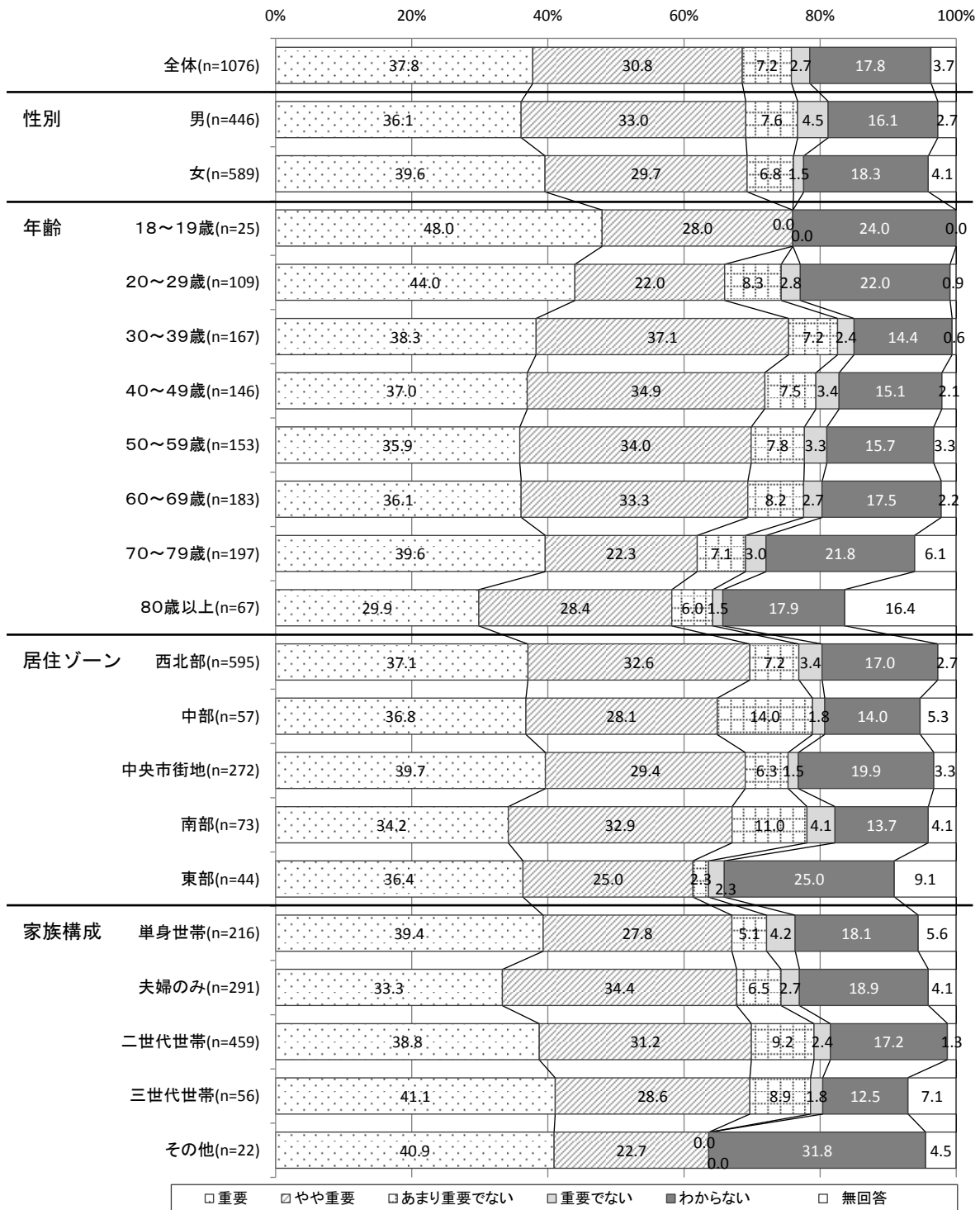
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で30.4%である。年齢別では18～19歳から30歳代にかけて、徐々に「できている」とする回答が少なくなっている。

重要度については、18～19歳で「重要」とする回答がやや多く、70歳代以上では「重要」とする回答がやや少ない。

図表 II-47 「施策3 人権・平和の尊重」についての評価



図表 II-48 「施策3 人権・平和の尊重」についての重要度

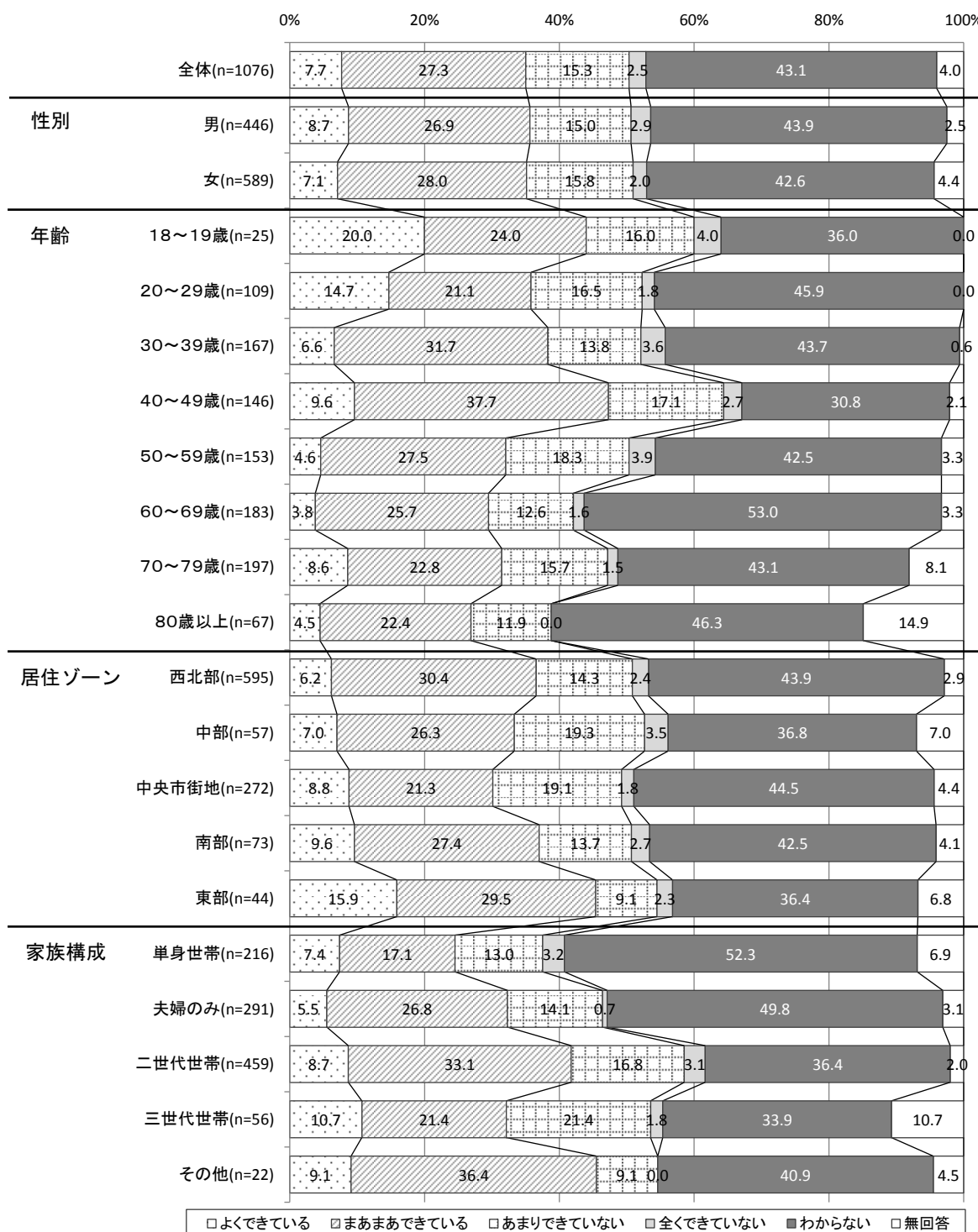


## ■施策4 特色ある教育の推進

施策の評価では、「できている」とする回答は全体で35.0%である。年齢別では18～19歳と40歳代で「できている」とする回答がやや多くなっている。

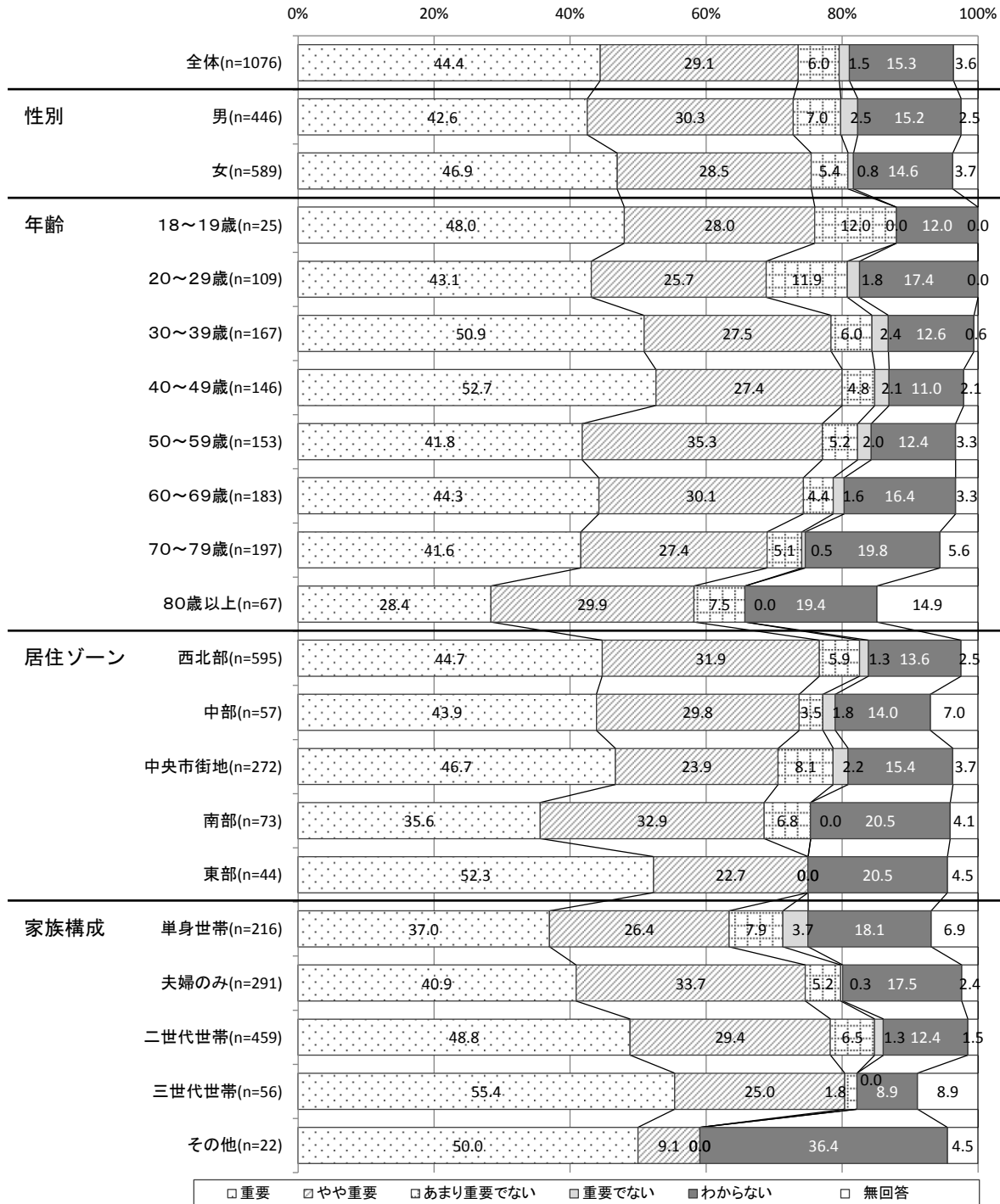
重要度については、40歳代で「重要」とする回答が80%を超えているが、50歳代以上では年齢が高くなるほど、「重要」とする回答が少なくなる傾向がみられる。

図表 II-49 「施策4 特色ある教育の推進」についての評価





図表 II-50 「施策4 特色ある教育の推進」についての重要度

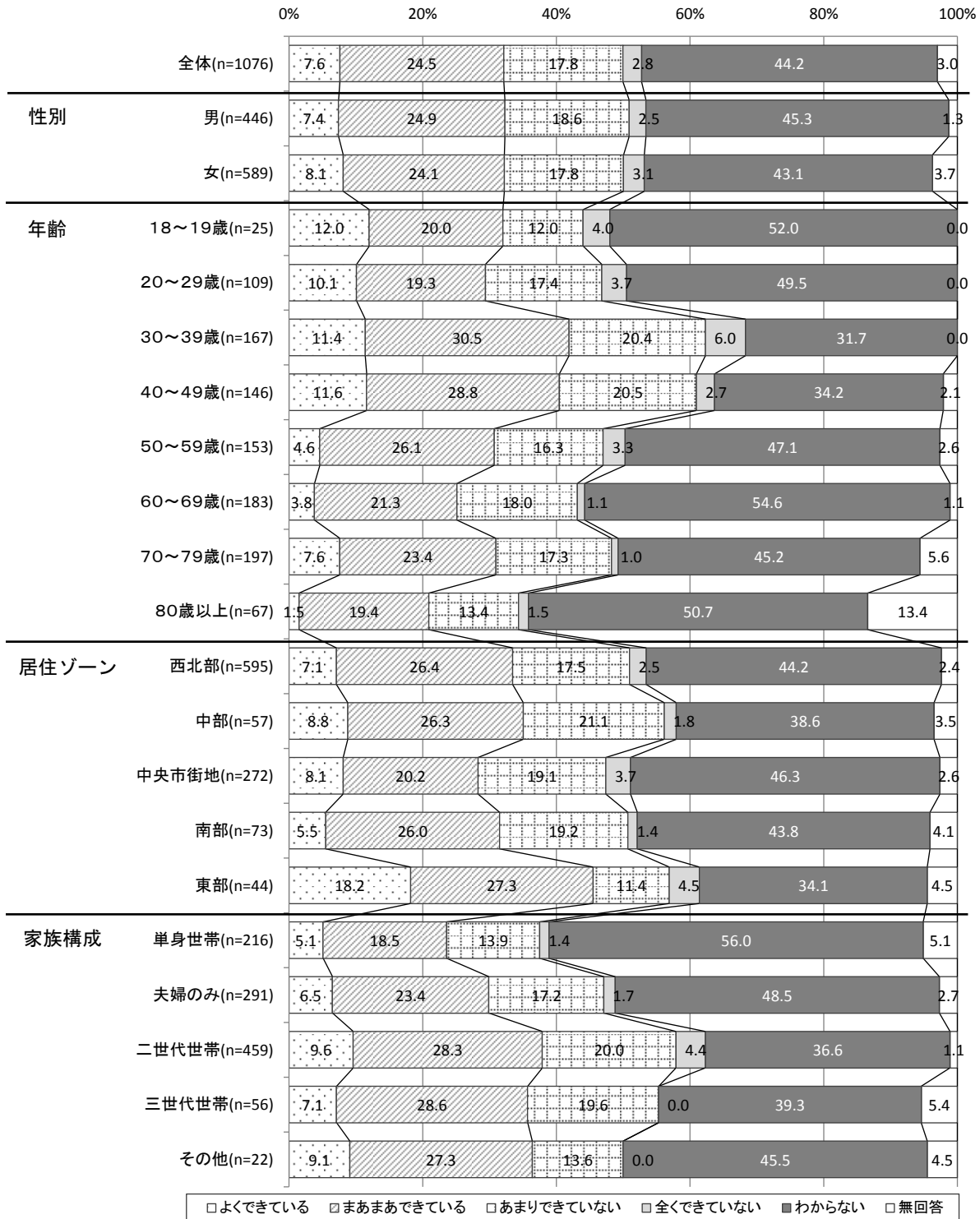


## ■施策5 幼児教育の充実

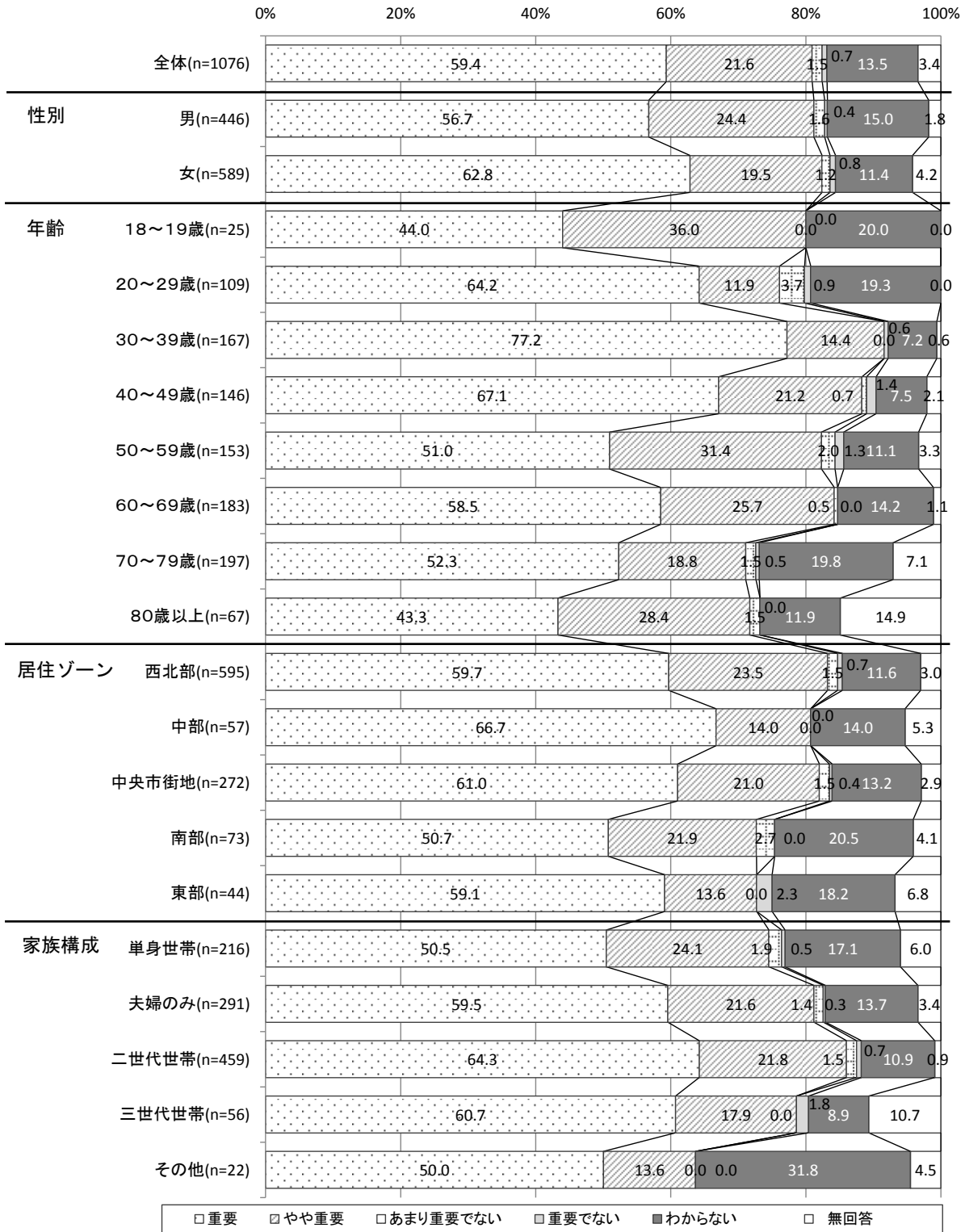
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 32.1%である。年齢別では、幼児の親の世代に相当する 30 歳代、40 歳代で「できている」とする回答がやや多い。

重要度については、30 歳代から 60 歳代で、「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-51 「施策5 幼児教育の充実」についての評価



図表 II-52 「施策5 幼児教育の充実」についての重要度

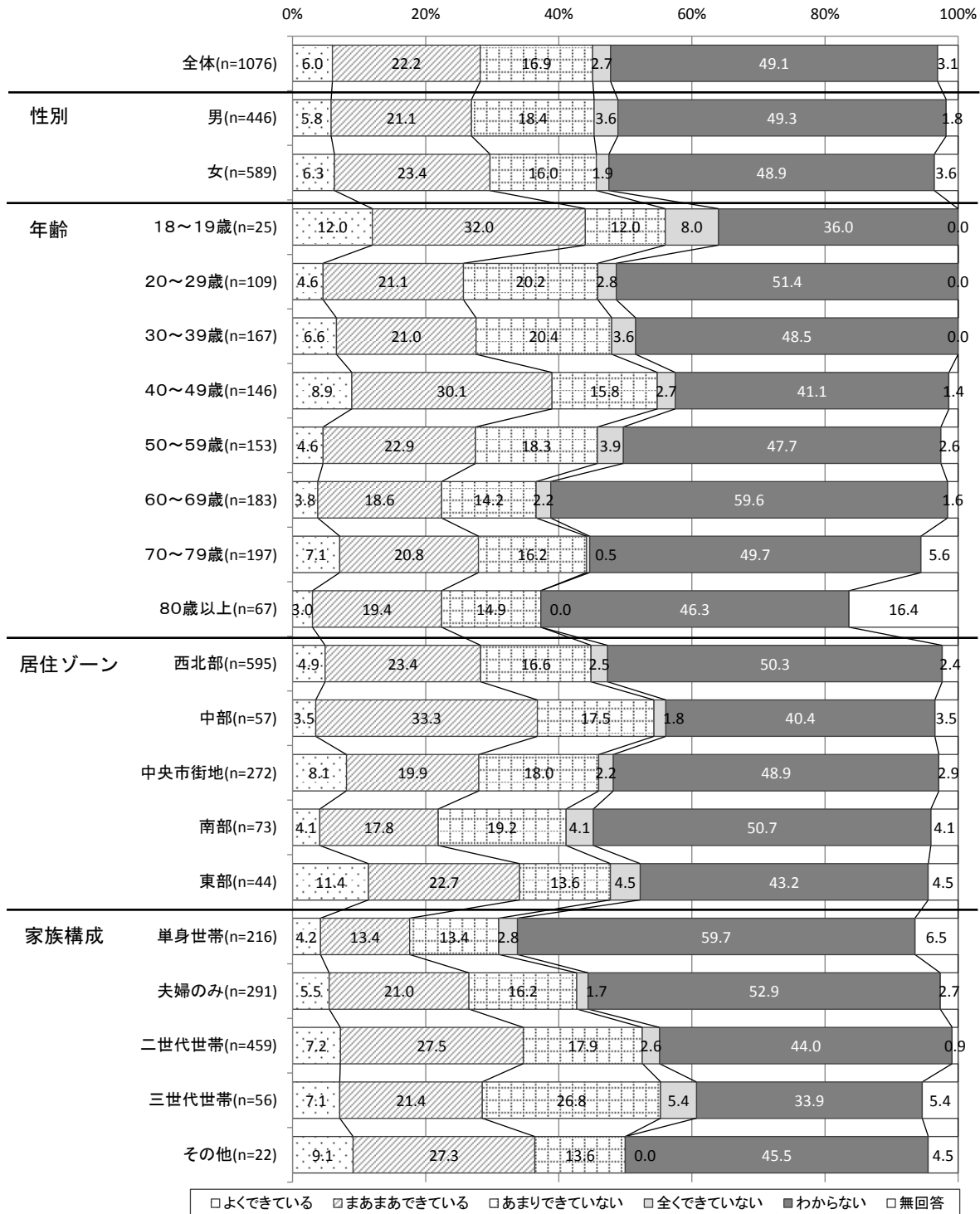


## ■施策6 義務教育・高等学校教育の充実

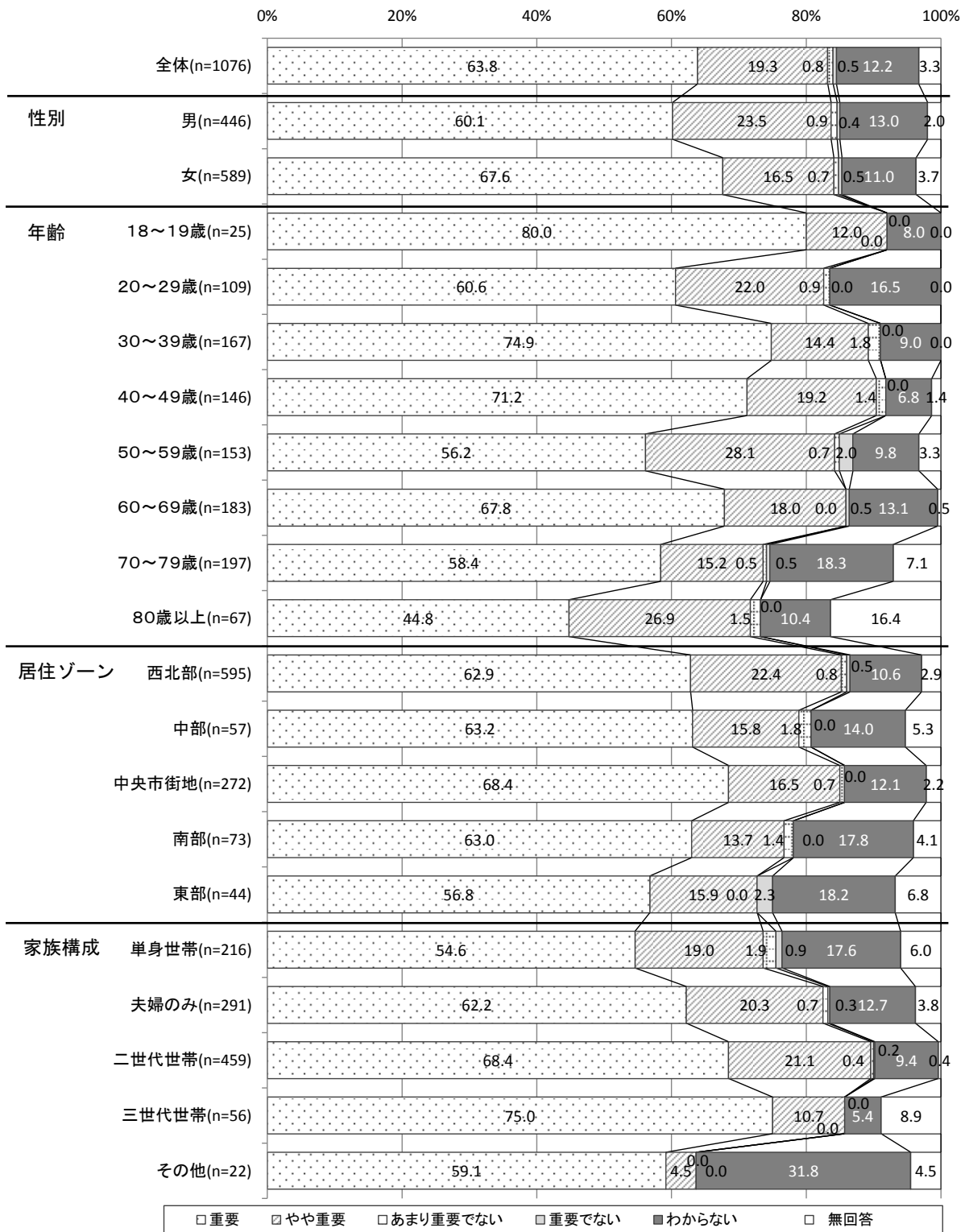
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 28.2%である。年齢別では、18～19 歳、児童・生徒の親の世代に相当する 40 歳代で「できている」とする回答がやや多い。

重要度については、18～19 歳から 60 歳代までの年齢階級で、「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-53 「施策6 義務教育・高等学校教育の充実」についての評価



図表 II-54 「施策6 義務教育・高等学校教育の充実」についての重要度

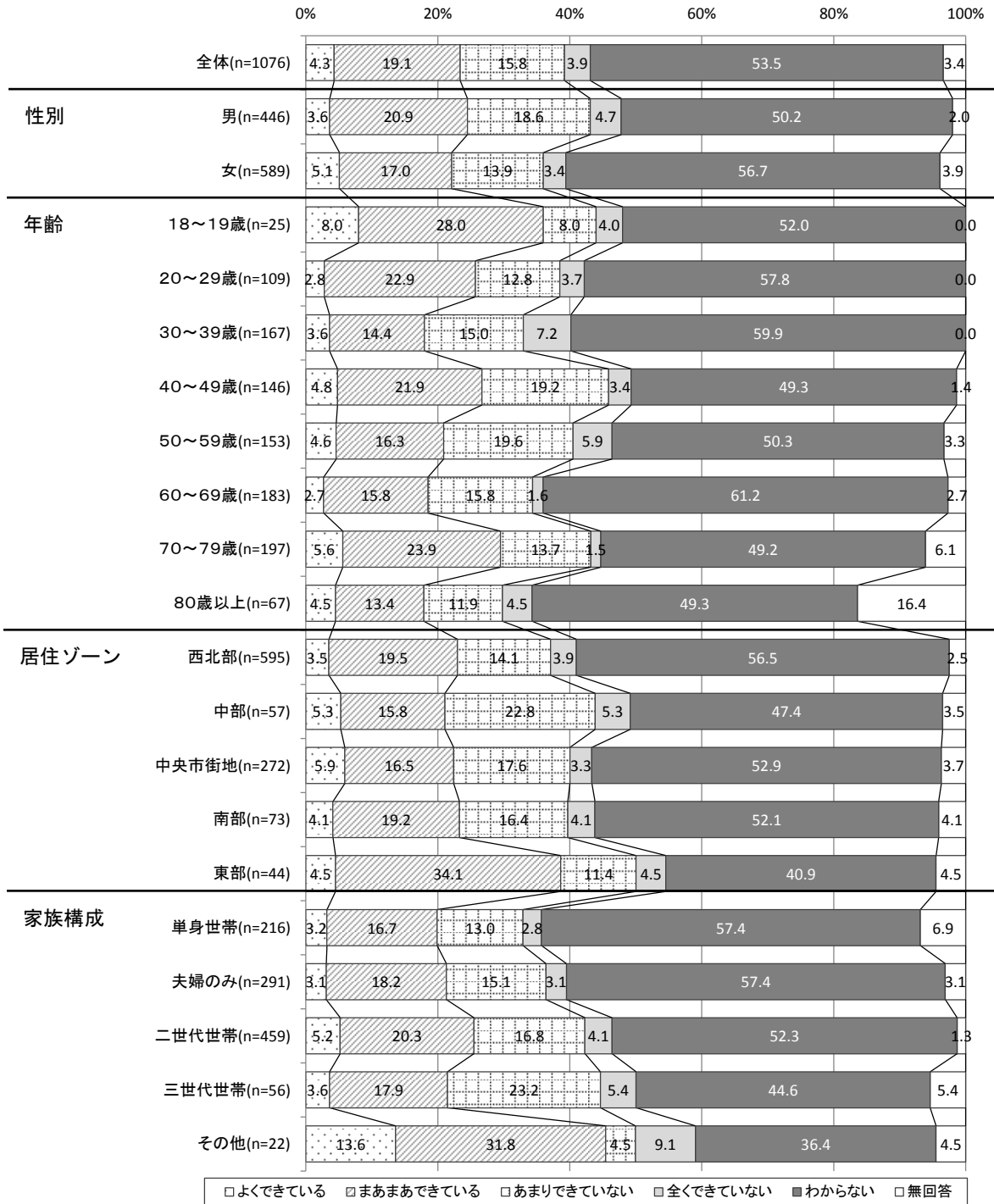


## ■施策7 青少年の健全育成

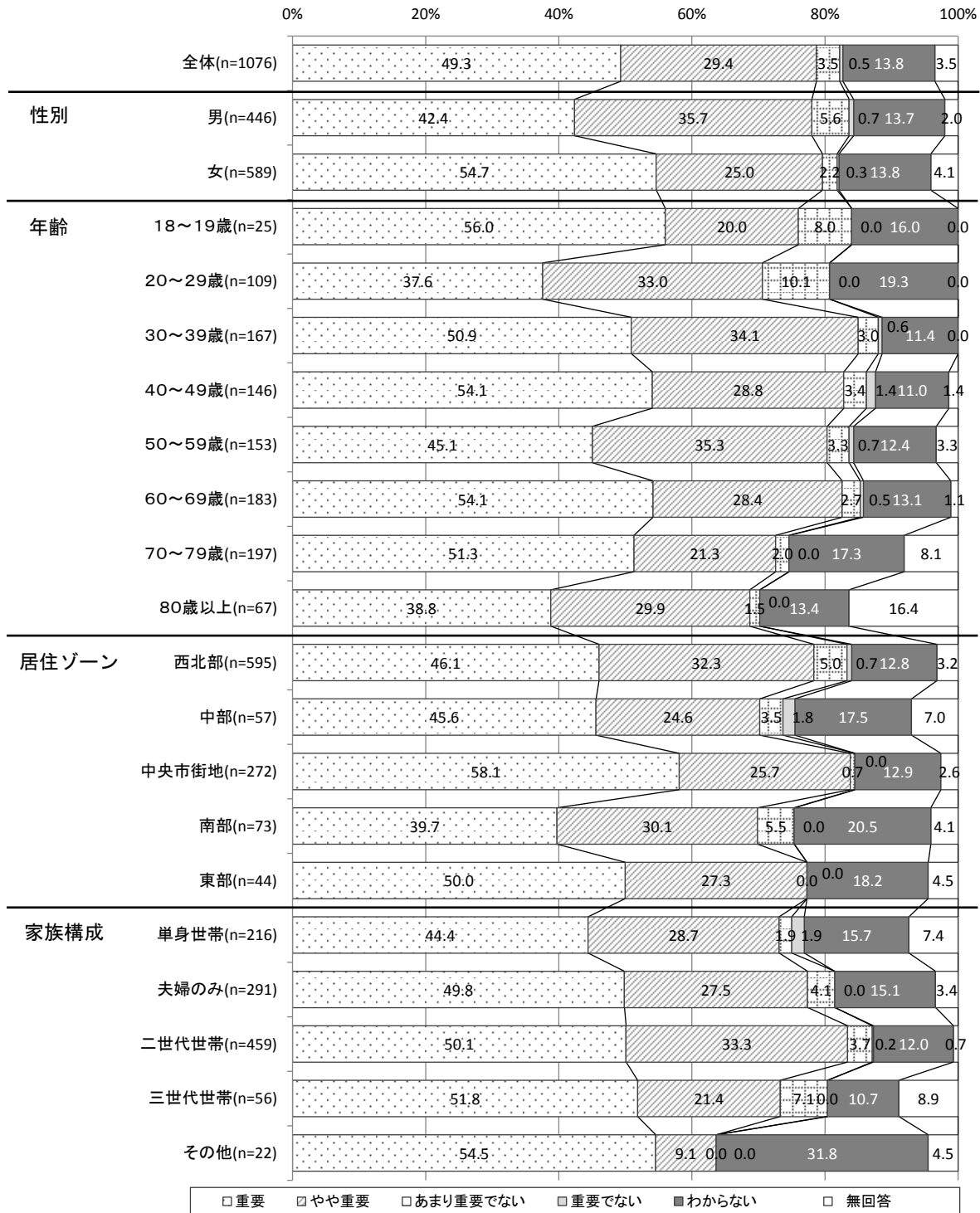
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 23.4%である。年齢別では、18～19歳と70歳代で「できている」とする回答がやや多い。

重要度については、30歳代～60歳代までの年齢階級で、「重要」とする回答が80%を超えている。

図表 II-55 「施策7 青少年の健全育成」についての評価



図表 II-56 「施策7 青少年の健全育成」についての重要度

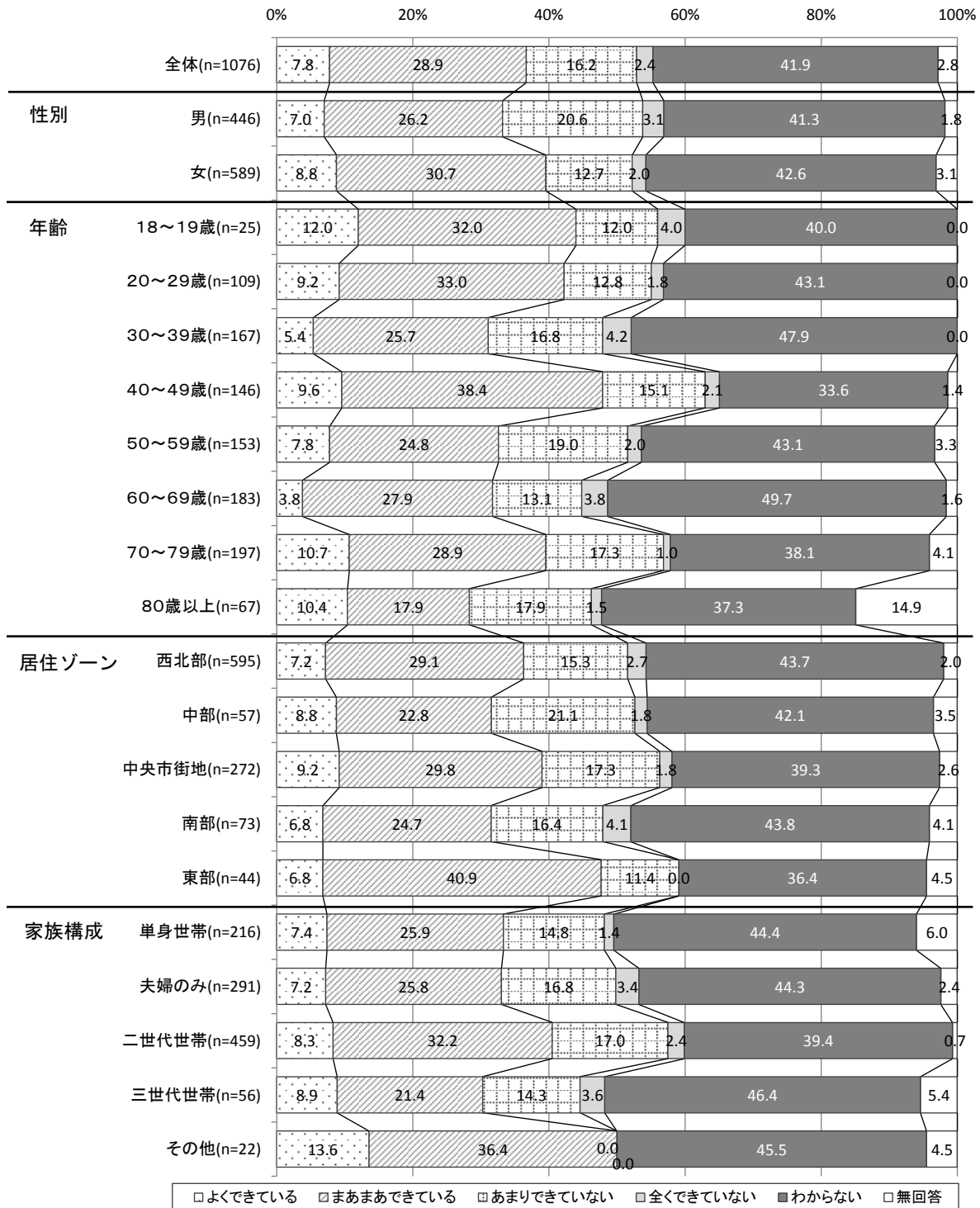


## ■施策8 生涯学習の推進

施策の評価では、「できている」とする回答は全体で36.7%である。年齢別では40歳代で「できている」とする回答が50%弱と最も多くなっている。

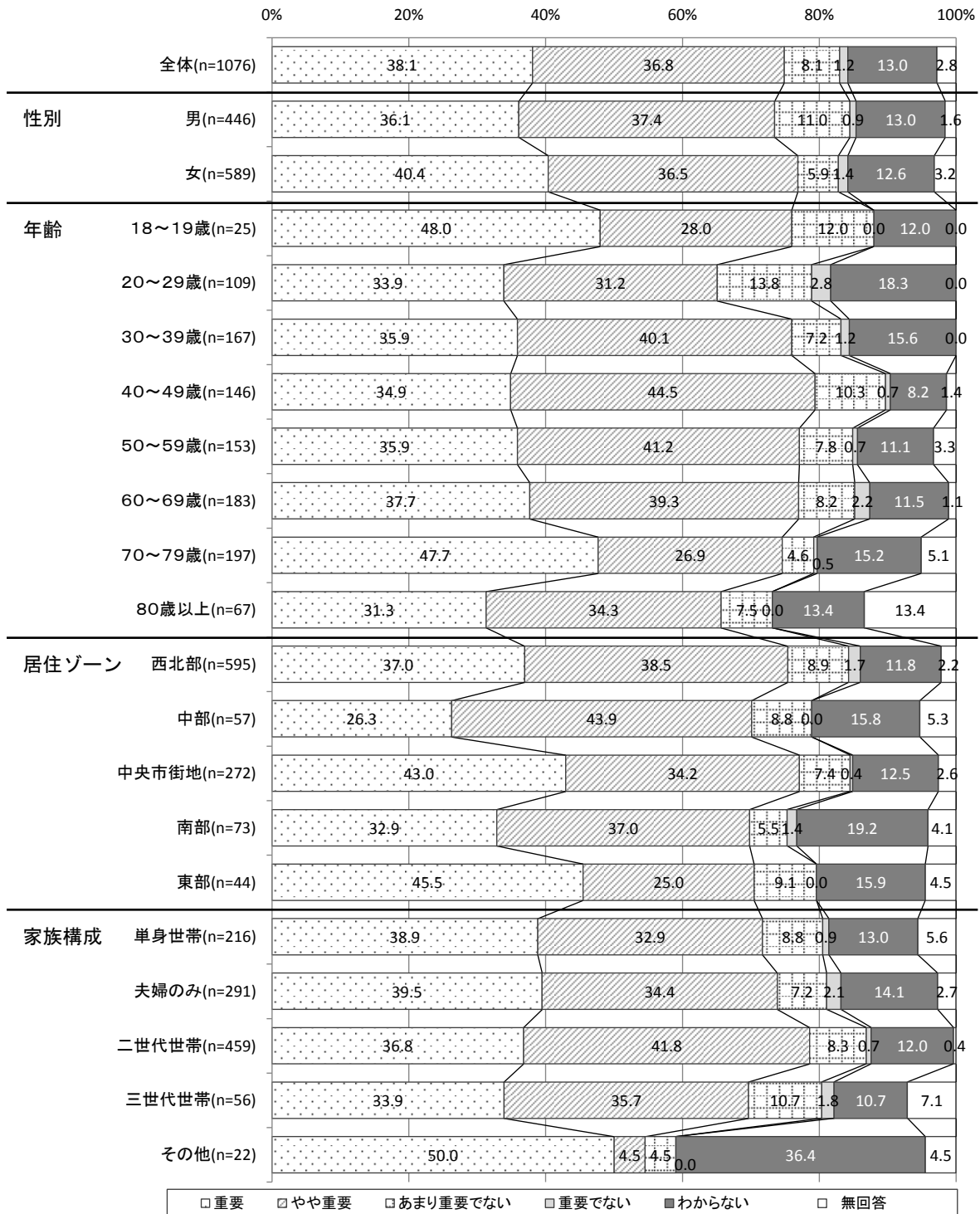
重要度については、20歳代と80歳以上で「重要」とする回答がやや少ないが、その他の年齢階級では「重要」とする回答が70%を超えている。

図表 II-57 「施策8 生涯学習の推進」についての評価





図表 II-58 「施策8 生涯学習の推進」についての重要度

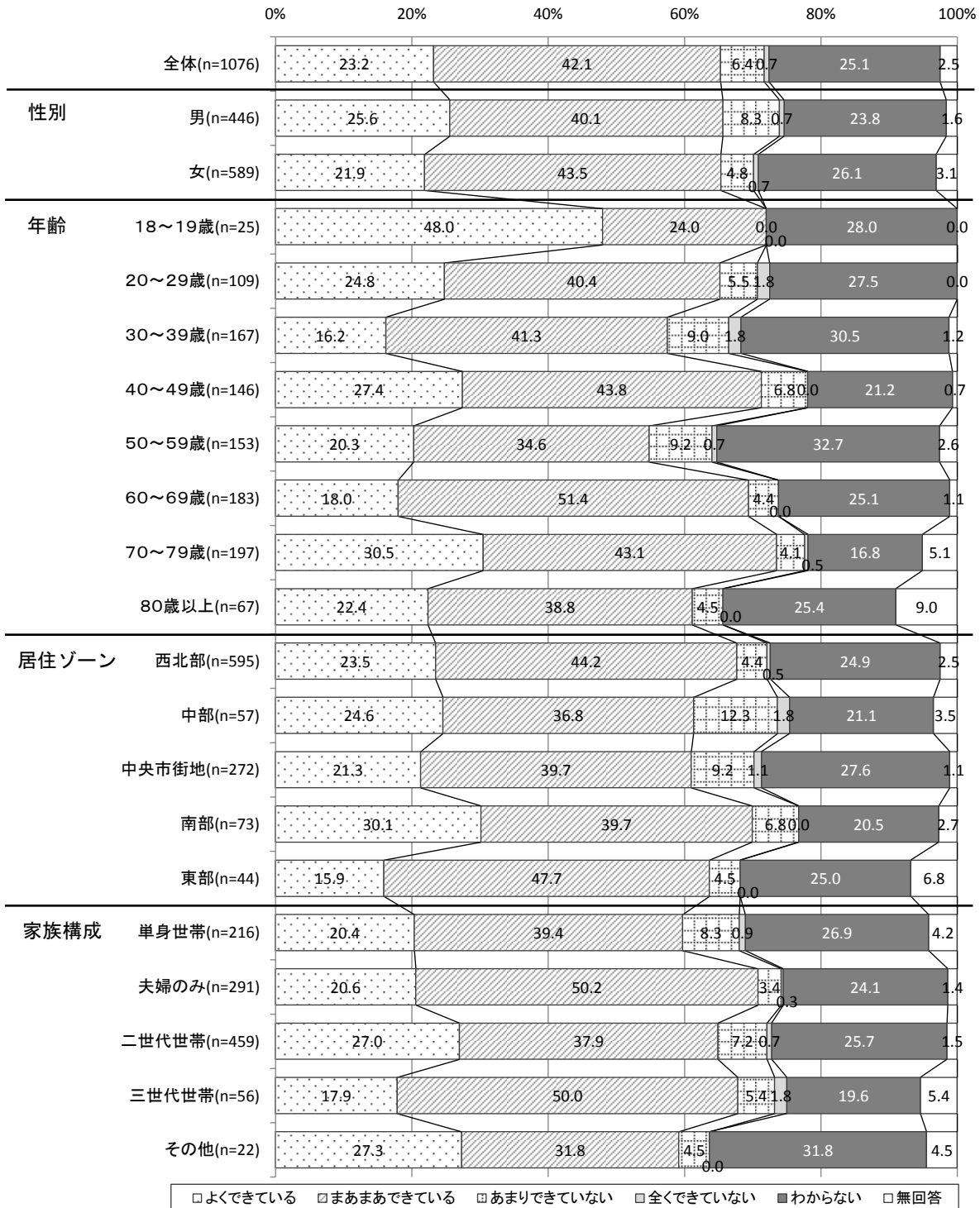


## ■施策9 文化遺産の保護・継承

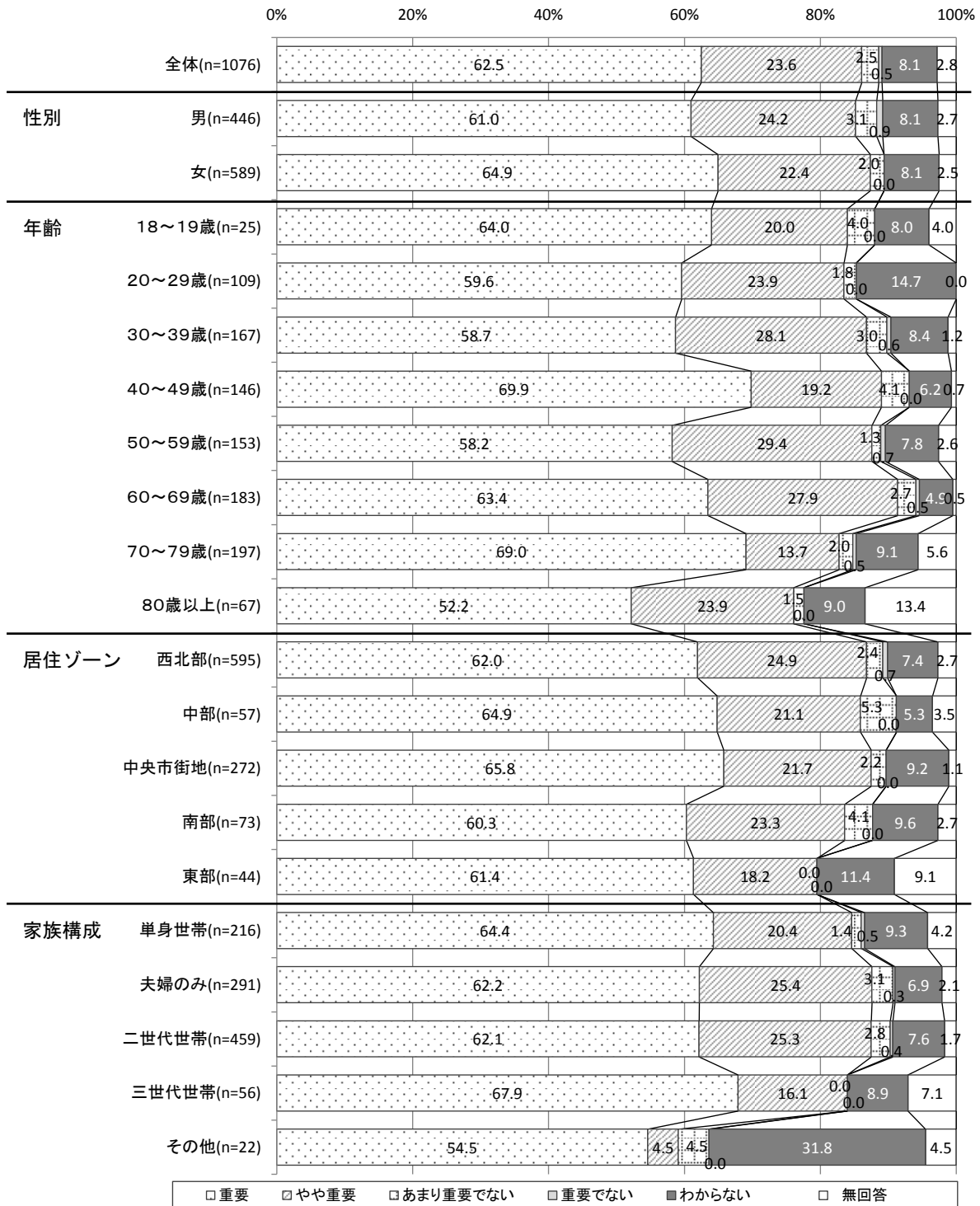
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で65.3%である。年齢別では18～19歳で「よくできている」とする回答が50%弱と特に多いが、他の年齢階級についてもその他の施策と比べて「できている」とする回答が多くなっている。

重要度については、80歳以上で「重要」とする回答が80%をやや下回っているものの、その他の年齢階級では「重要」とする回答が80%を超えている。

図表 II-59 「施策9 文化遺産の保護・継承」についての評価



図表 II-60 「施策9 文化遺産の保護・継承」についての重要度

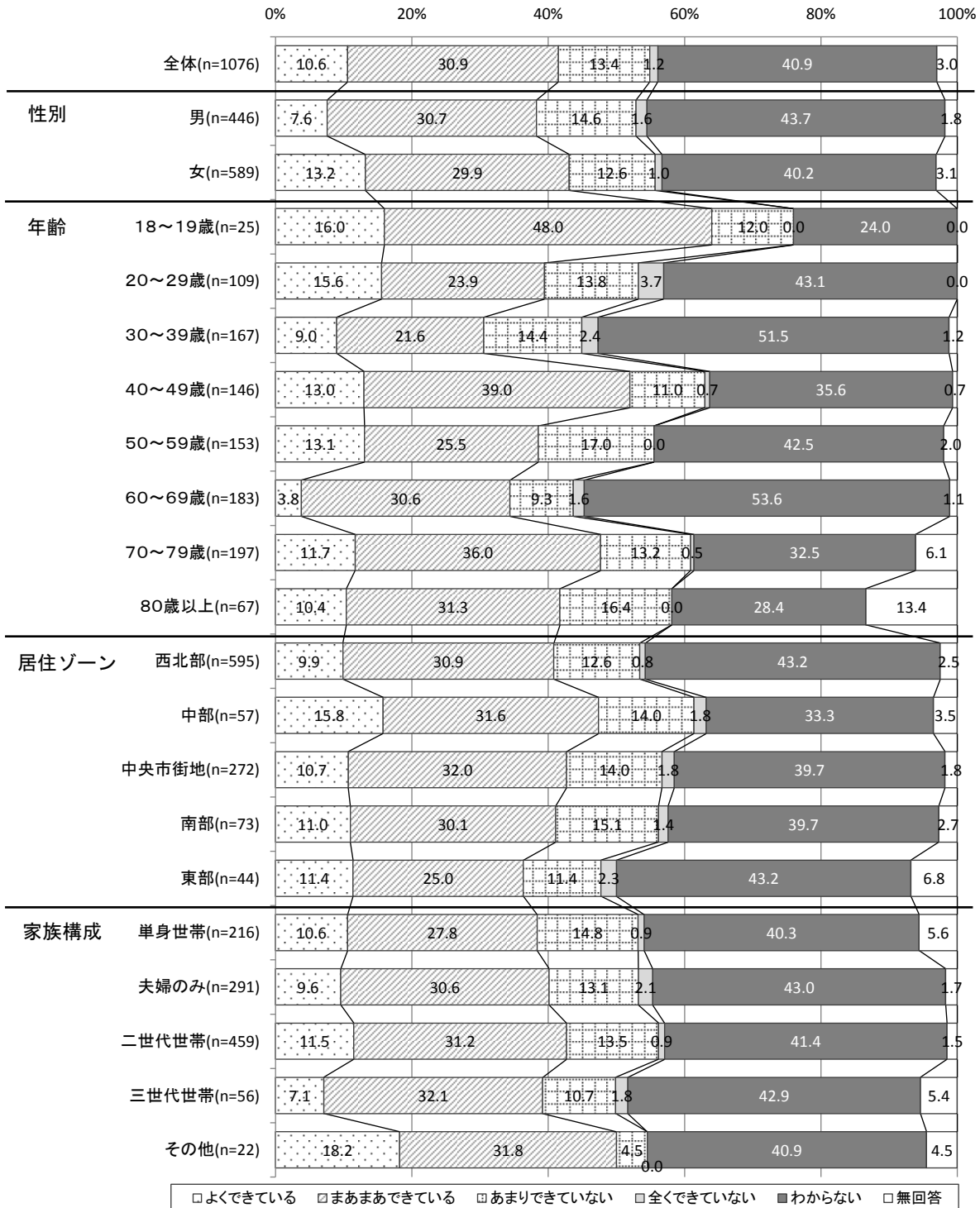


## ■施策 10 文化の振興

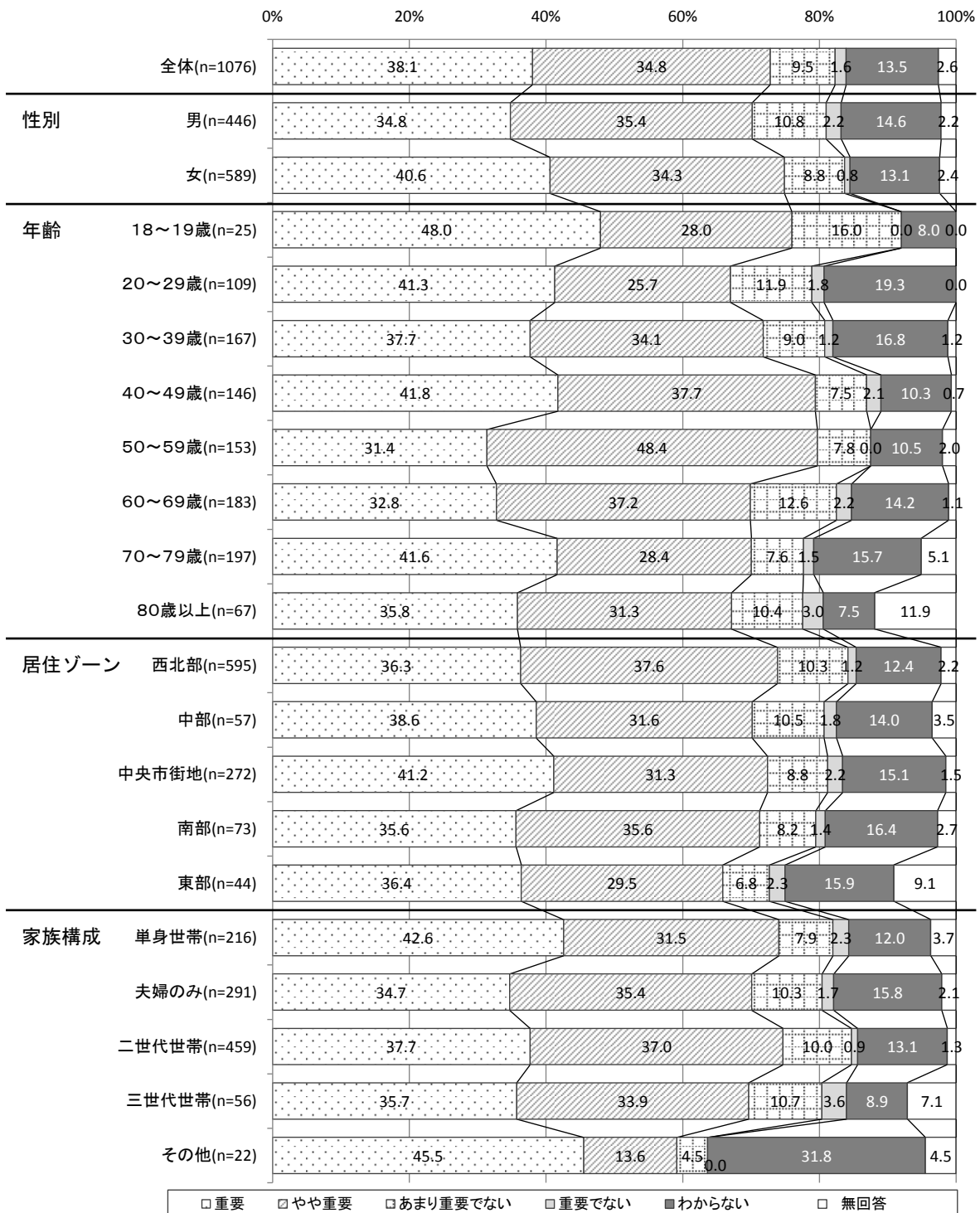
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 41.5%であるが、年齢階級ごとに評価が分かれており、18～19 歳と 40 歳代では「できている」とする回答が 50%を超えているのに対し、30 歳代、60 歳代では 30%強にとどまっている。

重要度については、18～19 歳と 40 歳代、50 歳代で「重要」とする回答がやや多くなっている。

図表 II-61 「施策 10 文化の振興」についての評価



図表 II-62 「施策 10 文化の振興」についての重要度

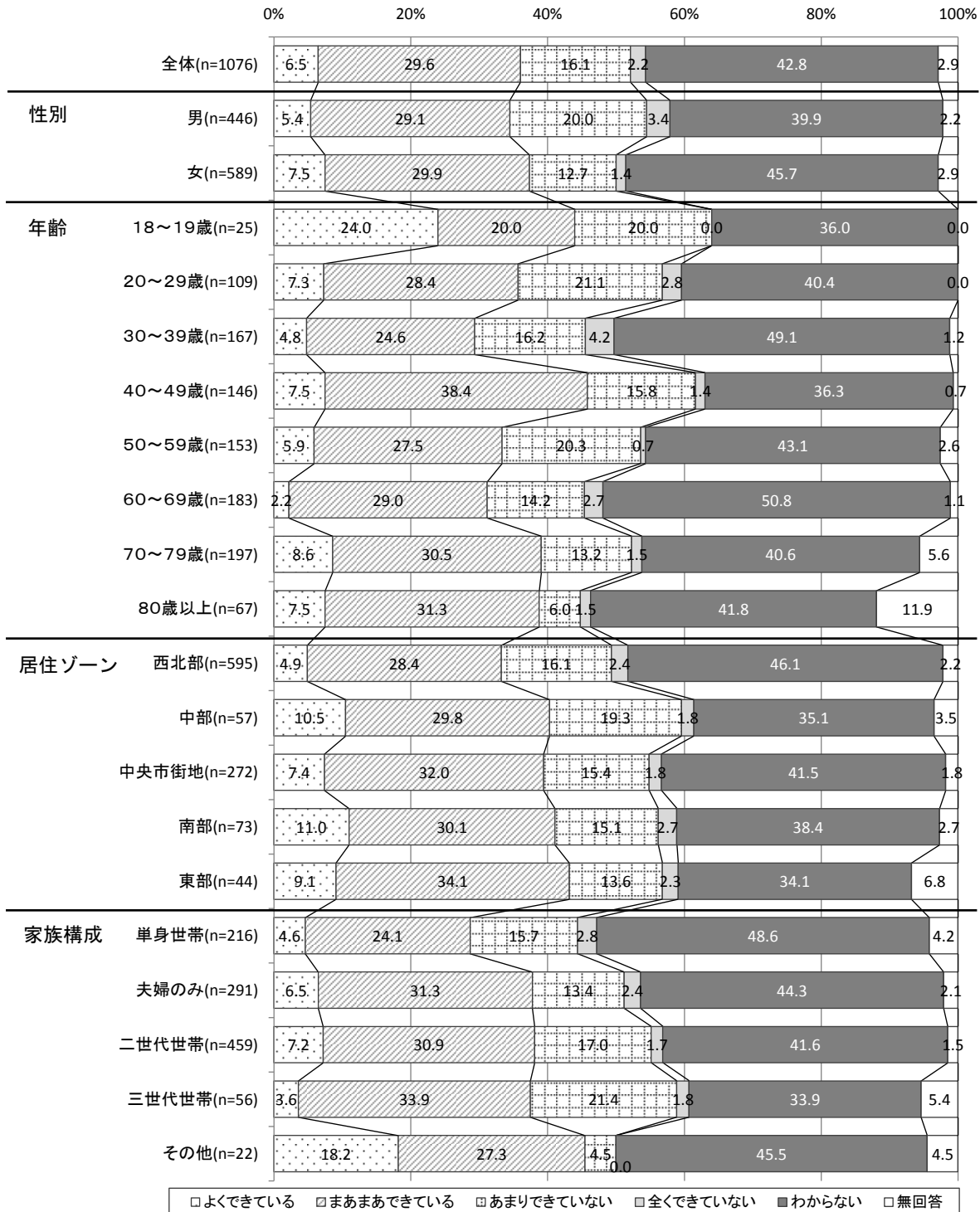


## ■施策 11 スポーツの振興

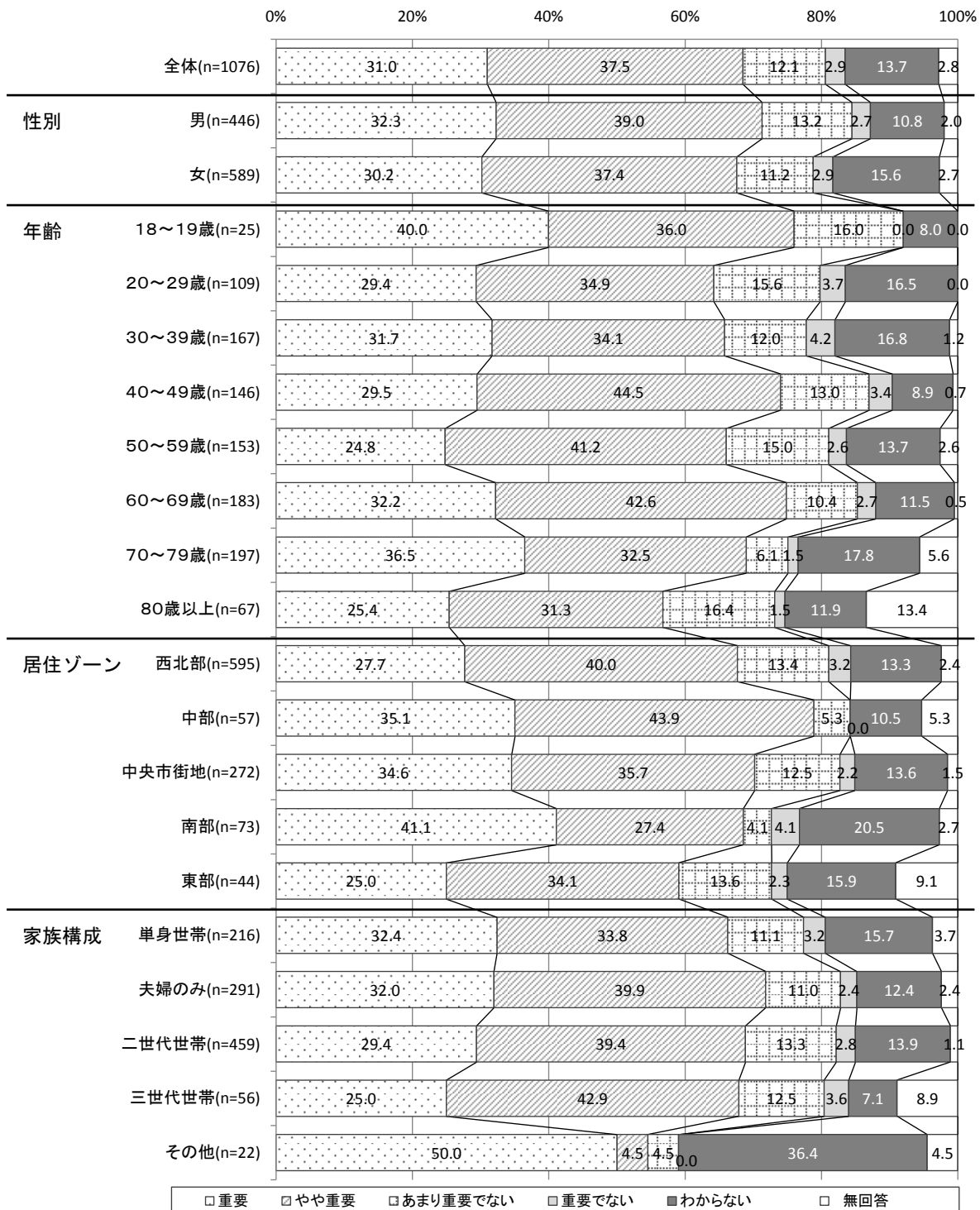
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 36.1%である。先の施策 10 ほどではないが、この施策でも年齢階級ごとに評価が分かれており、18～19 歳と 40 歳代では「できている」とする回答が 40%強と多くなっている。

重要度では、18～19 歳と 40 歳代に加えて 60 歳代で「重要」とする回答がやや多くみられる。

図表 II-63 「施策 11 スポーツの振興」についての評価



図表 II-64 「施策 11 スポーツの振興」についての重要度

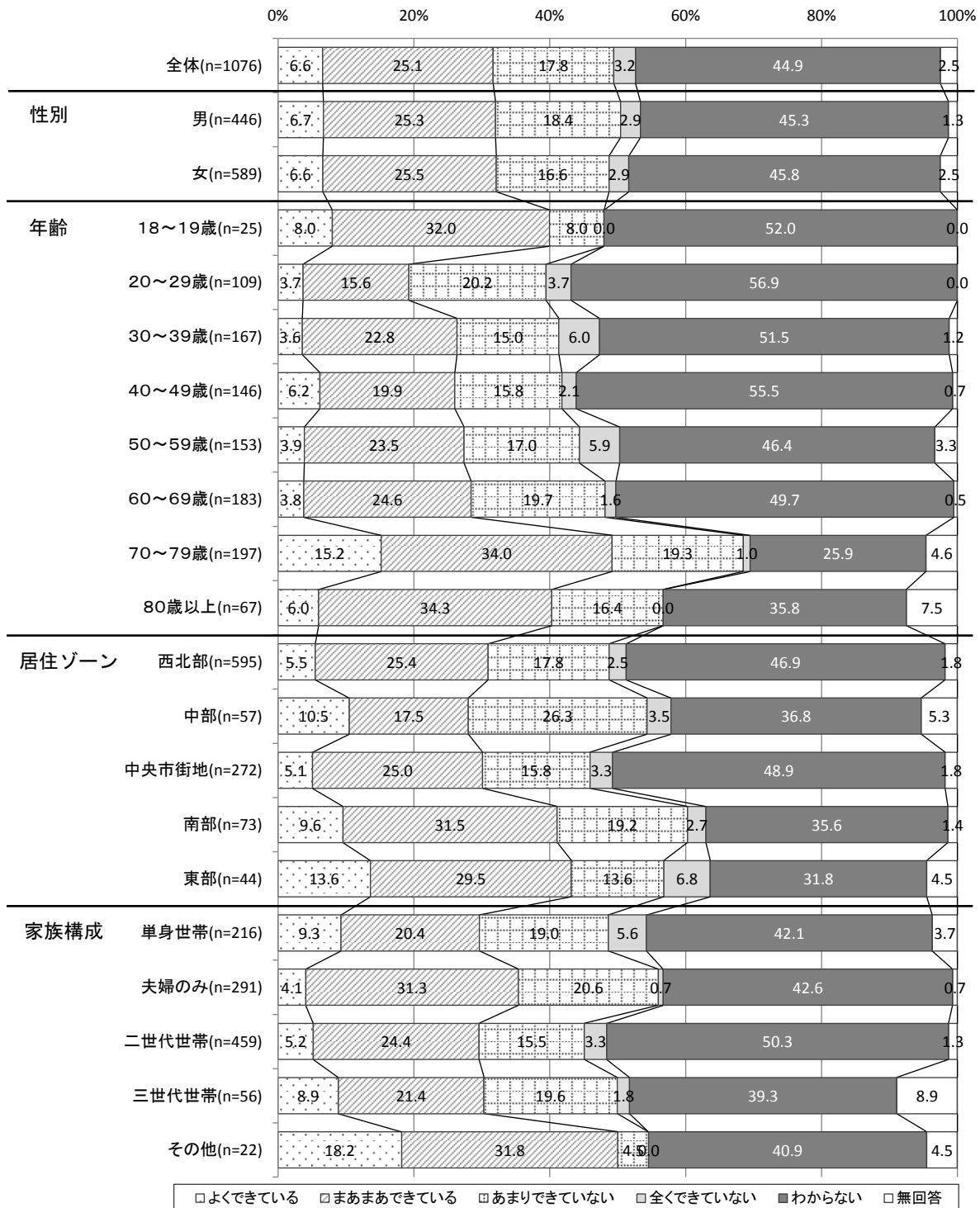


## ■施策 12 地域福祉の推進、社会保障の充実

施策の評価では、「できている」とする回答は全体で31.7%である。18～19歳、70歳代、80歳以上では「できている」とする回答が40%以上だが、それ以外の年齢では「できている」の回答は30%未満にとどまる。

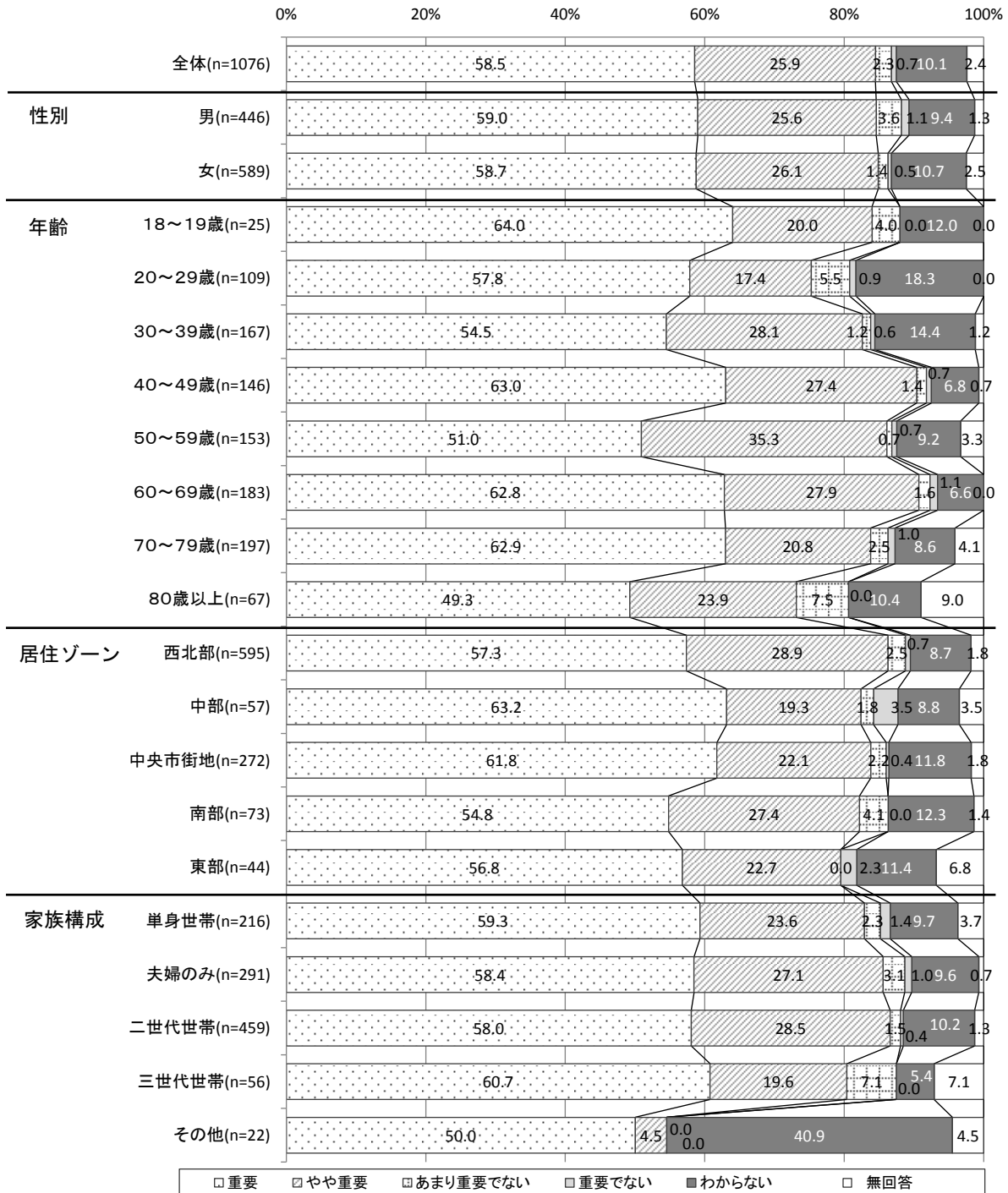
重要度については、20歳代と80歳以上を除く年齢階級で、「重要」とする回答が80%を超えている。

図表 II-65 「施策 12 地域福祉の推進、社会保障の充実」についての評価





図表 II-66 「施策 12 地域福祉の推進、社会保障の充実」についての重要度

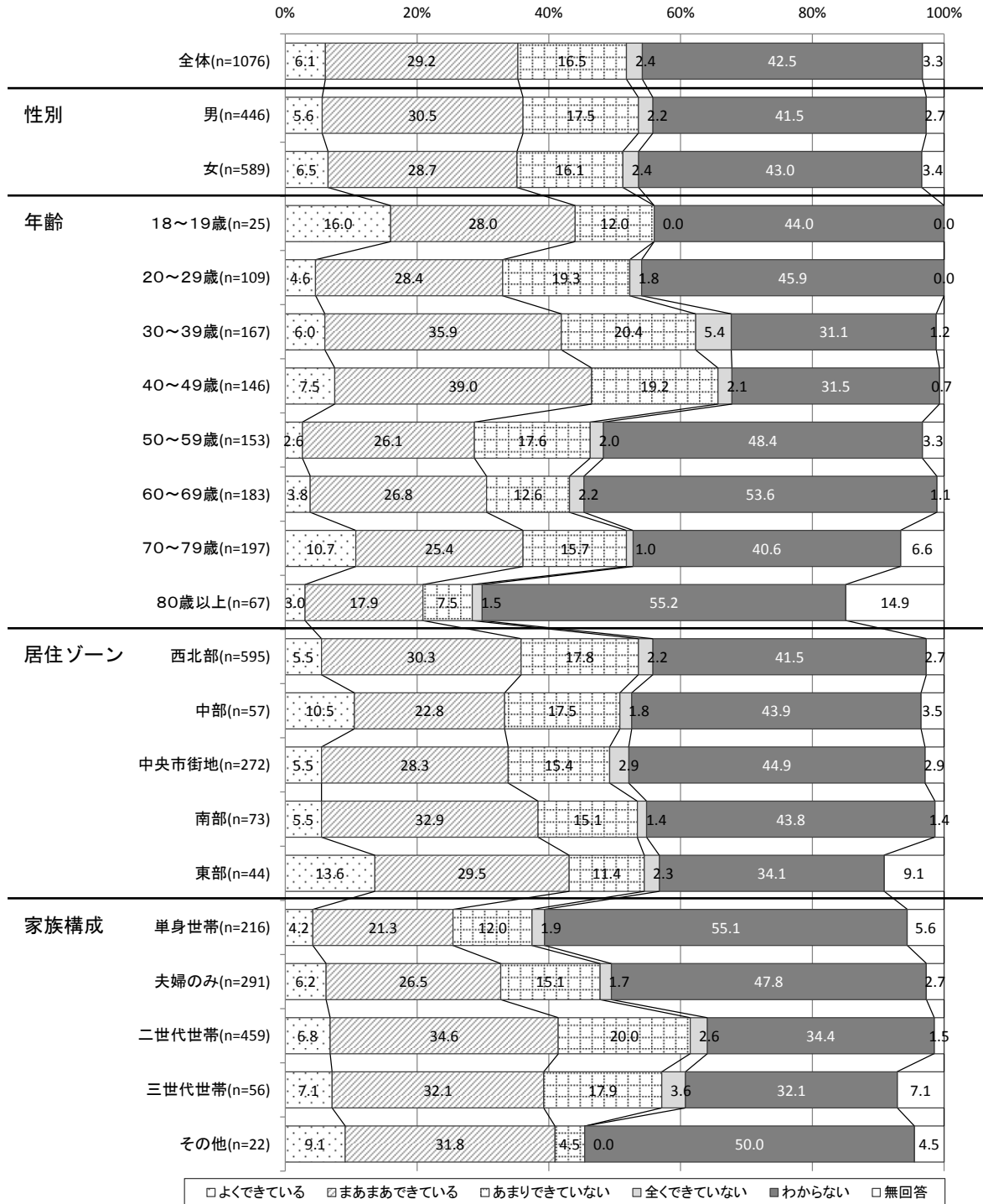


### ■施策 13 子育て支援の充実

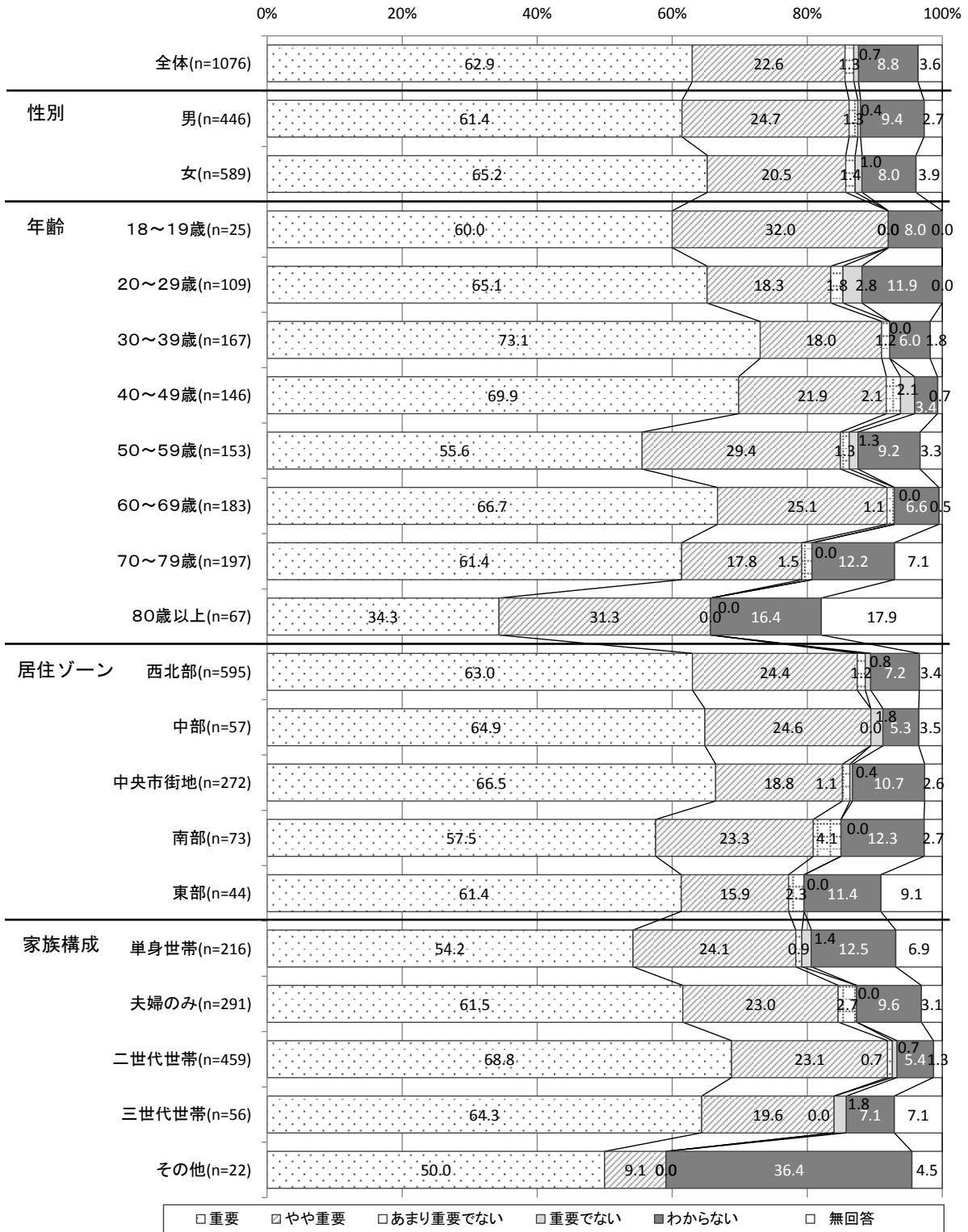
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 35.3%である。年齢別では、18～19歳と子育て期の年齢に相当する30歳代、40歳代で「できている」とする回答がやや多い。

重要度については、18～19歳から60歳代までの年齢階級で、「重要」とする回答が80%を超えている。

図表 II-67 「施策 13 子育て支援の充実」についての評価



図表 II-68 「施策 13 子育て支援の充実」についての重要度

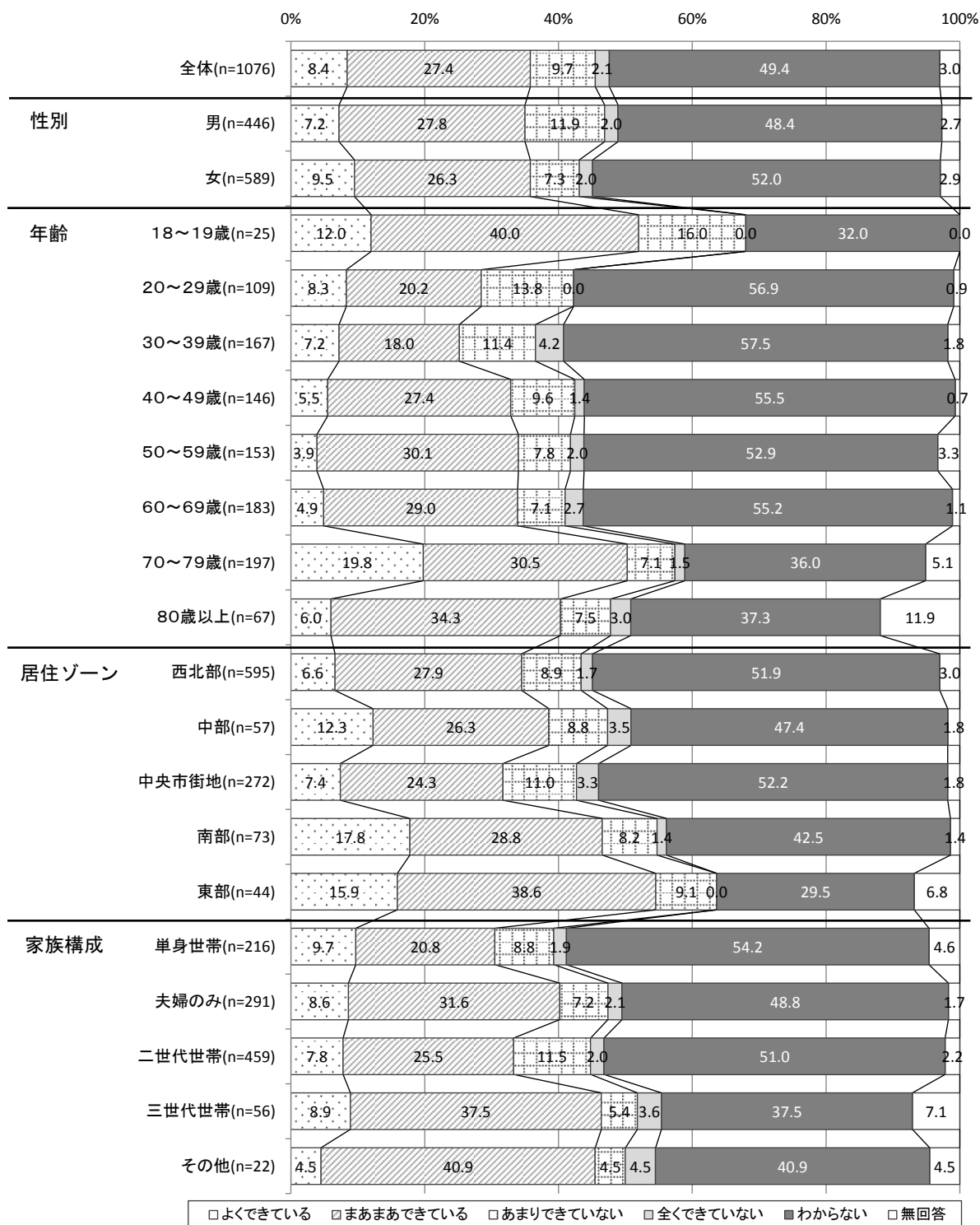


## ■施策 14 障がい者・児福祉の充実

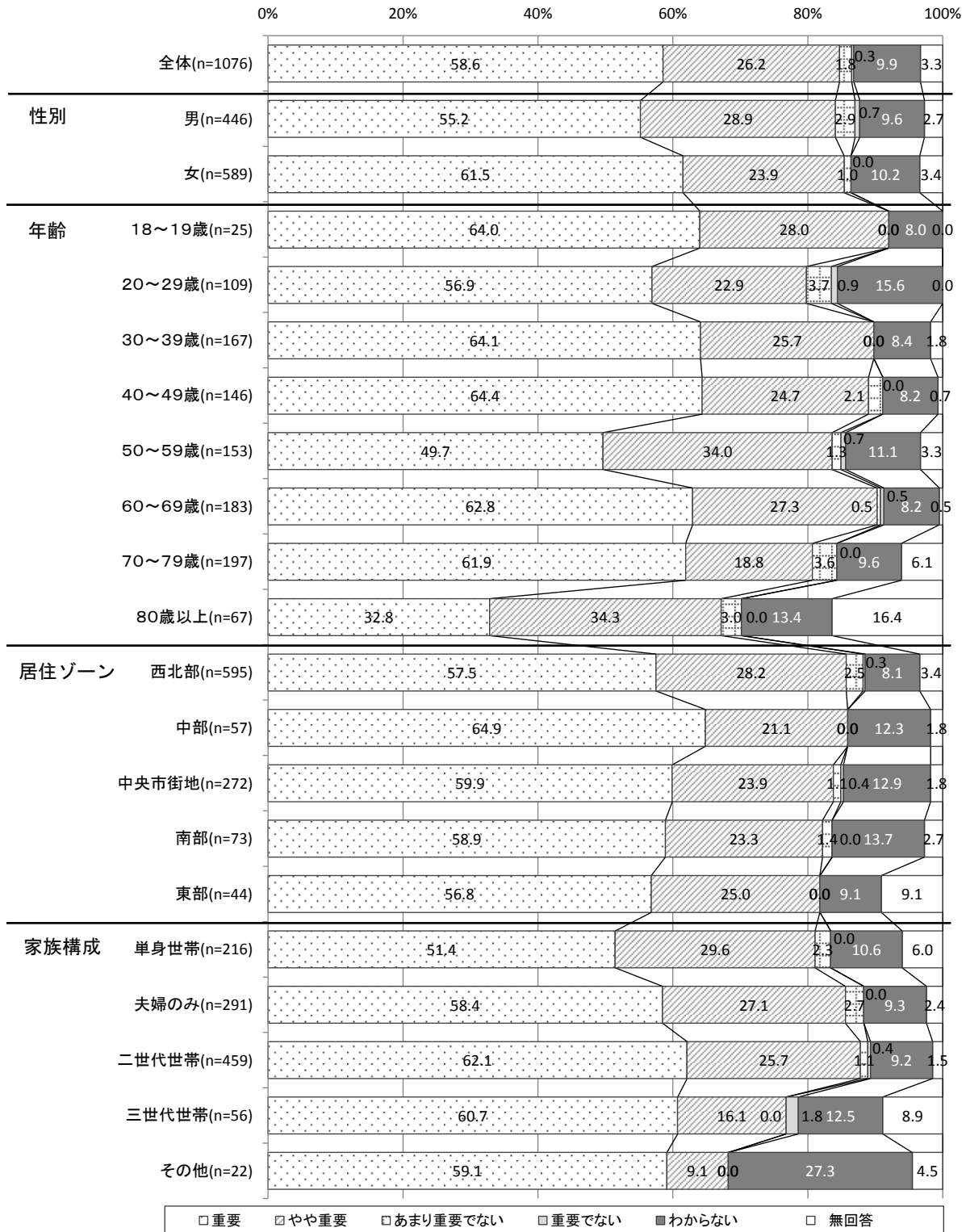
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 35.8%であるが、18～19 歳と 70 歳代では「できている」とする回答が 50%を超えている。

重要度については、20 歳代と 80 歳以上を除く年齢階級で、「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-69 「施策 14 障がい者・児福祉の充実」についての評価



図表 II-70 「施策 14 障がい者・児福祉の充実」についての重要度

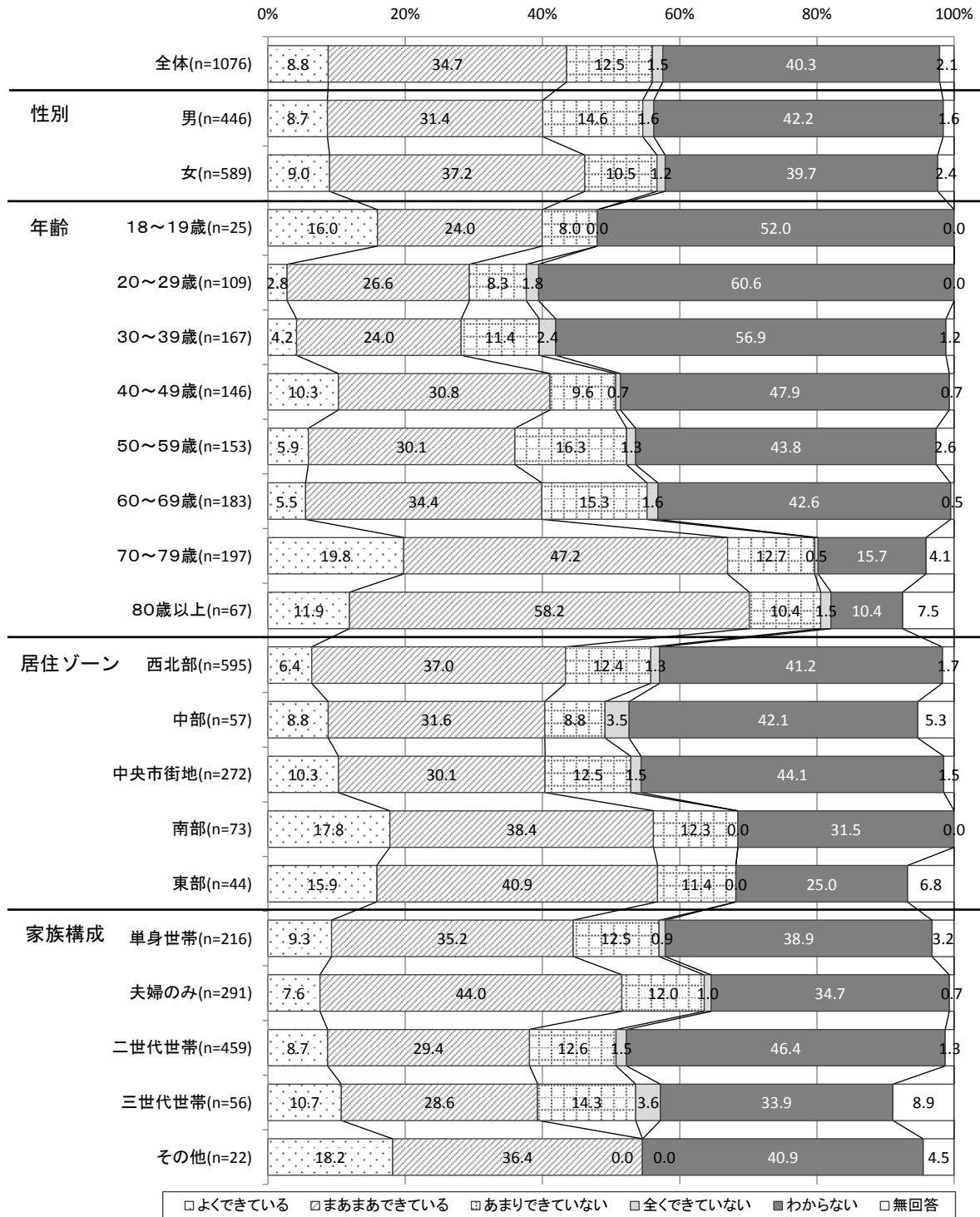


## ■施策 15 高齢者福祉の充実

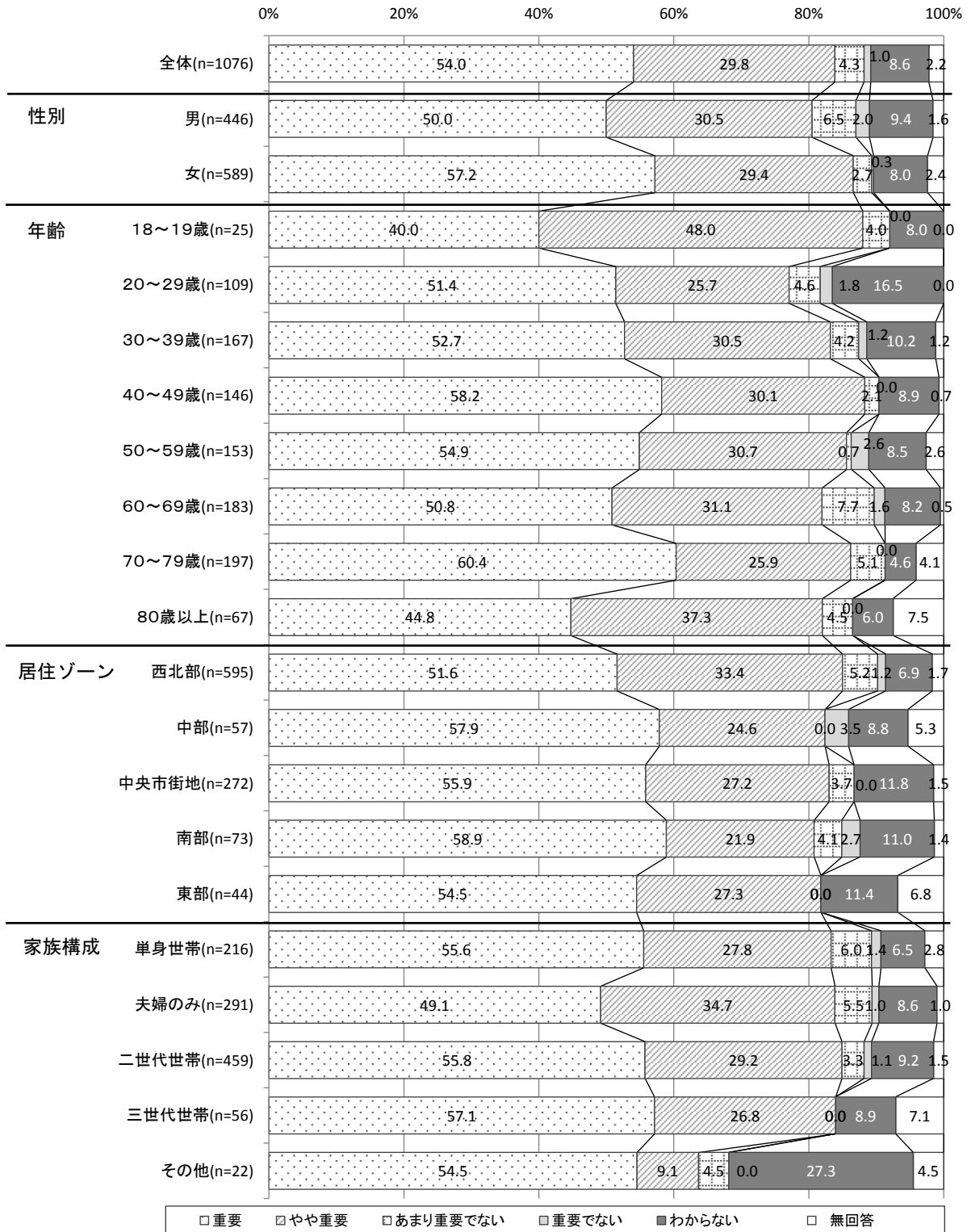
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で43.5%であるが、70歳代、80歳以上では「できている」とする回答が70%を超えており、その他の年齢階級との回答の差が大きい。

重要度については、評価の回答ほど年齢階級による回答の差はみられない。

図表 II-71 「施策 15 高齢者福祉の充実」についての評価



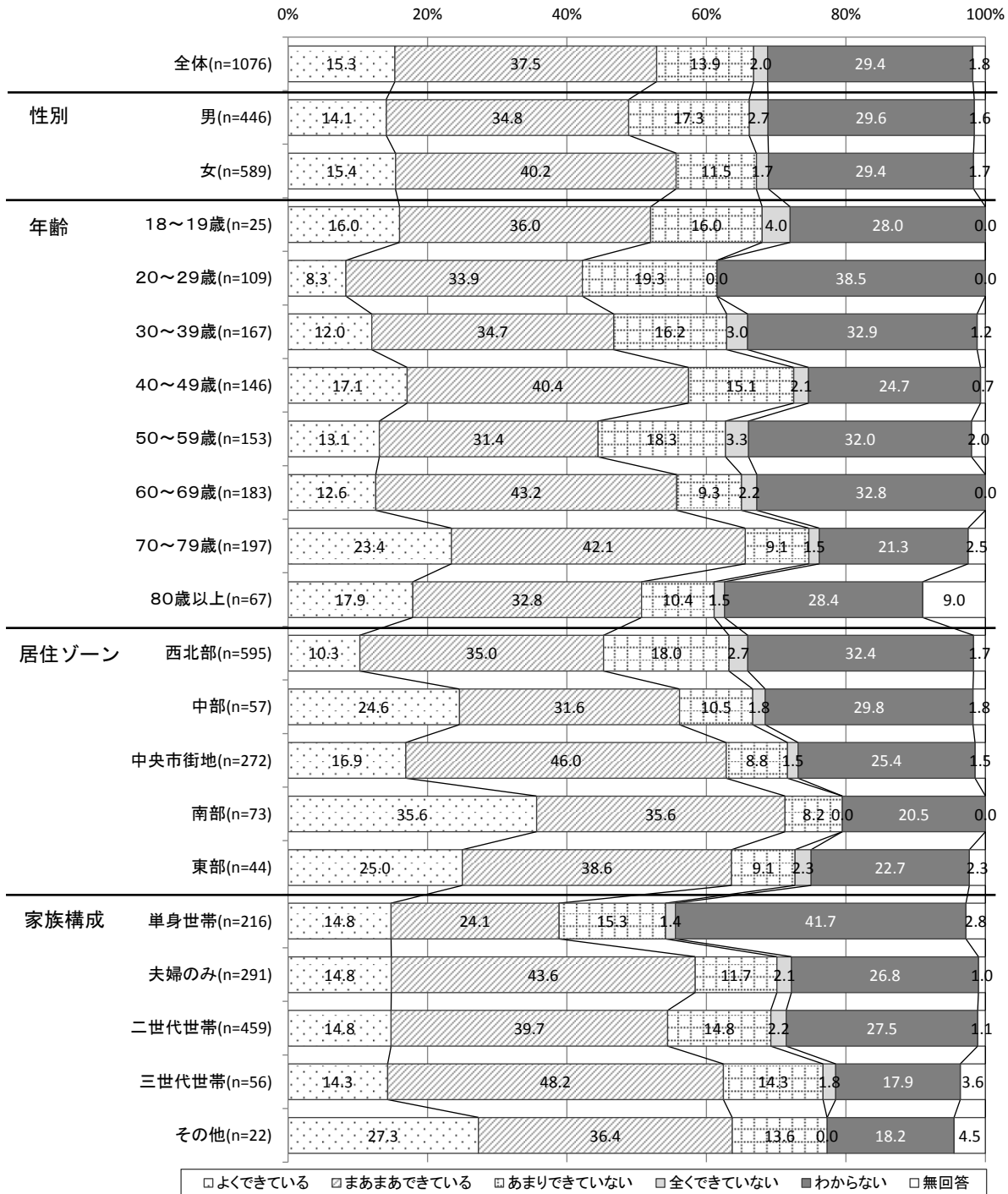
図表 II-72 「施策 15 高齢者福祉の充実」についての重要度



## ■施策 16 医療の充実

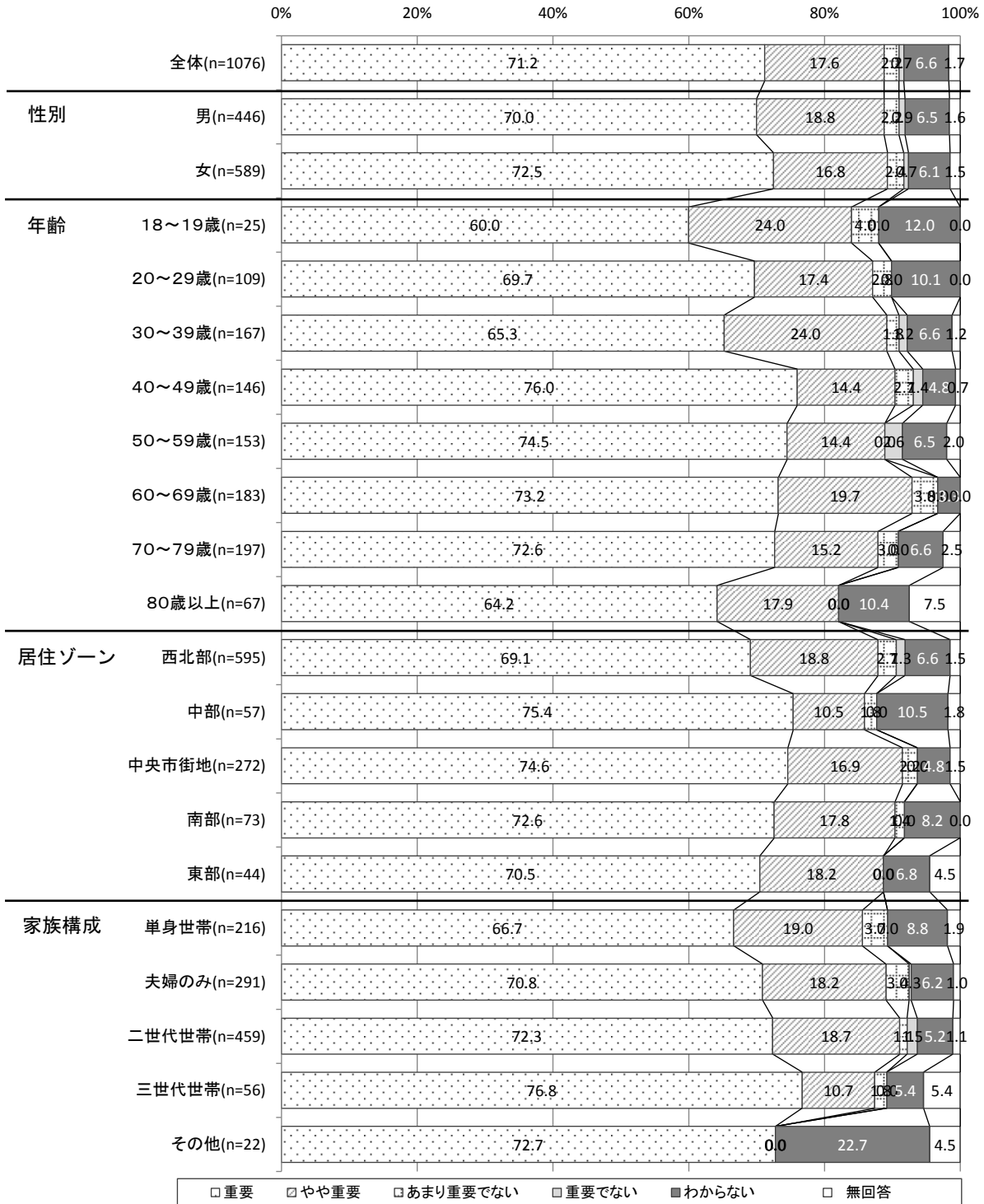
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 52.8%と半数を超えている。年齢別では 20 歳代と 50 歳代で「できている」とする回答がやや少なく、70 歳代でやや多くなっている。居住ゾーン別では西北部で「できている」とする回答が 45.3%と少ない。重要度については、全ての年齢階級で、「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-73 「施策 16 医療の充実」についての評価





図表 II-74 「施策 16 医療の充実」についての重要度

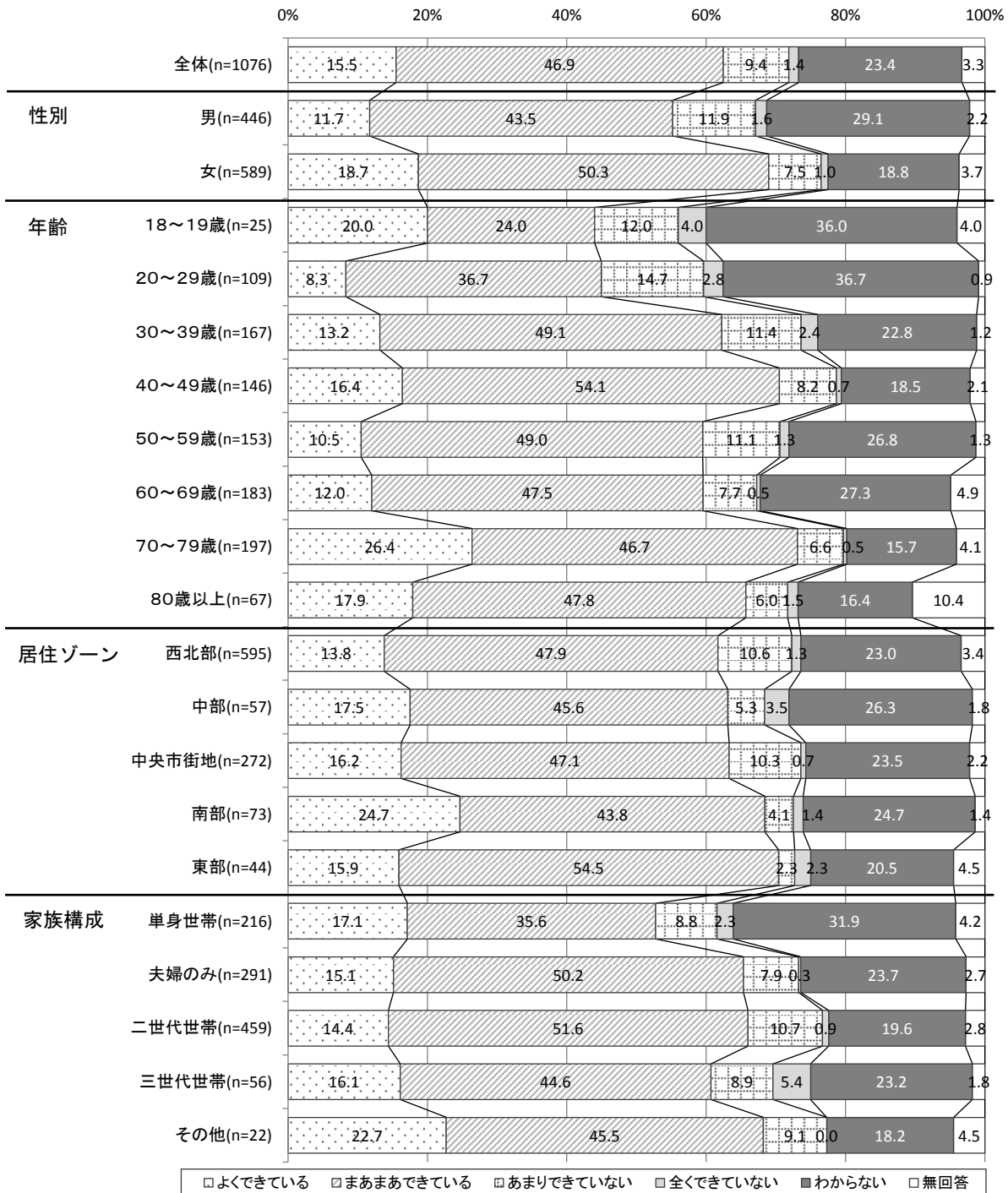


## ■施策 17 健康づくりの推進

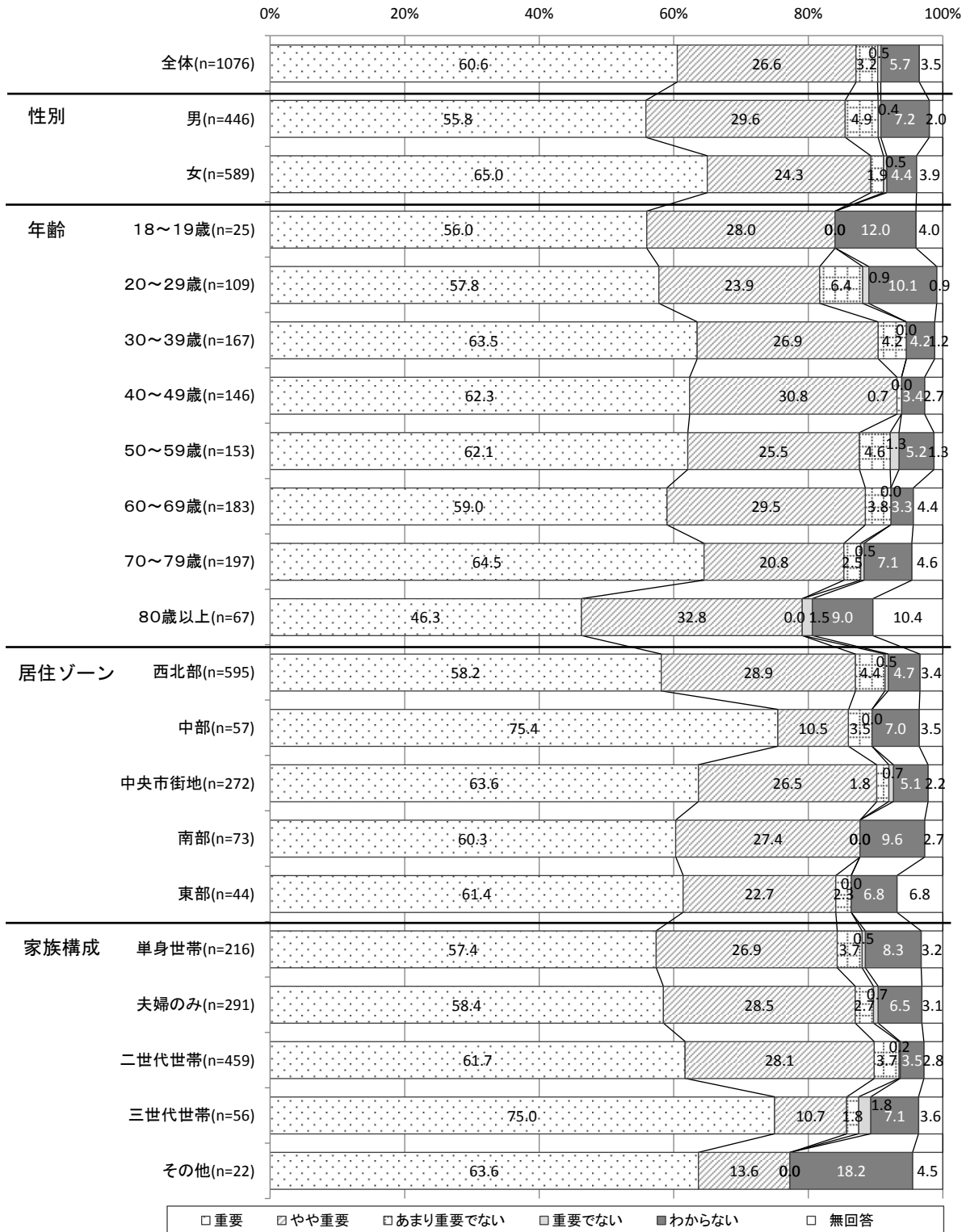
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 62.4%と他の施策に比べて高い。年齢別では 20 歳代以下の年齢階級で「できている」とする回答が 50%未満と少なく、40 歳代、70 歳代で 70%以上と多くなっている。

重要度については、80 歳以上を除く全ての年齢階級で、「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-75 「施策 17 健康づくりの推進」についての評価



図表 II-76 「施策 17 健康づくりの推進」についての重要度

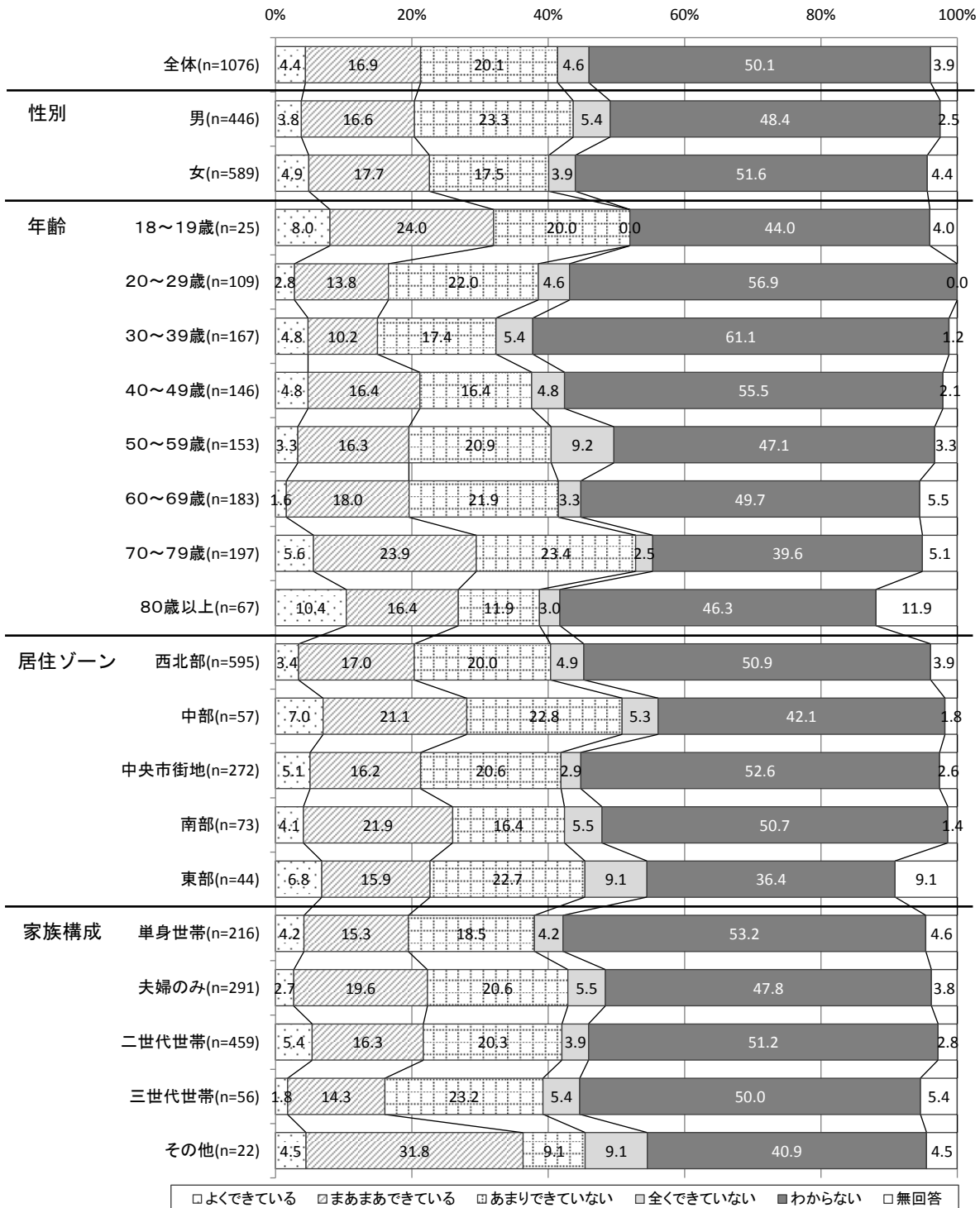


## ■施策 18 総合的な危機管理の推進

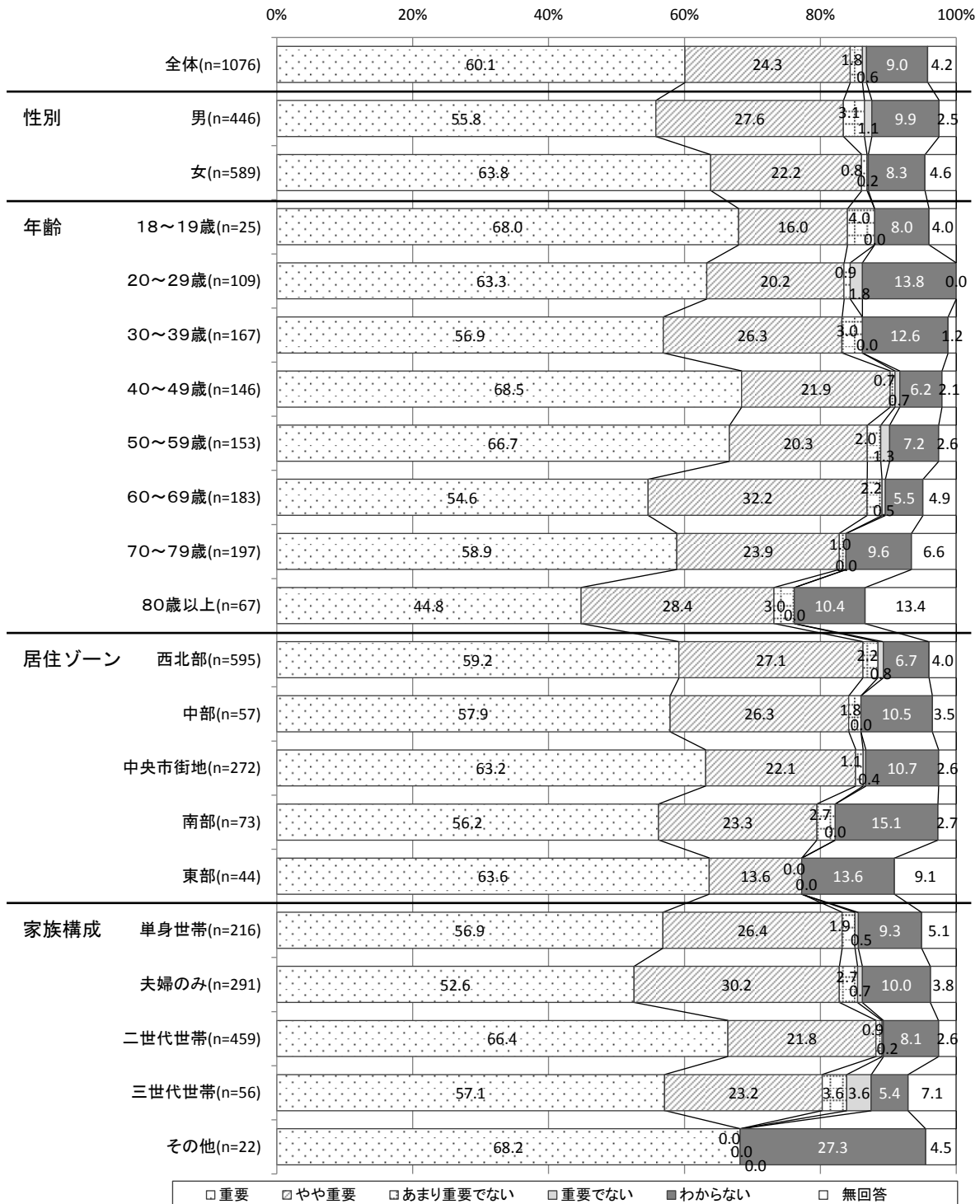
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 21.3%にとどまり、全施策の中でも評価が低い施策の一つである。特に、20 歳代、30 歳代、50 歳代、60 歳代では、「できていない」（「あまりできていない」「全くできていない」の計）とする回答が「できている」とする回答を上回っている。ただし、過半数の回答者が「わからない」と回答しており、市民が日常生活の中で市の取組に触れる機会が少ないことがうかがわれる。

重要度については、70 歳代までの年齢階級で「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-77 「施策 18 総合的な危機管理の推進」についての評価



図表 II-78 「施策 18 総合的な危機管理の推進」についての重要度

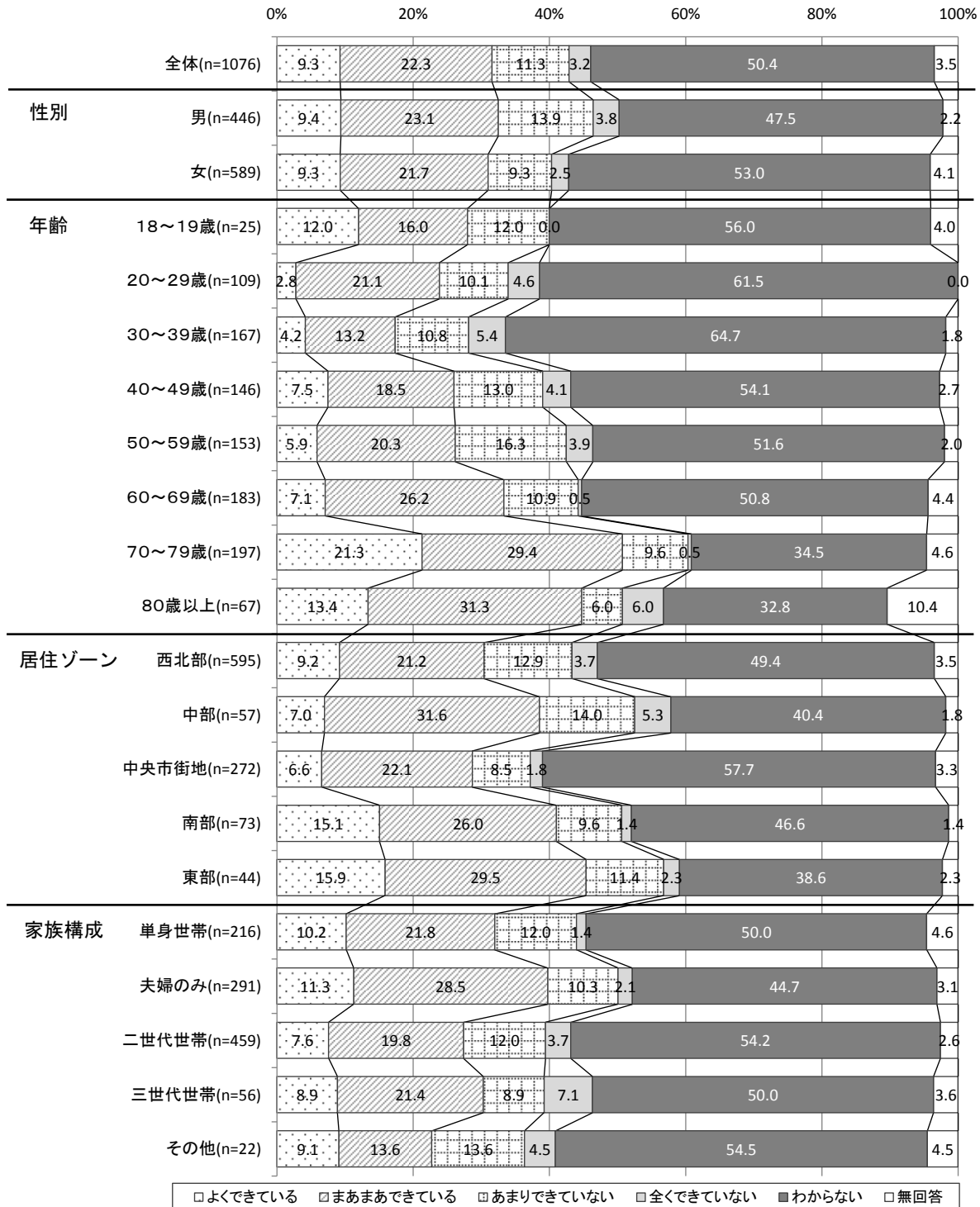


## ■施策 19 消防・救急救助体制の充実

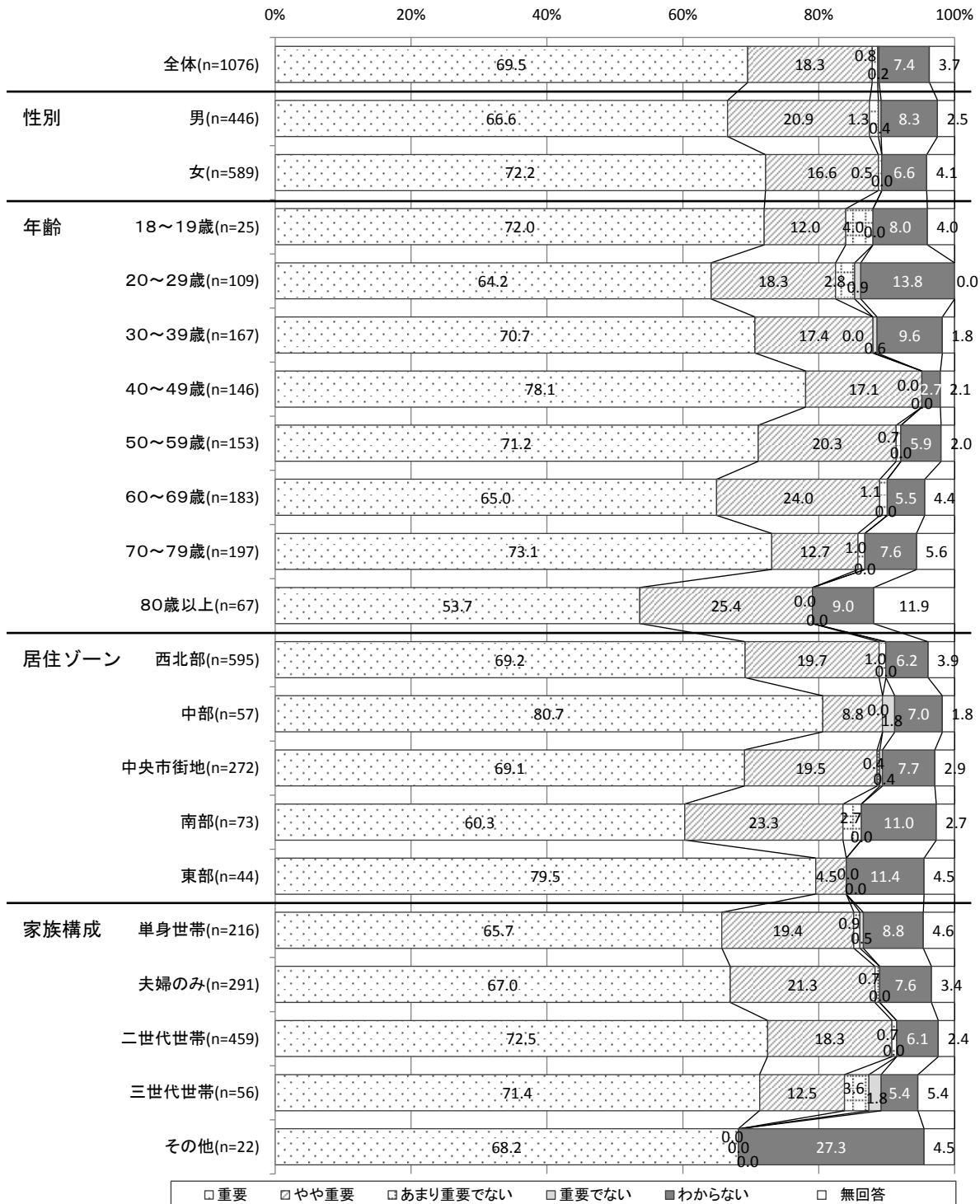
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 31.6%であるが、年齢階級ごとに評価が分かれており、70 歳代、80 歳以上では「できている」とする回答が 40%を超えているのに対し、30 歳代では 20%以下にとどまっている。

重要度については、80 歳以上で「重要」とする回答が 80%をやや下回っているものの、その他の年齢階級では「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-79 「施策 19 消防・救急救助体制の充実」についての評価



図表 II-80 「施策 19 消防・救急救助体制の充実」についての重要度

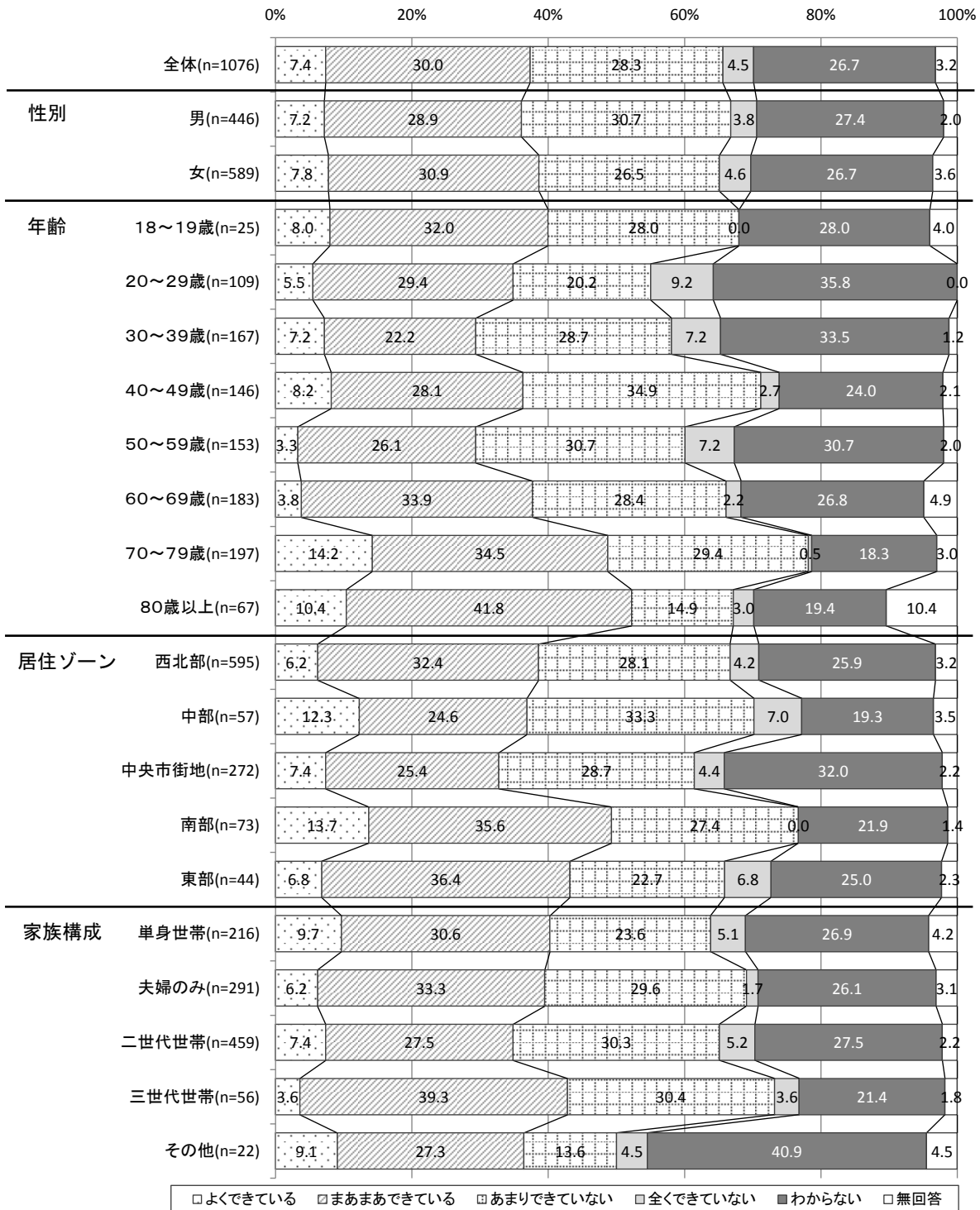


## ■施策 20 交通安全の確保

施策の評価では、「できている」とする回答は全体で37.4%である。年齢別では70歳代以上で「できている」とする回答がやや多くなっている。

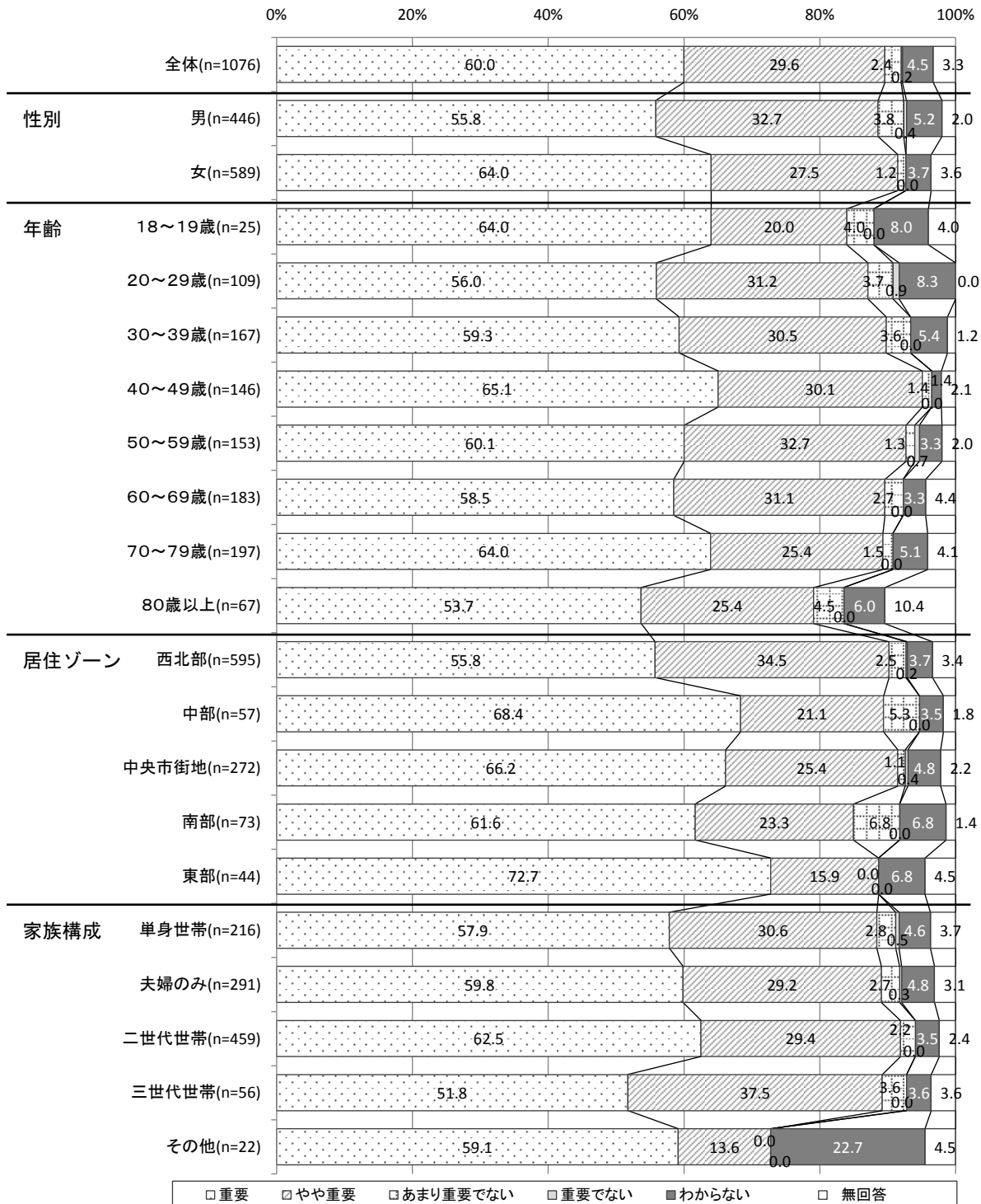
重要度については、先の施策 19 と同様に、80歳以上を除く年齢階級で「重要」とする回答が80%を超えている。

図表 II-81 「施策 20 交通安全の確保」についての評価





図表 II-82 「施策 20 交通安全の確保」についての重要度

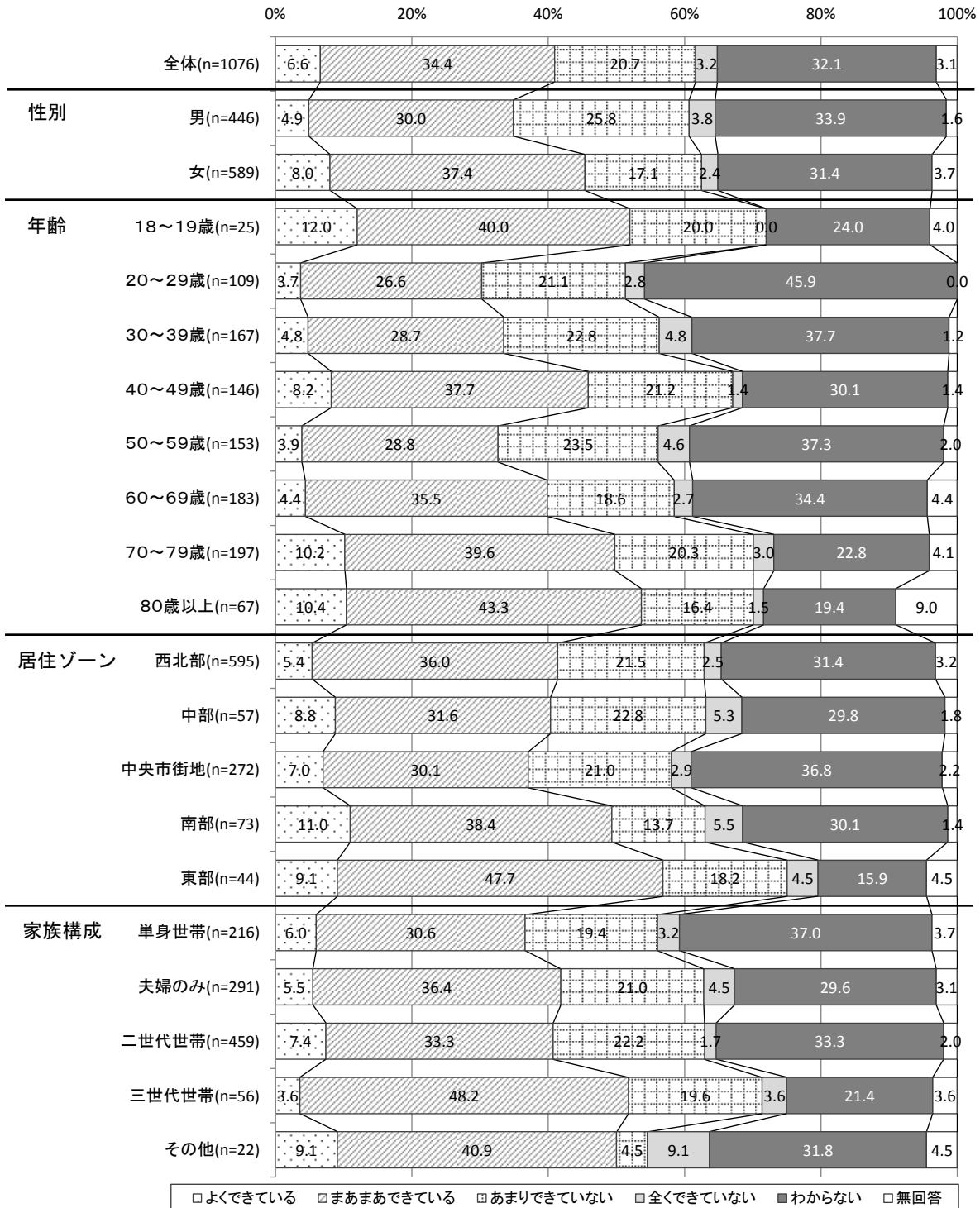


## ■施策 21 防犯力の充実

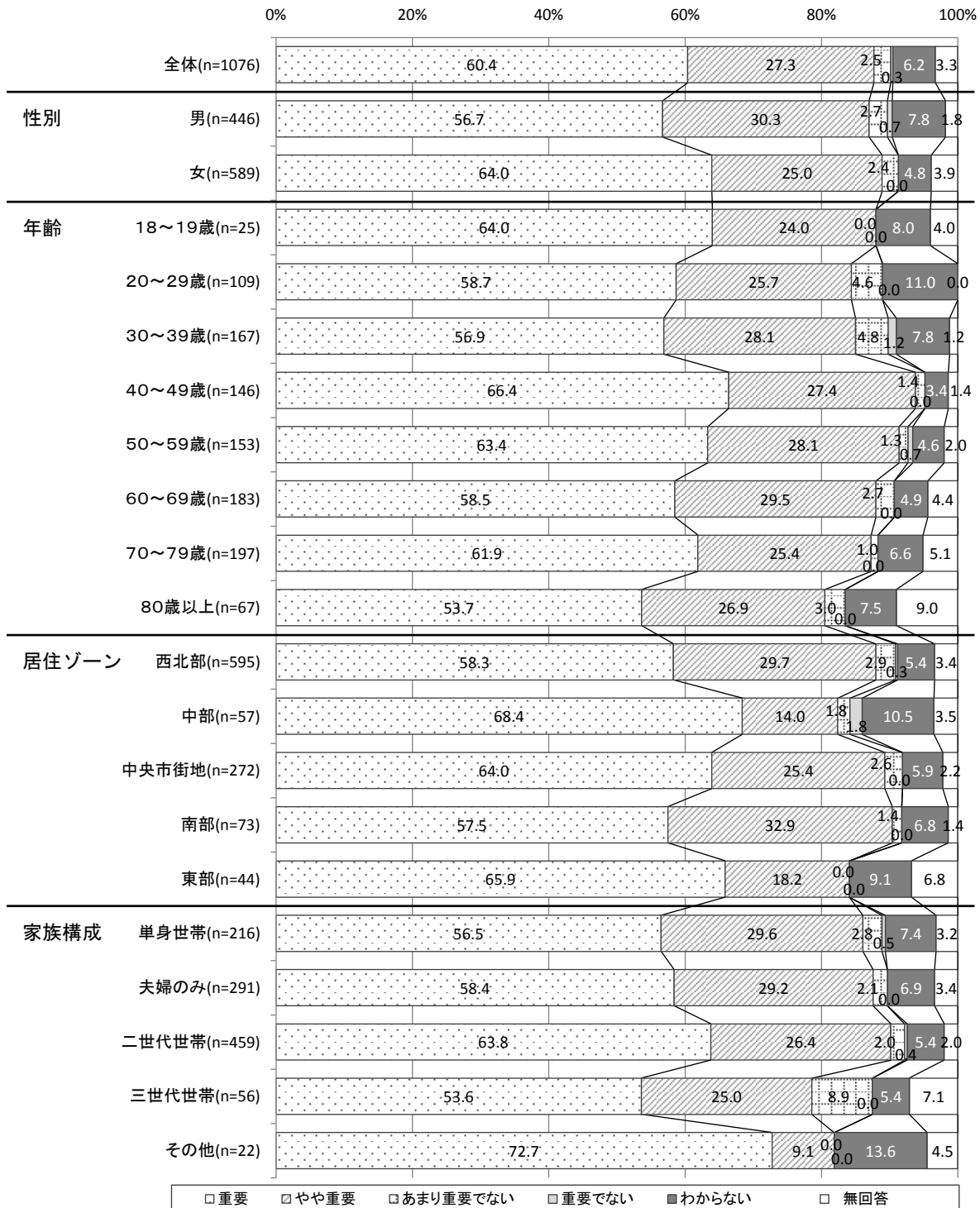
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で41.0%である。先の施策19ほどではないが、この施策でも年齢階級ごとに評価が分かれており、18～19歳と70歳代以上では「できている」とする回答が50%前後と多くなっているのに対し、20歳代、30歳代、50歳代では30%前後と少なくなっている。

重要度については、全ての年齢階級で「重要」とする回答が80%を超えている。

図表 II-83 「施策 21 防犯力の充実」についての評価



図表 II-84 「施策 21 防犯力の充実」についての重要度

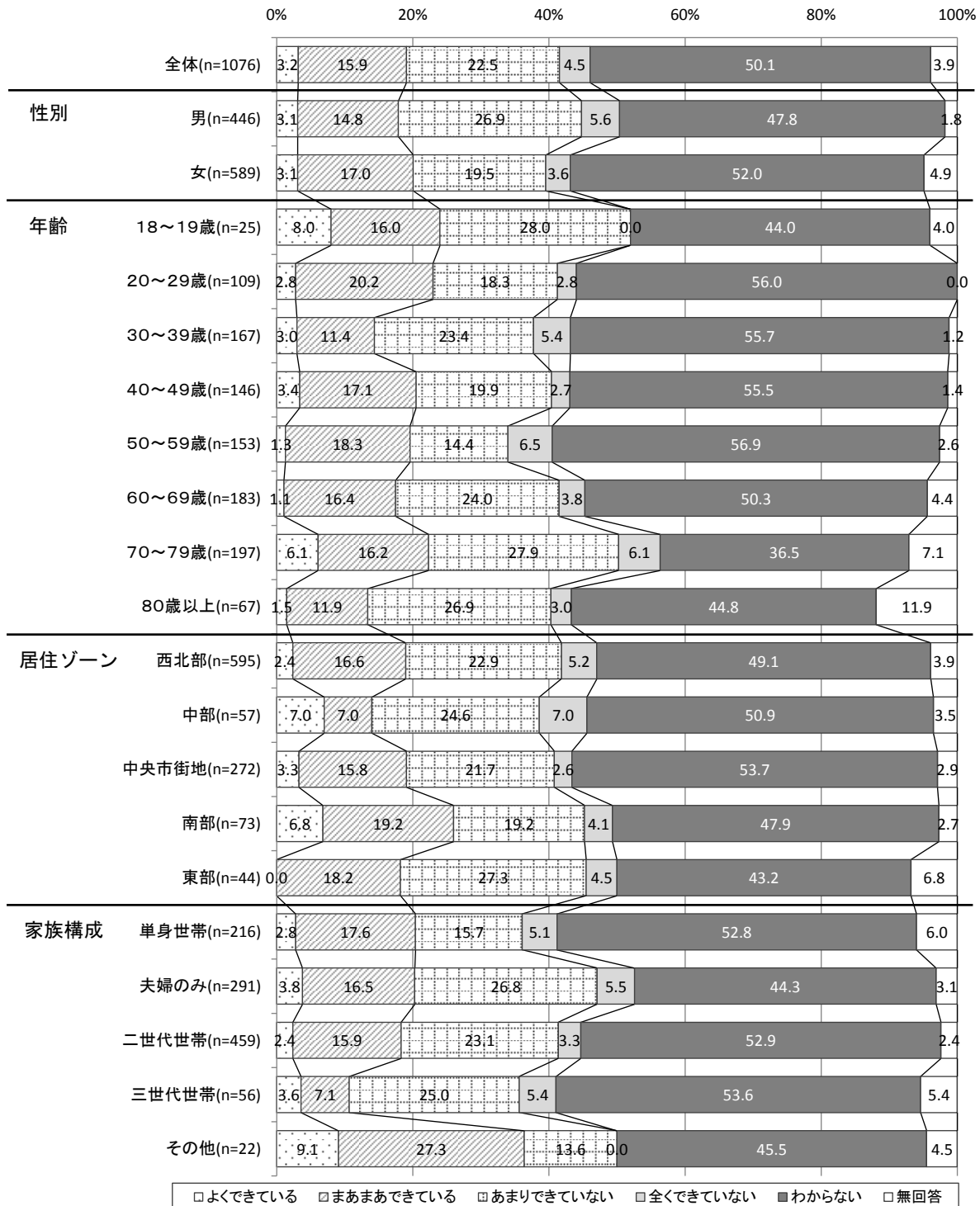


## ■施策 22 環境保全の促進

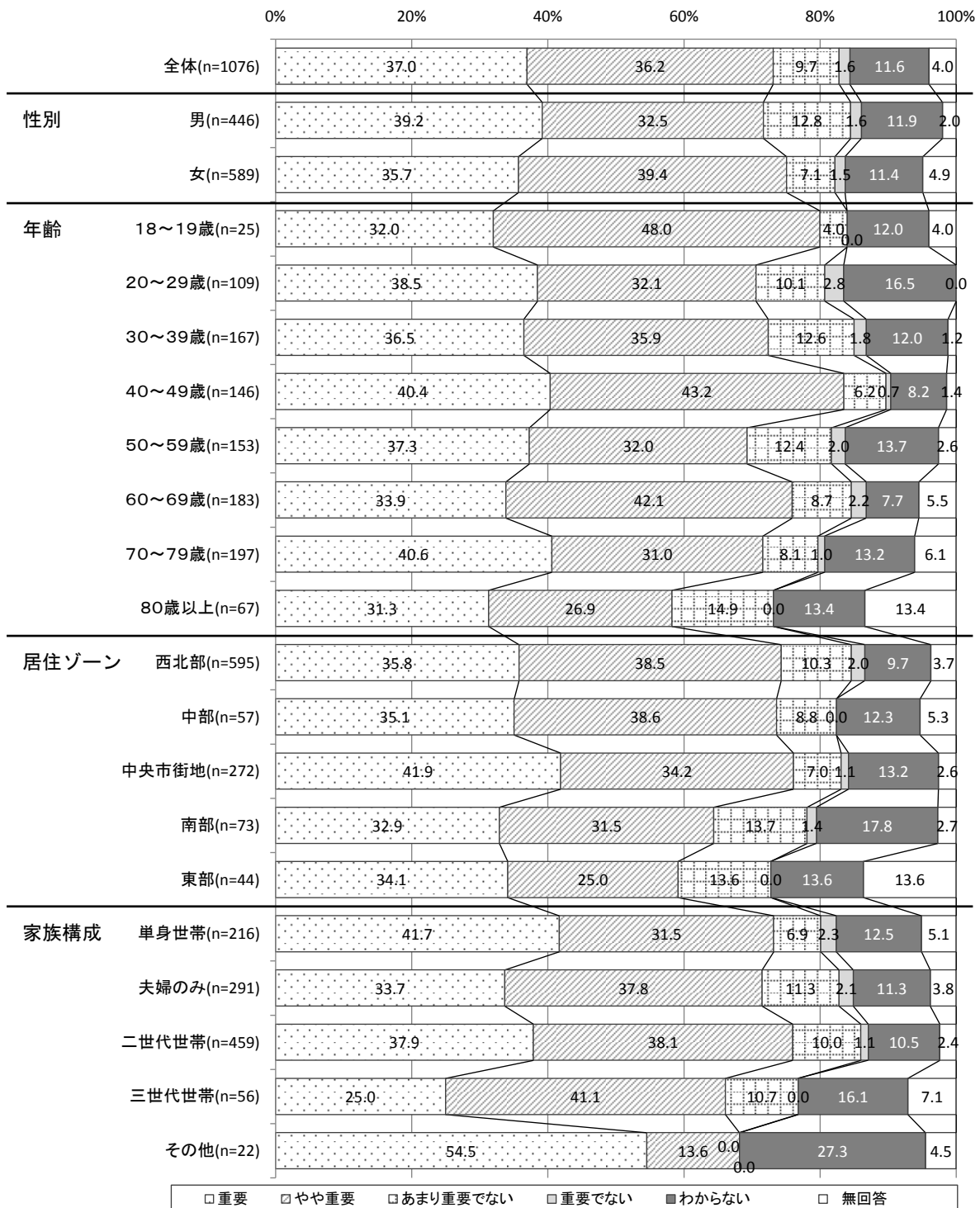
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 19.1%にとどまり、全施策の中でも評価が低い施策の一つである。年齢別では、20 歳代を除く全ての年齢階級で「できていない」とする回答が「できている」とする回答を上回っている。ただし、過半数の回答者が「わからない」と回答しており、市民が日常生活の中で市の取組に触れる機会が少ないことがうかがわれる。

重要度については、80 歳以上で「重要」とする回答がやや少なくなっている。

図表 II-85 「施策 22 環境保全の促進」についての評価



図表 II-86 「施策 22 環境保全の促進」についての重要度

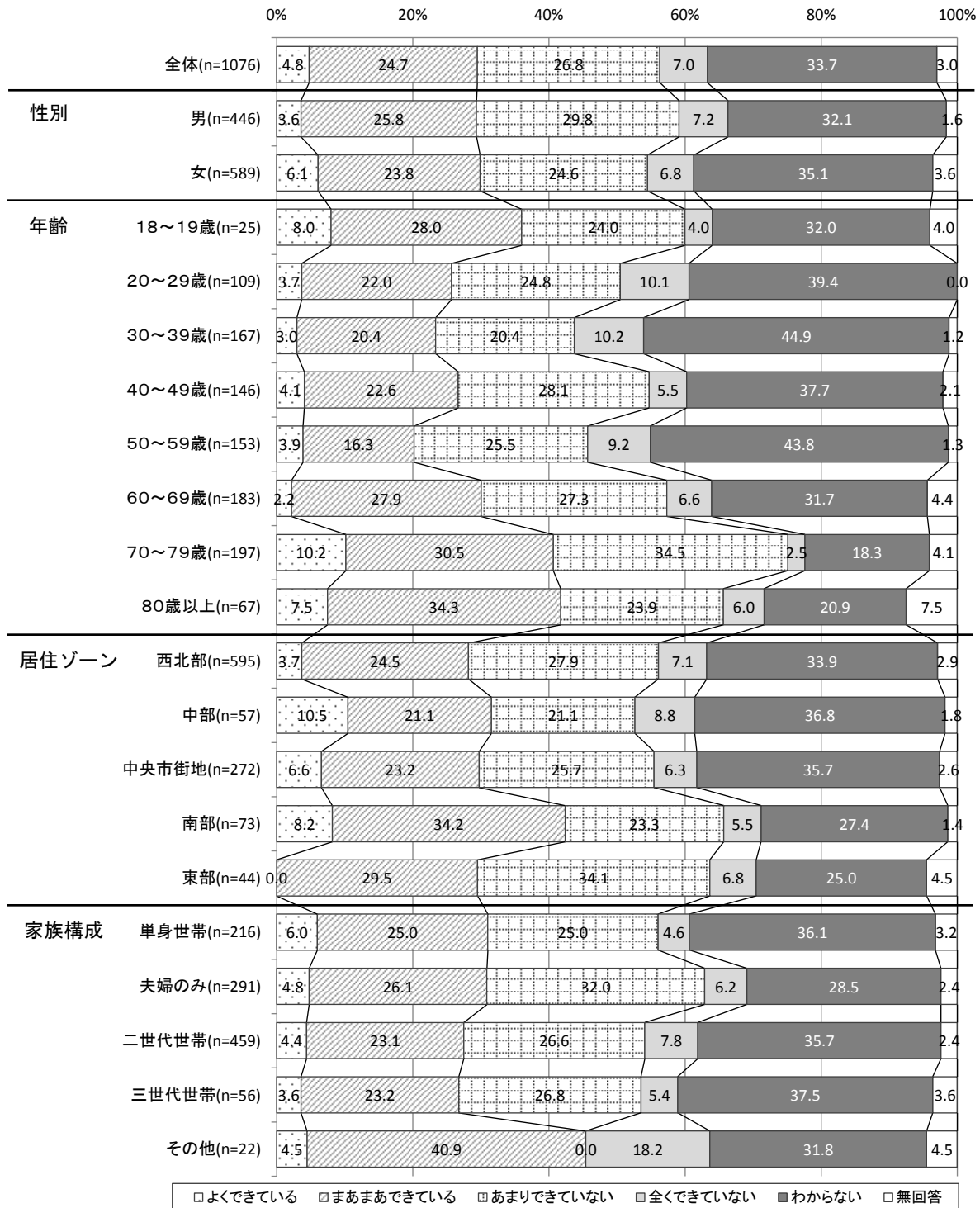


## ■施策 23 環境美化の推進

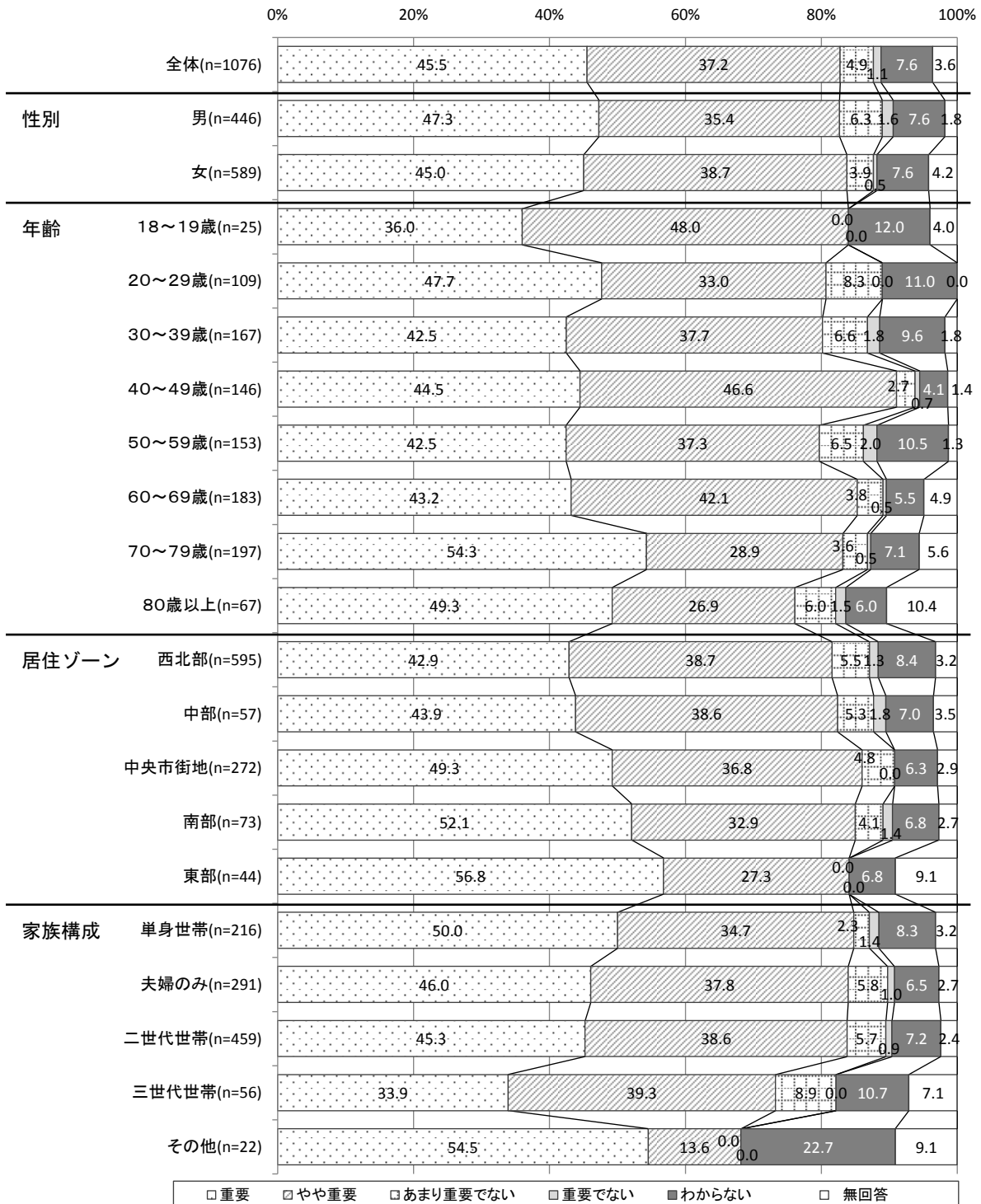
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 29.5%である。年齢別では 70 歳代、80 歳以上で「できている」とする回答が 40%以上とやや多い。

重要度については、50 歳代と 80 歳以上を除く年齢階級で「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-87 「施策 23 環境美化の推進」についての評価



図表 II-88 「施策 23 環境美化の推進」についての重要度

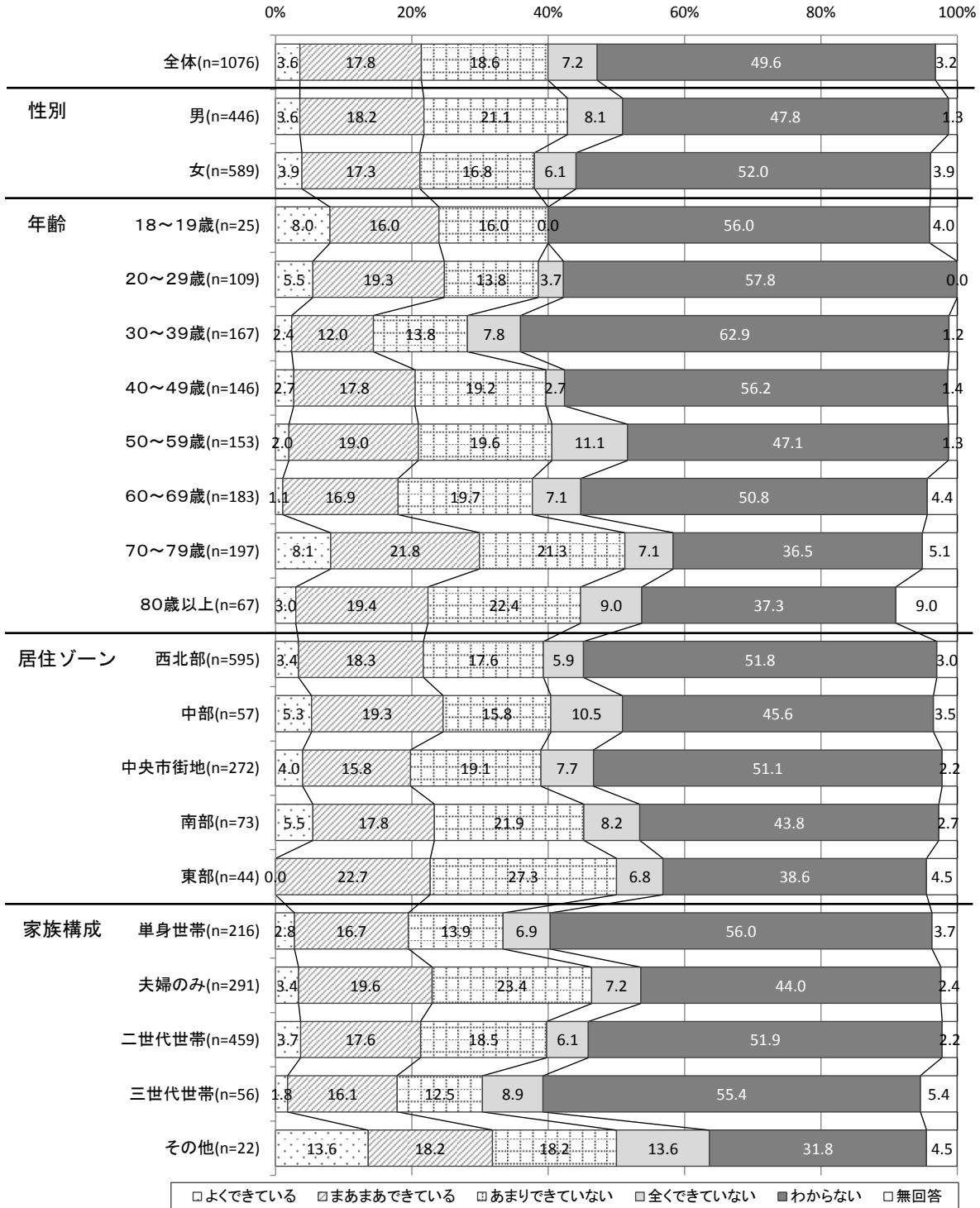


## ■施策 24 生活・環境衛生の向上

施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 21.4%である。年齢別では 70 歳代で「できている」とする回答がやや多い。

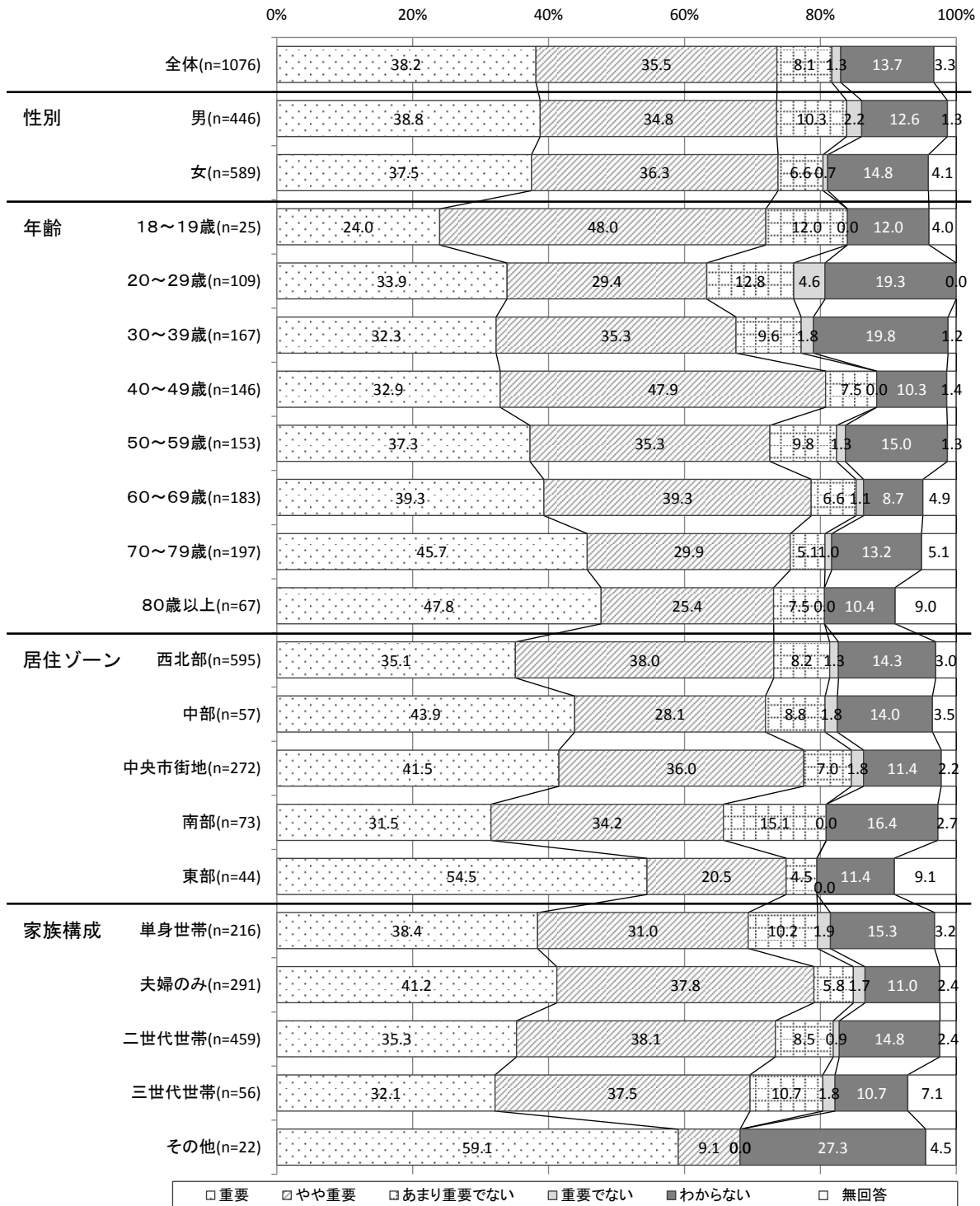
重要度については、40 歳代で「重要」とする回答が約 80%とやや多い。

図表 II-89 「施策 24 生活・環境衛生の向上」についての評価





図表 II-90 「施策 24 生活・環境衛生の向上」についての重要度

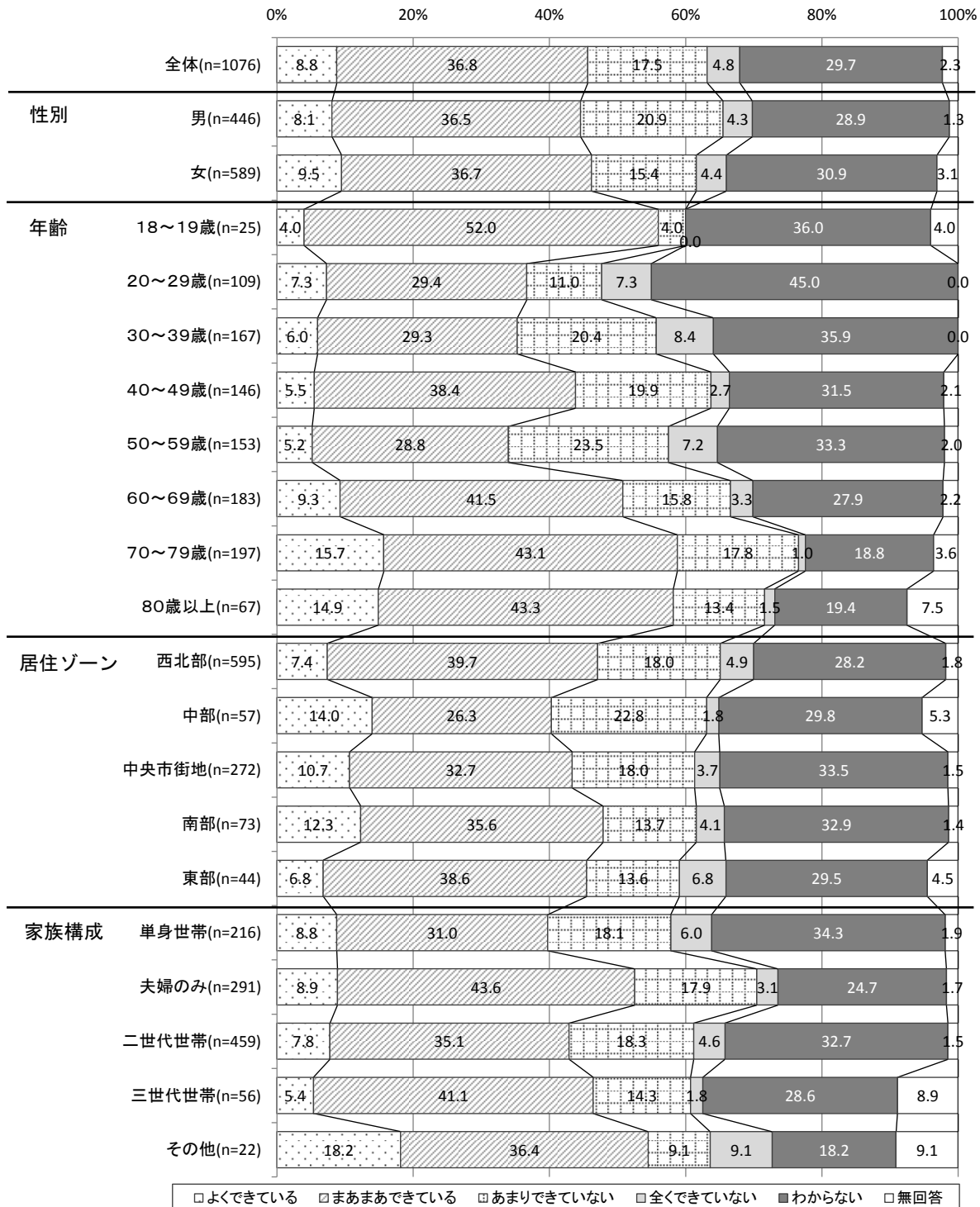


## ■施策 25 廃棄物処理の推進

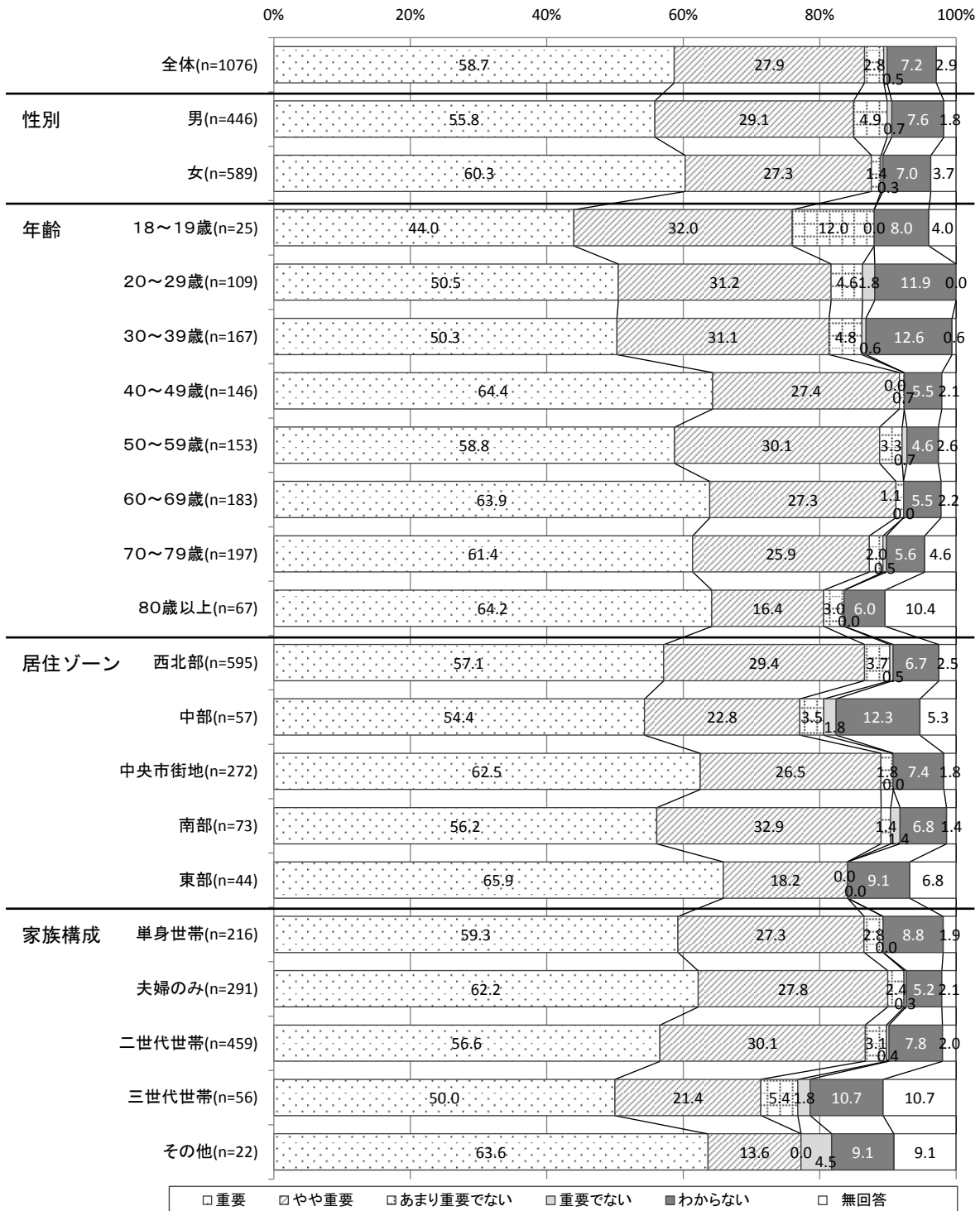
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 45.6%である。先の施策 21 と同様に年齢階級ごとに評価が分かれており、18～19 歳と 70 歳代以上では「できている」とする回答が 60%弱と多くなっているのに対し、50 歳代では 30%強と少なくなっている。

重要度については、18～19 歳までを除く年齢階級で「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-91 「施策 25 廃棄物処理の推進」についての評価



図表 II-92 「施策 25 廃棄物処理の推進」についての重要度

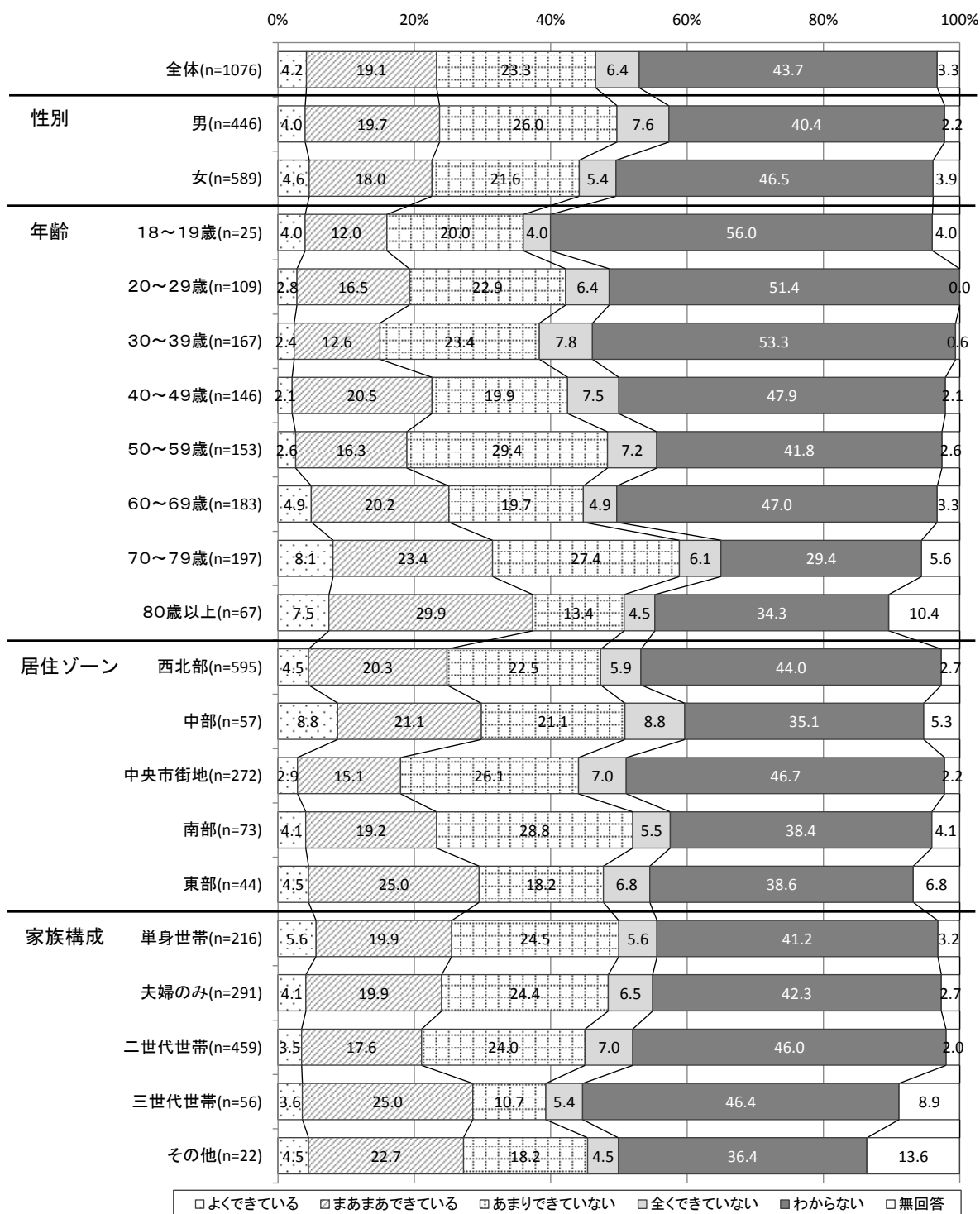


## ■施策 26 計画的な土地利用

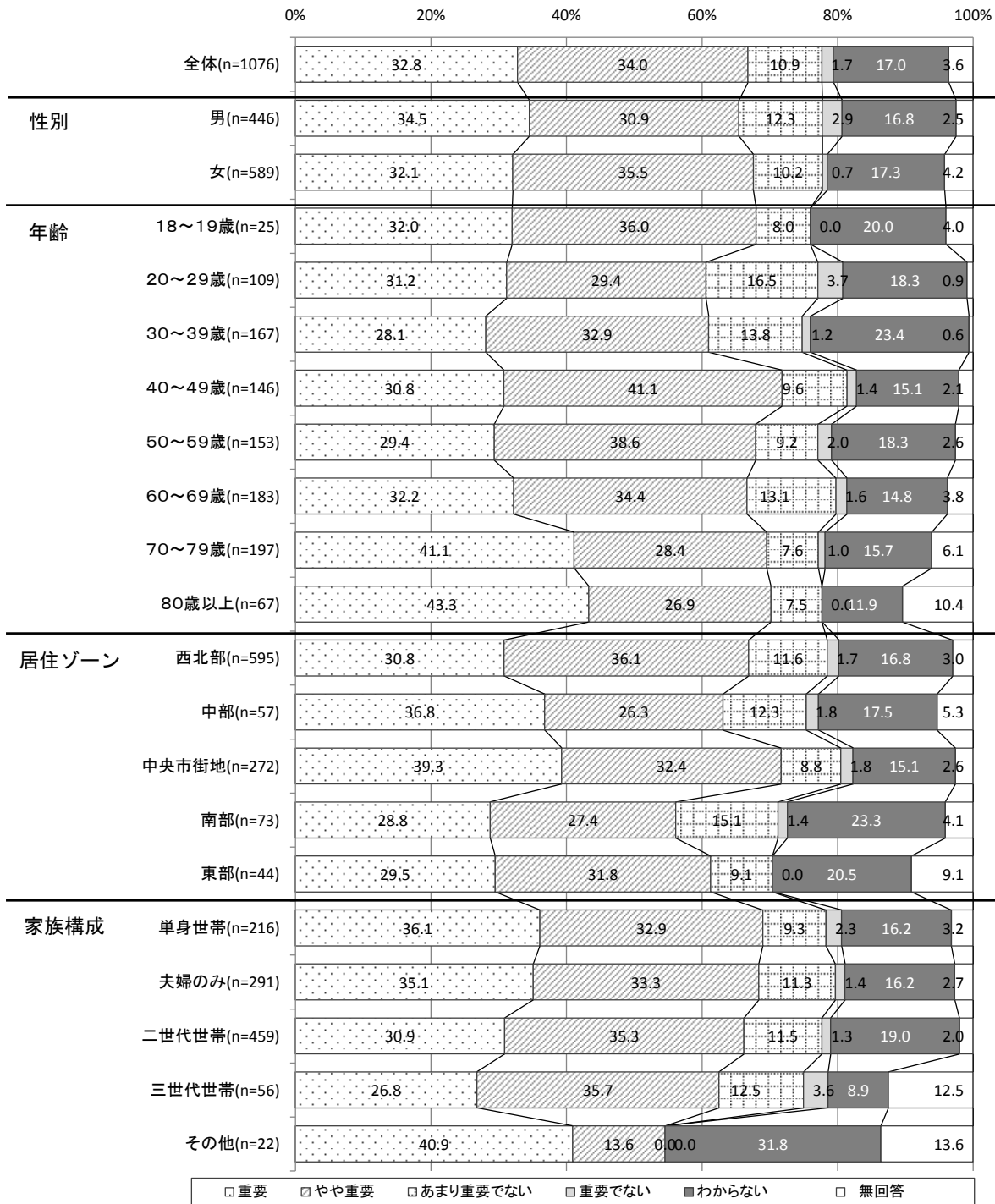
施策の評価では、「できている」（「よくできている」「まあまあできている」の計）とする回答は全体で 23.3%であり、他の施策と比較するとやや少ない。50 歳代以上では、年代が上がるにつれて「できている」とする回答が多くなっている。

重要度については、20 歳代と 30 歳代を除く年齢階級で、「重要」とする回答が約 70%となっており、居住ゾーン別では、南部のみが 60%を下回っている。

図表 II-93 「施策 26 計画的な土地利用」についての評価



図表 II-94 「施策 26 計画的な土地利用」についての重要度

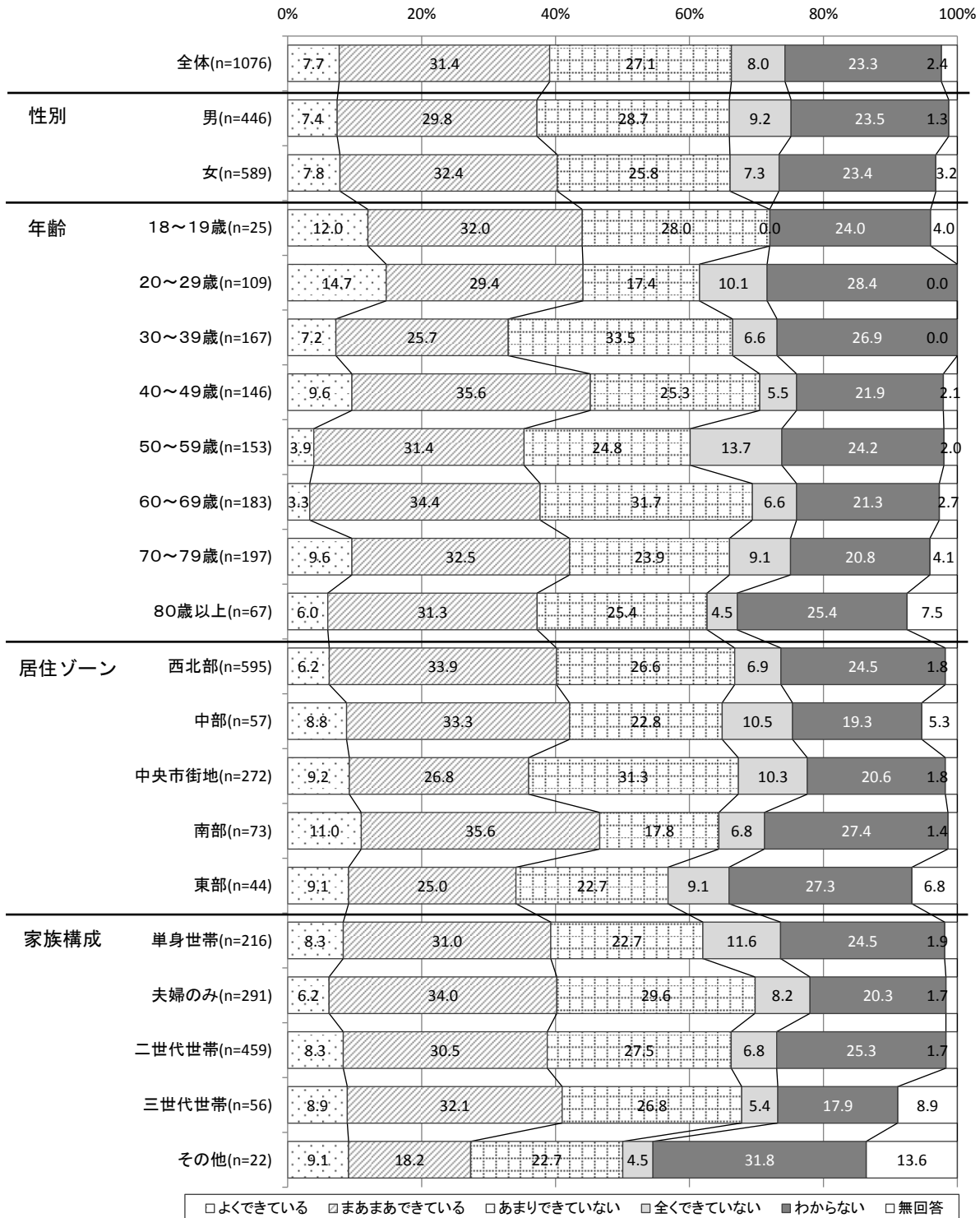


## ■施策 27 奈良らしい景観の形成

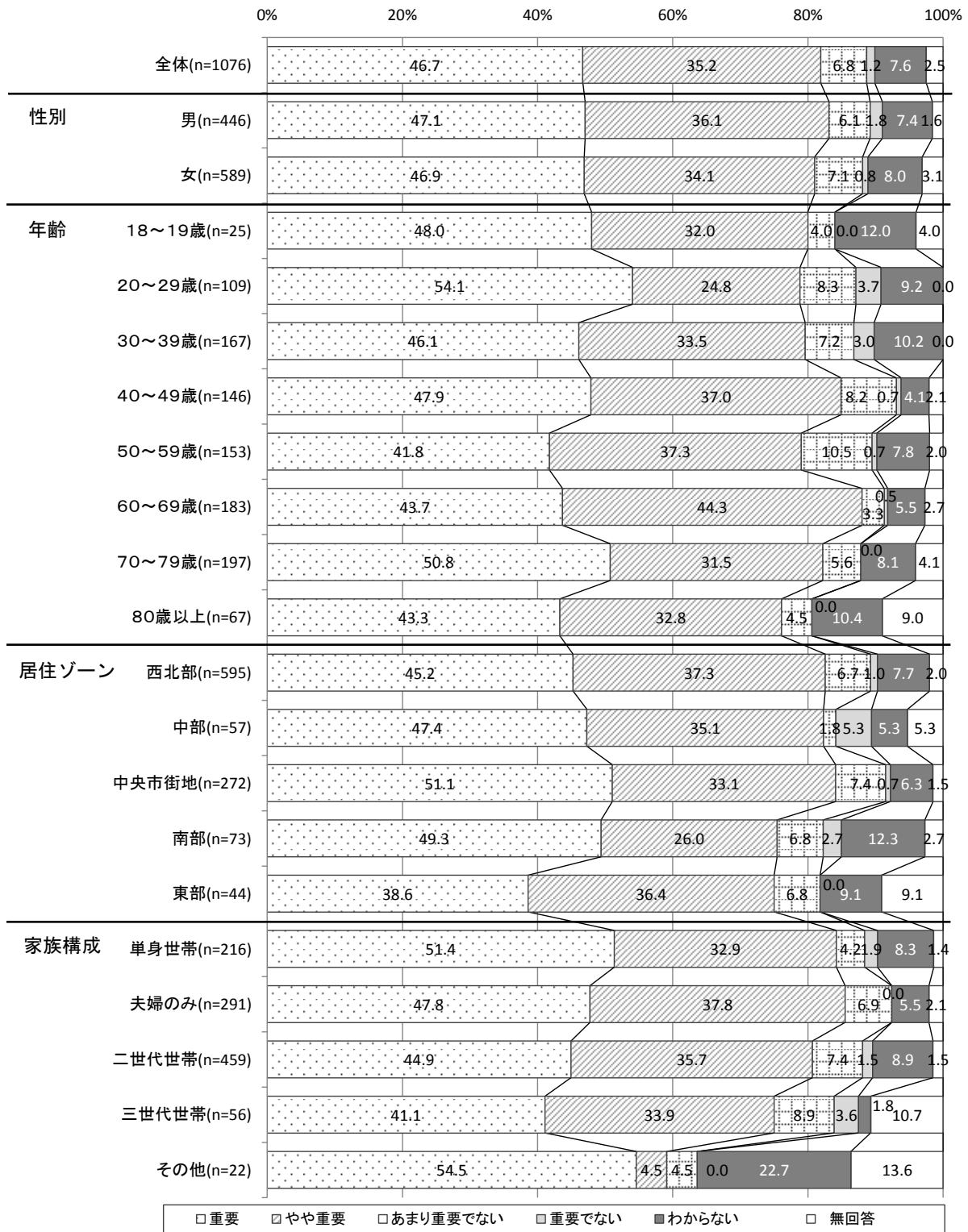
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 39.1%であるが、18～19 歳、20 歳代、40 歳代、70 歳代では「できている」とする回答が 40%を超えている。居住ゾーン別では、南部で「できている」とする回答が 46.6%で、他の地域よりも多い。

重要度については、18～19 歳、40 歳代、60 歳代、70 歳代で、「重要」とする回答が 80%以上となっている。また、居住ゾーン別では、西北部、中部、中央市街地で「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-95 「施策 27 奈良らしい景観の形成」についての評価



図表 II-96 「施策 27 奈良らしい景観の形成」についての重要度

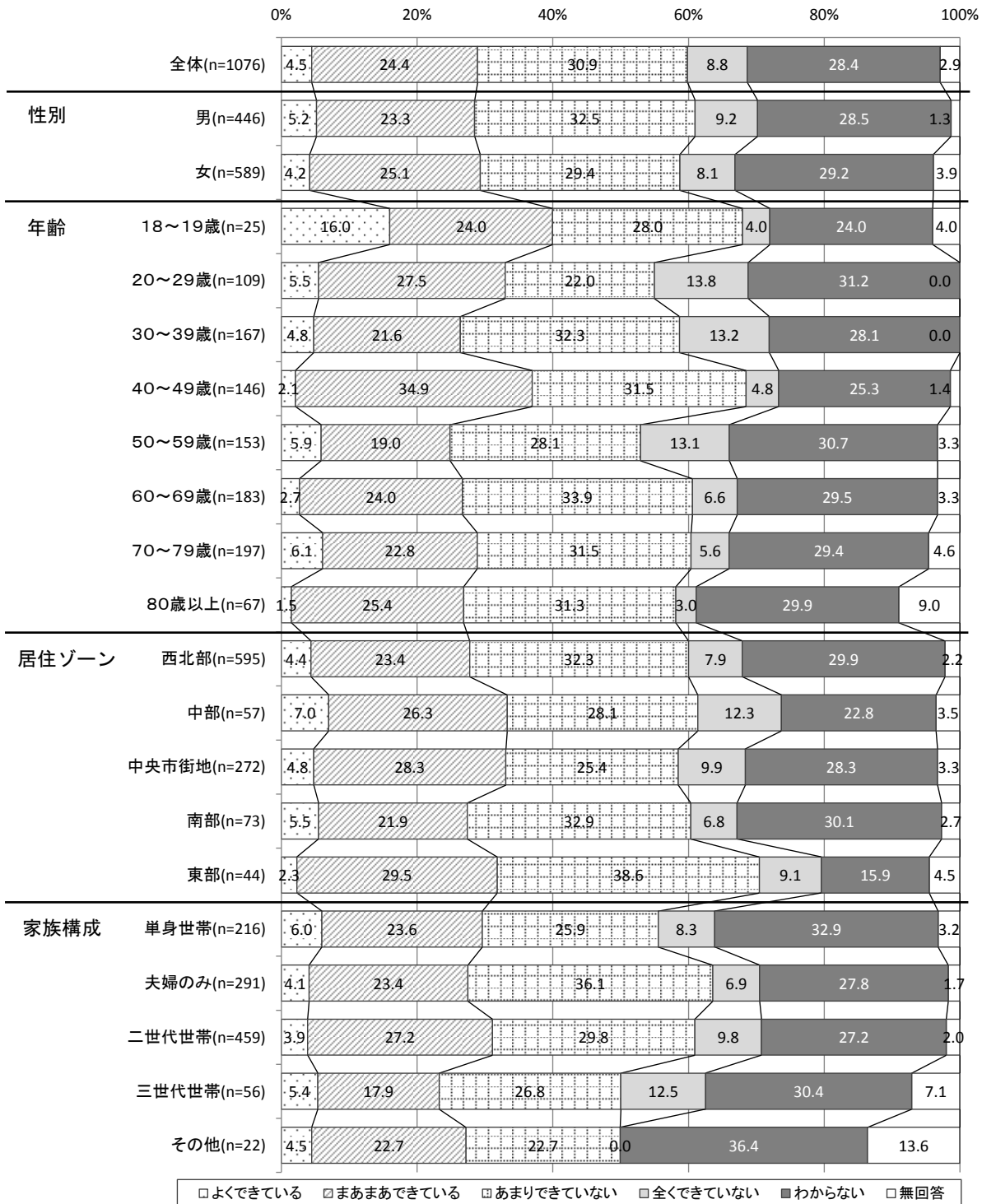


## ■施策 28 交通利便性の向上

施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 28.9%で、他の施策と比較するとやや少ない。18～19 歳と 40 歳代では、「できている」とする回答が約 40%であり、その他の年齢階級よりも多い。

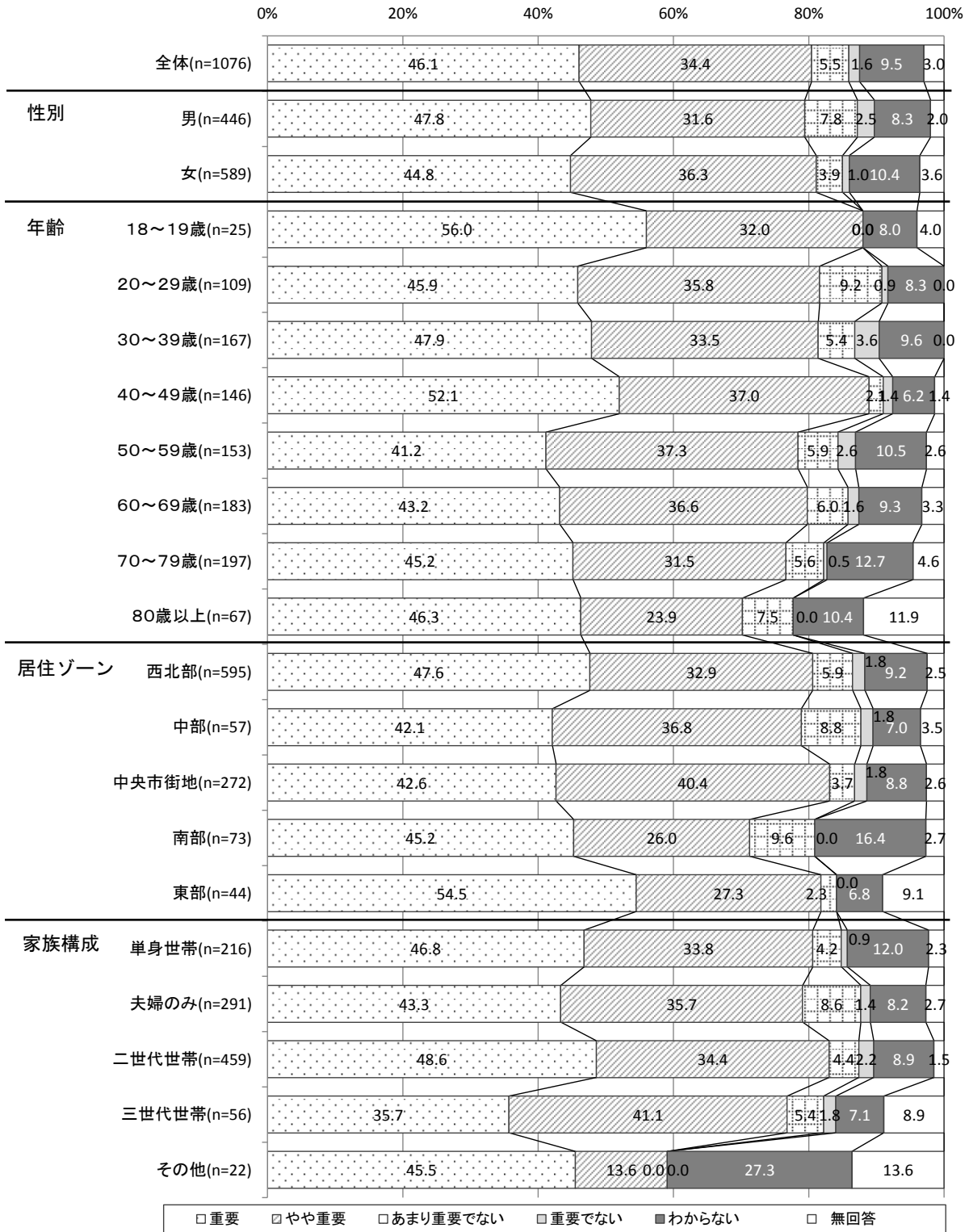
重要度については、18～19 歳から 40 歳代では「重要」とする回答が 80%を超え、居住ゾーン別では、他地域が 80%前後である中で、南部のみが 71.2%にとどまっている。

図表 II-97 「施策 28 交通利便性の向上」についての評価





図表 II-98 「施策 28 交通利便性の向上」についての重要度

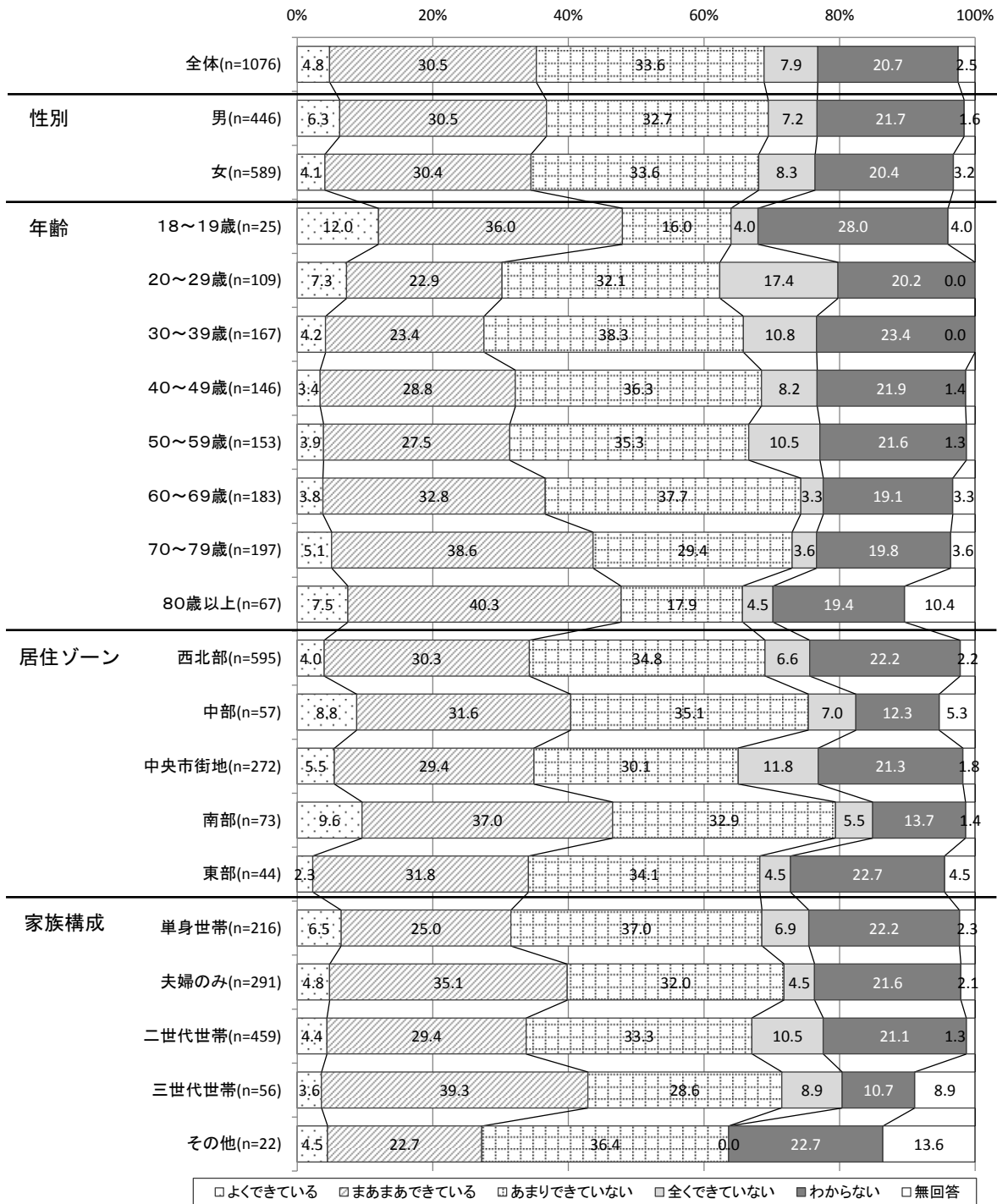


## ■施策 29 道路整備の推進

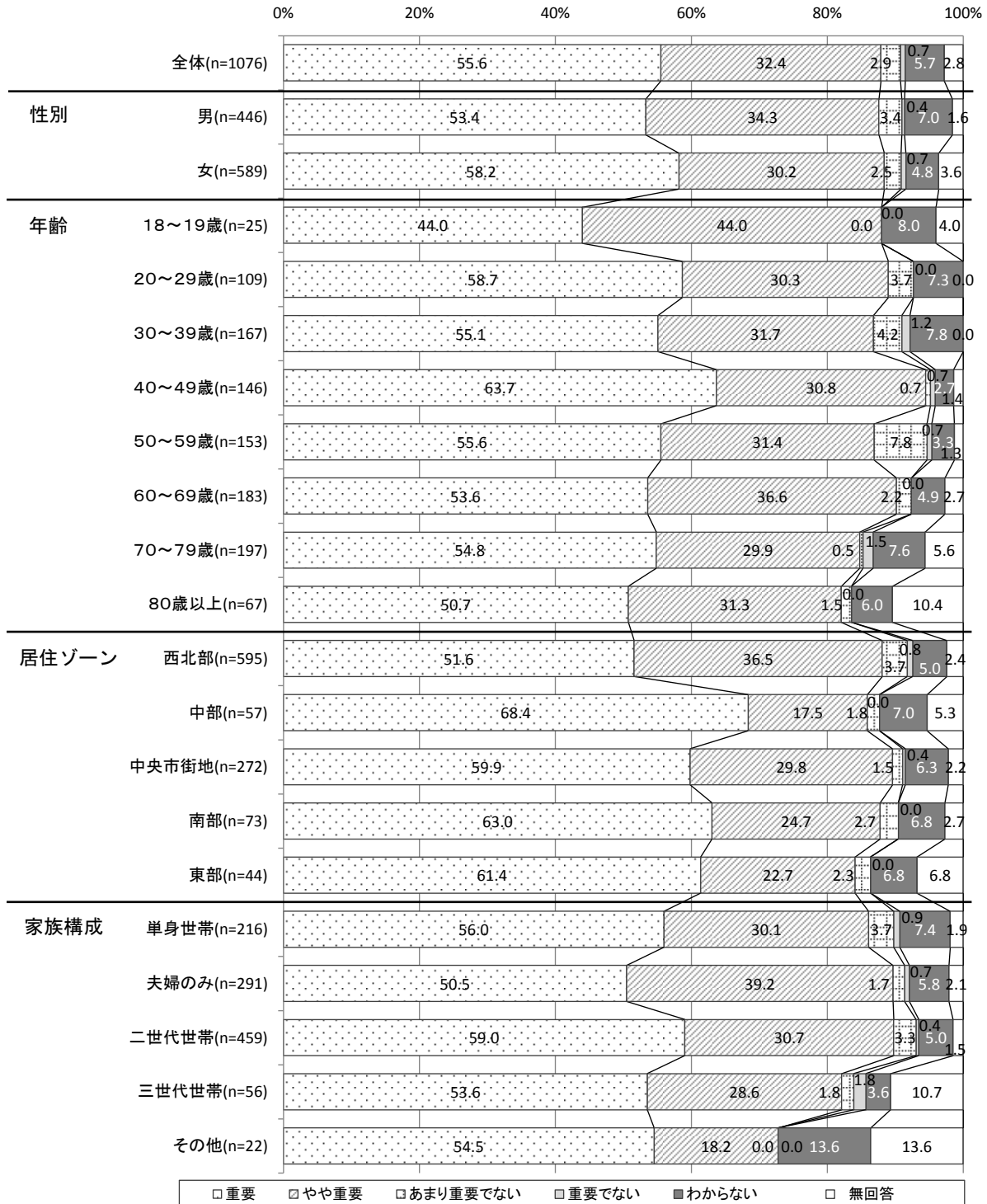
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 35.3%である。年齢別では、18～19歳で「できている」とする回答が 48.0%と多く、50歳代以上では、年齢が上がるにつれて「できている」とする回答が多くなっている。居住ゾーン別では、南部で「できている」とする回答が他の地域よりもやや多い。

重要度については、全ての年齢階級並びに全ての居住ゾーンで、「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-99 「施策 29 道路整備の推進」についての評価



図表 II-100 「施策 29 道路整備の推進」についての重要度

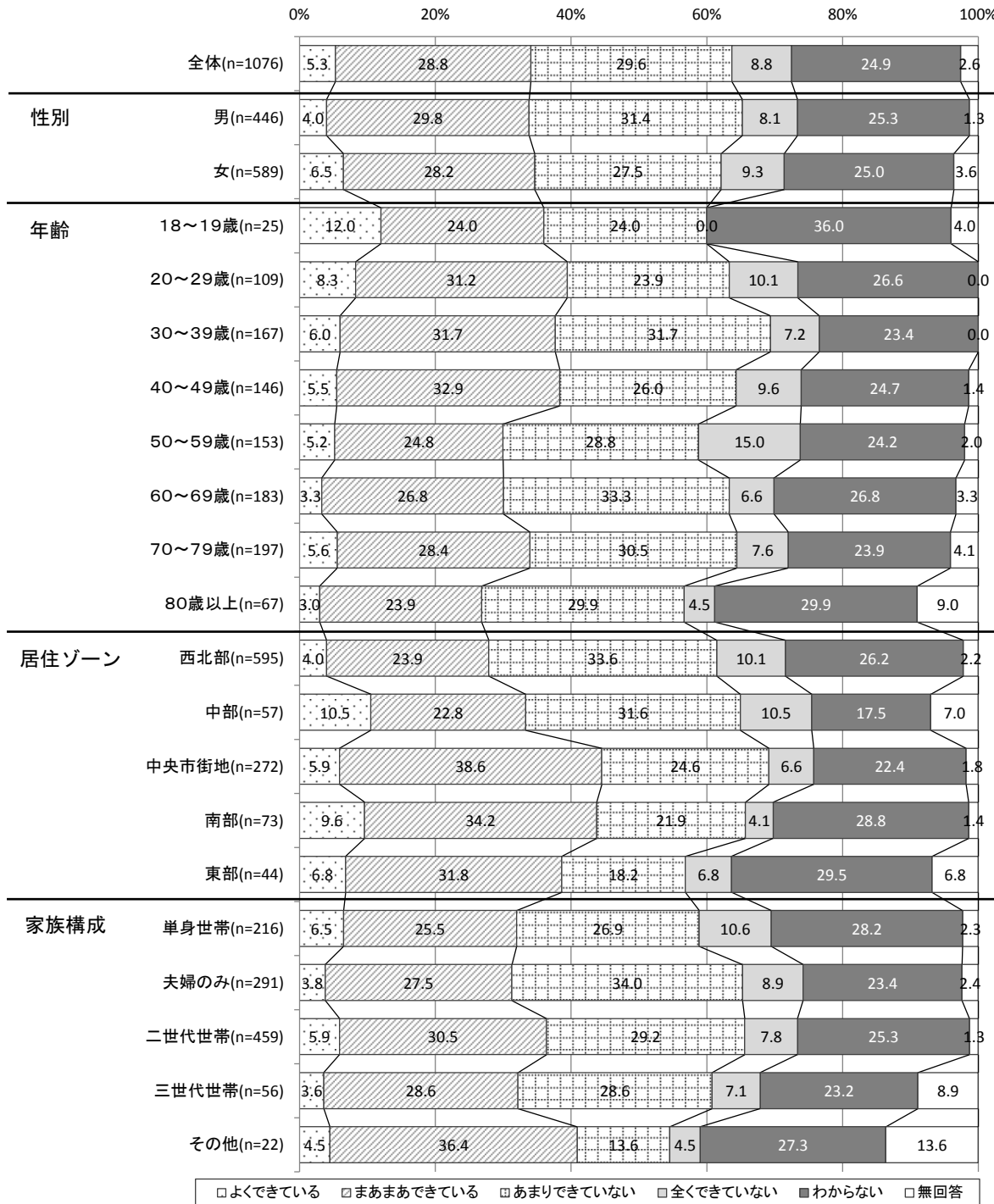


## ■施策 30 市街地整備の推進

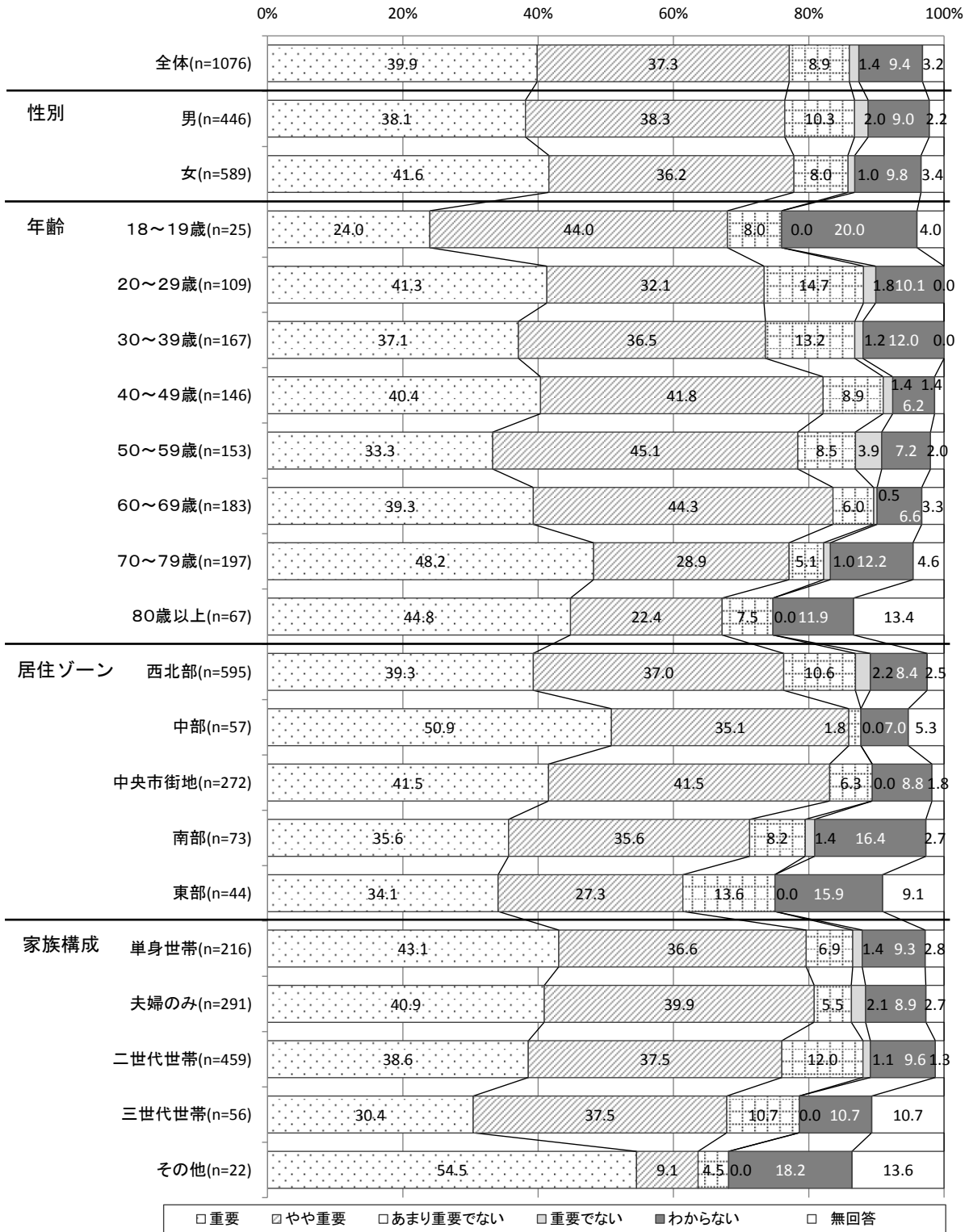
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 34.1%である。居住ゾーン別では、中央市街地と南部で「できている」とする回答が 40%を超えている。

重要度については、居住ゾーン別では回答にばらつきがあり、中部と中心市街地では「重要」とする回答が 80%を超えている一方、北西部と南部、東部では 80%を下回り、特に東部では少なくなっている。

図表 II-101 「施策 30 市街地整備の推進」についての評価



図表 II-102 「施策 30 市街地整備の推進」についての重要度

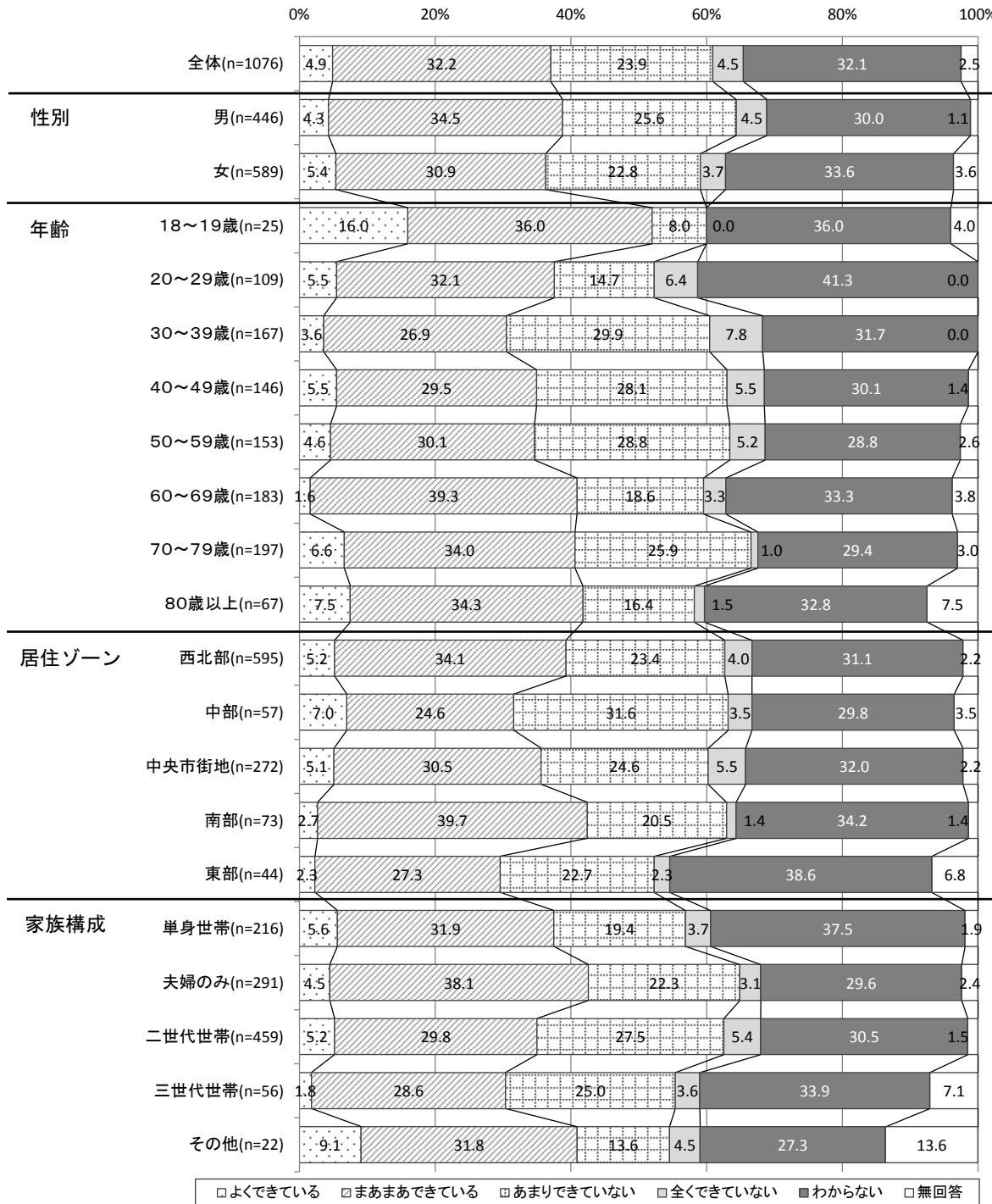


## ■施策 31 公園・緑地の整備

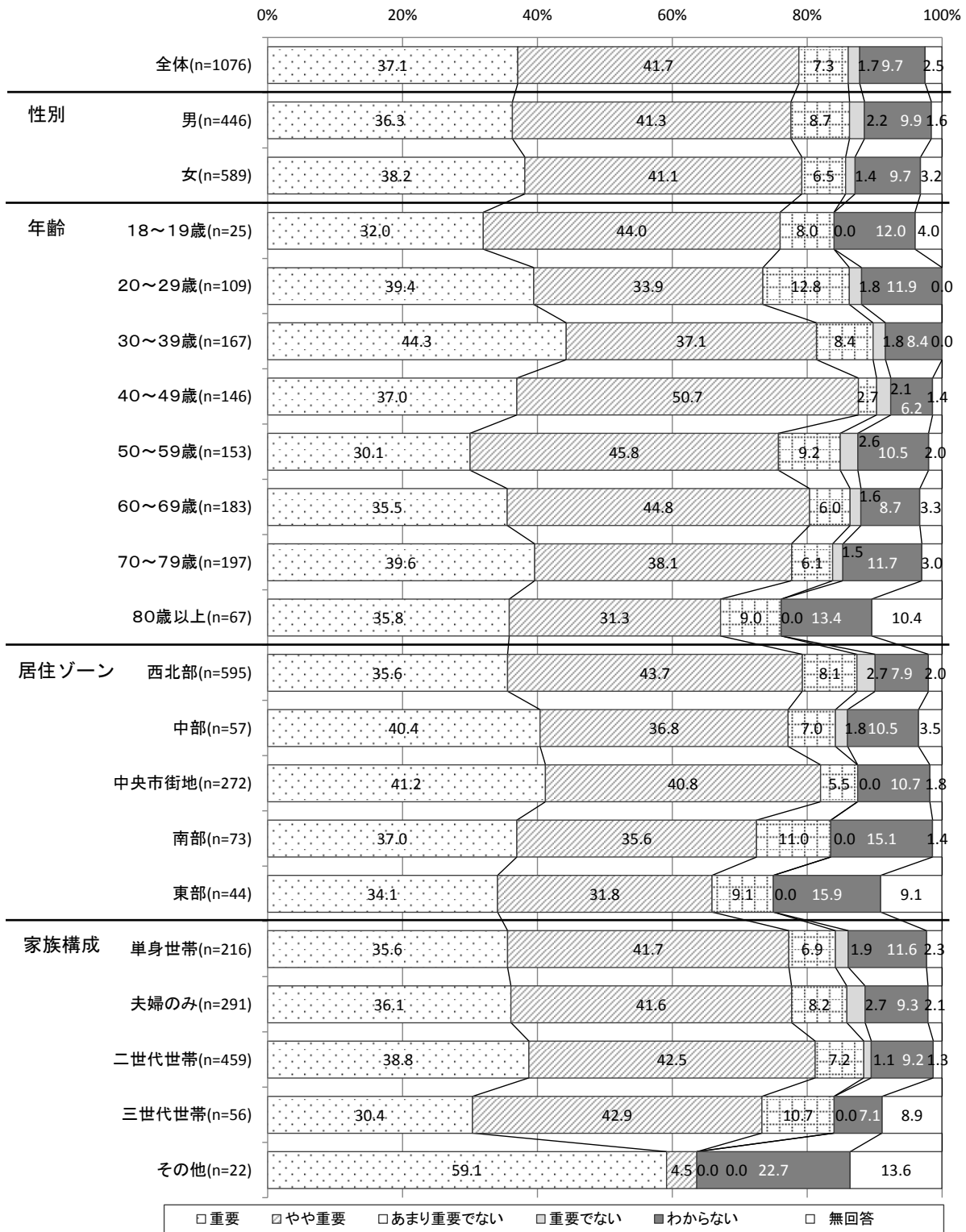
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 37.1%である。年齢別では 18～19 歳で「できている」とする回答が半数を超えている。

重要度については、公園で子どもを遊ばせる人が多い年代である 30 歳代、40 歳代と 60 歳代で、「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-103 「施策 31 公園・緑地の整備」についての評価



図表 II-104 「施策 31 公園・緑地の整備」についての重要度

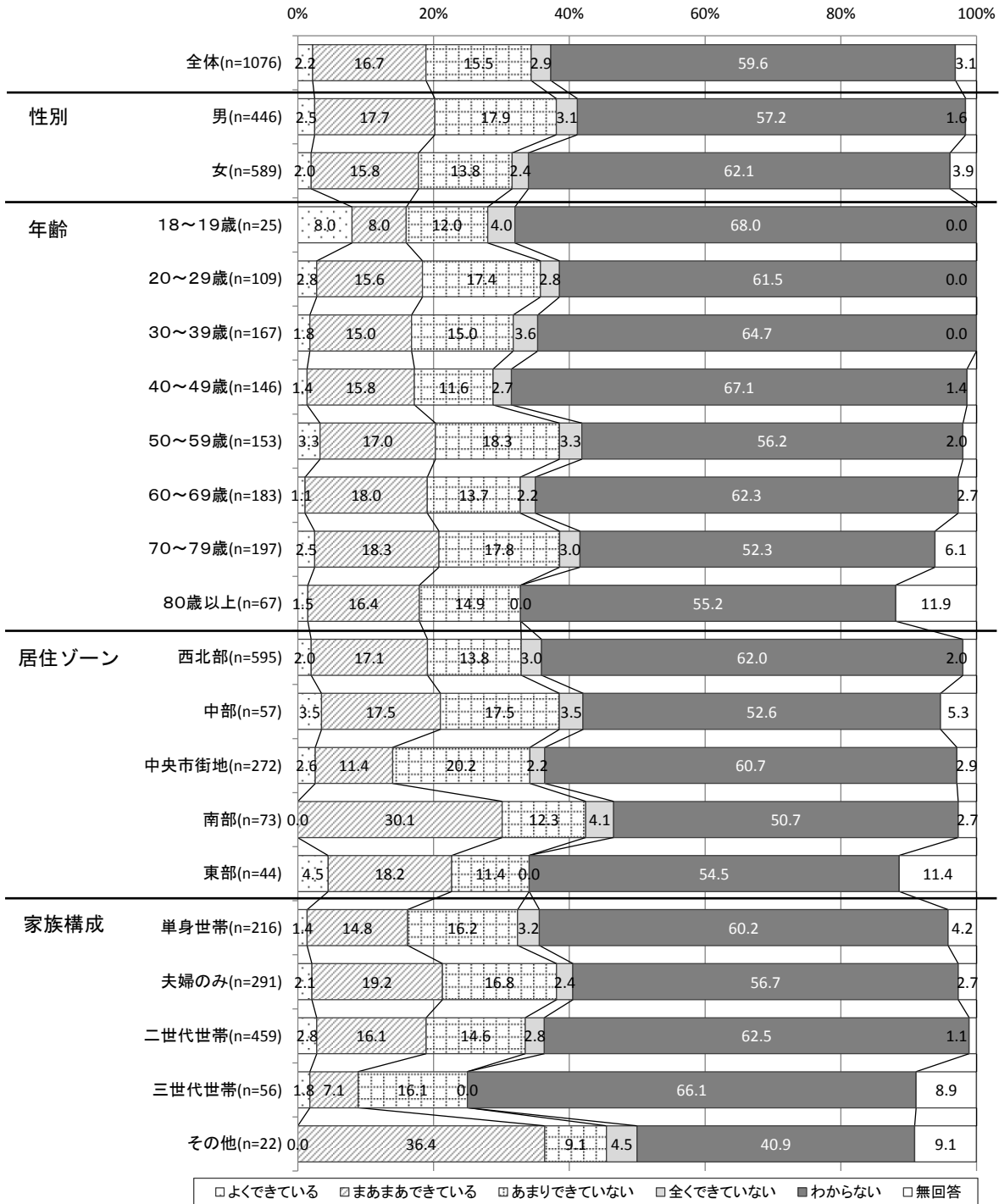


## ■施策 32 居住環境の整備促進

施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 18.9%にとどまり、全施策の中でも評価が低い施策の一つである。居住ゾーン別では、南部で「できている」とする回答が 30.1%と、その他のゾーンよりも多くなっている。

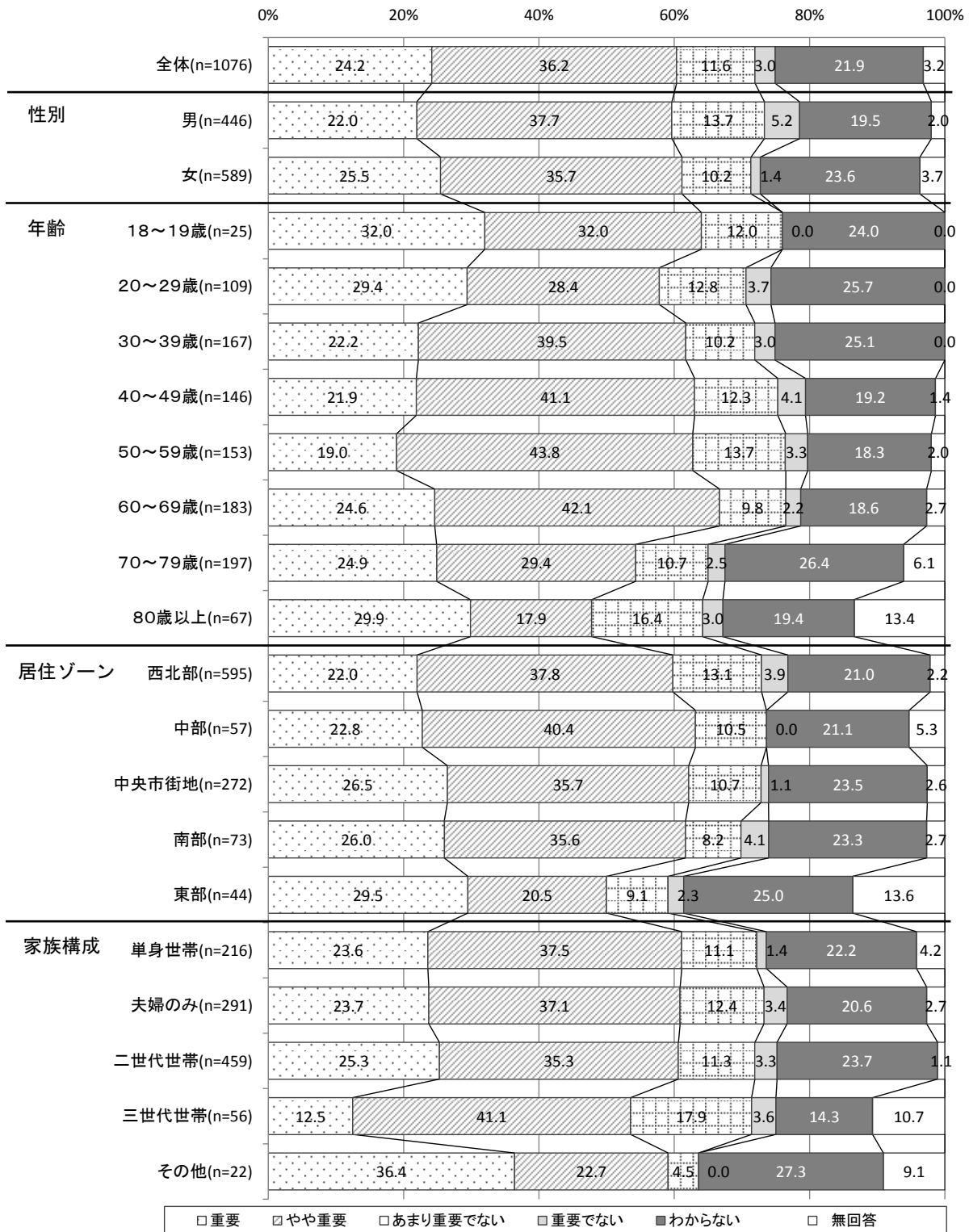
重要度については、18～19歳と、30歳代から60歳代で「重要」とする回答が60%を超えている。居住ゾーン別では、東部で「重要」とする回答が50.0%であり、他地域よりも少ない。

図表 II-105 「施策 32 居住環境の整備促進」についての評価





図表 II-106 「施策 32 居住環境の整備促進」についての重要度

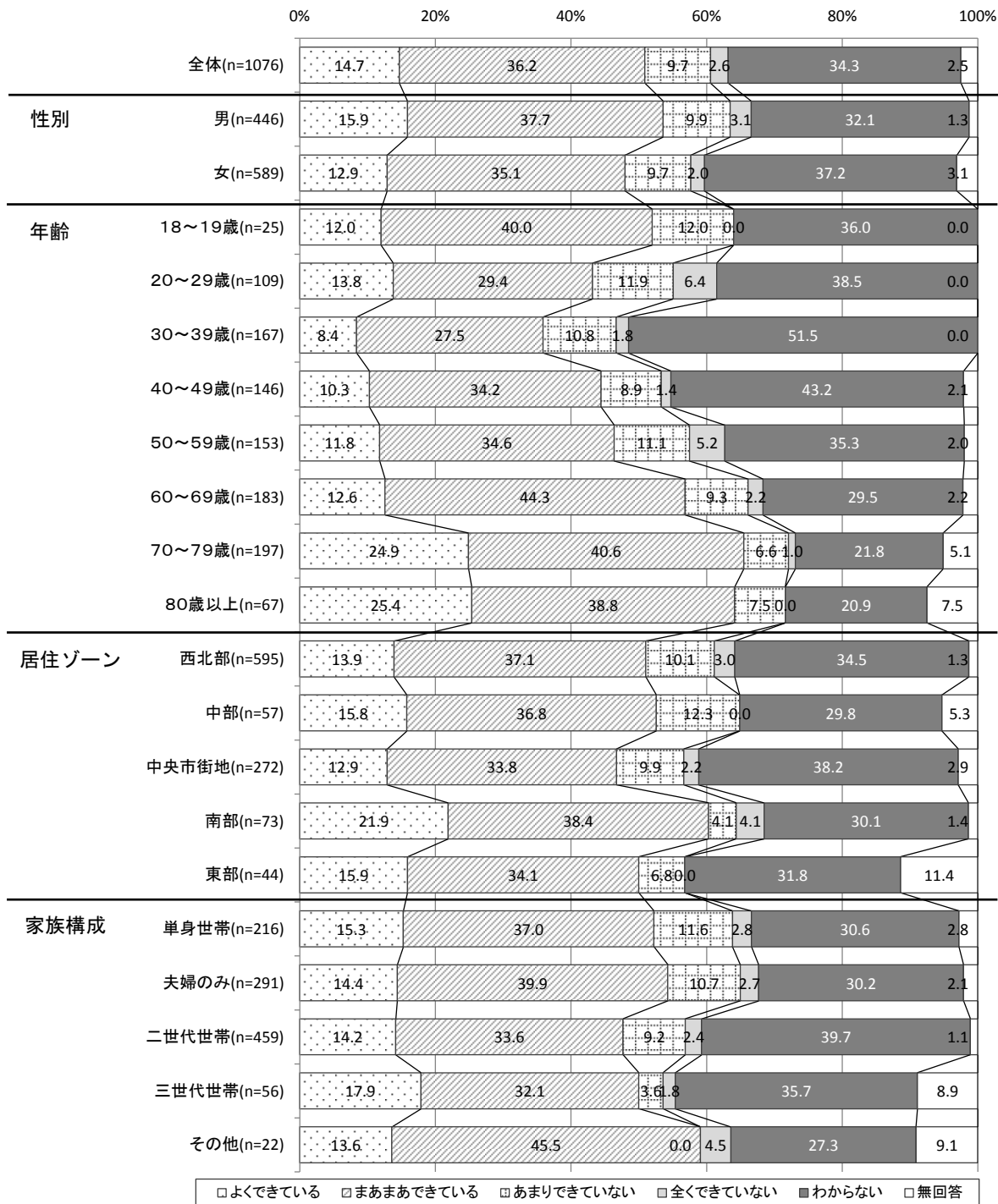


## ■施策 33 安全で信頼できる水道

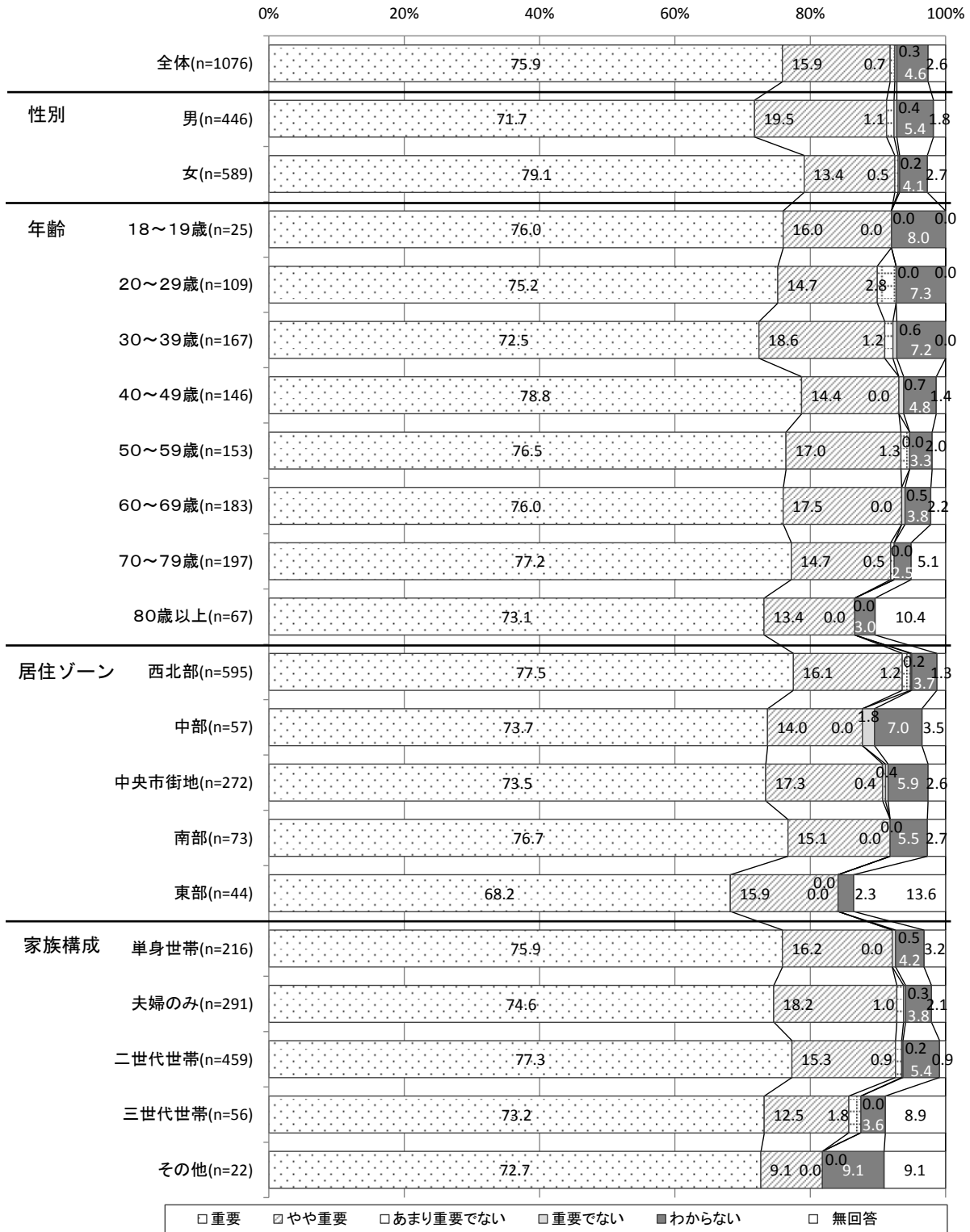
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 50.9%であり、都市基盤に関連する施策の中では最も多い。年齢別では 30 歳代から 70 歳代にかけて、年代が上がるにつれて「できている」とする回答が多くなっている。居住ゾーン別では、南部で「できている」とする回答が 60%を超え、他地域よりも多い。

重要度については、ほとんどの属性で、「重要」とする回答が 90%を超えている。

図表 II-107 「施策 33 安全で信頼できる水道」についての評価



図表 II-108 「施策 33 安全で信頼できる水道」についての重要度

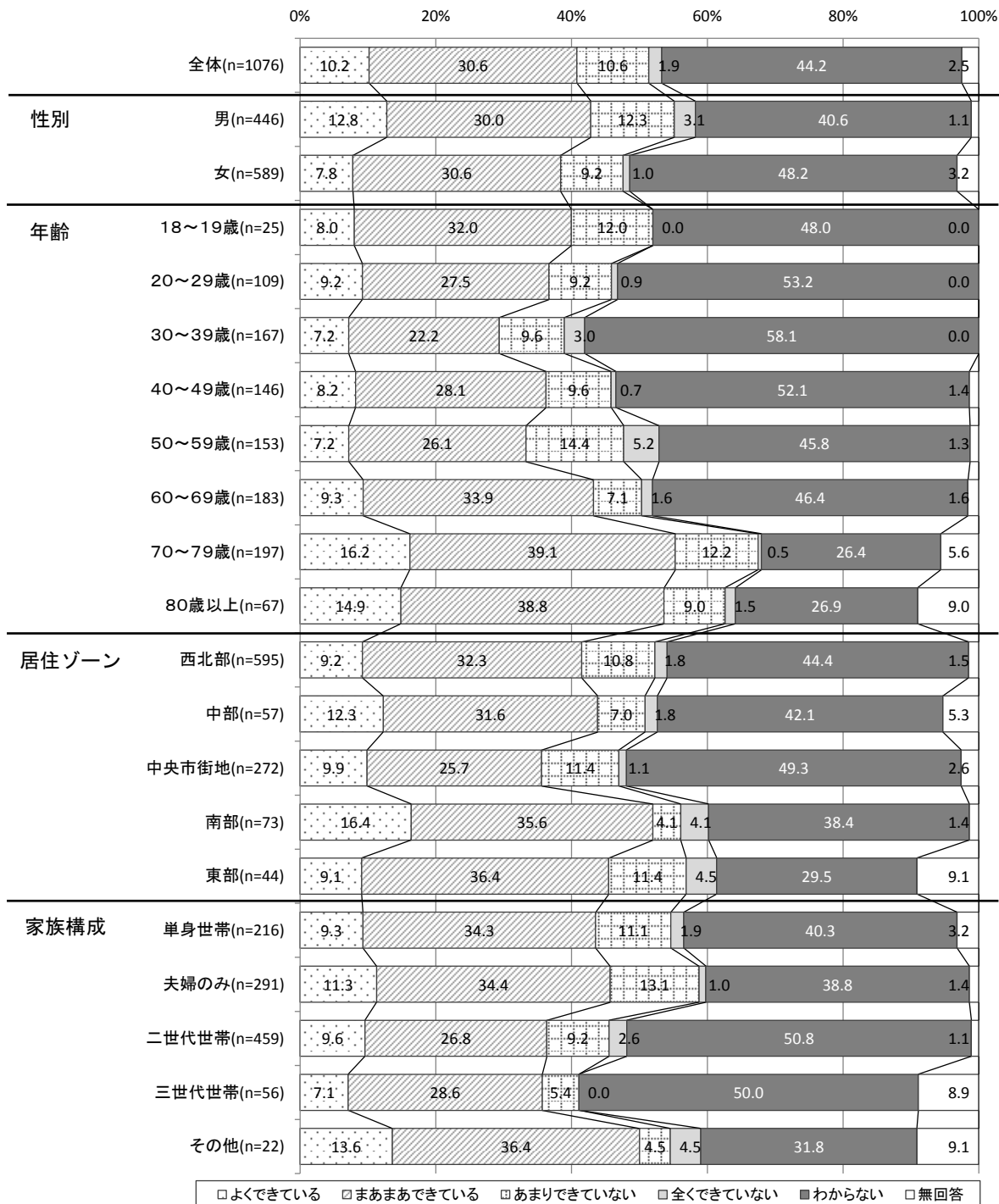


## ■施策 34 下水道の整備促進

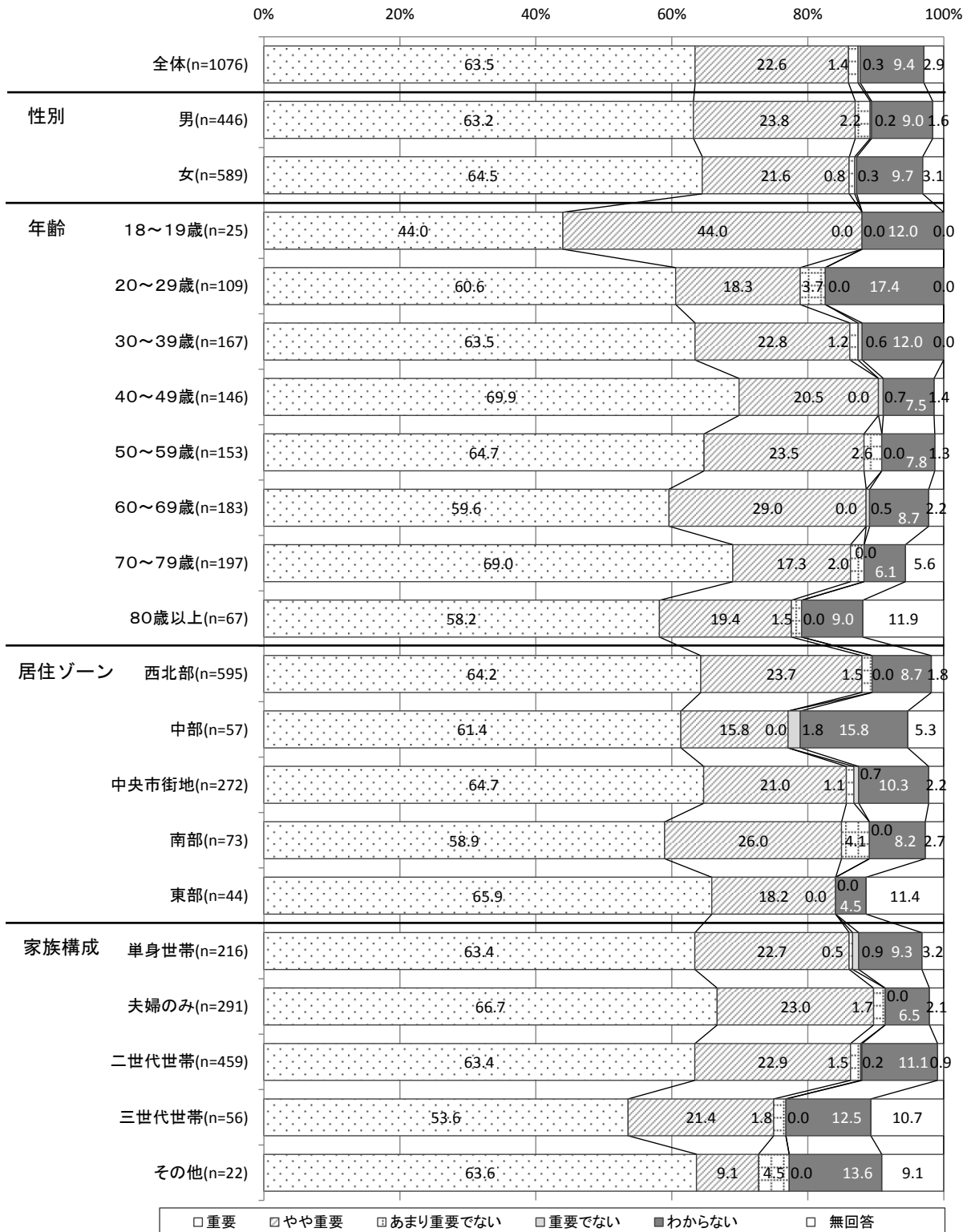
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 40.8%と、全施策の中で比較的评价が高い施策の一つである。年齢別では、50 歳代から 70 歳代で、年代が上がるにつれて「できている」とする回答が多くなっている。居住ゾーン別では、南部で「できている」とする回答が半数を超え、他地域よりも多い。

重要度については、年齢別では 20 歳代と 80 歳以上を除く全ての年齢階級で「重要」とする回答が 80%を超えている。居住ゾーン別では、中部を除く全ての地域で「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-109 「施策 34 下水道の整備促進」についての評価



図表 II-110 「施策 34 下水道の整備促進」についての重要度

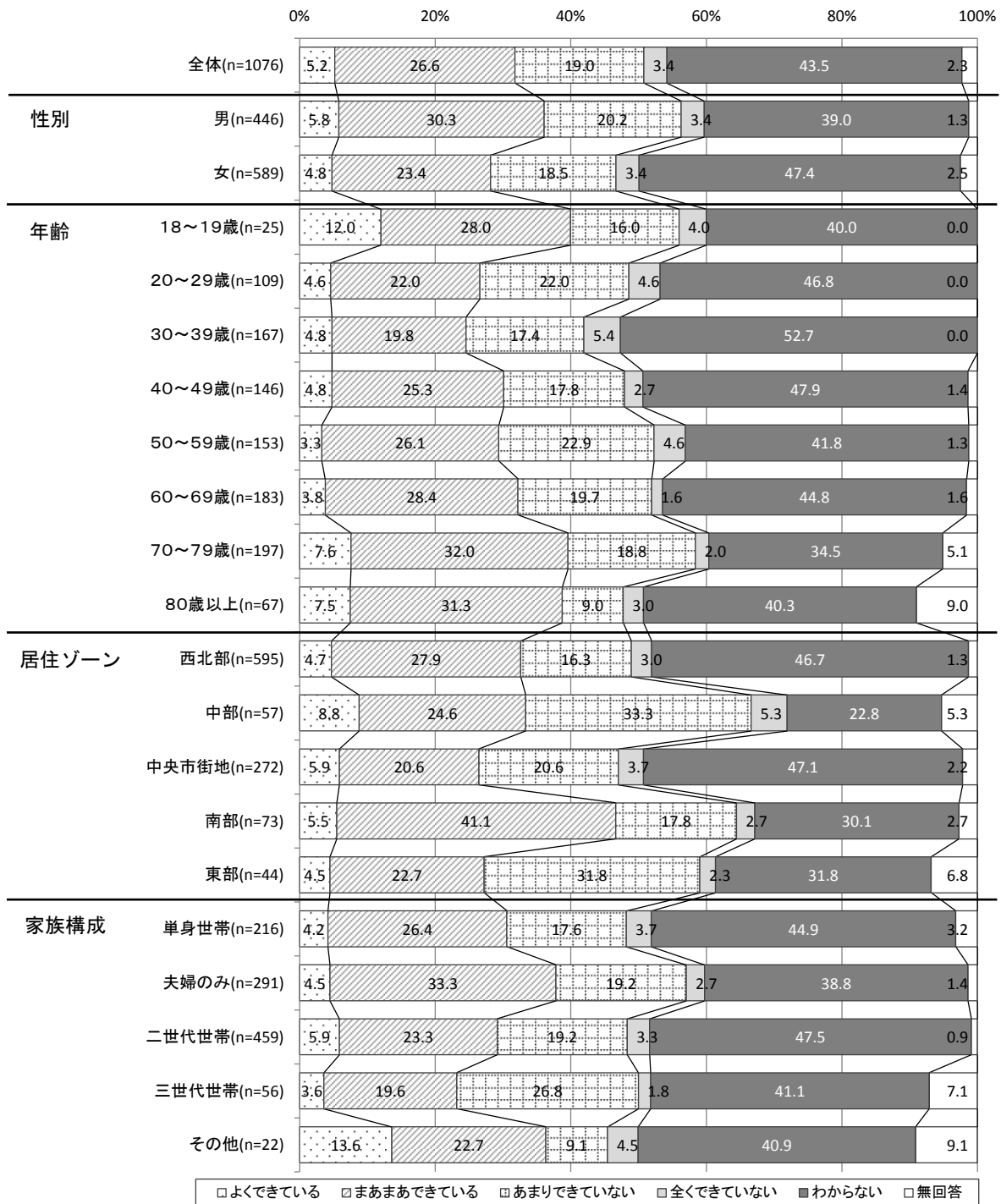


## ■施策 35 河川・水路の整備

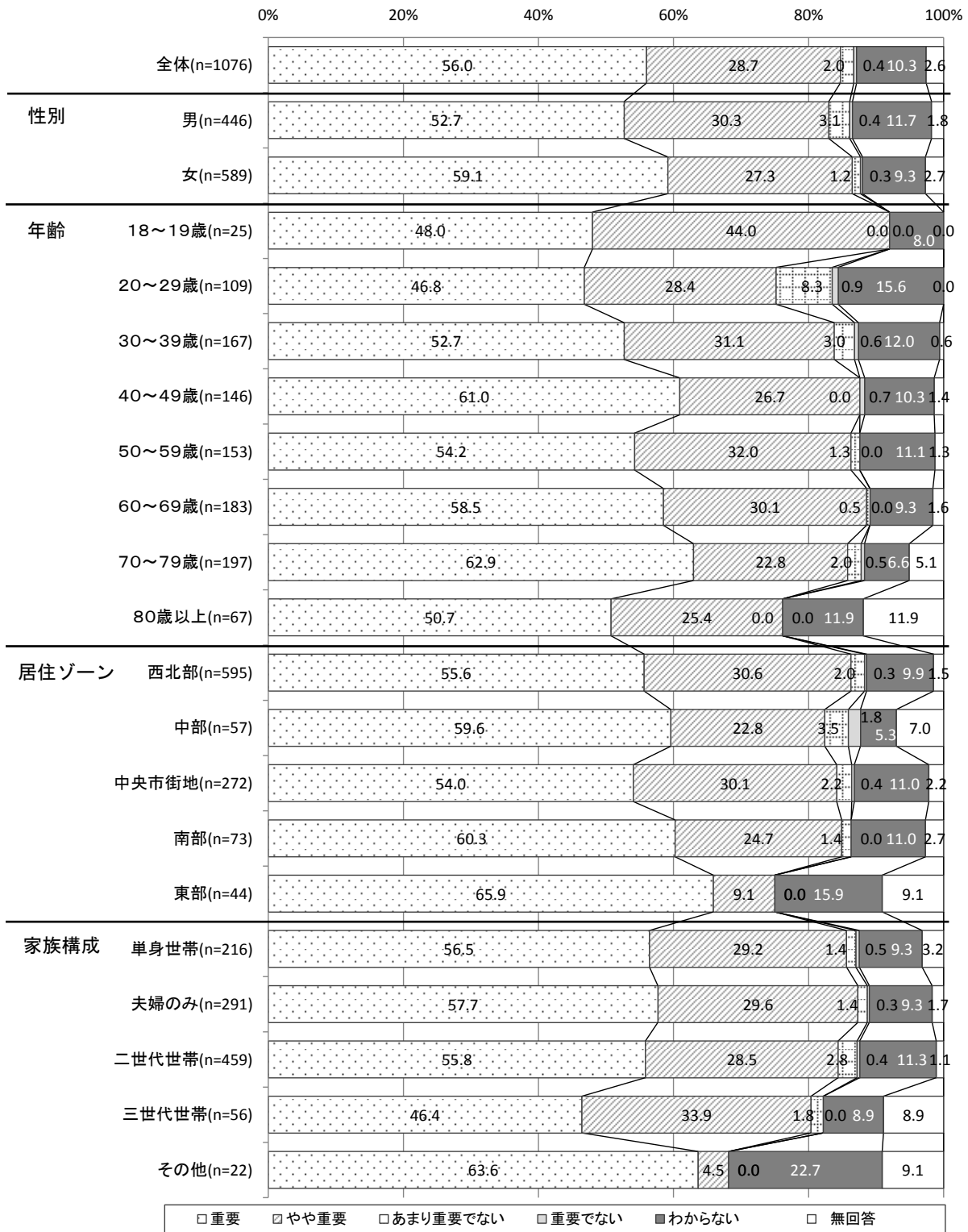
施策の評価では、「できている」とする回答が全体で 31.8%である。居住ゾーン別では、南部で「できている」とする回答が 46.6%であり、他地域よりも高い。

重要度については、年齢別では 20 歳代と 80 歳以上を除く全ての年齢階級で、「重要」とする回答が 80%を超えている。居住ゾーン別では、東部を除く全ての地域で「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-111 「施策 35 河川・水路の整備」についての評価



図表 II-112 「施策 35 河川・水路の整備」についての重要度

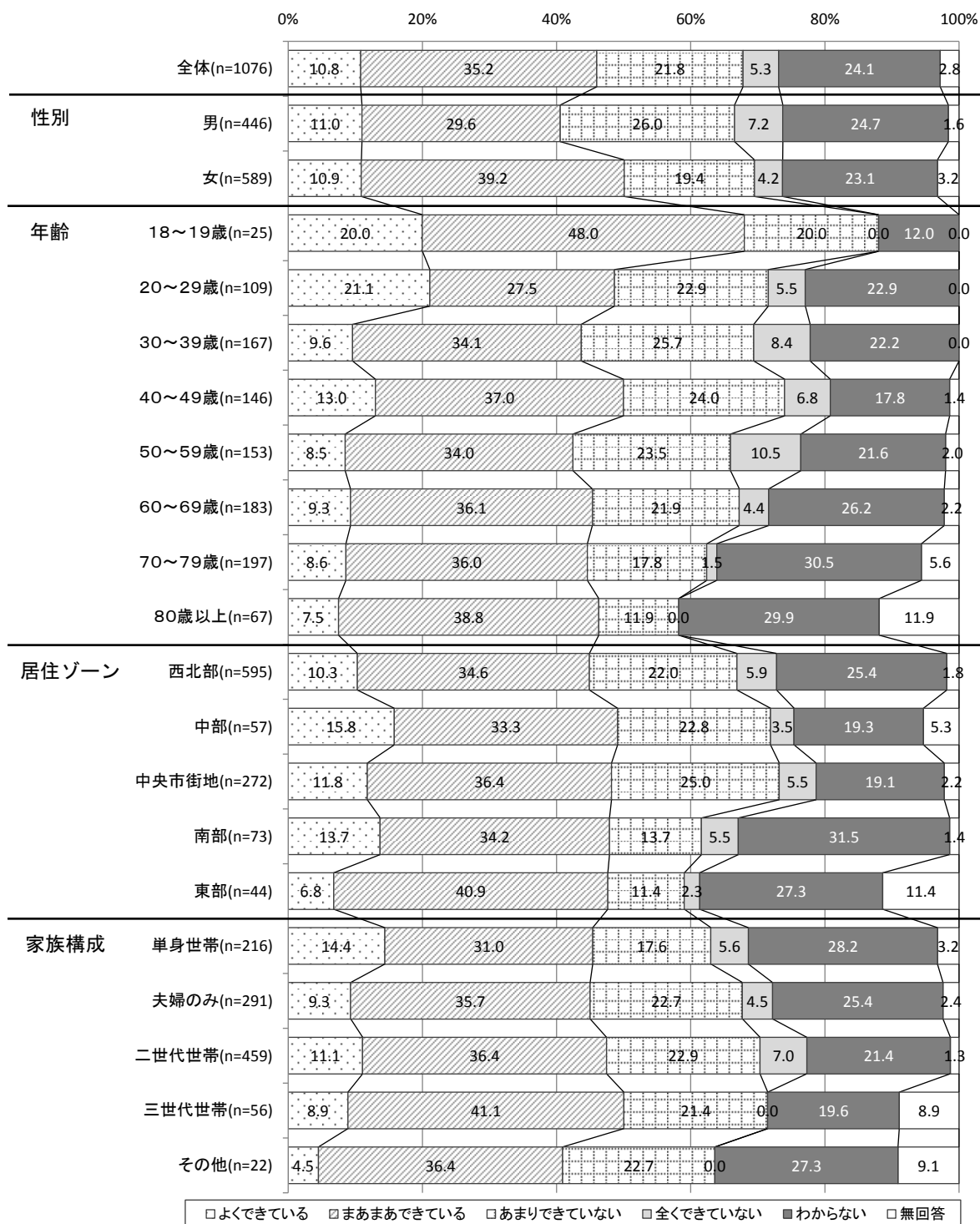


## ■施策 36 観光力の強化

施策の評価では、「できている」（「よくできている」「まあまあできている」の計）とする回答は全体で 46.0%であり、全施策の中で「できている」とする回答が比較的多い施策である。年齢別では 18～19 歳で「できている」とする回答が 70%弱と多い。

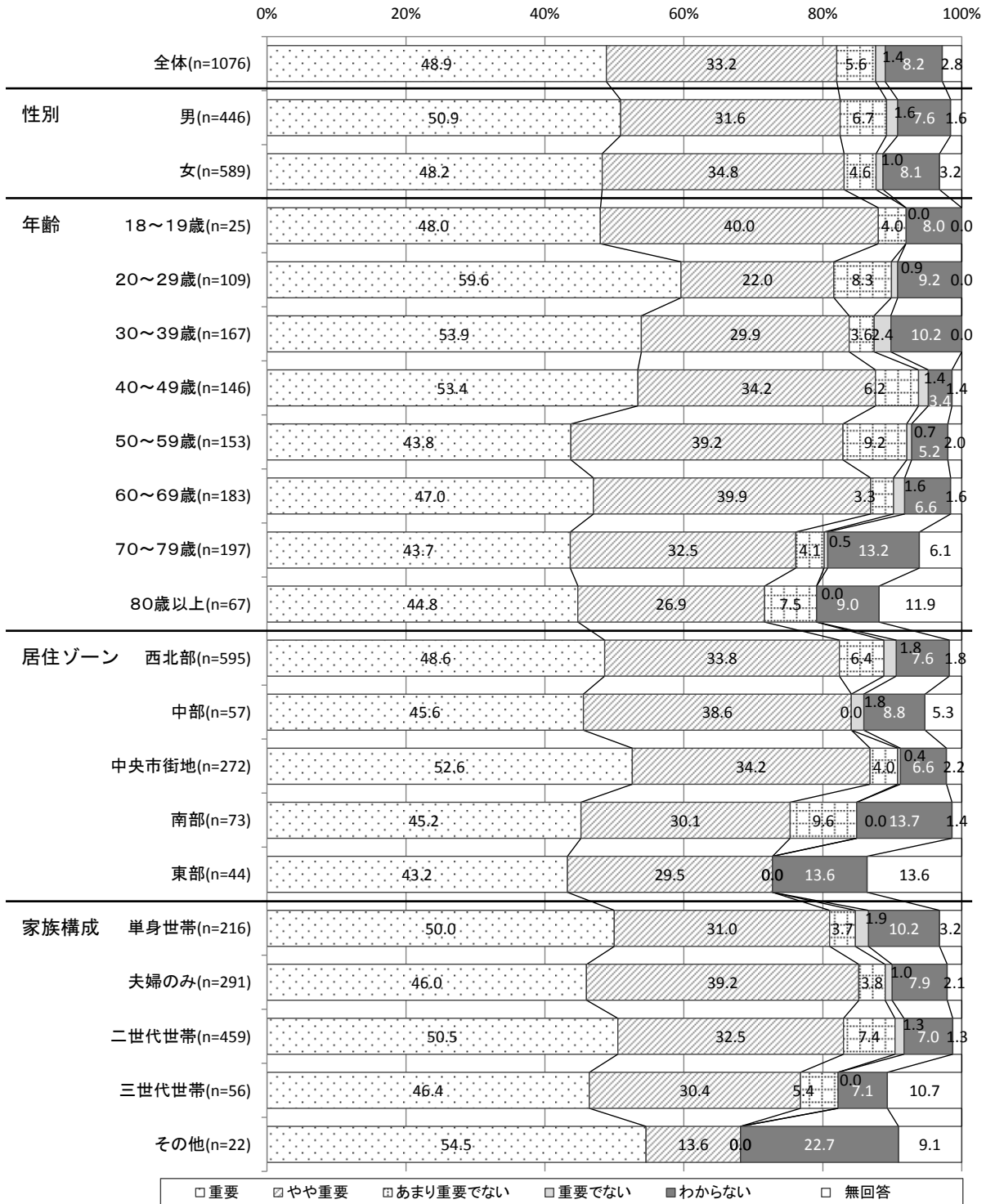
重要度については、18～19 歳から 60 歳代の年齢階級で「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-113 「施策 36 観光力の強化」についての評価





図表 II-114 「施策 36 観光力の強化」についての重要度

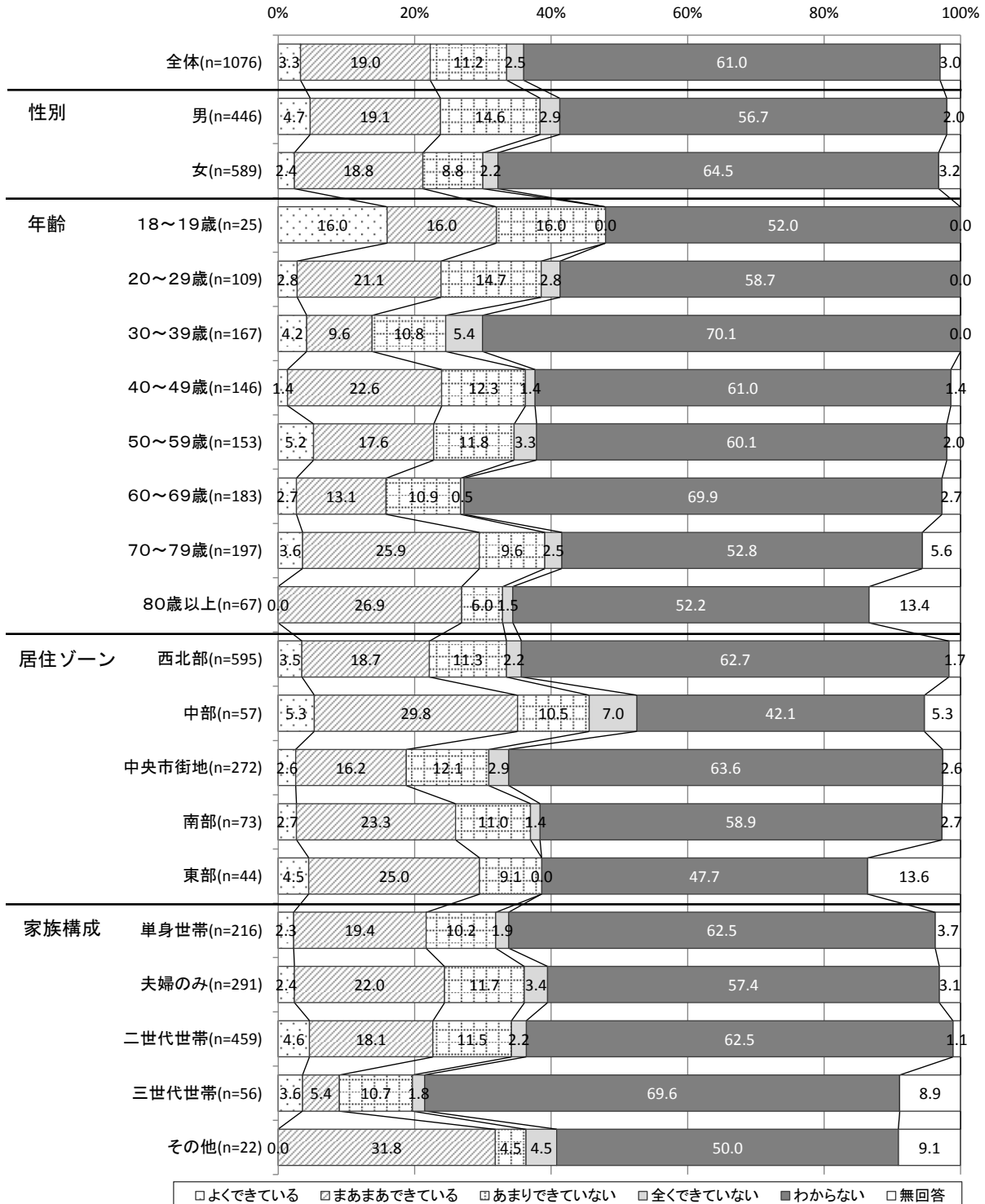


## ■施策 37 国際交流の活発化

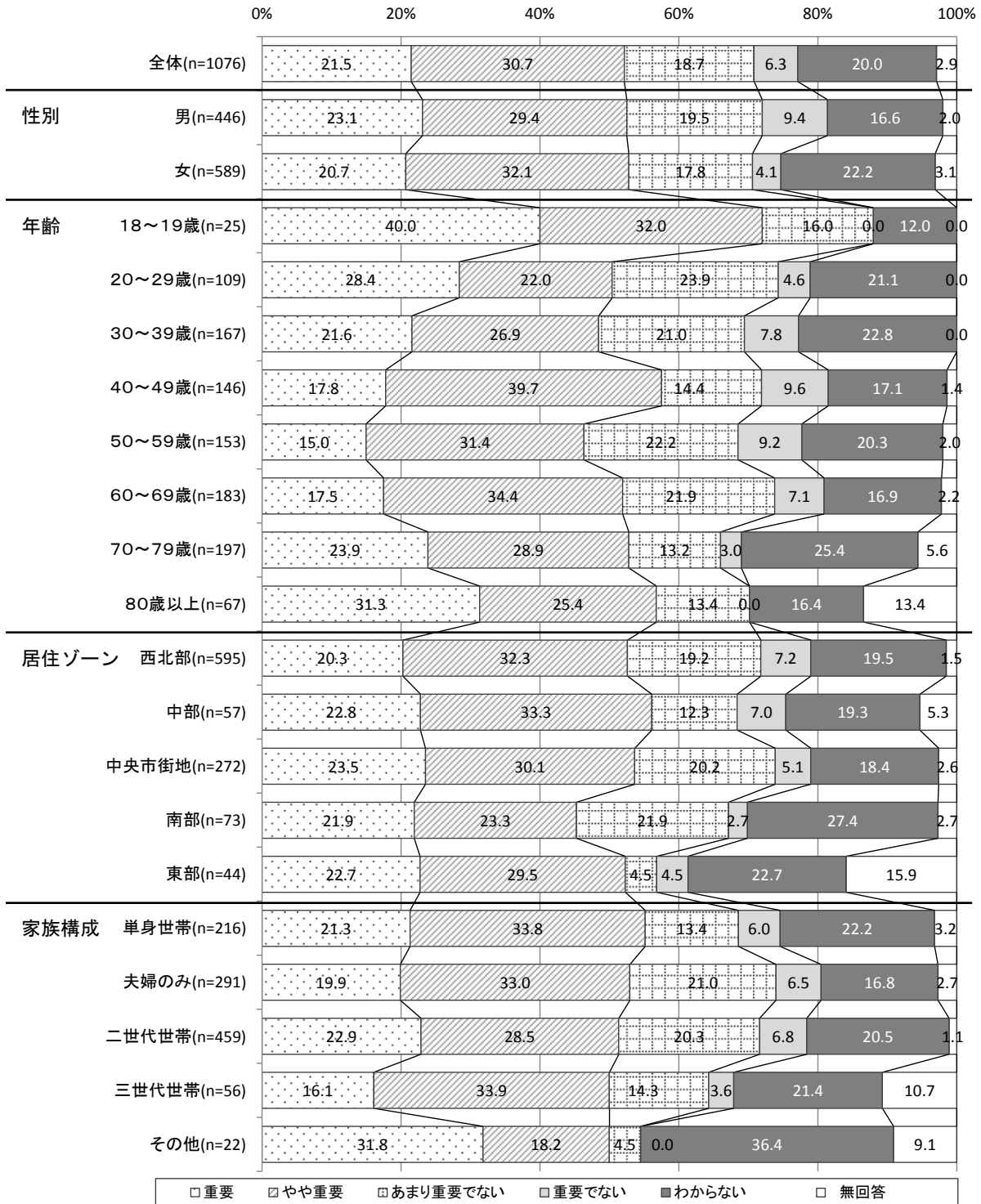
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 22.3%にとどまり、全施策の中でも評価が低い施策の一つである。回答者の約 60%が「わからない」と回答しており、市民が日常生活の中で市の取組に触れる機会が少ないことがうかがわれる。ただし、年齢別にみて「できていない」とする回答が「できている」とする回答を大きく上回るような年齢階級はない。

重要度については、18～19歳で「重要」とする回答がやや多い。

図表 II-115 「施策 37 国際交流の活発化」についての評価



図表 II-116 「施策 37 国際交流の活発化」についての重要度

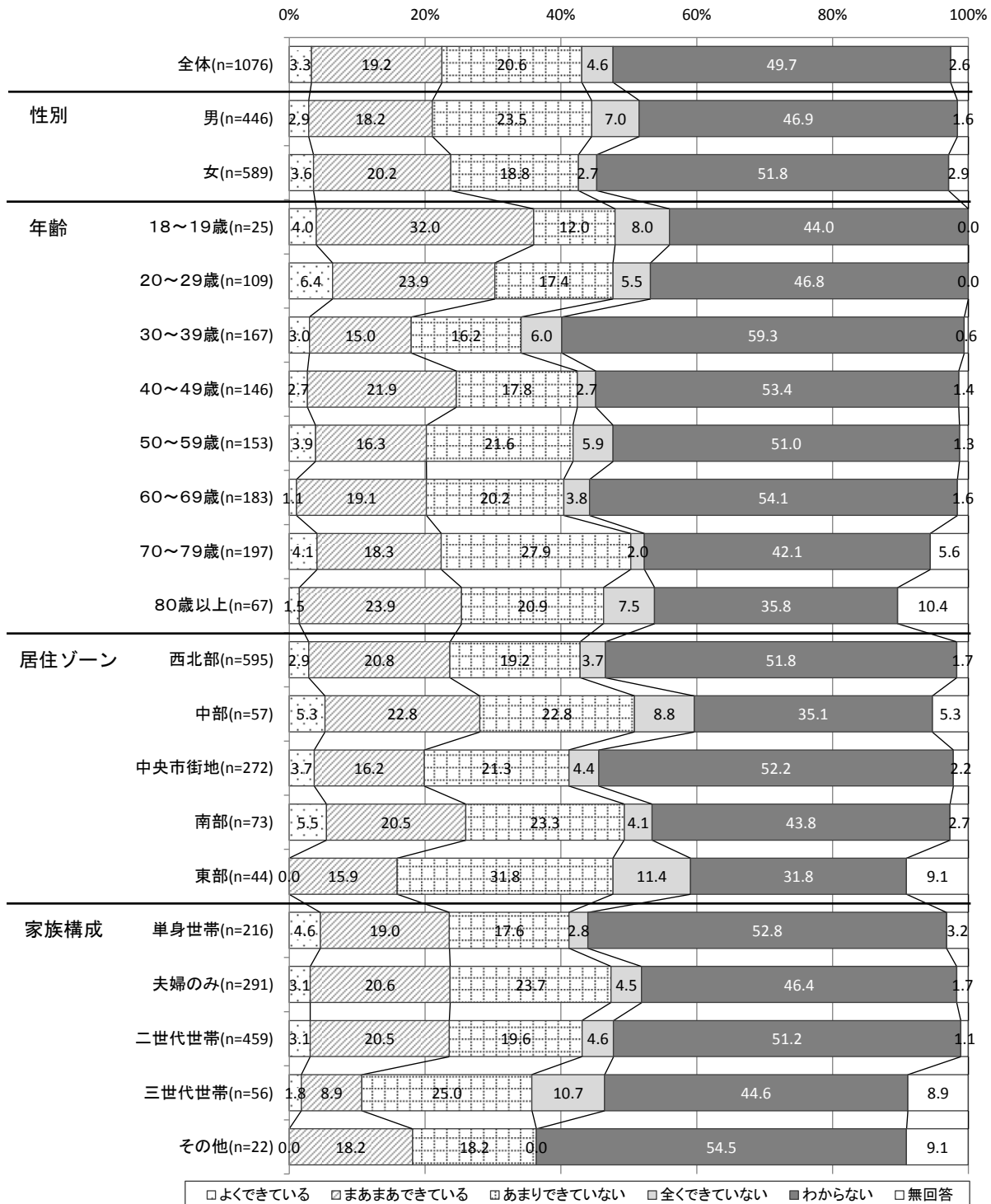


## ■施策 38 農林業の振興

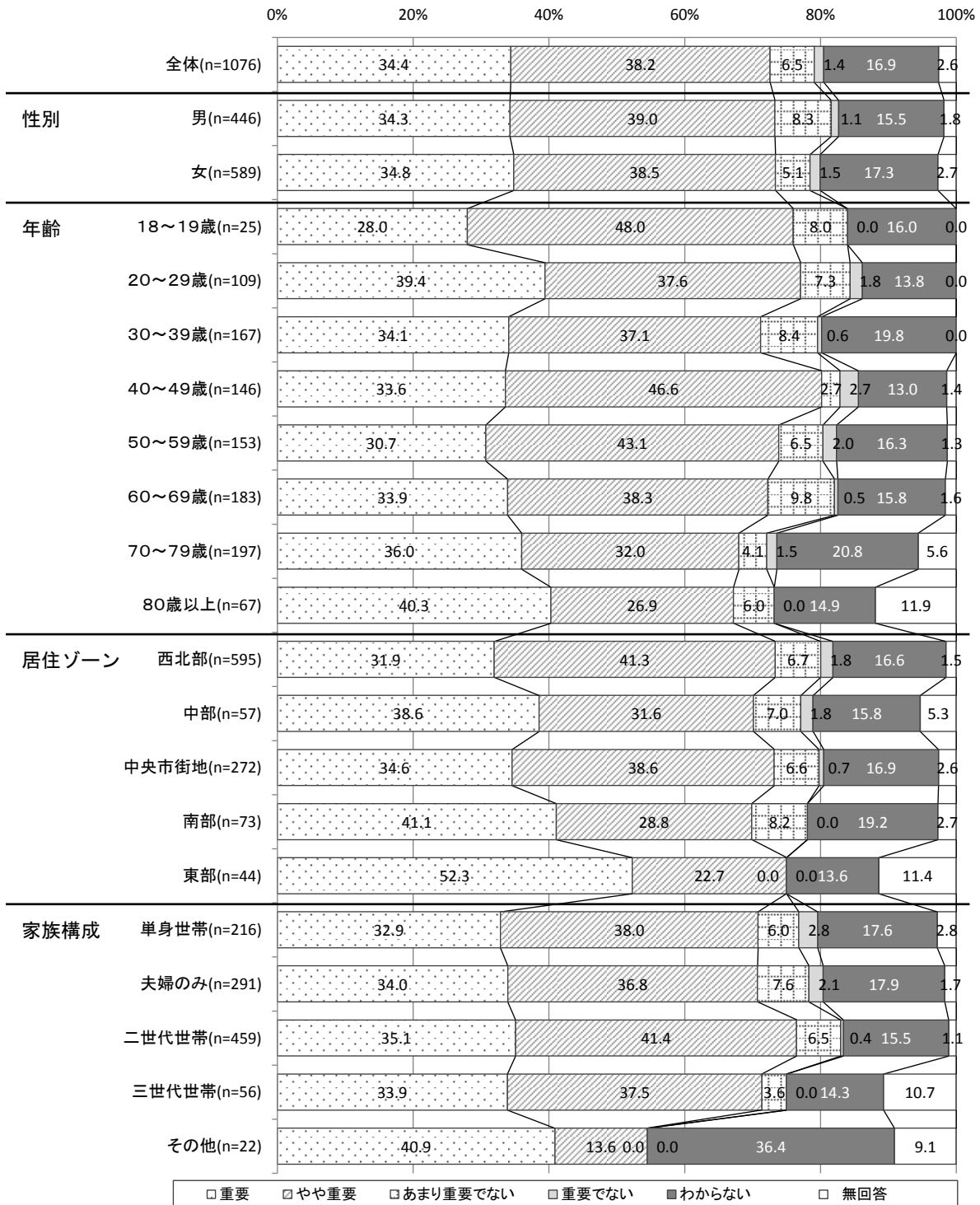
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 22.5%にとどまり、全施策の中でも評価が低い施策の一つである。年齢別では 50 歳代以上で「できていない」とする回答が「できている」とする回答を上回る傾向がみられるが、半数近くの回答者が「わからない」と回答しており、市民が市の取組に触れる機会が少ないことがうかがわれる。

重要度については、40 歳代で「重要」とする回答が 80%以上とやや多い。また、東部では「重要」（「やや重要」を含まず）の回答が半数を超えている。

図表 II-117 「施策 38 農林業の振興」についての評価



図表 II-118 「施策 38 農林業の振興」についての重要度

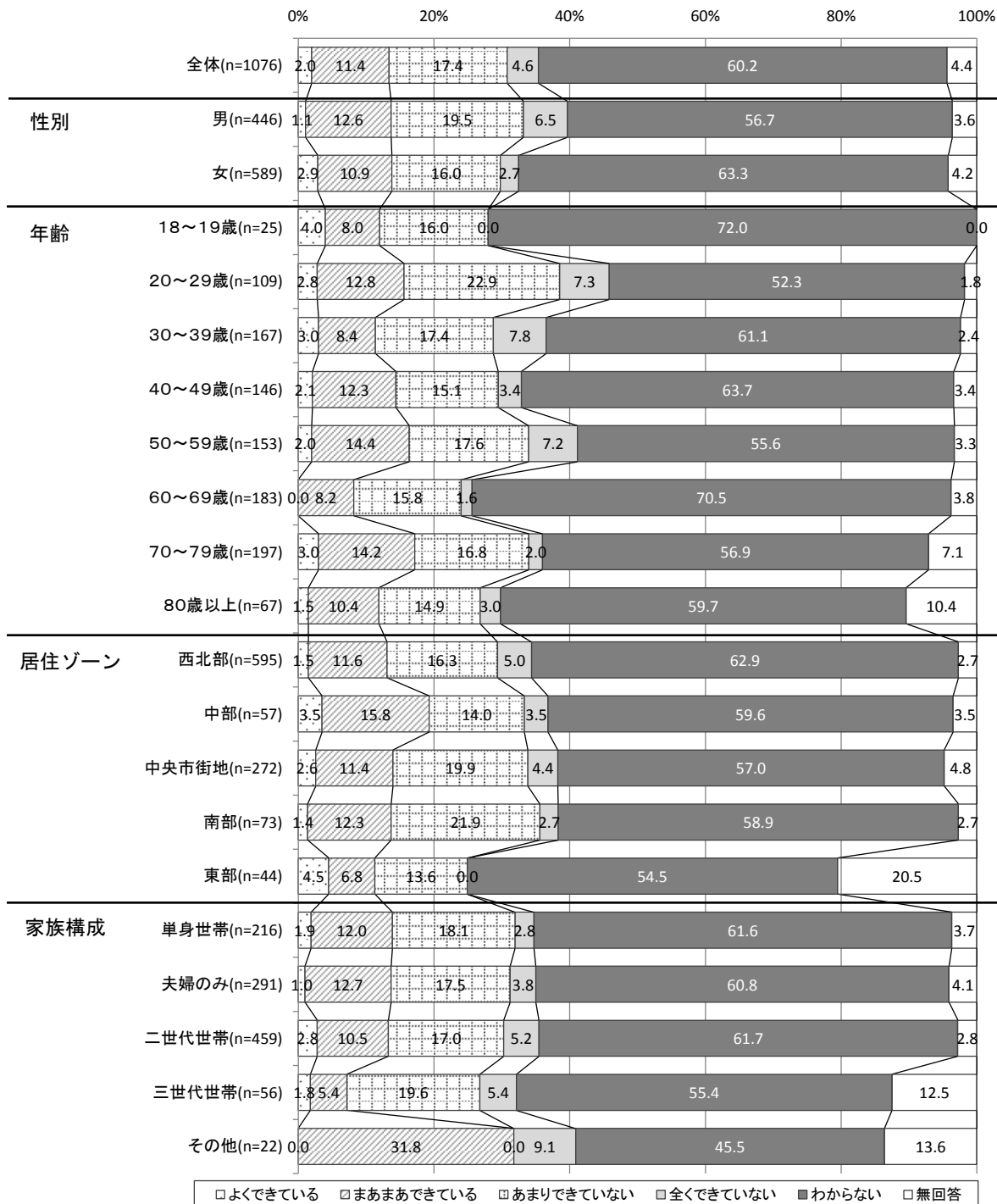


## ■施策 39 商工・サービス業の振興

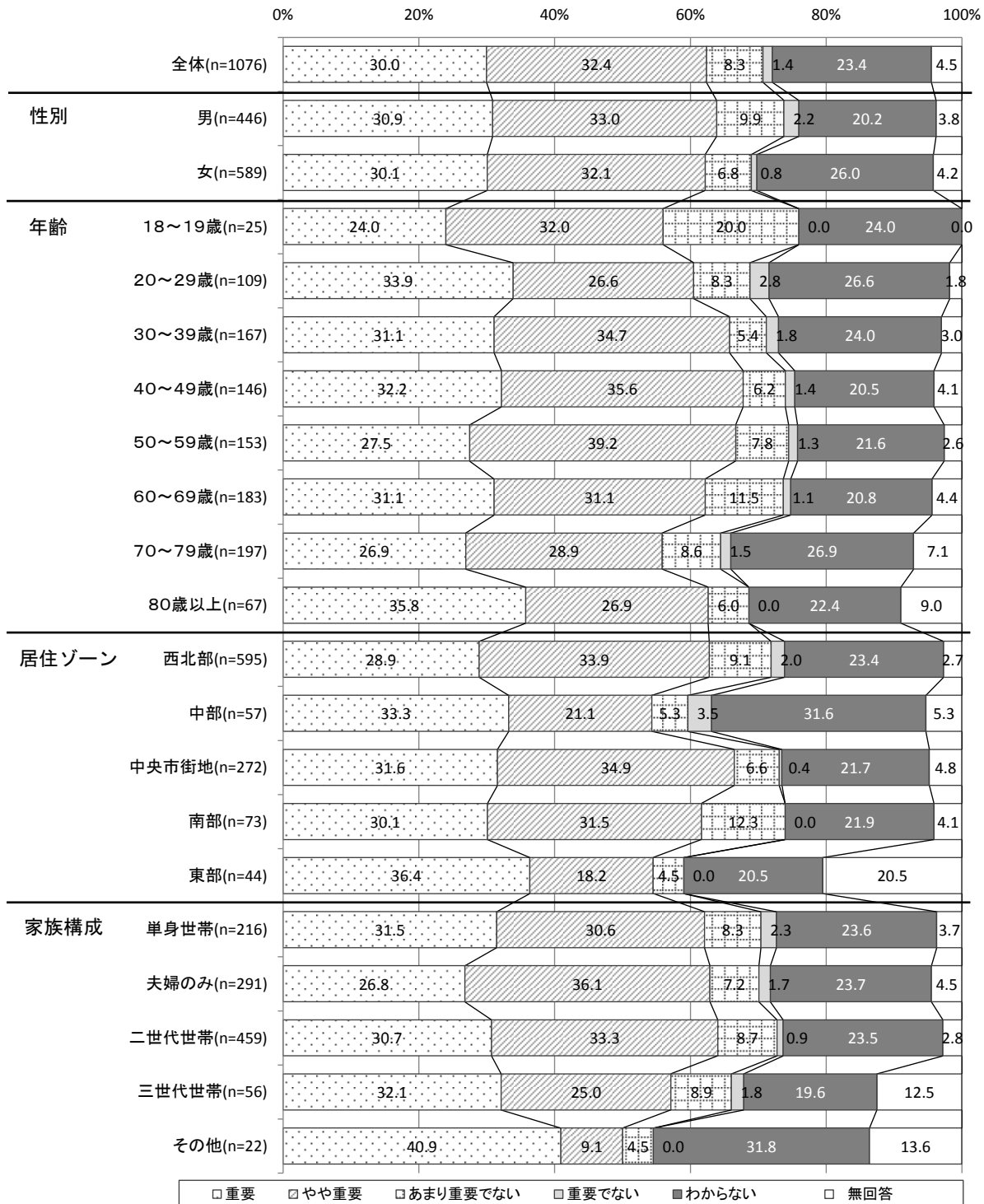
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 13.4%にとどまり、全施策の中で最も評価が低い施策となっている。年齢別にみても、全ての年齢階級で「できていない」とする回答が「できている」とする回答を上回っているが、「わからない」とする回答が全体で約 60%、年齢階級によっては 70%を超えており、日常生活の中で市の取組に触れる機会が少ないことがうかがわれる。

重要度については、「重要」とする回答が全体で 60%強にとどまり、「国際交流の活発化」「居住環境の整備促進」とともに「重要」とする回答が少ない施策となっている。

図表 II-119 「施策 39 商工・サービス業の振興」についての評価



図表 II-120 「施策 39 商工・サービス業の振興」についての重要度

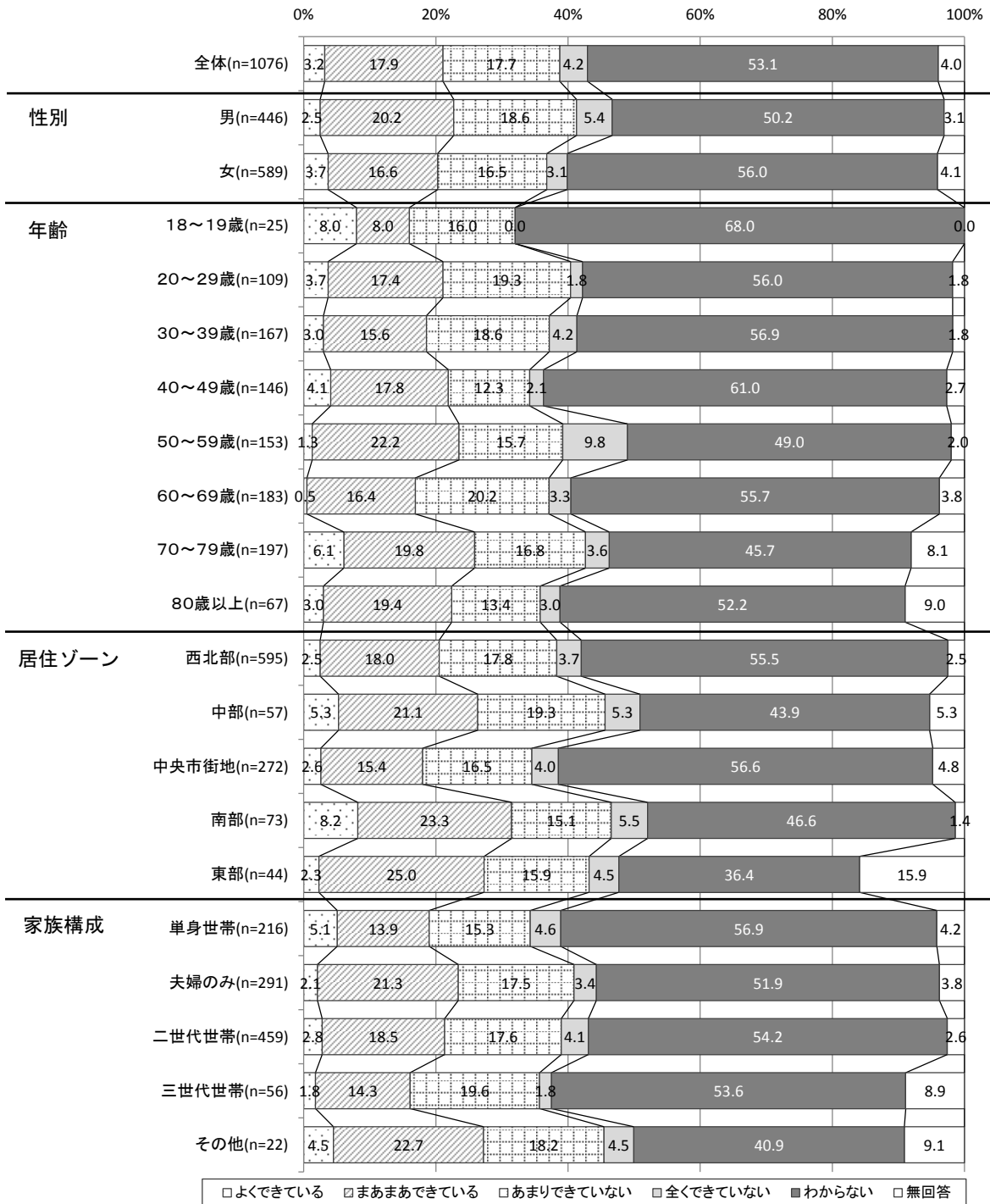


## ■施策 40 勤労者福祉の向上・就労機会の確保

施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 21.1%にとどまり、全施策の中でも評価が低い施策の一つであるが、50 歳代と 70 歳代を除く年齢階級で「わからない」とする回答が 50%を超えており、市民が日常生活の中で市の取組に触れる機会が少ないことがうかがわれる。

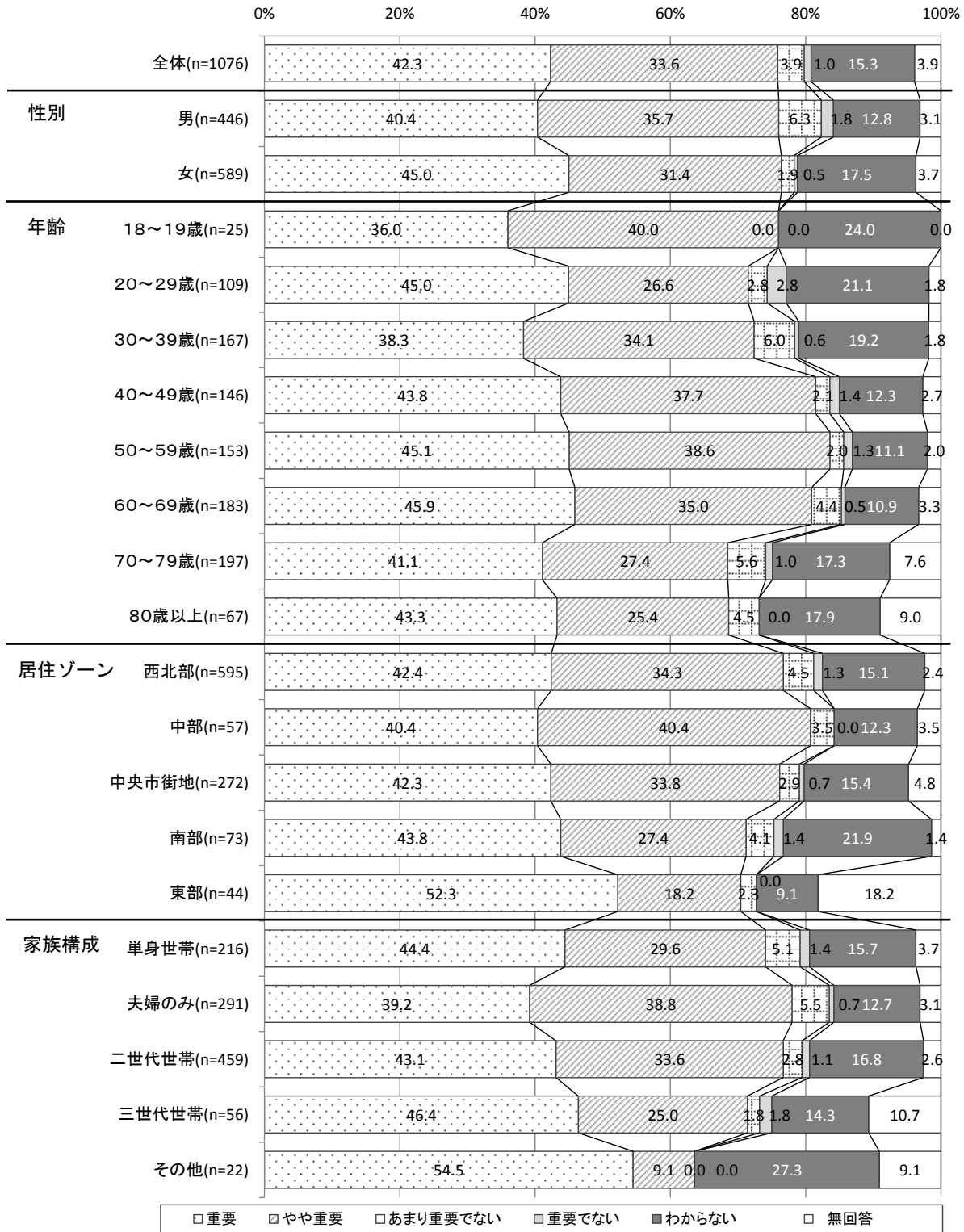
重要度については、40 歳代から 60 歳代で、「重要」とする回答が 80%を超えている。

図表 II-121 「施策 40 勤労者福祉の向上・就労機会の確保」についての評価





図表 II-122 「施策 40 勤労者福祉の向上・就労機会の確保」についての重要度

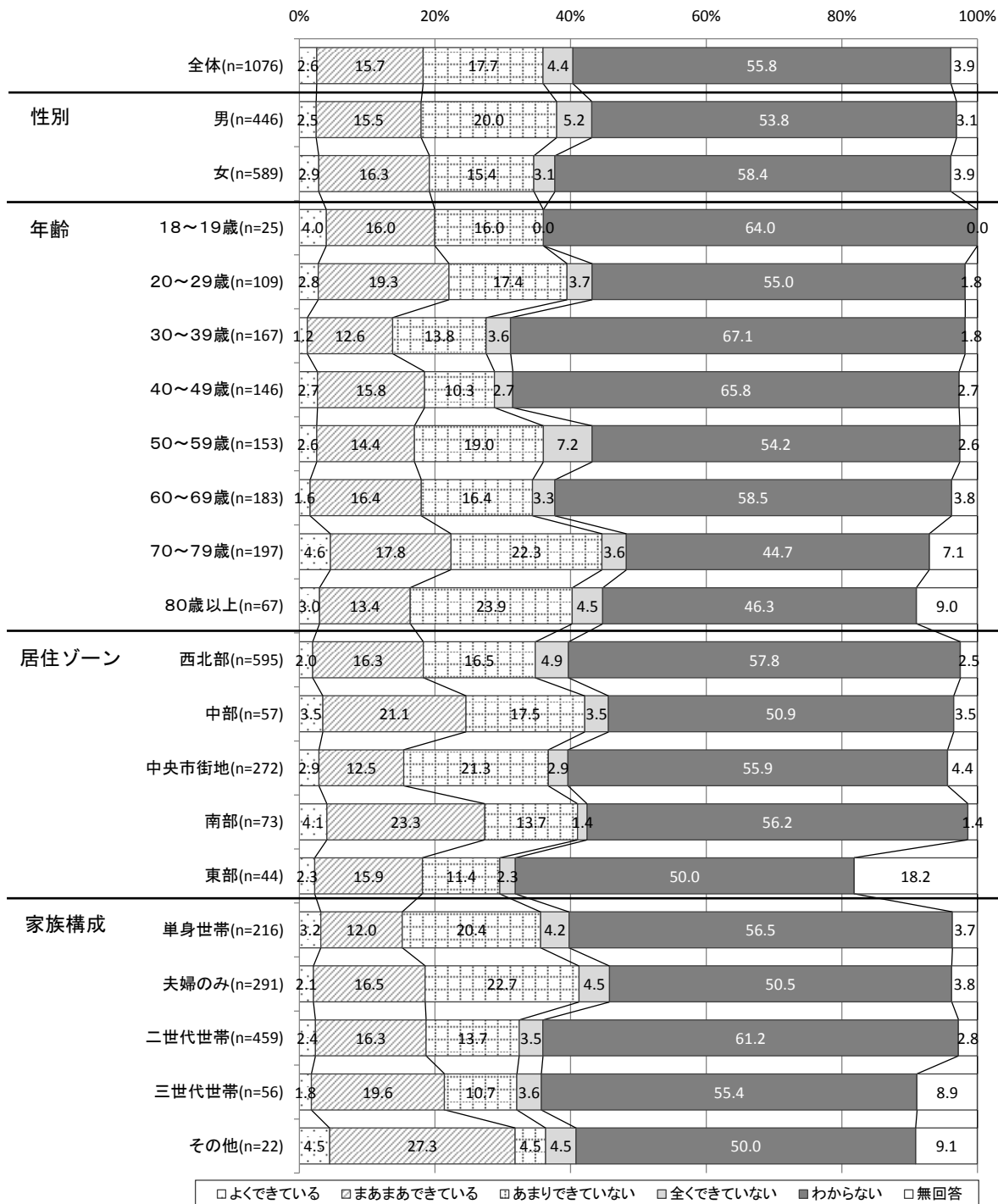


## ■施策 41 消費者保護の推進

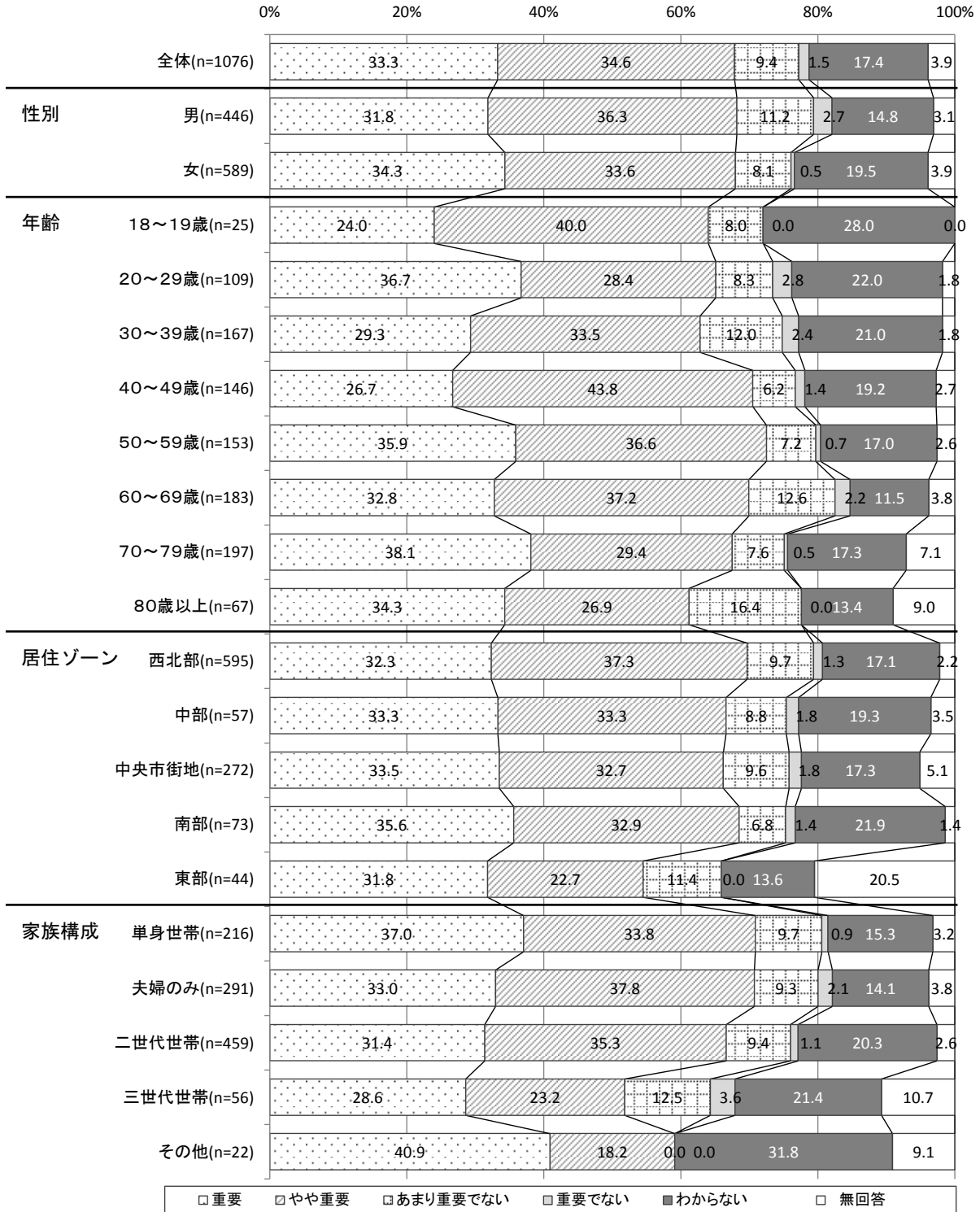
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 18.3%にとどまり、全施策の中でも評価が低い施策の一つであるが、70 歳代以上を除く年齢階級で「わからない」とする回答が 50%を超えており、市民が日常生活の中で市の取組に触れる機会が少ないことがうかがわれる。

重要度については、東部で「重要」とする回答がやや少なくなっている。

図表 II-123 「施策 41 消費者保護の推進」についての評価



図表 II-124 「施策 41 消費者保護の推進」についての重要度

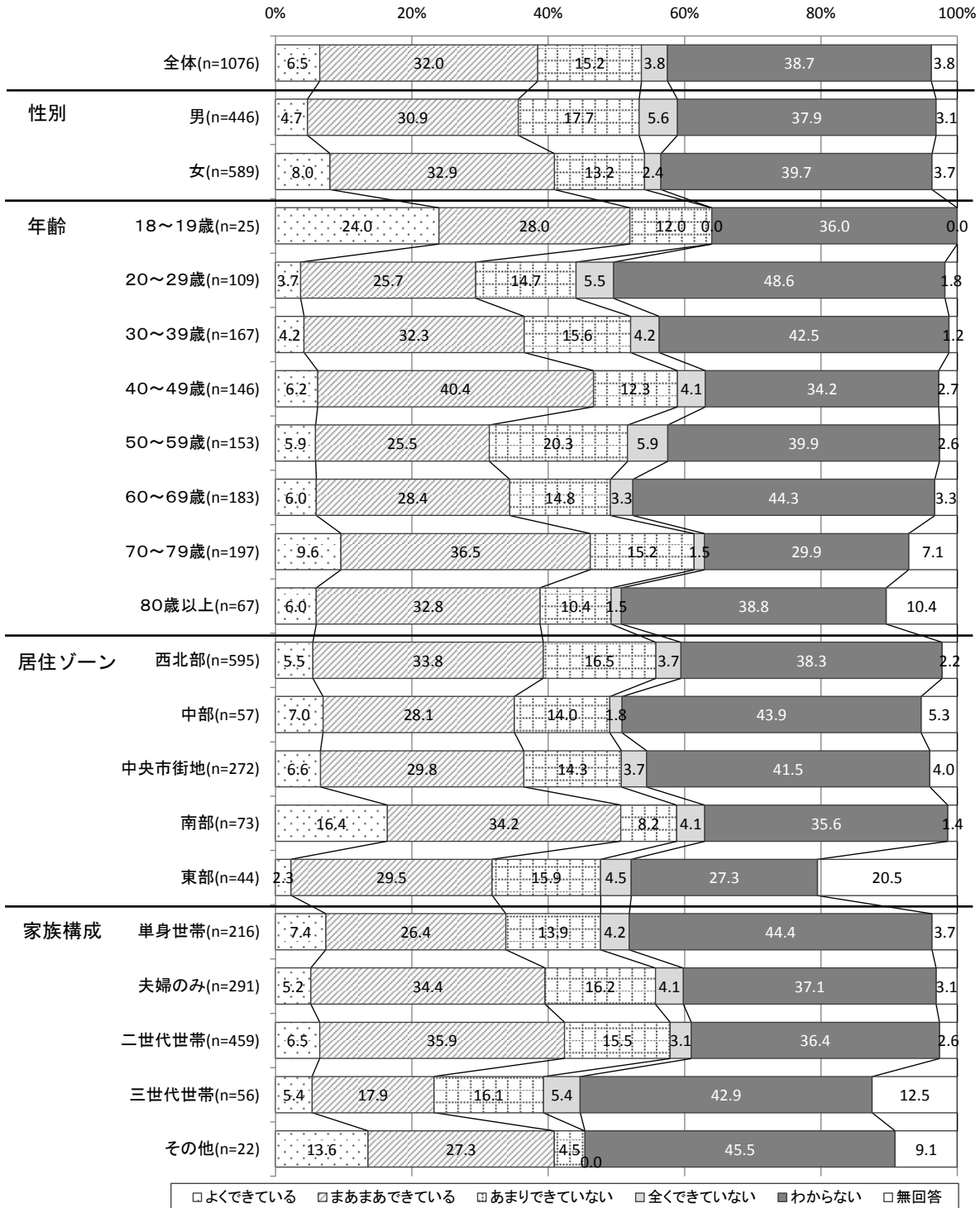


## ■施策 42 開かれた市政、市民と協働する市政の推進

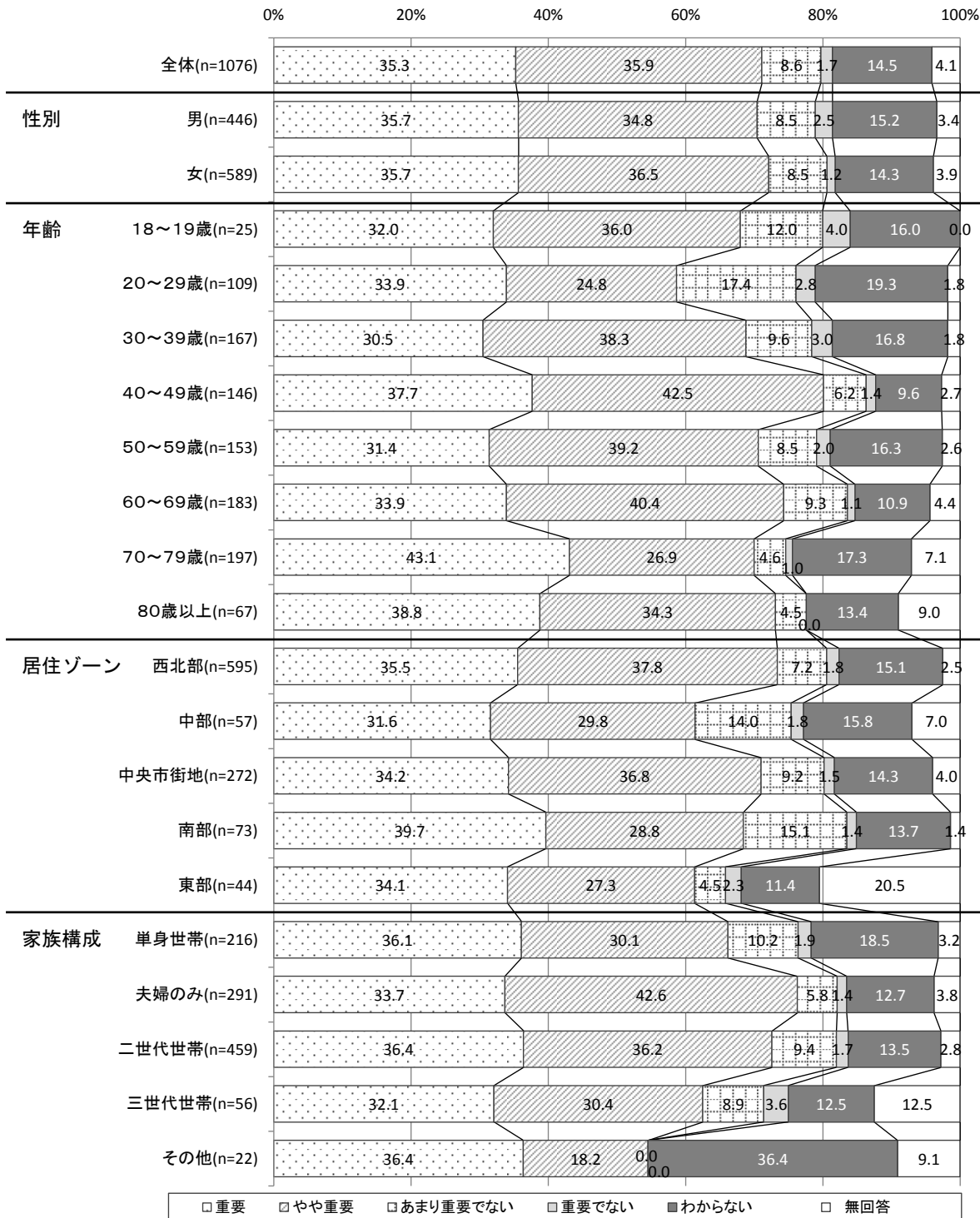
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 38.5%である。年齢別では 18～19 歳で「できている」とする回答が 50%を超えているが、20 歳代、50 歳代では 30%前後と少なくなっている。

重要度については、20 歳代で「重要」とする回答が 60%以下とやや少ない。

図表 II-125 「施策 42 開かれた市政、市民と協働する市政の推進」についての評価



図表 II-126 「施策 42 開かれた市政、市民と協働する市政の推進」についての重要度

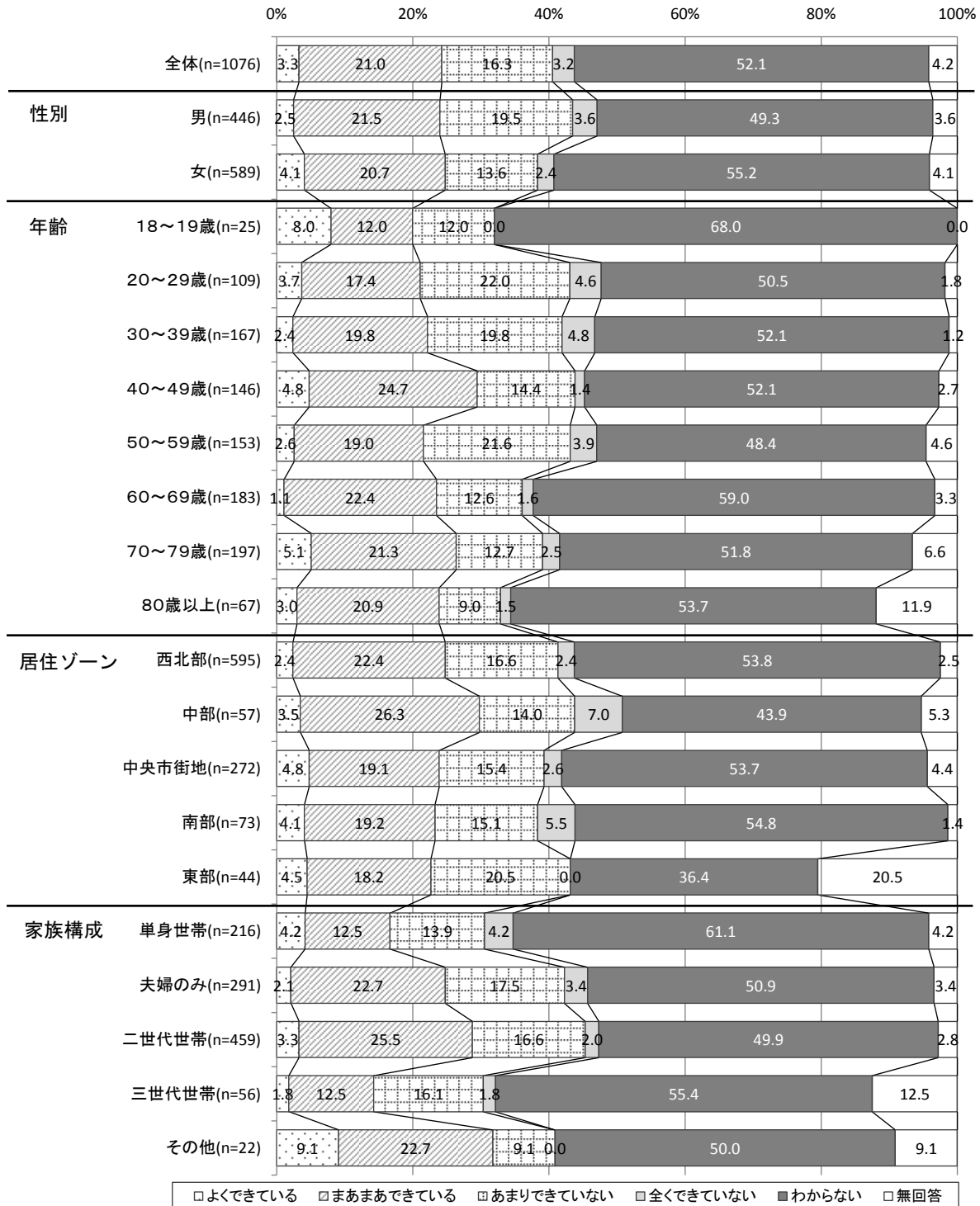


## ■施策 43 情報化の推進

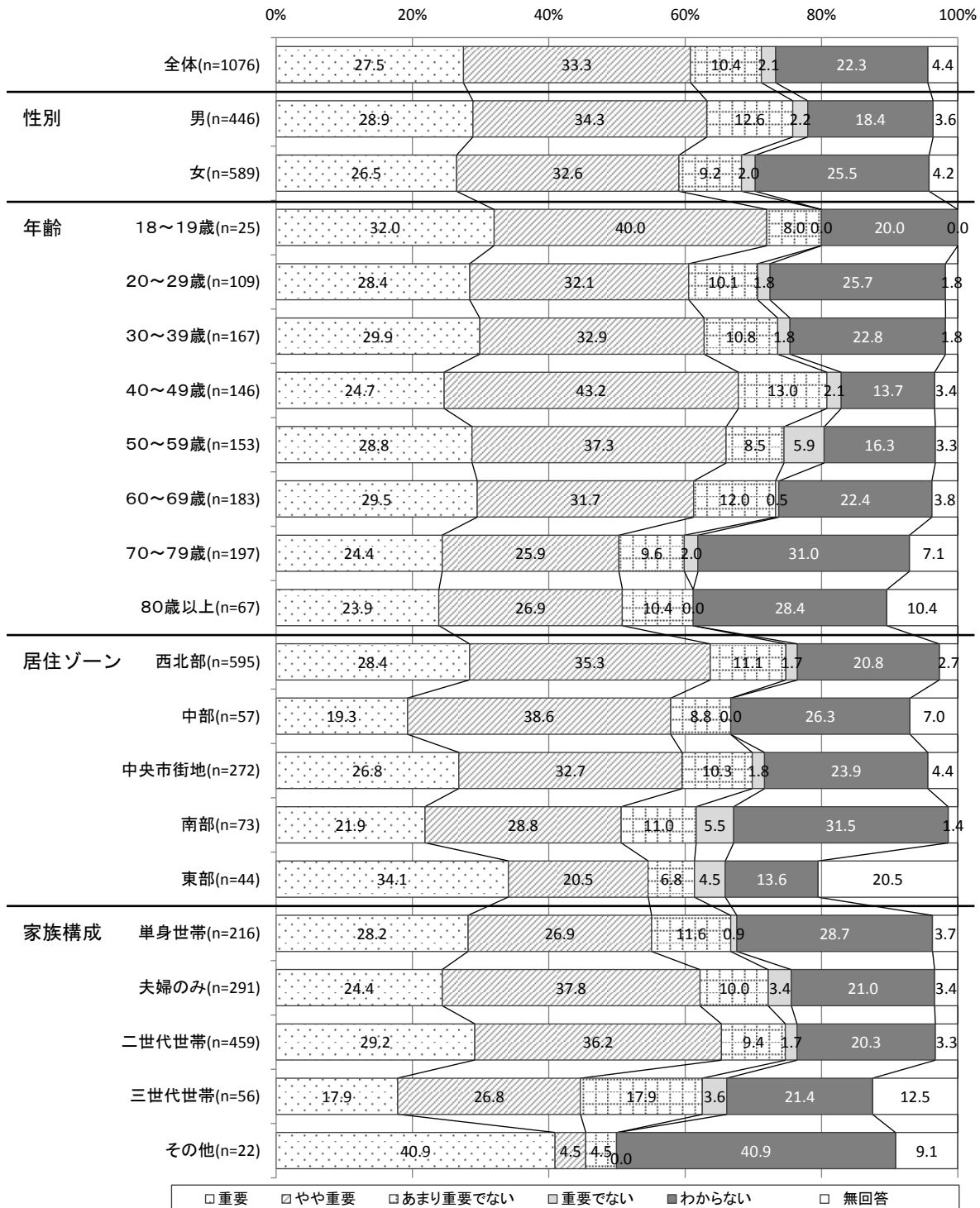
施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 24.3%であるが、「わからない」とする回答が全体で 52.1%、年齢階級によっては 60%を超えており、日常生活の中で効果が目に見えにくい施策の一つとなっていることがうかがわれる。

重要度については、「重要」とする回答が全体で 60%強にとどまっており、全体の施策の中では「重要」とする回答の少ない施策の一つとなっている。

図表 II-127 「施策 43 情報化の推進」についての評価



図表 II-128 「施策 43 情報化の推進」についての重要度

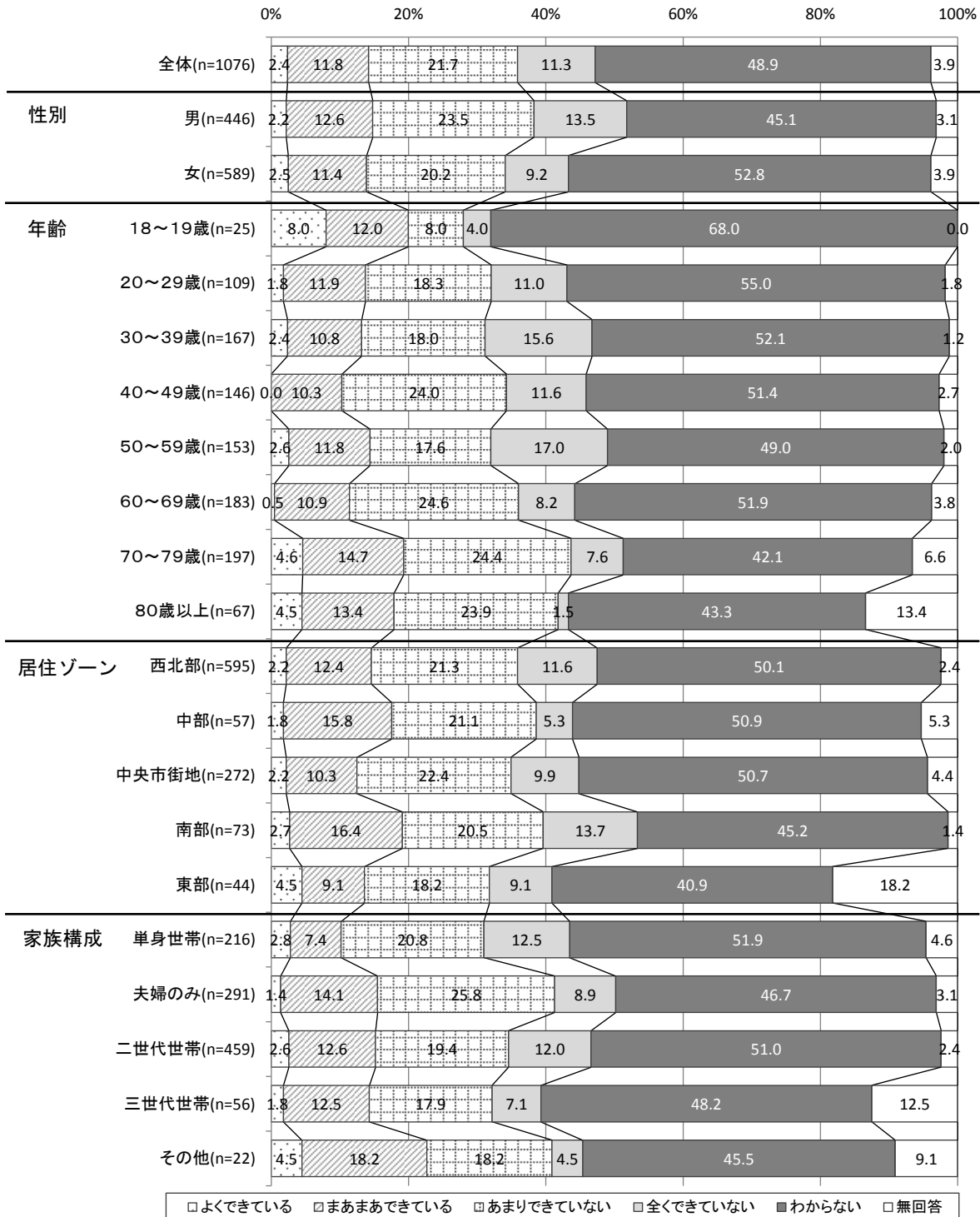


## ■施策 44 効率的な行財政運営

施策の評価では、「できている」とする回答は全体で 14.2%であるが、「わからない」とする回答が全体で 48.9%、年齢階級によっては 60%を超えており、情報化とともに日常生活の中で効果が目に見えにくい施策の一つとなっていることがうかがわれる。

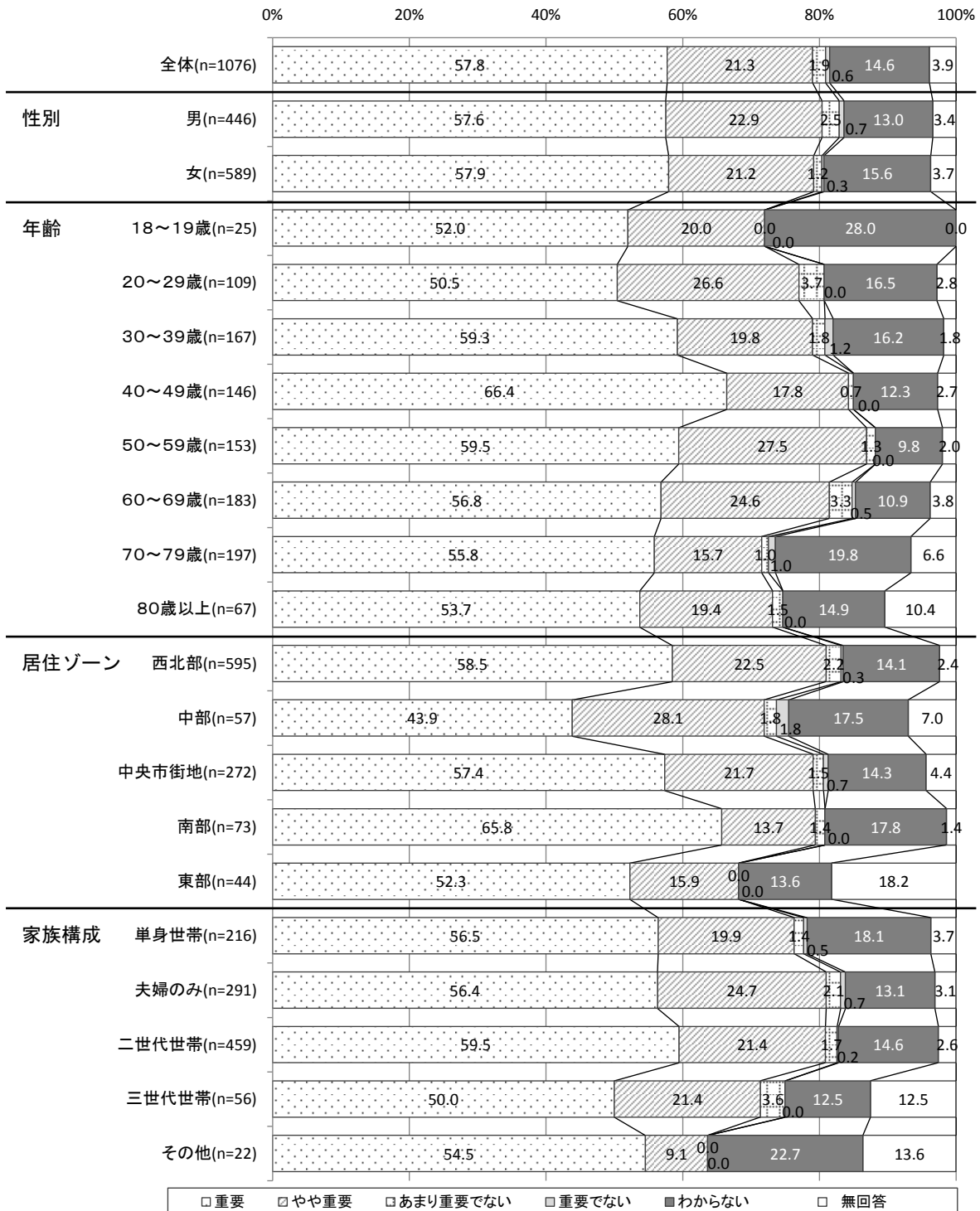
しかし重要度については、情報化と異なり、「重要」とする回答が全体で 80%弱あり、幅広い年齢階級で施策が「重要」と考えられている。

図表 II-129 「施策 44 効率的な行財政運営」についての評価





図表 II-130 「施策 44 効率的な行財政運営」についての重要度



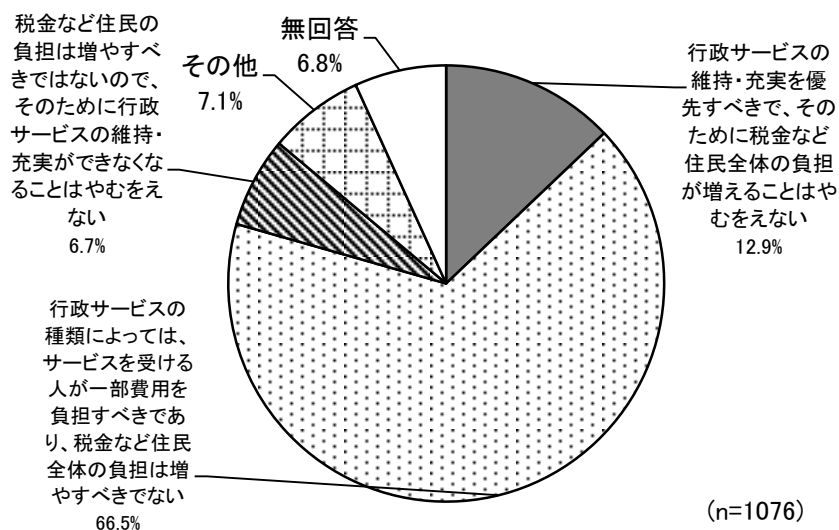
## 5. 行財政改革について

### (1) 行政サービスの水準と住民負担のバランスについて [問 10-1]

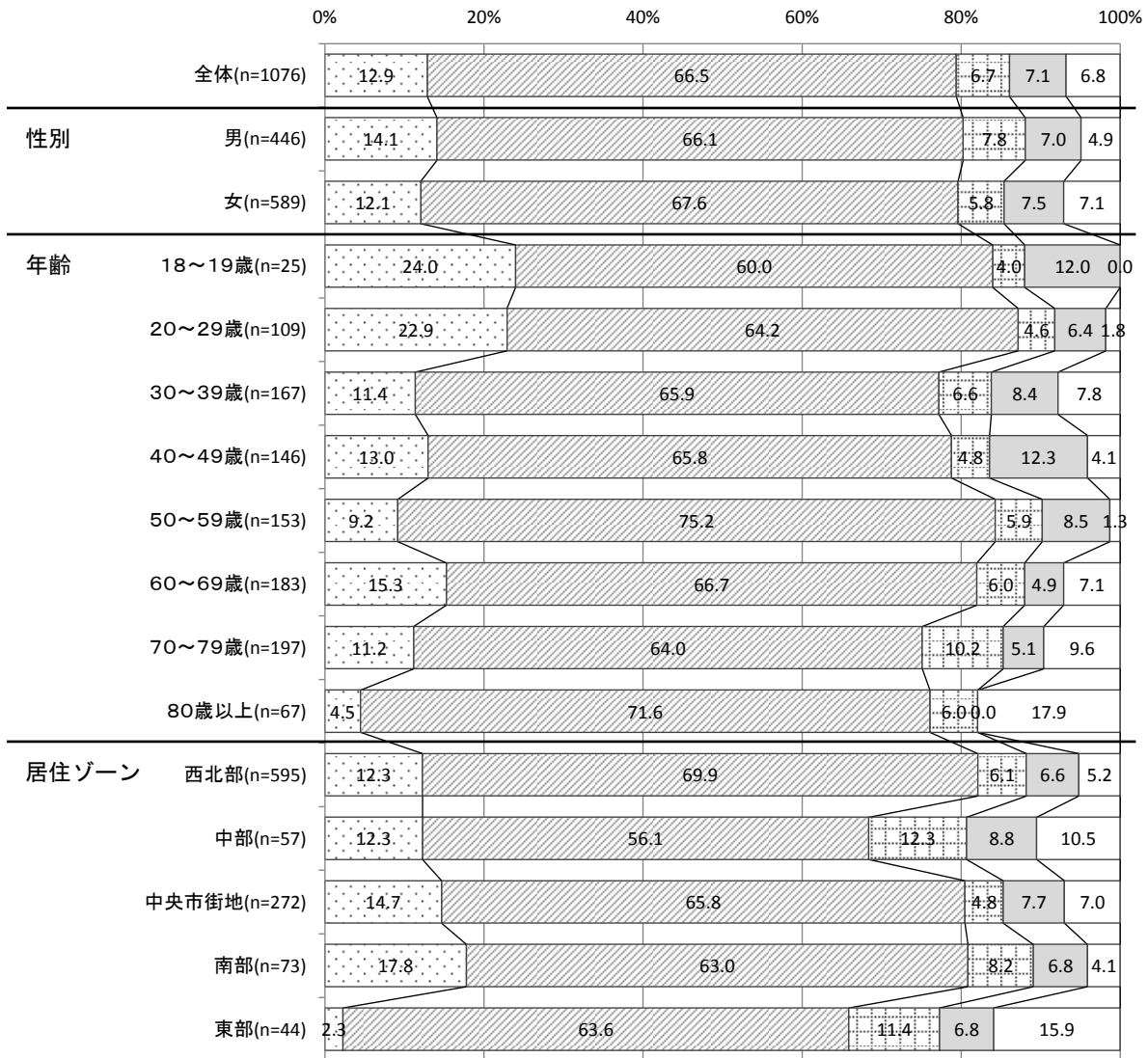
行政サービスの水準と住民負担のバランスのあり方を尋ねたところ、「行政サービスの種類によっては、サービスを受ける人が一部費用を負担すべきであり、税金など住民全体の負担は増やすべきでない」とする受益者負担を支持する回答が 66.5%と 3分の2を占めている。

年齢階級別にみると、20歳代以下では、「行政サービスの維持・充実を優先すべきで、そのために税金など住民全体の負担が増えることはやむをえない」の回答が 20%以上と他の年齢階級に比べて多くなっている。

図表 II-131 行政サービスの水準と住民負担のバランスについて



図表 II-132 行政サービスの水準と住民負担のバランスについて(クロス集計)



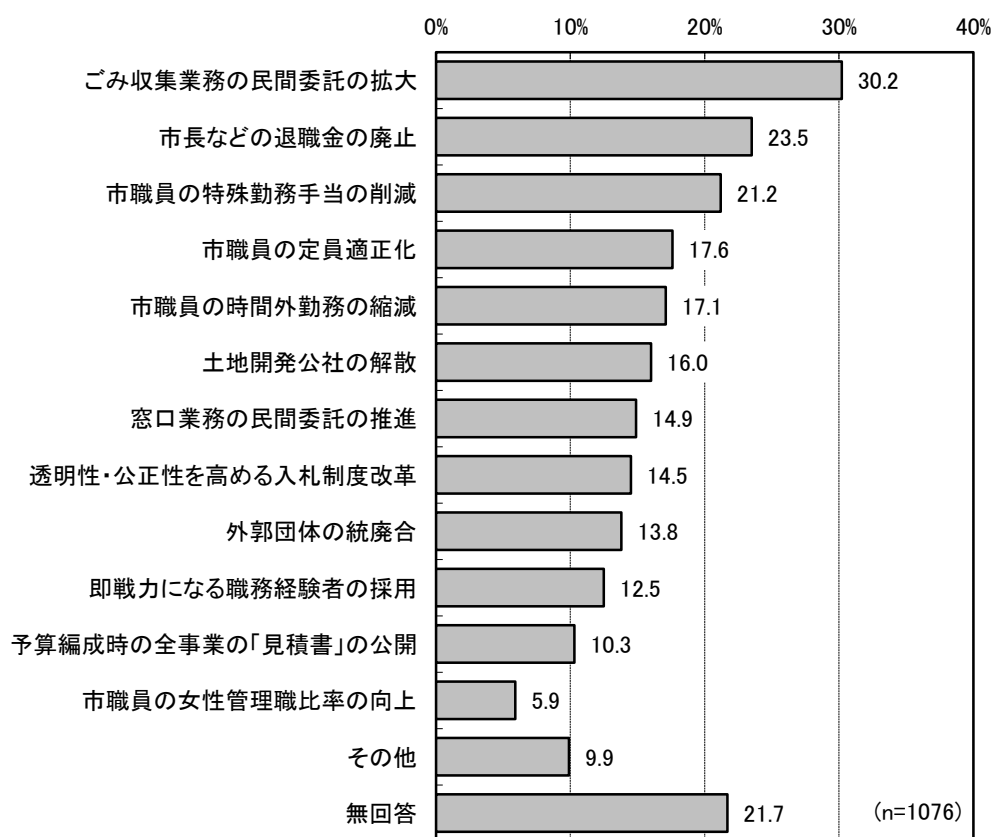
- 行政サービスの維持・充実に優先すべきで、そのために税金など住民全体の負担が増えることはやむをえない
- 行政サービスの種類によっては、サービスを受ける人が一部費用を負担すべきであり、税金など住民全体の負担は増やすべきでない
- 税金など住民の負担は増やすべきではないので、そのために行政サービスの維持・充実ができなくなることはやむをえない
- その他
- 無回答

(2) 効果のあった行財政改革について [問 10-2]

奈良市がこれまでに行ってきた行財政改革の取組の中で、特に効果があったものを尋ねたところ、最も多くの回答があったのは「ごみ収集業務の民間委託の拡大」(30.2%)であった。この他に2割以上の回答があった項目は、「市長などの退職金の廃止」(23.5%)、「市職員の特殊勤務手当の削減」(21.2%)である。

年齢階級別では、20歳代以下で「ごみ収集業務の民間委託の拡大」の回答が20%以下と少なくなっているほか、18~19歳では「市職員の女性管理職比率の向上」、80歳以上では「外郭団体の統廃合」の回答がやや多くなっている。

図表 II-133 効果のあった行財政改革について(複数回答)



図表 II-134 効果のあった行財政改革について(複数回答)(クロス集計)

(上段：人数、下段：%)

	調査数	外郭団体の統廃合	土地開発公社の解散	窓口業務の民間委託の推進	拡大 ごみ収集業務の民間委託の	札 透明性・公正性を高める入 札制度改革	市長などの退職金の廃止	減 市職員の特殊勤務手当の削	市職員の時間外勤務の縮減	市職員の定員適正化	採用 即戦力になる職務経験者の	向上 市職員の女性管理職比率の	積 「積算編成時の全事業の「見 書」の公開	その他	無回答	
																人数
全体	1076	149	172	160	325	156	253	228	184	189	134	63	111	106	233	
	100.0	13.8	16.0	14.9	30.2	14.5	23.5	21.2	17.1	17.6	12.5	5.9	10.3	9.9	21.7	
性別	男性	446	81	92	73	127	63	107	105	81	91	58	30	46	51	80
	100.0	18.2	20.6	16.4	28.5	14.1	24.0	23.5	18.2	20.4	13.0	6.7	10.3	11.4	17.9	
	女性	589	58	69	83	185	84	128	113	99	93	71	32	59	53	143
	100.0	9.8	11.7	14.1	31.4	14.3	21.7	19.2	16.8	15.8	12.1	5.4	10.0	9.0	24.3	
年齢	18～19歳	25	0	2	0	5	2	6	6	2	5	2	4	4	3	2
	100.0	0.0	8.0	0.0	20.0	8.0	24.0	24.0	8.0	20.0	8.0	16.0	16.0	12.0	8.0	
	20～29歳	109	9	8	19	17	8	19	13	12	12	13	5	6	12	33
	100.0	8.3	7.3	17.4	15.6	7.3	17.4	11.9	11.0	11.0	11.9	4.6	5.5	11.0	30.3	
	30～39歳	167	14	17	21	36	10	37	18	23	18	22	12	14	28	34
	100.0	8.4	10.2	12.6	21.6	6.0	22.2	10.8	13.8	10.8	13.2	7.2	8.4	16.8	20.4	
	40～49歳	146	14	19	19	44	21	37	29	20	27	19	6	13	17	30
	100.0	9.6	13.0	13.0	30.1	14.4	25.3	19.9	13.7	18.5	13.0	4.1	8.9	11.6	20.5	
	50～59歳	153	22	25	29	45	21	38	36	24	17	15	2	7	16	29
100.0	14.4	16.3	19.0	29.4	13.7	24.8	23.5	15.7	11.1	9.8	1.3	4.6	10.5	19.0		
60～69歳	183	30	35	37	63	31	42	47	41	38	19	11	17	13	39	
100.0	16.4	19.1	20.2	34.4	16.9	23.0	25.7	22.4	20.8	10.4	6.0	9.3	7.1	21.3		
70～79歳	197	34	46	23	79	43	49	61	48	54	29	14	33	9	39	
100.0	17.3	23.4	11.7	40.1	21.8	24.9	31.0	24.4	24.4	27.4	14.7	7.1	16.8	4.6	19.8	
80歳以上	67	18	15	8	26	13	14	14	9	13	11	8	12	7	18	
100.0	26.9	22.4	11.9	38.8	19.4	20.9	20.9	13.4	19.4	16.4	11.9	17.9	10.4	26.9		
居住ゾーン	西北部	595	93	100	87	201	83	141	134	102	114	79	37	64	62	119
	100.0	15.6	16.8	14.6	33.8	13.9	23.7	22.5	17.1	19.2	13.3	6.2	10.8	10.4	20.0	
	中部	57	4	4	8	12	11	14	11	11	10	8	3	3	2	14
	100.0	7.0	7.0	14.0	21.1	19.3	24.6	19.3	19.3	17.5	14.0	5.3	5.3	3.5	24.6	
	中央市街地	272	30	43	43	68	36	61	47	45	46	30	16	25	29	60
100.0	11.0	15.8	15.8	25.0	13.2	22.4	17.3	16.5	16.9	11.0	5.9	9.2	10.7	22.1		
南部	73	12	15	14	27	13	16	19	15	7	6	4	8	7	13	
100.0	16.4	20.5	19.2	37.0	17.8	21.9	26.0	20.5	9.6	8.2	5.5	11.0	9.6	17.8		
東部	44	4	6	4	9	6	10	12	9	8	7	2	6	2	16	
100.0	9.1	13.6	9.1	20.5	13.6	22.7	27.3	20.5	18.2	15.9	4.5	13.6	4.5	36.4		

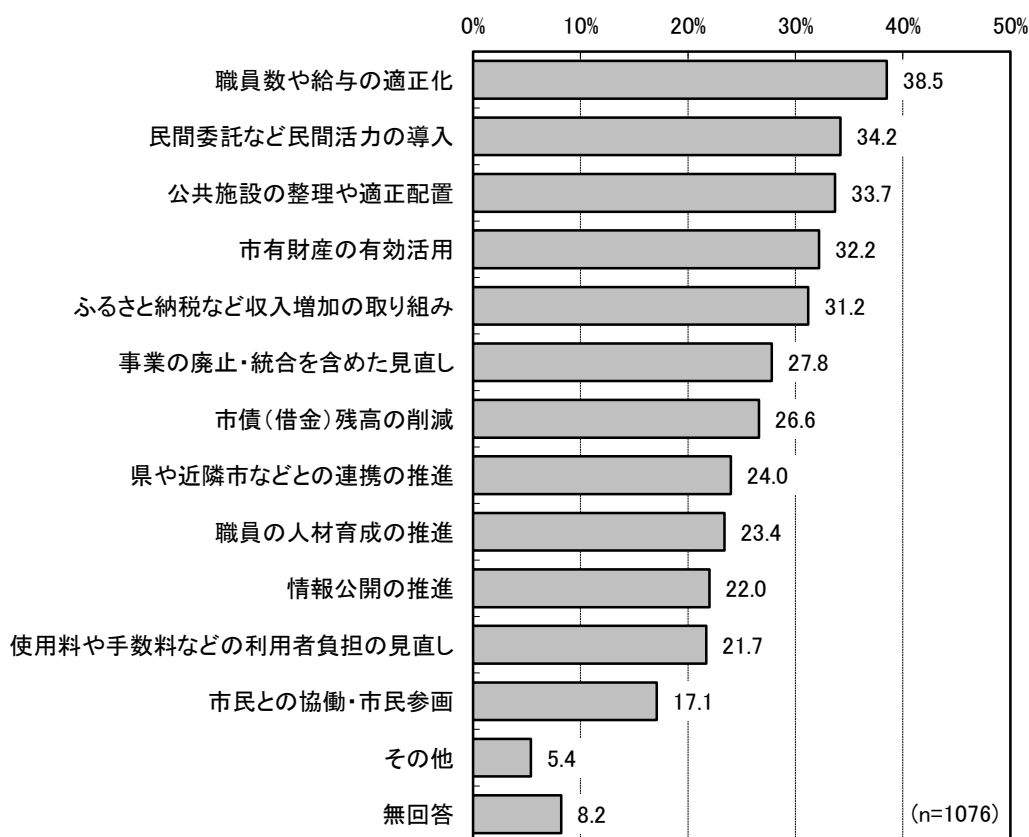
(注)全体を10ポイント以上上回るものに黒い網掛け(白抜き文字)、10ポイント以上下回るものにグレーの網掛けをしている。

### (3) 今後取り組むべき行財政改革について [問 10-3]

今後さらに取り組むべき行財政改革については、「職員数や給与の適正化」が 38.5%と最も多い。この他に 30%以上の回答があった項目は、「民間委託など民間活力の導入」(34.2%)、「公共施設の整理や適正配置」(33.7%)、「市有財産の有効活用」(32.2%)、「ふるさと納税など収入増加の取り組み」(31.2%)である。

年齢階級別では、20歳代以下で「民間委託など民間活力の導入」の回答が少なくなっているほか、18～19歳では「市民との協働・市民参画」、80歳以上では「市有財産の有効活用」の回答がやや多くなっている。

図表 II-135 今後取り組むべき行財政改革について(複数回答)



図表 II-136 今後取り組むべき行財政改革について(複数回答)(クロス集計)

(上段：人数、下段：%)

	調査数	入	市	の	者	使	見	市	公	市	職	職	情	推	県	そ	無
		民間委託など民間活力の導	民との協働・市民参画	ふるさと納税など収入増加の取り組み	負担の見直し	用や手数料などの利用	直しの廃止・統合を含めた	債(借金)残高の削減	公共施設の整理や適正配置	有財産の有効活用	員の人材育成の推進	員数や給与の適正化	報公開の推進	進	や近隣市などの連携の	の他	
全 体	1076 100.0	368 34.2	184 17.1	336 31.2	233 21.7	299 27.8	286 26.6	363 33.7	347 32.2	252 23.4	414 38.5	237 22.0	258 24.0	58 5.4	88 8.2		
性 別	男性	446 100.0	174 39.0	82 18.4	131 29.4	102 22.9	155 34.8	134 30.0	149 33.4	157 35.2	107 24.0	174 39.0	92 20.6	102 22.9	31 7.0	23 5.2	
	女性	589 100.0	184 31.2	96 16.3	193 32.8	123 20.9	132 22.4	140 23.8	204 34.6	180 30.6	137 23.3	223 37.9	134 22.8	144 24.4	26 4.4	57 9.7	
年 齢	18～19歳	25 100.0	3 12.0	8 32.0	6 24.0	4 16.0	3 12.0	7 28.0	7 28.0	3 12.0	5 20.0	5 20.0	6 24.0	3 12.0	2 8.0	0 0.0	
	20～29歳	109 100.0	24 22.0	11 10.1	31 28.4	28 25.7	21 19.3	32 29.4	40 36.7	32 29.4	19 17.4	38 34.9	23 21.1	20 18.3	8 7.3	6 5.5	
	30～39歳	167 100.0	53 31.7	30 18.0	59 35.3	42 25.1	47 28.1	45 26.9	56 33.5	51 30.5	37 22.2	54 32.3	36 21.6	39 23.4	13 7.8	14 8.4	
	40～49歳	146 100.0	47 32.2	18 12.3	44 30.1	26 17.8	47 32.2	39 26.7	50 34.2	45 30.8	23 15.8	58 39.7	26 17.8	34 23.3	8 5.5	10 6.8	
	50～59歳	153 100.0	57 37.3	30 19.6	49 32.0	32 20.9	43 28.1	43 28.1	48 31.4	50 32.7	34 22.2	72 47.1	35 22.9	29 19.0	8 5.2	9 5.9	
	60～69歳	183 100.0	75 41.0	43 23.5	56 30.6	39 21.3	56 30.6	40 21.9	76 41.5	62 33.9	48 26.2	79 43.2	46 25.1	51 27.9	10 5.5	12 6.6	
	70～79歳	197 100.0	73 37.1	29 14.7	67 34.0	45 22.8	56 28.4	53 26.9	58 29.4	65 33.0	63 32.0	81 41.1	46 23.4	57 28.9	6 3.0	19 9.6	
	80歳以上	67 100.0	26 38.8	11 16.4	14 20.9	11 16.4	17 25.4	20 29.9	19 28.4	31 46.3	16 23.9	15 22.4	13 19.4	16 23.9	2 3.0	13 19.4	
居 住 ゾ ン	西北部	595 100.0	222 37.3	106 17.8	200 33.6	130 21.8	175 29.4	165 27.7	207 34.8	197 33.1	131 22.0	227 38.2	138 23.2	152 25.5	35 5.9	40 6.7	
	中部	57 100.0	18 31.6	7 12.3	18 31.6	15 26.3	11 19.3	13 22.8	19 33.3	17 29.8	14 24.6	20 35.1	13 22.8	11 19.3	1 1.8	6 10.5	
	中央市街地	272 100.0	81 29.8	51 18.8	72 26.5	57 21.0	76 27.9	65 23.9	90 33.1	95 34.9	67 24.6	109 40.1	58 21.3	65 23.9	15 5.5	22 8.1	
	南部	73 100.0	26 35.6	11 15.1	23 31.5	19 26.0	20 27.4	25 34.2	22 30.1	19 26.0	27 37.0	30 41.1	13 17.8	13 17.8	4 5.5	4 5.5	
	東部	44 100.0	13 29.5	3 6.8	13 29.5	6 13.6	8 18.2	10 22.7	15 34.1	14 31.8	8 18.2	15 34.1	5 11.4	10 22.7	2 4.5	8 18.2	

(注)全体を10ポイント以上上回るものに黒い網掛け(白抜き文字)、10ポイント以上下回るものにグレーの網掛けをしている。

## 6. リニア中央新幹線の新駅誘致について

### (1) リニア中央新幹線の新駅誘致について [問 11-1・2]

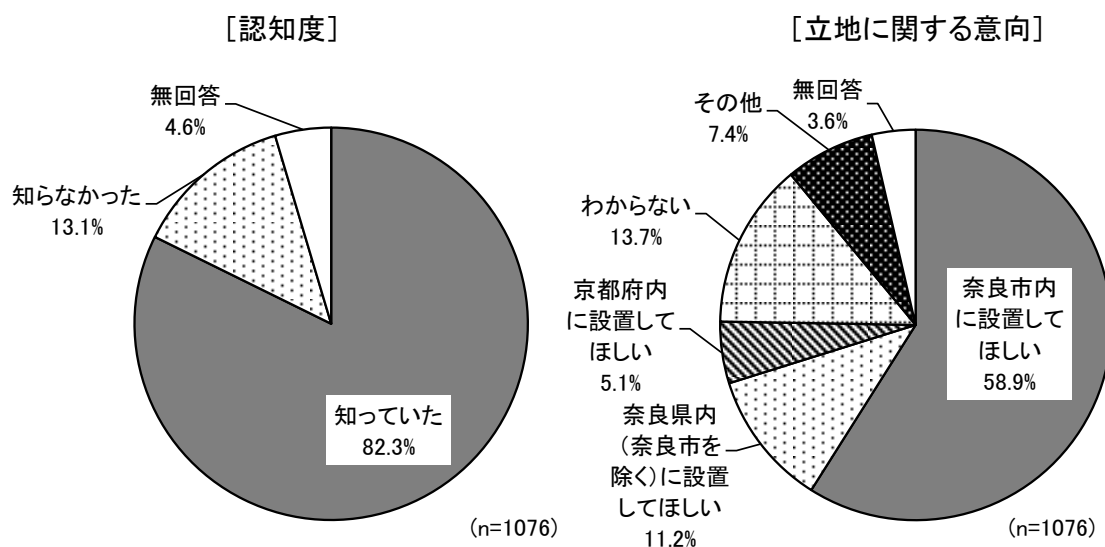
奈良市がリニア中央新幹線の新駅設置に向けた誘致活動を行っていることを知っているかを尋ねたところ、「知っていた」が 82.3%と多数を占めており、誘致活動は多くの市民に認知されていることが分かった。

次に、リニア新駅の位置としてどこが良いかも尋ねているが、「奈良市内に設置してほしい」が 58.9%と過半数を占めている。

新駅誘致についての認知度を年齢別にみると、18～19歳と80歳以上を除く年齢階級では「知っていた」とする回答が80%を超えている。居住ゾーン別にみると、東部では「知っていた」とする回答が63.6%で、他地域よりも少なくなっている。

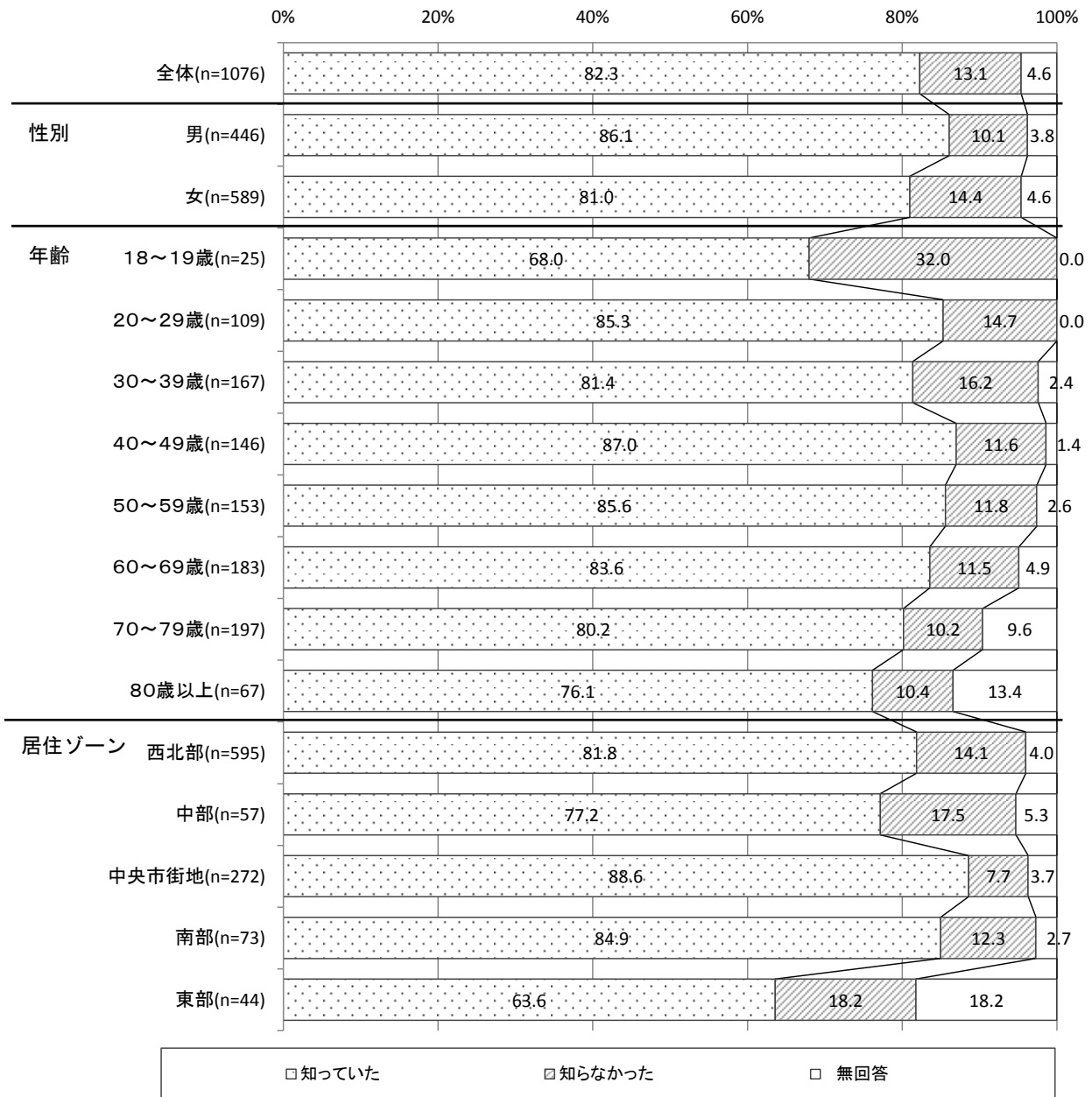
立地に関する意向を年齢別にみると、「奈良市内に設置してほしい」とする回答は、30歳代から60歳代で年齢が上がるにつれて多くなっている。居住ゾーン別にみると、中部を除く地域では「奈良市内に設置してほしい」とする回答が50%を超えているが、中部では45.6%にとどまっている。

図表 II-137 リニア中央新幹線の新駅誘致についての認知度と立地に関する意向

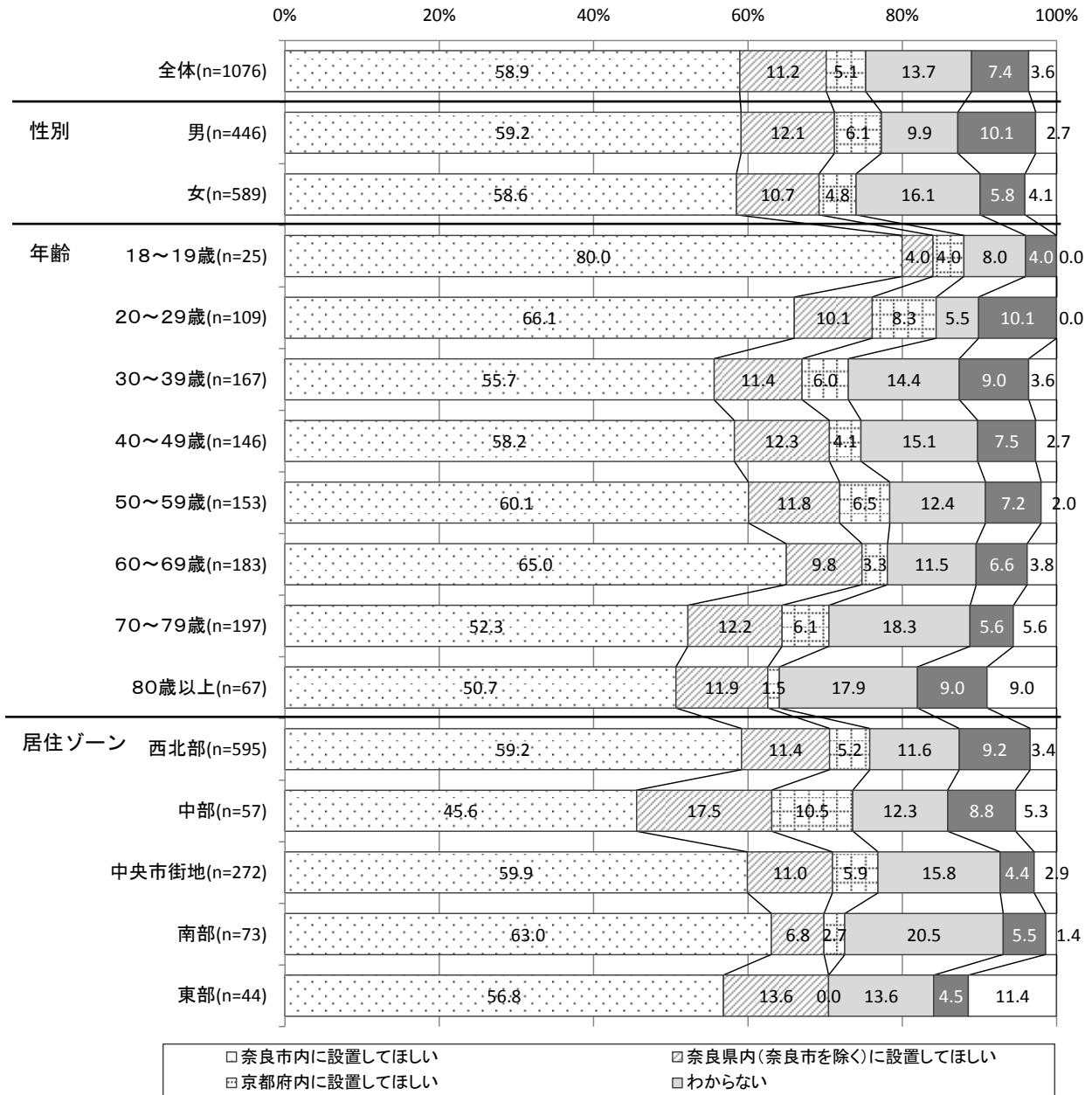




図表 II-138 リニア中央新幹線の新駅誘致についての認知度(クロス集計)



図表 II-139 リニア中央新幹線の新駅の立地に関する意向(クロス集計)

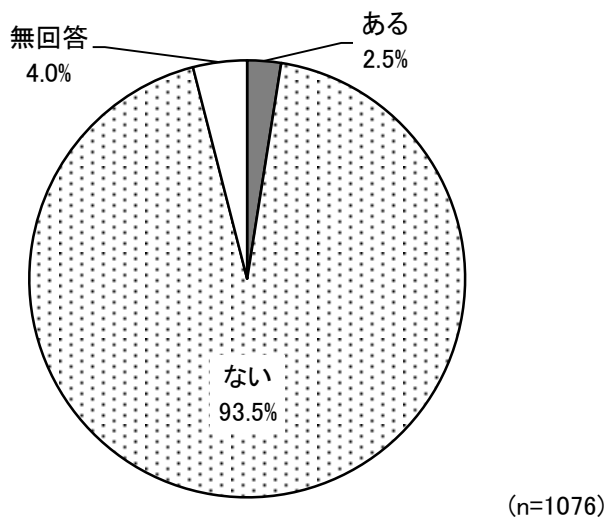


## 7. ふるさと納税について

### (1) 奈良市以外の自治体へのふるさと納税の状況 [問 12-1]

奈良市以外の自治体に「ふるさと納税」をしたことがあるかを尋ねたところ、「ない」が9割以上で、「ある」とする回答は2.5%であった。

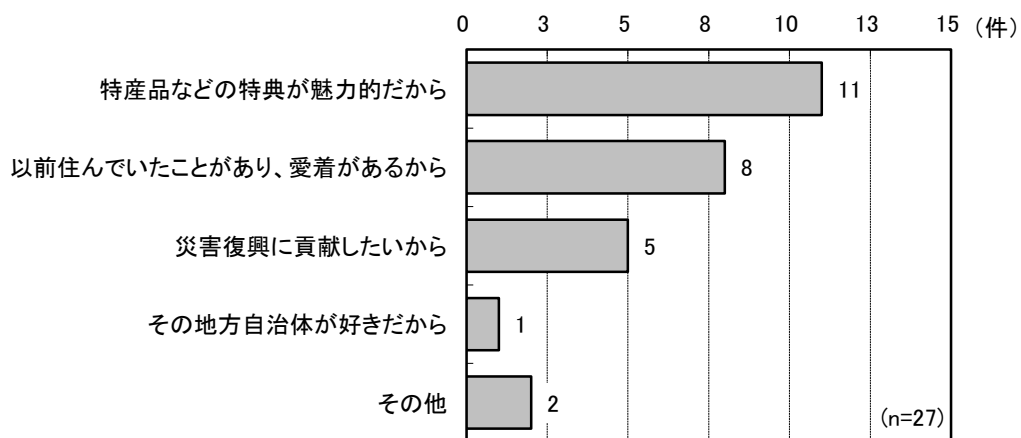
図表 II-140 奈良市以外の自治体へのふるさと納税の状況



### (2) 奈良市以外の自治体にふるさと納税をした理由 [問 12-2]

奈良市以外の自治体にふるさと納税をした理由は、「特産品などの特典が魅力的だから」が最も多く、次いで「以前住んでいたことがあり、愛着があるから」が多い。

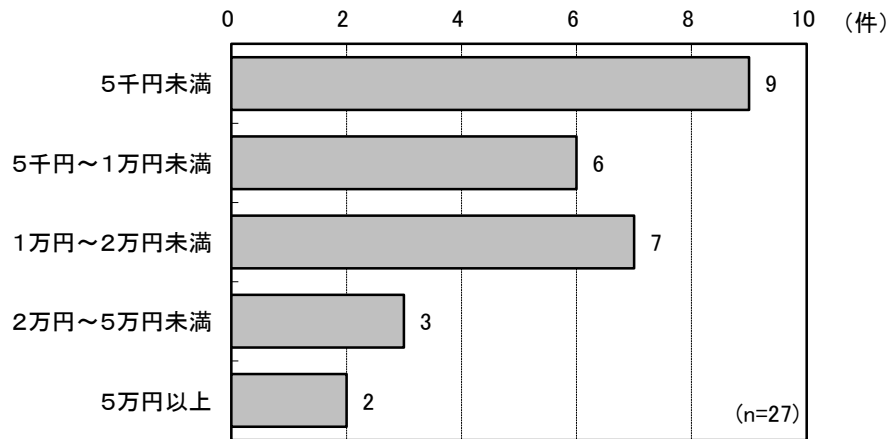
図表 II-141 奈良市以外の自治体にふるさと納税をした理由



(3) 1回あたりの納税金額 [問 12-3]

1回あたりの納税金額は、「5千円未満」が最も多い。

図表 II-142 1回あたりの納税金額



(4) 奈良市以外にふるさと納税をした自治体 [問 12-4]

奈良市以外にふるさと納税をした自治体は、以下のとおりである。

図表 II-143 奈良市以外にふるさと納税をした自治体

地域		自治体
近畿	県内	橿原市
		吉野郡
	県外	大阪
		綾部市
北海道	上士幌町	
	増尾町	
東北	岩手県	
	仙台市	
	多賀城市	
	福島市	
中部	三重県	
	三重県二見町	
中国	鳥取市	
	米子市	
	松江市	
	下関市	
九州	福岡県内の某市町村	
	宮崎県綾町	

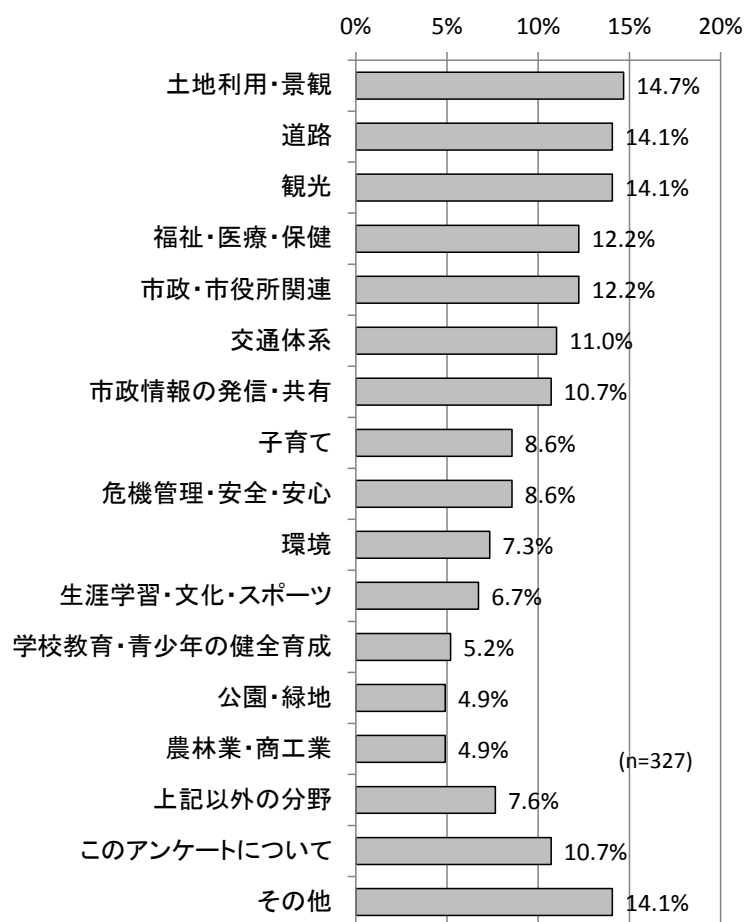
## 8. 奈良市のまちづくりについて

奈良市のまちづくりについて、自由記述で意見を尋ねたところ、327人から548件の意見を得た。

最も意見が多かったのは「土地利用・景観」の14.7%で、以下「道路」「観光」（いずれも14.1%）、「福祉・医療・保健」「市政・市役所関連」（いずれも12.2%）、「交通体系」（11.0%）、市政情報の発信・共有（10.7%）が続いている。

分類ごとの主な意見を次ページ以降に示す。

図表 II-144 奈良市のまちづくりについての意見(複数回答)



## ■主な意見

### [土地利用・景観]

- ・花や緑が美しい景観をつくってほしい。
- ・歴史的、文化的な奈良にふさわしい、良好な景観を保全してほしい。
- ・屋外広告や看板等に関するさらなる規制の強化が必要。
- ・奈良町は美しいが、奈良町に向かう道路の美化は十分でない。
- ・JR奈良駅、近鉄大和西大寺駅周辺の整備を進めてほしい。

### [道路]

- ・道路の幅が狭く、歩道が確保されないところが多い。
- ・歩道がでこぼこしていて歩きにくい。
- ・歩道と車道の段差をなくしてほしい（高齢者やベビーカーが危険）。
- ・近鉄大和西大寺駅周辺道路の整備が必要である（車道、地下通路、南側ロータリー）。
- ・近鉄奈良線（大和西大寺駅～新大宮駅間）の地下化を早急に進めてほしい。

### [観光]

- ・奈良の良さを、全国・世界に向けてもっとPRするべき。
- ・自然や歴史を生かした観光の充実に取り組んでほしい。
- ・商店街の人通りが少なく、活気がない。店が閉まるのが早い。
- ・宿泊施設（一流ホテル、ビジネスホテル、ゲストハウス、町家の活用など）の整備が必要。
- ・外国人観光客の受け入れ環境整備が必要（看板への英語併記等）。

### [福祉・医療・保健]

- ・高齢者や障がい者に優しい町になってほしい。
- ・高齢者福祉は、個人や民間に任せるのではなく、市がきめ細かく対応してほしい。
- ・リーズナブルな費用で入居しやすい介護施設を増やしてほしい。
- ・休日の診療を充実させてほしい。

### [市政・市役所関連]

- ・限られた予算のなかで、奈良市がどのようなまちづくりをめざしているかがわからない。
- ・将来を担う若者が住みやすいまちにするための取組が必要である。
- ・行政改革には、コスト削減だけではなく、サービス向上という視点も必要である。
- ・市の取組を知らないため、アンケートでも「わからない」という評価ばかりになった。もう少し周知に力を入れてはどうか。

### [交通体系]

- ・観光が活発になるのはよいが、市内循環バスの遅れや渋滞が冬以外は続くことになるので、市民生活としては不便であり、対策が必要である。
- ・高齢者が住みやすいように、バスでどこでも行けるようにしてほしい。

- ・バスの本数が少なく、料金も高い。
- ・ホテル・店・交通機関とタイアップして、2～3日間使用できる割安なチケットを出してはどうか。

#### [市政情報の発信・共有]

- ・電車やスーパーなどで市政についての情報を自然に入手できるような場があればよい。
- ・奈良市のホームページは調べたいことが出てこないなど使いにくいいため、見直してほしい。
- ・特に若年層は行政への関心があまりないので、わかりやすくなじみやすい広報手段が必要である。

#### [子育て]

- ・保育所整備、幼稚園の3年保育化やこども園化の推進が必要である。
- ・子どもが安心して遊べる場所を積極的につくってほしい。
- ・バンビーホームの延長保育を充実してほしい。

#### [危機管理・安全・安心]

- ・治安のよい奈良であってほしい。
- ・震災、ゲリラ豪雨などの災害に備えたインフラ整備や物資の備蓄、近隣市町村や他府県とのネットワークが必要。
- ・夜道が暗いので街灯を増設してほしい。

#### [環境]

- ・奈良は空気がきれいで、住みやすい。良好な環境を今後も守ってほしい。
- ・道にごみが多く、ポイ捨てをする人も多い。条例で禁止できないか。
- ・一般ごみは戸別収集にしてほしい。高齢化が進み、ごみ当番が重労働になっている。

#### [生涯学習・文化・スポーツ]

- ・文化遺産を生かしたまちづくりにより、市民が誇りを持てるまちにしてほしい。
- ・図書館が充実していない。情報発信源的な役割を担うと、自然と人が集まり、そこから何かが始まる可能性がある。

#### [学校教育・青少年の健全育成]

- ・小中学校の少人数化を推進するべきである。
- ・小中高生が外国人に道案内できるぐらいの英語力を身につけられるようにしてはどうか。
- ・筆・墨の産地であるため、書道教育に力をいれてはどうか。

#### [公園・緑地]

- ・身近なところに、子どもたちがボール遊びや、自然とのふれあい、冒険あそびができるような場所を少しでも多くつくってあげたい。
- ・住宅街の中に設けられている公園は、遊具の手入れが悪くて危険で、子どもや子ども連れの親、お年寄りが楽しめる場所になっていない。

#### [農林業・商工業]

- ・ショッピングをするところがない。大阪や京都で買い物ができるが、奈良で買い物ができればもっと楽になる。
- ・商店街に活気やにぎわいがなく、魅力に乏しい。
- ・企業誘致を積極的に行い若者の積極雇用や失業者の削減につなげて欲しい。





